

令和 5 年度

岩倉市市民意向調査報告書

－ 第 5 次岩倉市総合計画の検証・見直しに向けて－

令和 6 年 3 月

岩倉市

目 次

はじめに 調査の概要	1
1. 調査の目的	1
2. 調査対象者	1
3. 調査方法	1
4. 調査期間	1
5. 調査票の回収状況	2
6. 標本誤差の範囲	3
7. グラフの見方等の注意点	4
8. 地域ごとの分析	4
I. 回答者の属性	5
(1) 性別・年齢（問1）	5
(2) 居住地区（問2）	7
(3) 職業（問3）	8
(4) 世帯のタイプ（問4）	9
(5) 居住年数（問5）	12
(6) 同居人（問6）	14
II. 岩倉市の住みやすさ	17
1. 住環境と魅力	17
(1) 周辺の生活環境（問7）	17
(2) 岩倉市の魅力（問8）	38
2. 施策に対する満足度と重要度	48
(1) 施策に対する満足度（問9）	48
(2) 施策に対する重要度（問9）	54
(3) 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）（問9） ..	59
3. 住みやすさの評価と定住意向	66
(1) 住む場所としての評価（問10）	66
(2) 総合的な住みやすさの評価（問11）	76
(3) 定住意向（問12）	80
(4) 定住理由（問12）	84
(5) 移転理由（問12）	85
III. 多文化共生	87
(1) 外国人とのコミュニケーションの機会の有無（問13）	87
(2) 外国人とのコミュニケーションの内容（問13-1）	89
(3) 多文化共生の認知度（問14）	91
(4) 外国人にとって暮らしやすくするための実践事項（問15）	93
IV. 岩倉駅東地区のまちづくり	97
(1) 岩倉駅東地区のあり方（問16）	97
(2) 岩倉駅東地区への関わり方（問17）	100

V. 少子化対策	103
(1) 少子化に対する危機感 (問 18)	103
(2) 有効だと思ふ少子化対策 (問 19)	107
(3) 少子化対策を充実していく上での考え方 (問 20)	109
VI. 市政への参加や近所づきあい	113
(1) 市民の意見の市政への反映で重要なこと (問 21)	113
(2) 市政への参加の意向 (問 22)	115
(3) 近所づきあいの程度 (問 23)	117
(4) 近所づきあいの満足度 (問 24)	120
VII. 行政経営や情報化	125
(1) 行政経営に対する要望 (問 25)	125
(2) 行政サービスと市民負担のバランス (問 26)	127
(3) 情報通信機器等の利用状況 (問 27)	129
(4) インターネット利用の有無 (問 28)	138
(5) インターネットの利用目的 (問 28-1)	140
(6) 利用している SNS (問 28-2)	141
(7) キャッシュレス決済の利用程度 (問 29)	143
(8) 利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段 (問 29-1)	145
(9) 公共料金の支払いで利用できるようにしてほしい決済サービス (問 30) .	147
(10) 情報化に伴い向上すべき市民サービスの内容 (問 31)	149
(11) 岩倉市への情報化に対する要望 (問 32)	151
VIII. まとめ—第 5 次総合計画中間見直しに向けた主な課題	155
IX. 資料編	163
1. 自由回答件数 (分野別)	163
2. 自由回答一覧	164
3. 調査票	180

はじめに 調査の概要

はじめに 調査の概要

1. 調査の目的

岩倉市では、「第5次岩倉市総合計画（令和3年度～令和12年度）」を策定し、「マルチパートナーシップによる誰もが居場所のある共生社会をめざす」を基本理念とするまちづくりを推進してきました。

本調査は、「第5次岩倉市総合計画」の中間見直しをするにあたり、市民の市政に対する評価や要望等を把握し、これまでの市政全般の成果の検証と今後の市政運営に反映するための基礎資料を得ることを目的に実施したものです。

なお、この市民意向調査は、市民の皆さんのご意見を市政に反映していくためにおおむね5年ごとに実施しています。調査票の設計にあたっては、過去に実施した市民意向調査結果との比較分析ができるように配慮しています。

2. 調査対象者

令和5年10月1日現在で、市内に在住している18歳以上の市民4,000人（定住外国人260人を含む）を、層化無作為抽出法によって抽出しました。

3. 調査方法

郵送により調査対象者へ配布し、回収については、郵送による回収とWeb回答のどちらでも回答できる方法で実施しました。

4. 調査期間

令和5年11月22日から12月19日まで

5. 調査票の回収状況

回収状況は下記の表に示すとおりです。

配布数 4,000 票に対して、未記入などの無効票を除いた有効回収数は 1,909 票で、有効回収率は 47.7%でした。

図表 0-1 調査票の回収状況（年齢別）

	配布数（票）	有効回収数（票）	有効回収率（%）
全体	4,000	1,909	47.7%
20 歳代以下	597	154	25.8%
30 歳代	577	258	44.7%
40 歳代	633	281	44.4%
50 歳代	741	347	46.8%
60 歳代	509	288	56.6%
70 歳以上	943	573	60.8%
不明	—	8	—

図表 0-2 調査票の回収状況（小学校区別）

	配布数（票）	有効回収数（票）	有効回収率（%）
全体	4,000	1,909	47.7%
岩倉北小学校区	1,183	586	49.5%
岩倉南小学校区	783	387	49.4%
岩倉東小学校区	392	155	39.5%
五条川小学校区	620	287	46.3%
曾野小学校区	1,022	475	46.5%
不明	—	19	—

※配布数には外国籍 260 人を含む。外国籍の住民の有効回収数は 54 票。

6. 標本誤差の範囲

この調査は、市民の中から 4,000 人を対象として抽出した標本調査であるため、その結果や誤差については、統計理論を用いて推定することができます。標本調査において生じる誤差である標本誤差は、以下の数式により求めることができます。

$$\sigma = k \sqrt{\frac{M-n}{M-1} \cdot \frac{p(1-p)}{n}}$$

M：母集団
n：回収数
p：結果の比率
k：定数
σ：標本誤差

ここで、信頼区間を、社会調査において一般的に用いられている 0.95 (95%) とすると、定数 k は 1.96 となります。これをもとに、小学校区及び年齢別について、標本誤差 σ を算出すると、次のとおりとなります。

図表 0-3 標本誤差の範囲（年齢別）

p（回答比率）	n	10%/90%	20%/80%	30%/70%	40%/60%	50%/50%
全体	1,909	1.3%	1.8%	2.0%	2.1%	2.2%
20 歳代以下	154	4.7%	6.3%	7.2%	7.7%	7.9%
30 歳代	258	3.6%	4.9%	5.6%	6.0%	6.1%
40 歳代	281	3.5%	4.7%	5.3%	5.7%	5.8%
50 歳代	347	3.1%	4.2%	4.8%	5.1%	5.2%
60 歳代	288	3.5%	4.6%	5.3%	5.6%	5.8%
70 歳以上	573	2.4%	3.3%	3.7%	4.0%	4.1%

図表 0-4 標本誤差の範囲（小学校区別）

p（回答比率）	n	10%/90%	20%/80%	30%/70%	40%/60%	50%/50%
全体	1,909	1.3%	1.8%	2.0%	2.1%	2.2%
岩倉北小学校区	586	2.4%	3.2%	3.7%	3.9%	4.0%
岩倉南小学校区	387	3.0%	4.0%	4.5%	4.9%	5.0%
岩倉東小学校区	155	4.7%	6.3%	7.2%	7.7%	7.9%
五条川小学校区	287	3.5%	4.6%	5.3%	5.6%	5.8%
曾野小学校区	475	2.7%	3.6%	4.1%	4.4%	4.5%

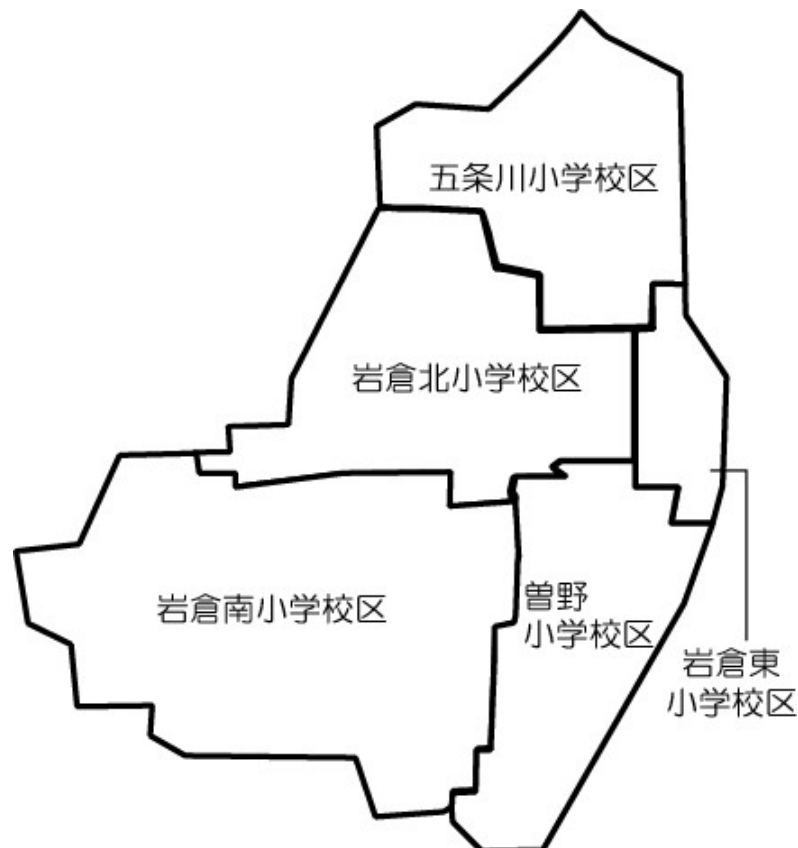
7. グラフの見方等の注意点

- ・構成比（％）は、原則として小数点以下第2位を四捨五入して算出した数値であるため、合計が100.0%にならない場合があります。また、得点の算出については、小数点第3位以下を四捨五入して表示しています。
- ・クロス集計においては、表側の「回答なし」を省略しているため、単純集計における全体の回答者数と各項目の回答者数の合計は一致しません。
- ・複数回答（ダンゴグラフ）の場合、合計は100.0%を超えます。
- ・表、グラフ等の見出し及び文章中の選択肢の表現については、趣旨が変わらない程度で省略している場合があります。
- ・なお、文中で高年齢層とは60歳以上の者、中高年層とは40～59歳の者を指しています。

8. 地域ごとの分析

地域ごとの差異をみるために、小学校区を単位とする分析も行っています。なお、小学校区の位置については下の図のとおりです。

図表 0-5 小学校区の位置



I . 回答者の属性

I. 回答者の属性

(1) 性別・年齢（問1）

問1

あなたの性別・年齢を教えてください。【あてはまるものを1つ選んで○印をつけてください。】 ●性別【○は1つだけ】 ●年齢【○は1つだけ】

回答者の性別は、女性が男性を上回っています。

回答者の年齢層は、若年層（20歳代以下と30歳代）が21.6%、中高年層（40歳代と50歳代）が32.9%、高齢層（60歳以上）が45.1%となっています。

【性別：全体】

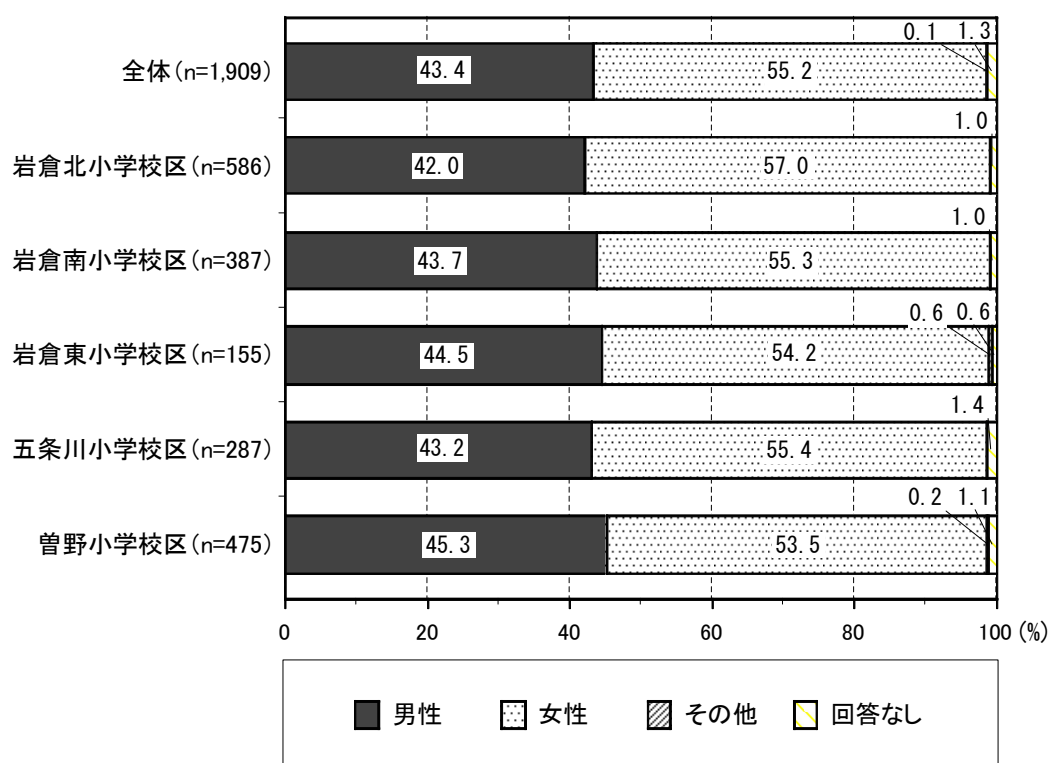
○「男性」が43.4%、「女性」が55.2%と、「女性」の割合が多くなっています。

○配布数の市内の男女比がほぼ同じであるのに対し、「女性」の割合が「男性」の割合を11.8ポイント上回っています。

【性別：小学校区別】

○小学校区別による有意な差はみられません。

図表 I-1 性別（小学校区別）



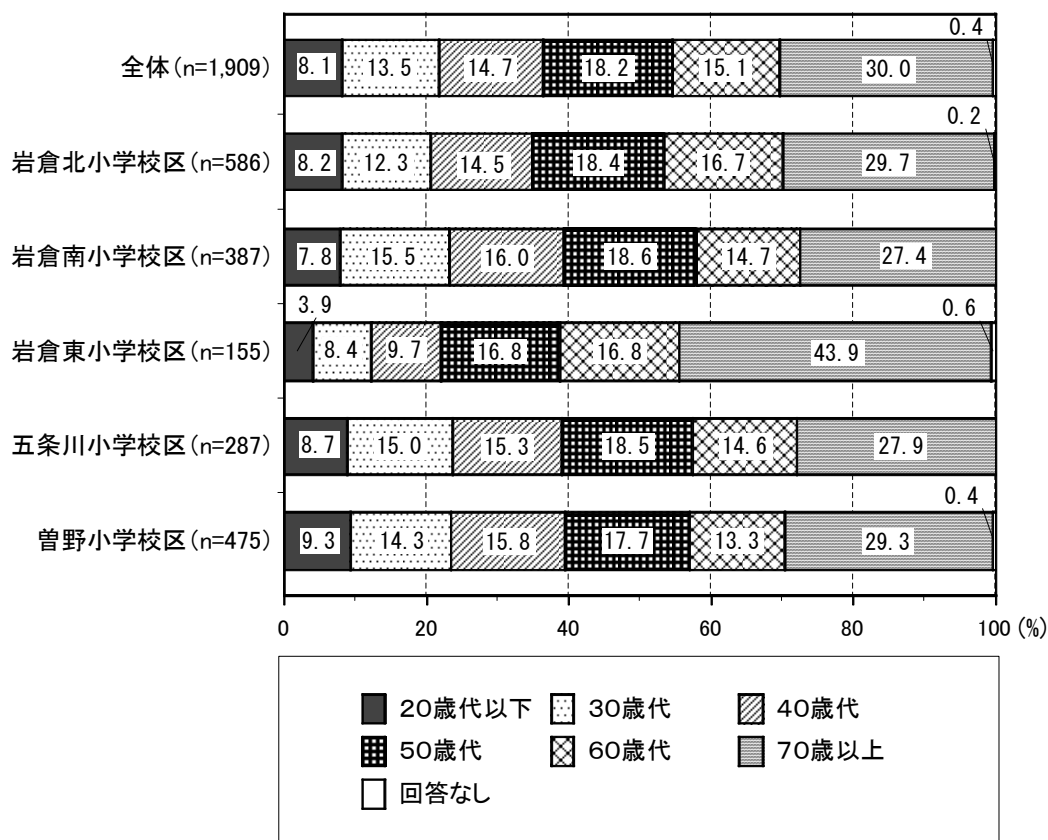
【年齢：全体】

- 「20 歳代以下」が 8.1%、「30 歳代」が 13.5%で、これらを合わせた若年層は 21.6% となっています。
- 「40 歳代」が 14.7%、「50 歳代」が 18.2%で、これらを合わせた中高年層は 32.9% となっています。
- 「60 歳代」が 15.1%、「70 歳以上」が 30.0%で、これらを合わせた高年齢層は 45.1% となっています。

【年齢：小学校区別】

- 小学校区別にみると、岩倉東小学校区における若年層の占める割合（12.3%）が他の学区に比べて少なく、その分、高年齢層の占める割合（60.7%）が、他の学区に比べてかなり多くなっています。

図表 I-2 年齢（小学校区別）



(2) 居住地区 (問2)

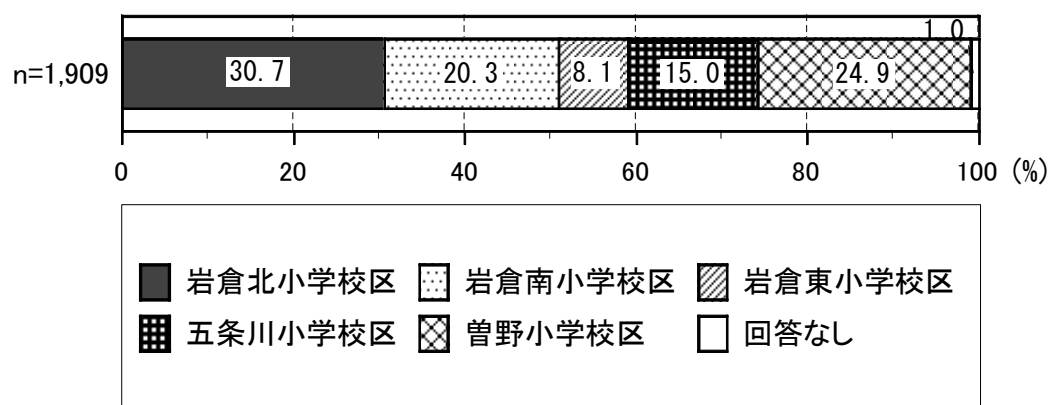
問2 あなたのお住まいは、どの小学校区にありますか。【○は1つだけ】

回答者が住む小学校区は、「岩倉北小学校区」が 30.7%で最も多く、次いで「曾野小学校区」、「岩倉南小学校区」の順となっています。

【全体】

○回答者が住む小学校区は、「岩倉北小学校区」が 30.7%で最も多く、次いで「曾野小学校区」が 24.9%、「岩倉南小学校区」が 20.3%の順となっています。

図表 1-3 居住する小学校区



(3) 職業（問3）

問3 あなたの職業を教えてください。【○は1つだけ】

回答者のうち、就業者の割合は 57.4%となっています。

【全体】

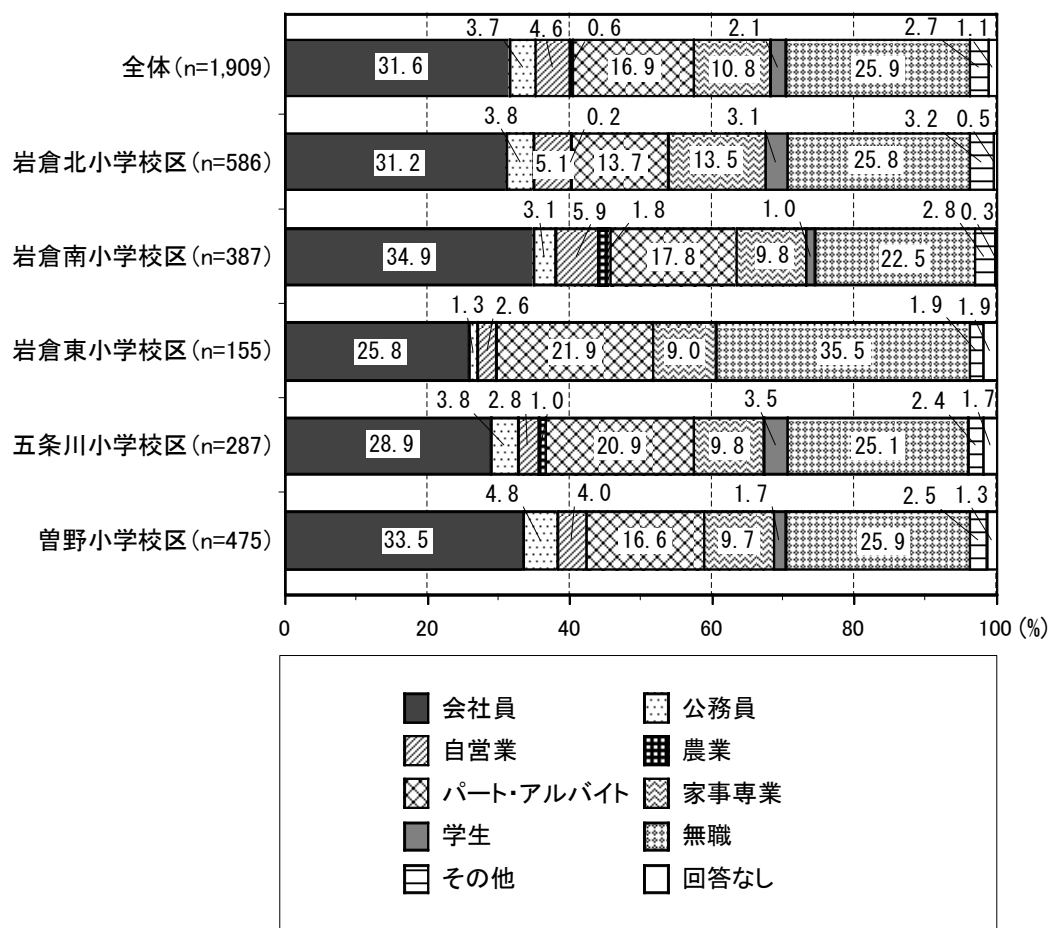
○回答者のうち、「会社員」は 31.6%、「公務員」は 3.7%、「自営業」は 4.6%、「農業」は 0.6%、「パート・アルバイト」は 16.9%で、これらを合わせた就業者の割合は 57.4%となっています。

○回答者のうち、「無職」は 25.9%、「家事専業」は 10.8%、「学生」は 2.1%となっています。

【小学校区別】

○高年齢層の割合が多い岩倉東小学校区では、「無職」（35.5%）の割合が多く、「会社員」（25.8%）の割合が少なくなっていることが特徴としてみられます。

図表 I-4 職業（小学校区別）



(4) 世帯のタイプ (問4)

問4 あなたの世帯のタイプは次のどれに属しますか。【○は1つだけ】

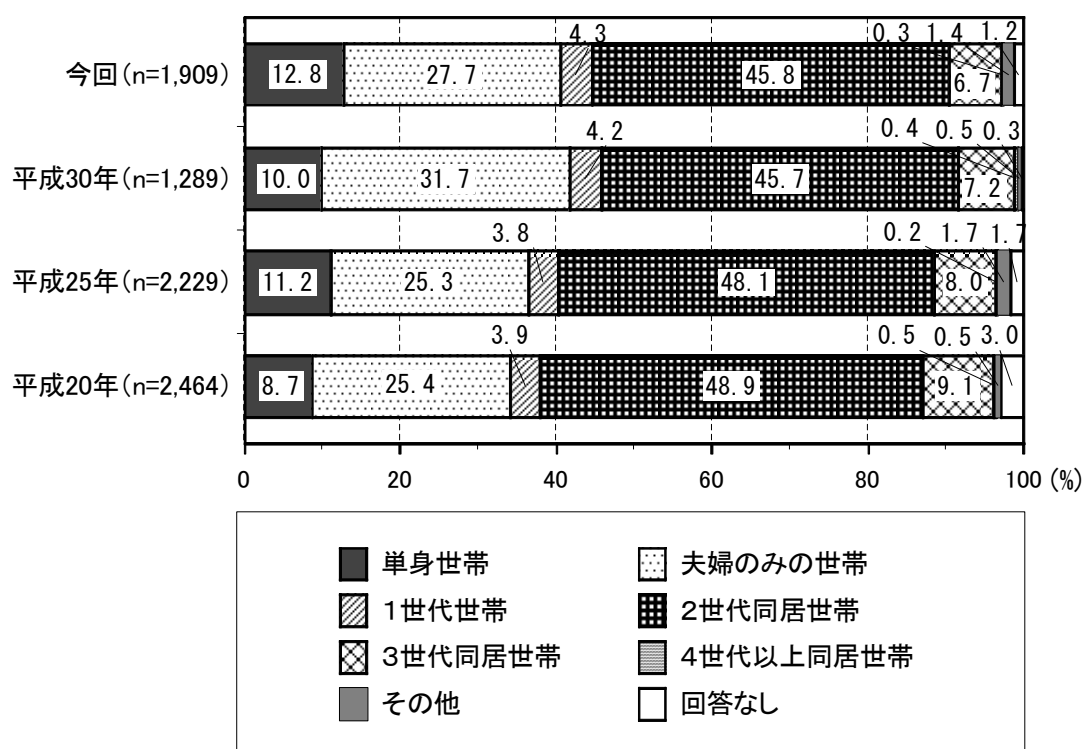
「2世代同居世帯(親と子どもの世帯)」が45.8%と最も多くを占め、次いで「夫婦のみの世帯」が27.7%で、合わせて70%以上を占めています。

高齢単身世帯や高齢夫婦世帯やその予備軍がかなり多い状況がみられます。また、それは特に岩倉東小学校区で顕著にみられます。

【全体】(経年比較)

○「2世代同居世帯(親と子どもの世帯)」(以後「2世代世帯」という。)が45.8%と最も多くを占め、次いで「夫婦のみの世帯」が27.7%で、合わせて73.5%を占めています。さらに「単身世帯」が12.8%、「3世代同居世帯」(以後「3世代世帯」という。)が6.7%、「1世代世帯(夫婦のみの世帯を除く。例：兄弟のみ・姉妹のみの世帯など)」(以後「1世代世帯」という。)が4.3%の順となっています。

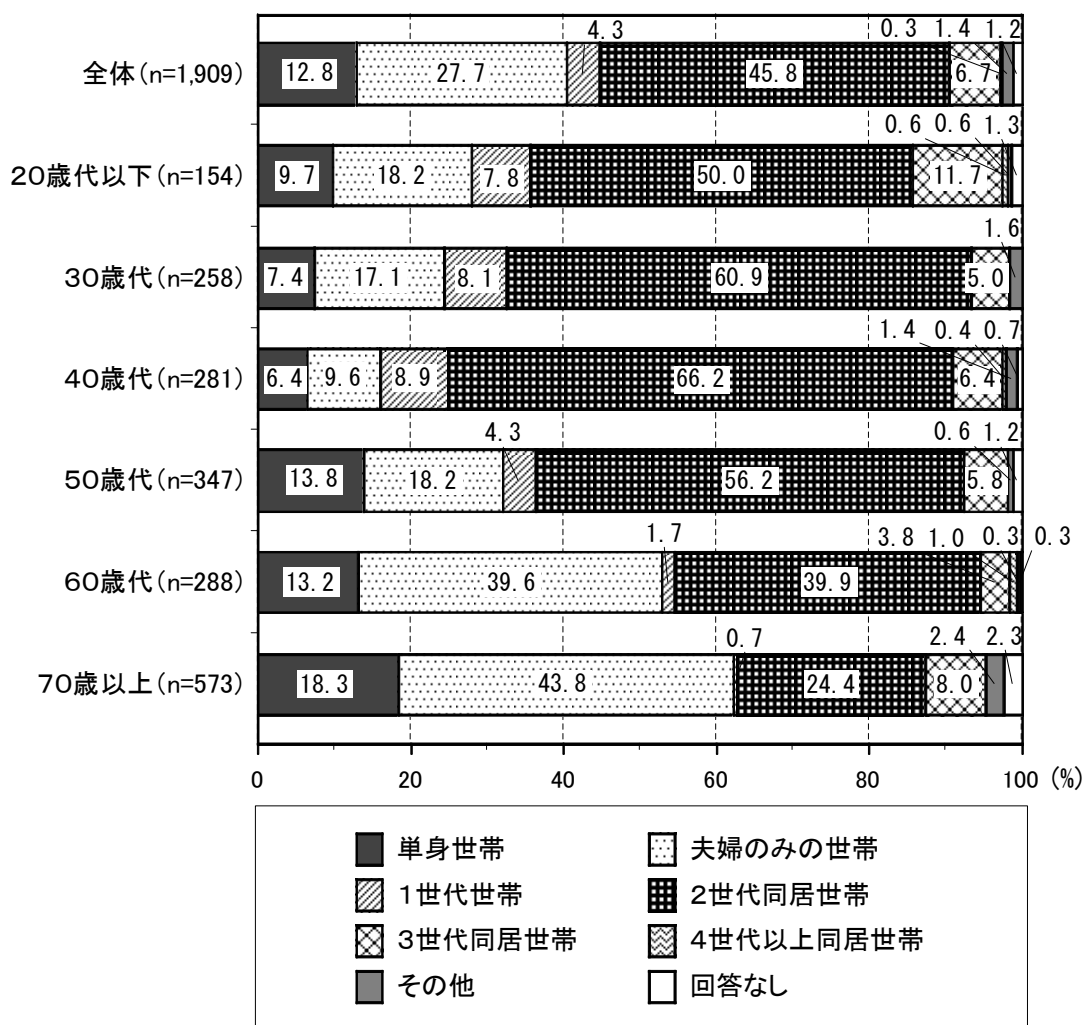
図表 I-5 世帯のタイプ (経年比較)



【年齢別】

- 「2世代世帯」は、40歳代が66.2%で最も多く、次いで30歳代が60.9%、50歳代で56.2%の順で、20歳代以下でも50.0%と半数を占めています。
- 「夫婦のみの世帯」は、40歳代で9.6%と最も少ない一方で、60歳代や70歳代でそれぞれ39.6%、43.8%と多くなっています。
- 「夫婦のみの世帯」に「単身世帯」を加えた割合は、70歳代では62.1%となっており、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯がかなりの割合を占めています。また、60歳代でも52.8%と過半数を占めており、今後、高齢単身世帯や高齢夫婦世帯になると見込まれるような世帯がかなりの割合を占めています。

図表 I-6 世帯のタイプ（年齢別）

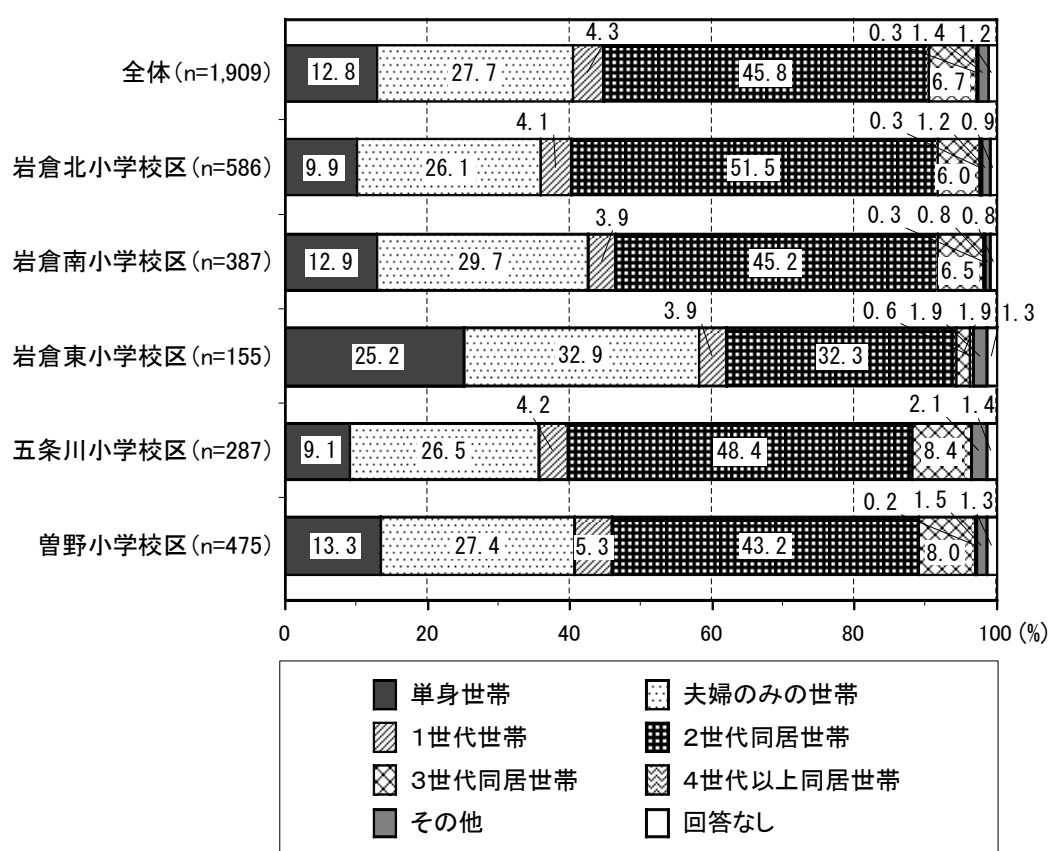


【小学校区別】

○岩倉東小学校区では、「単身世帯」(25.2%)と「夫婦のみの世帯」(32.9%)を合わせて58.1%と6割近くを占めており、他の小学校区よりも高くなっています。また、「2世代世帯」が32.3%と、他の小学校区に比べて10ポイント以上低くなっている点が特徴として挙げられます。

○岩倉東小学校区には、昭和40年代初頭に当時の日本住宅公団が建設した岩倉団地が立地しており、入居者の子ども世代の多くが既に独立し、高齢期を迎えた親世代のみが団地に居住し続けている世帯が多いことが背景にあると考えられます。

図表 1-7 世帯のタイプ（小学校区別）



(5) 居住年数 (問5)

問5 岩倉市にお住まいになって何年になりますか。【○は1つだけ】

居住年数は「30 年以上」が 50.1%で最も高く、「20 年以上 30 年未満」(14.1%)と合わせると、“20 年以上” が 64.2%となっています。

平成 25 年調査、平成 30 年調査と比較して大きく変化した項目はみられません。

【全体】

○居住年数は「30 年以上」が 50.1%で最も高く、「20 年以上 30 年未満」(14.1%)と合わせると、“20 年以上” が 64.2%となっています。

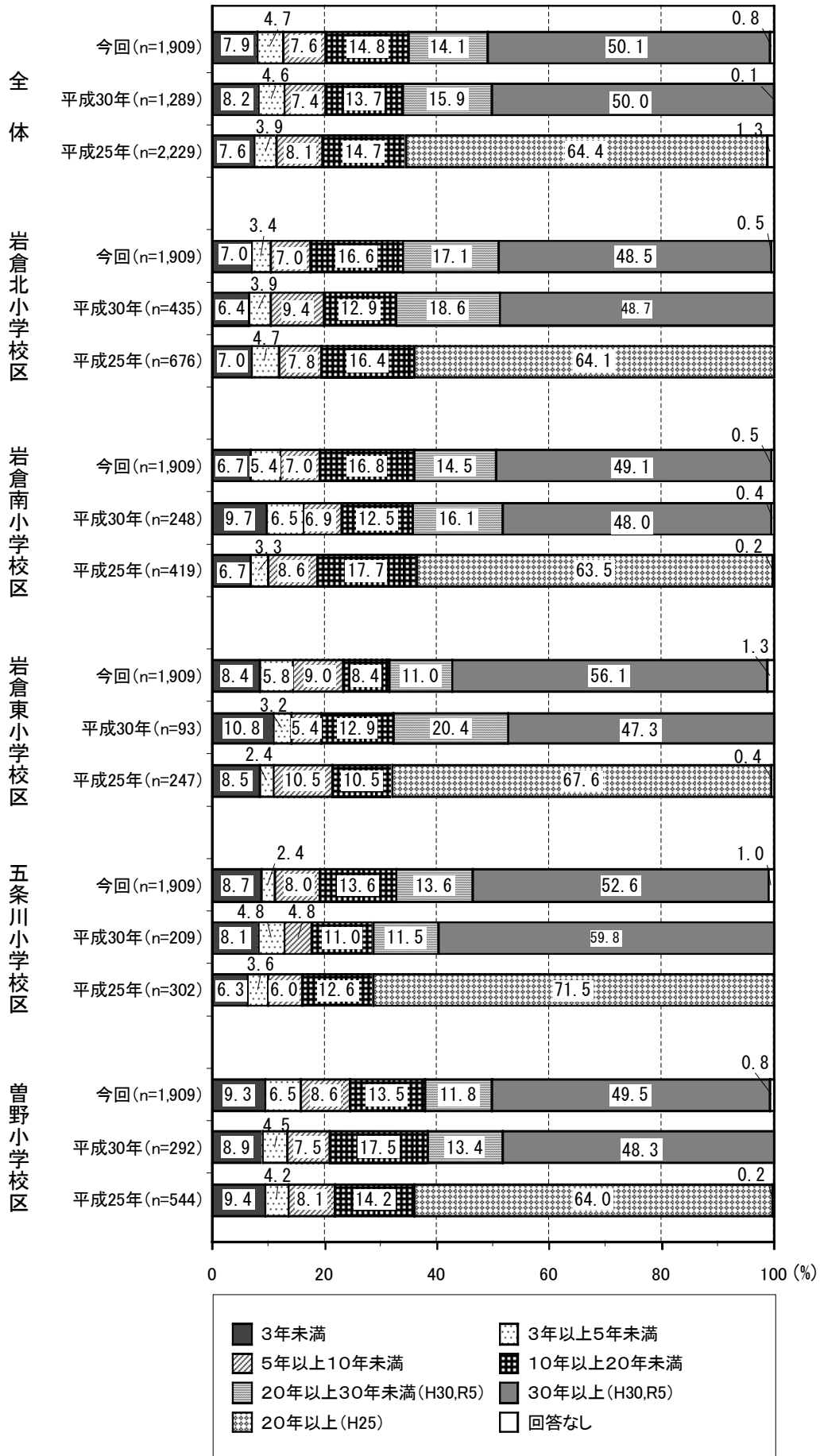
○「10 年以上 20 年未満」は 14.8%、“20 年以上” の 64.2%と合わせて 79.0%が、岩倉市に 10 年以上居住しています。

○全体の割合をみると、平成 25 年調査、平成 30 年調査と比較して大きく変化した項目はみられません。

【小学校区別】(経年比較)

○小学校区別にみると、岩倉東小学校区では「30 年以上」との回答が 56.1%で最も高く、五条川小学校区 (52.6%) とともに過半数を占めています。

図表 I-8 居住年数（小学校区別）



(6) 同居人 (問6)

問6

あなたの家では、どのような方が同居されていますか。あなた自身を含めてお答えください。【あてはまるものすべてに○】

「70歳以上の高齢者」の同居人がいるとの回答は、43.5%となっています。「小学生」が11.6%、「乳幼児」が11.0%、残りの「中学生」、「高校生」、「大学生・専門学校生」についてはいずれも10%未満となっています。

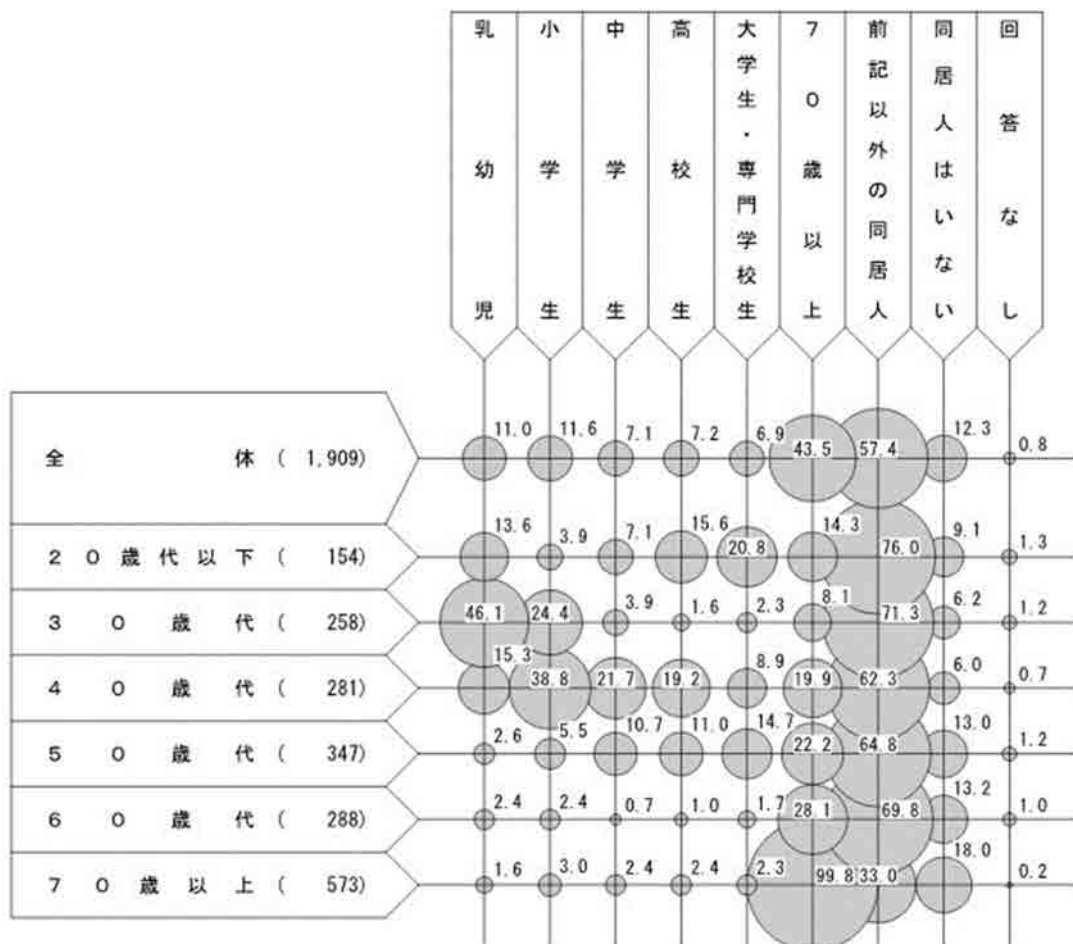
【全体】

- 「70歳以上の高齢者」の同居人がいるとの回答は、43.5%となっています。
- 「小学生」が11.6%、「乳幼児」が11.0%、「中学生」が7.1%、「高校生」が7.2%、「大学生・専門学校生」が6.9%となっています。

【年齢別】

- 「乳幼児」は30歳代、「小学生」は40歳代と30歳代、「中学生」と「高校生」は40歳代、「大学生・専門学校生」は20歳代以下と50歳代で、それぞれ全体平均を上回っています。
- 「同居人はいない」（単身世帯）との回答割合は、70歳代以上で18.0%と最も多く、60歳代や50歳代でもそれぞれ13.2%、13.0%であり、先にも触れたように高齢単身世帯になることが見込まれるような世帯が少なくない状況がうかがえます。

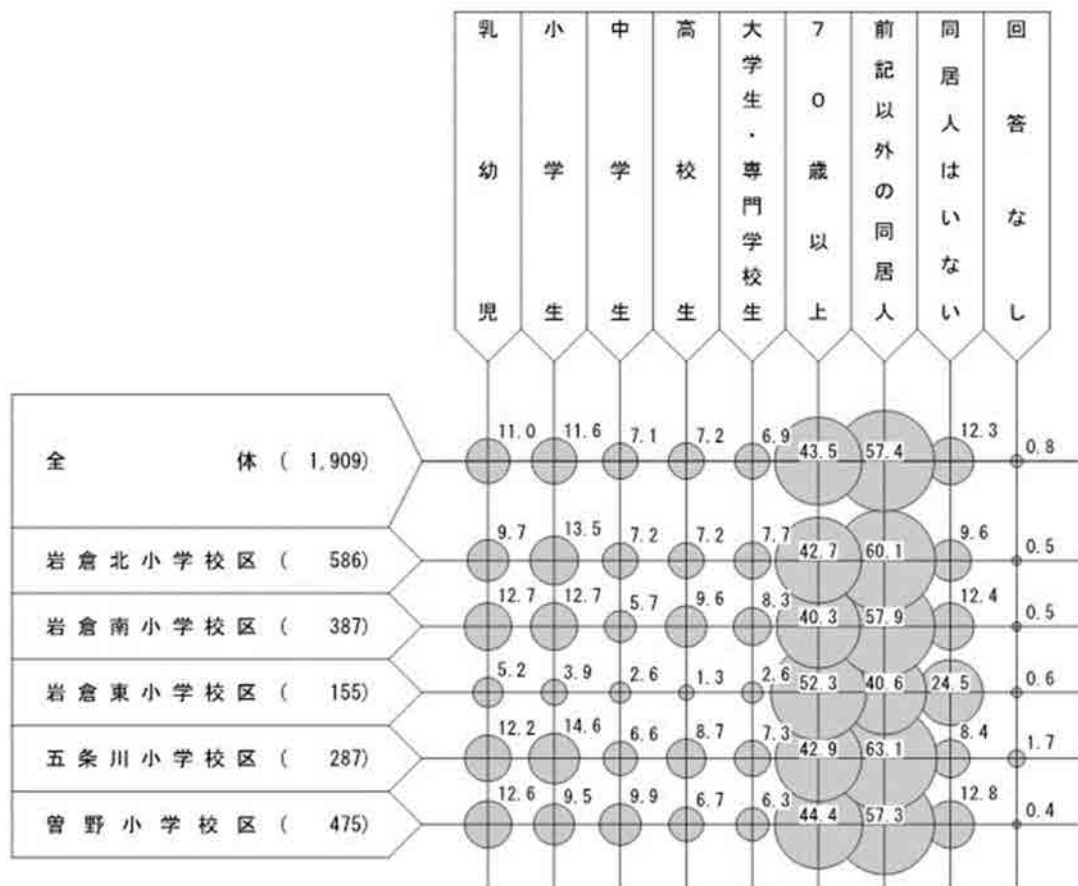
図表 1-9 同居人（年齢別）



【小学校区別】

- 小学校区別にみると、岩倉東小学校区では「乳幼児」及び「小学生」が全体平均と比較して5ポイント以上低くなっている一方で、「70歳以上の高齢者」の回答割合は、52.3%と全体平均と比べて多くなっています。
- これに加えて、岩倉東小学校区では、「同居人はいない」との回答が24.5%と突出して多くなっていることが特徴としてみられます。

図表 I-10 同居人（小学校区別）



II. 岩倉市の住みやすさ

II. 岩倉市の住みやすさ

1. 住環境と魅力

(1) 周辺の生活環境（問7）

問7

お住まいの周辺の生活環境について、満足度をおたずねします。

【①～②⑥について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

プラス評価となっているのは、26項目中22項目で「ごみの収集場所の近さ」が最も高くなっています。

評価がマイナスであったのは4項目で、順位の変動は多少あるものの平成30年調査と変化はなく、道路交通に関する項目が多くみられます。

【全体】

○プラス評価となっているのは、26項目中22項目となっています。

○「ごみの収集場所の近さ」(0.71)が最も高く、以下「住まいの日当たりや風通しの良さ」(0.61)、「大気汚染・水質汚濁など工場公害の少なさ」(0.58)、「医院・診療所までの近さ」(0.54)、「日常の買い物の便利さ」(0.47)、「電車・バスの運行本数の多さ」(0.42)の順となっています。

○評価がマイナスであったのは、26項目中4項目となっています。

○「道路の自転車の通行の安全性」(-0.21)、「道路の広さ」(-0.04)、「道路の歩行者の通行の安全性」(-0.02)、「空き地などの雑草の手入れの状態」(-0.02)、となっています。

○評価がマイナスの項目は平成30年調査と変化がなく、道路交通に関する項目が3項目になっています。

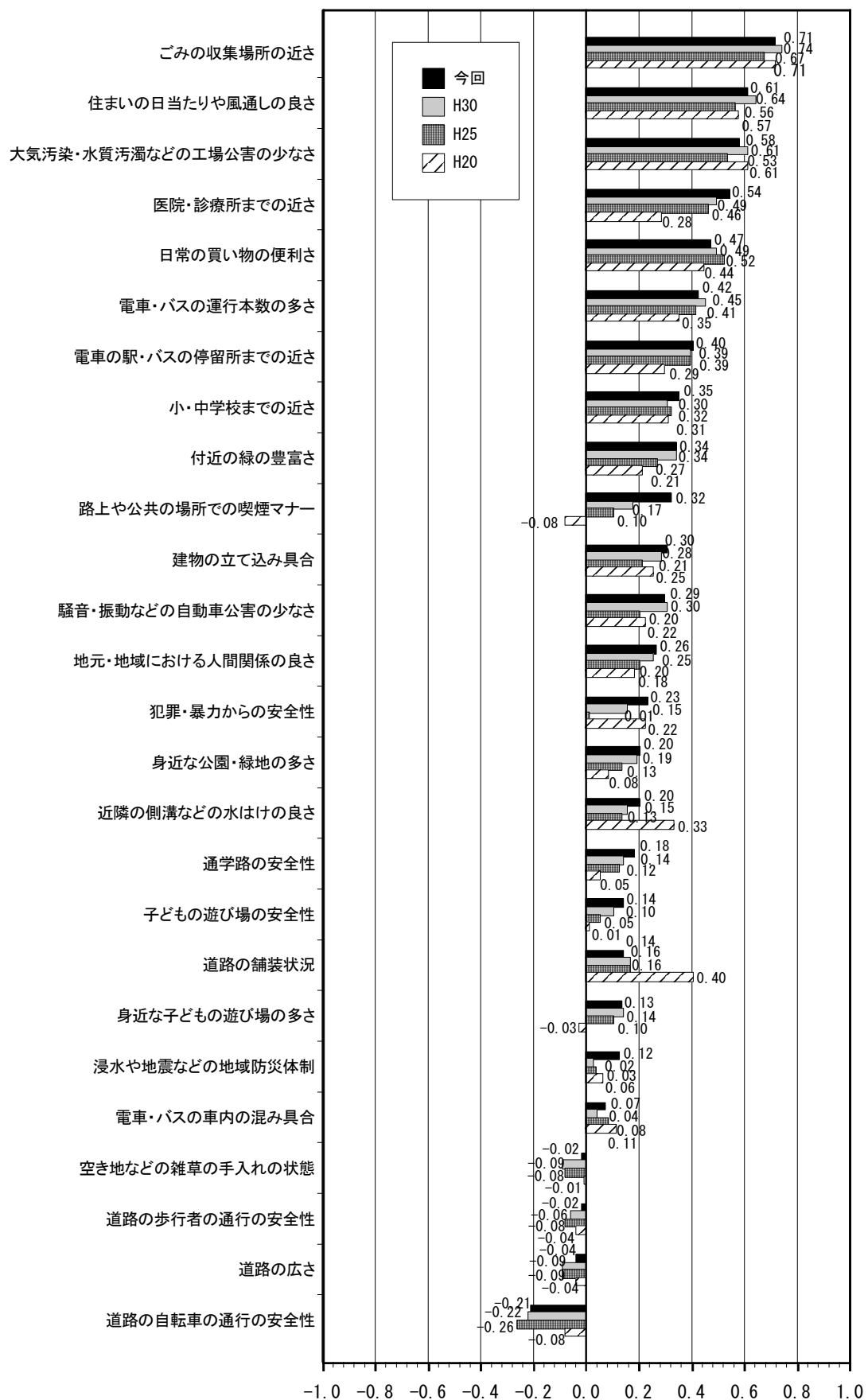
図表 II-1 周辺生活環境の評価

順位	項目	得点
1	ごみの収集場所の近さ	0.71
2	住まいの日当たりや風通しの良さ	0.61
3	大気汚染・水質汚濁などの工場公害の少なさ	0.58
4	医院・診療所までの近さ	0.54
5	日常の買い物の便利さ	0.47
6	電車・バスの運行本数の多さ	0.42
7	電車の駅・バスの停留所までの近さ	0.40
8	小・中学校までの近さ	0.35
9	付近の緑の豊富さ	0.34
10	路上や公共の場所での喫煙マナー	0.32
11	建物の立て込み具合	0.30
12	騒音・振動などの自動車公害の少なさ	0.29
13	地元・地域における人間関係の良さ	0.26
14	犯罪・暴力からの安全性	0.23
15	身近な公園・緑地の多さ	0.20
16	近隣の側溝などの水はけの良さ	0.20
17	通学路の安全性	0.18
18	子どもの遊び場の安全性	0.14
19	道路の舗装状況	0.14
20	身近な子どもの遊び場の多さ	0.13
21	浸水や地震などの地域防災体制	0.12
22	電車・バスの車内の混み具合	0.07
23	空き地などの雑草の手入れの状態	-0.02
24	道路の歩行者の通行の安全性	-0.02
25	道路の広さ	-0.04
26	道路の自転車の通行の安全性	-0.21

【経年比較】

- 平成 30 年調査と比較すると、ポイント数が上昇したのが 18 項目、下落したのは 8 項目となっています。全体的に、周辺生活環境に対する評価は上昇したといえます。
 - 上昇幅が大きかった項目としては、「路上や公共の場所での喫煙マナー」(0.15)、「浸水や地震などの地域防災体制」(0.10)、「犯罪・暴力からの安全性」(0.08)など、生活上の安全・安心に関する事項がみられます。
 - 「ごみの収集場所の近さ」(-0.03)、「大気汚染・水質汚濁の工場公害の少なさ」(-0.03)、「電車・バスの運行本数の多さ」(-0.03)など、下落した 8 項目は、上昇した項目の上昇幅と比べて小さく、いずれも 0.03 以下の下落にとどまっています。
 - 令和 3 年 9 月に施行された「岩倉市路上喫煙の規制に関する条例」に基づき、令和 3 年 12 月から岩倉駅周辺が路上喫煙禁止区域に指定されたことが、「路上や公共の場所での喫煙マナー」の評価の上昇につながったものと考えられます。
 - また、全国的に台風や豪雨による浸水被害が頻繁に発生している割には、五条川小学校において雨水貯留施設が整備されたことも一つの要因となって岩倉市内では浸水被害が生じていないことが、「浸水や地震などの地域防災体制」の評価の上昇につながったものと考えられます。
 - さらに、令和 4 年版『いわくらの統計』によると、市内の犯罪認知件数は、平成 29 年の 497 件から 5 年後の令和 4 年には 269 件に減少しており、こうした治安状況の改善が、「犯罪・暴力からの安全性」の評価の上昇につながったものと考えられます。
-

図表 II-2 周辺生活環境の評価（経年比較）



図表 II-3 周辺生活環境の評価（経年比較）

項目	全体			
	順位	評点		
		今回	平成 30 年	差
医院・診療所までの近さ	4	0.54	0.49	0.05
身近な子どもの遊び場の多さ	20	0.13	0.14	-0.01
身近な公園・緑地の多さ	15	0.20	0.19	0.01
子どもの遊び場の安全性	18	0.14	0.10	0.04
付近の緑の豊富さ	9	0.34	0.34	0.00
ごみの収集場所の近さ	1	0.71	0.74	-0.03
騒音・振動などの自動車公害の少なさ	12	0.29	0.30	-0.01
大気汚染・水質汚濁の工場公害の少なさ	3	0.58	0.61	-0.03
路上や公共の場所での喫煙マナー	10	0.32	0.17	0.15
空き地などの雑草の手入れの状態	23	-0.02	-0.09	0.07
浸水や地震などの地域防災体制	21	0.12	0.02	0.10
近隣の側溝などの水はけの良さ	16	0.20	0.15	0.05
犯罪・暴力からの安全性	14	0.23	0.15	0.08
通学路の安全性	17	0.18	0.14	0.04
小・中学校までの近さ	8	0.35	0.30	0.05
電車の駅・バスの停留所までの近さ	7	0.40	0.39	0.01
電車・バスの運行本数の多さ	6	0.42	0.45	-0.03
電車・バスの車内の混み具合	22	0.07	0.04	0.03
道路の歩行者の通行の安全性	24	-0.02	-0.06	0.04
道路の自転車の通行の安全性	26	-0.21	-0.22	0.01
道路の広さ	25	-0.04	-0.09	0.05
道路の舗装状況	18	0.14	0.16	-0.02
日常の買い物の便利さ	5	0.47	0.49	-0.02
住まいの日当たりや風通しの良さ	2	0.61	0.64	-0.03
建物の立て込み具合	11	0.30	0.28	0.02
地元・地域における人間関係の良さ	13	0.26	0.25	0.01

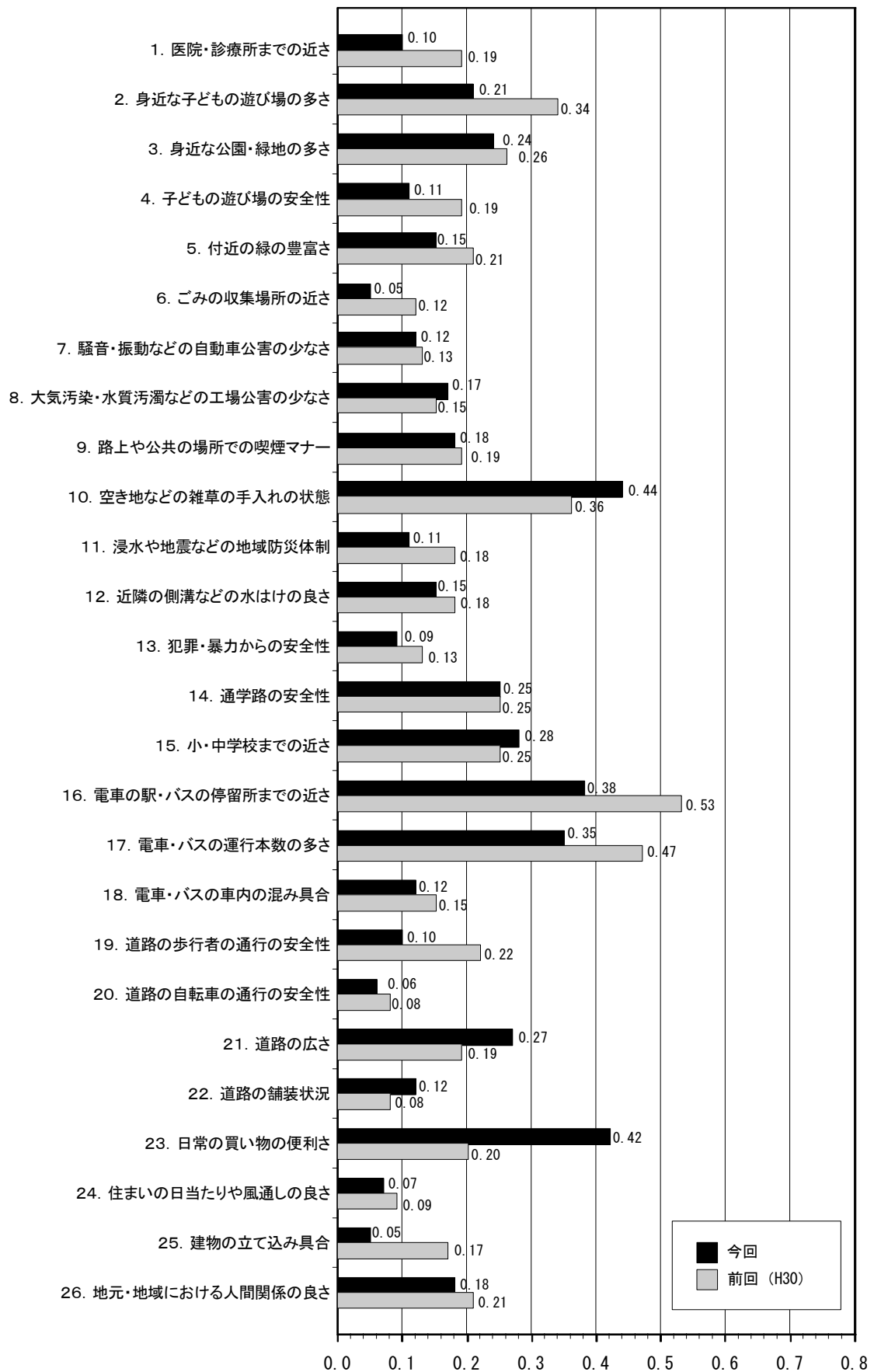
【小学校区間の格差】

- 岩倉東小学校区の評価が最も高い項目は 26 項目中 11 項目にのぼっており、これまでの調査と同様に、岩倉東小学校区の評価が高い傾向は続いています。一方で、曾野小学校区の評価が最も低い項目が全 26 項目中 11 項目にのぼっています。
- 平成 30 年調査と比較して、評価ポイントが最も高い小学校区と最も低い小学校区との間の格差が拡大した項目は 6 項目、格差が縮小した項目は 19 項目となっています。全般的に小学校区間の格差は縮小しています。
- 小学校区間の格差の拡大幅をみると、「日常の買い物の便利さ」(0.22) が最も大きくなっています。次いで「道路の広さ」(0.08) と「空き地などの雑草の手入れの状態」(0.08)、「道路の舗装状況」(0.04) の順となっていますが、拡大幅はいずれも 0.10 未満にとどまっています。
- 一方、小学校区間の格差の縮小幅をみると、「電車の駅・バスの停留所までの近さ」(0.15)、「身近な子どもの遊び場の多さ」(0.13)、「電車・バスの運行本数の多さ」(0.12)、「道路の歩行者の通行の安全性」(0.12)、「建物の立て込み具合」(0.12) の順となっています。
- 物理的な周辺環境変化が特になくても、心理的な要因によって生活環境評価の小学校区間の格差が拡大したり、縮小したりしている状況がうかがえます。

図表 II-4 前回（平成 30 年調査）から評価が上昇・下落した項目数（小学校区別）

	全体	岩倉北	岩倉南	岩倉東	五条川	曾野
0.10 以上 ポイントが上昇した項目数	2	6	9	2	4	2
0.01 以上 0.10 未満の範囲で ポイントが上昇した項目数	15	12	13	7	11	7
ポイントが 変化しなかった項目数	1	2	0	1	0	3
0.01 以上 0.10 未満の範囲で ポイントが下落した項目数	8	6	4	16	11	14
合計	26	26	26	26	26	26
うち増加	17	18	22	9	15	9

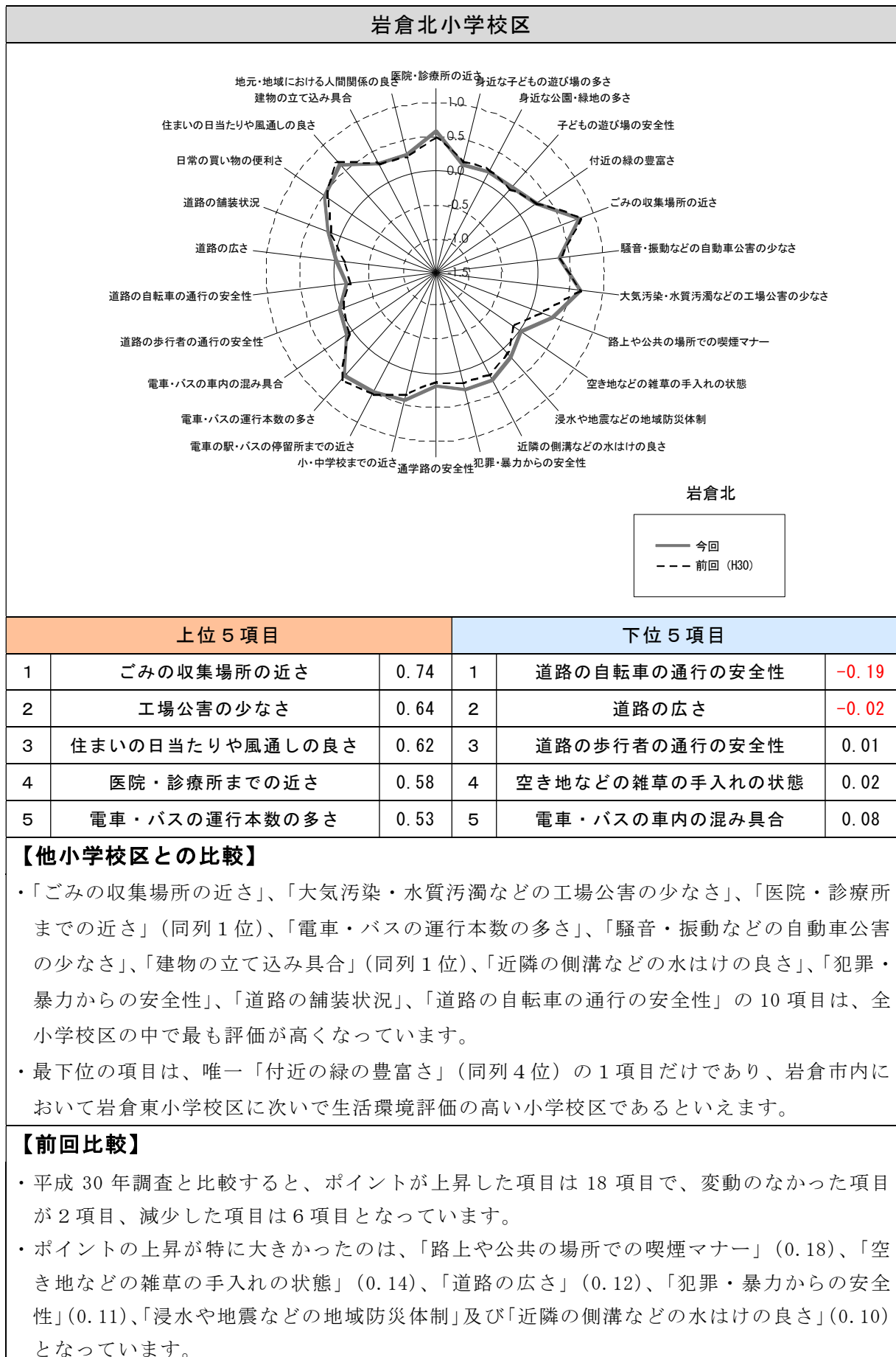
図表 II-5 周辺生活環境の小学校区間の格差（前回比較）



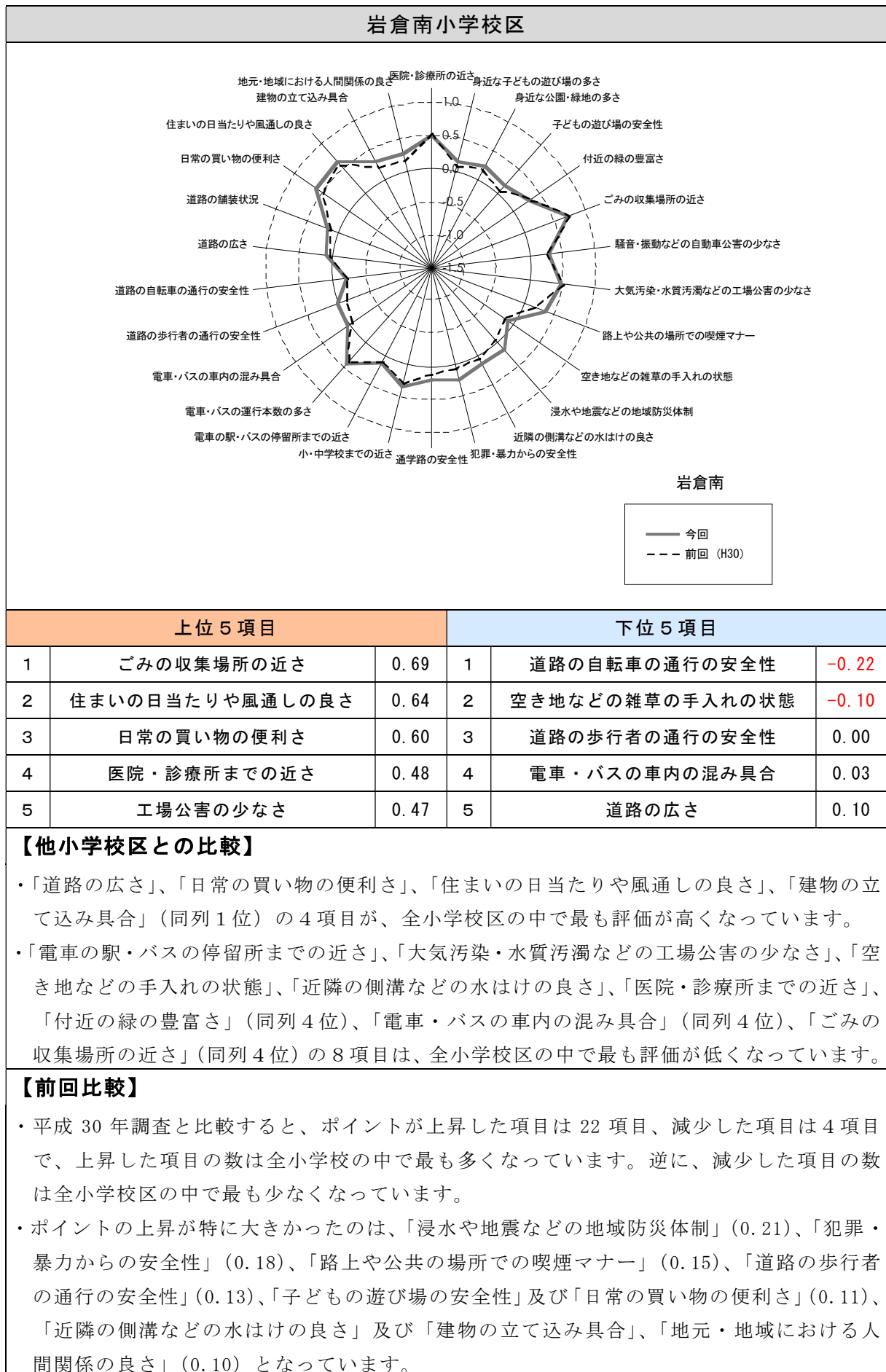
図表 II-6 周辺生活環境評価の評点（小学校区別）

	全体	岩倉北	岩倉南	岩倉東	五条川	曽野
医院・診療所までの近さ	0.54	0.58	0.48	0.58	0.54	0.52
身近な子どもの遊び場の多さ	0.13	0.13	0.14	0.25	0.19	0.04
身近な公園・緑地の多さ	0.20	0.17	0.23	0.37	0.28	0.13
子どもの遊び場の安全性	0.14	0.17	0.16	0.18	0.13	0.07
付近の緑の豊富さ	0.34	0.28	0.28	0.43	0.40	0.39
ごみの収集場所の近さ	0.71	0.74	0.69	0.73	0.72	0.69
騒音・振動などの自動車公害の少なさ	0.29	0.33	0.28	0.23	0.21	0.32
大気汚染・水質汚濁の工場公害の少なさ	0.58	0.64	0.47	0.61	0.59	0.58
路上や公共の場所での喫煙マナー	0.32	0.33	0.32	0.21	0.39	0.32
空き地などの雑草の手入れの状態	-0.02	0.02	-0.10	0.34	-0.08	-0.07
浸水や地震などの地域防災体制	0.12	0.16	0.14	0.17	0.07	0.06
近隣の側溝などの水はけの良さ	0.20	0.28	0.13	0.21	0.15	0.18
犯罪・暴力からの安全性	0.23	0.27	0.23	0.21	0.24	0.18
通学路の安全性	0.18	0.16	0.18	0.39	0.17	0.14
小・中学校までの近さ	0.35	0.42	0.33	0.48	0.20	0.32
電車の駅・バスの停留所までの近さ	0.40	0.47	0.12	0.49	0.39	0.50
電車・バスの運行本数の多さ	0.42	0.53	0.42	0.18	0.23	0.49
電車・バスの車内の混み具合	0.07	0.08	0.03	0.15	0.03	0.11
道路の歩行者の通行の安全性	-0.02	0.01	0.00	0.03	-0.07	-0.06
道路の自転車の通行の安全性	-0.21	-0.19	-0.22	-0.20	-0.25	-0.22
道路の広さ	-0.04	-0.02	0.10	-0.07	-0.08	-0.17
道路の舗装状況	0.14	0.20	0.17	0.09	0.11	0.08
日常の買い物の便利さ	0.47	0.49	0.60	0.18	0.46	0.46
住まいの日当たりや風通しの良さ	0.61	0.62	0.64	0.60	0.61	0.57
建物の立て込み具合	0.30	0.31	0.31	0.29	0.31	0.26
地元・地域における人間関係の良さ	0.26	0.28	0.27	0.14	0.32	0.25

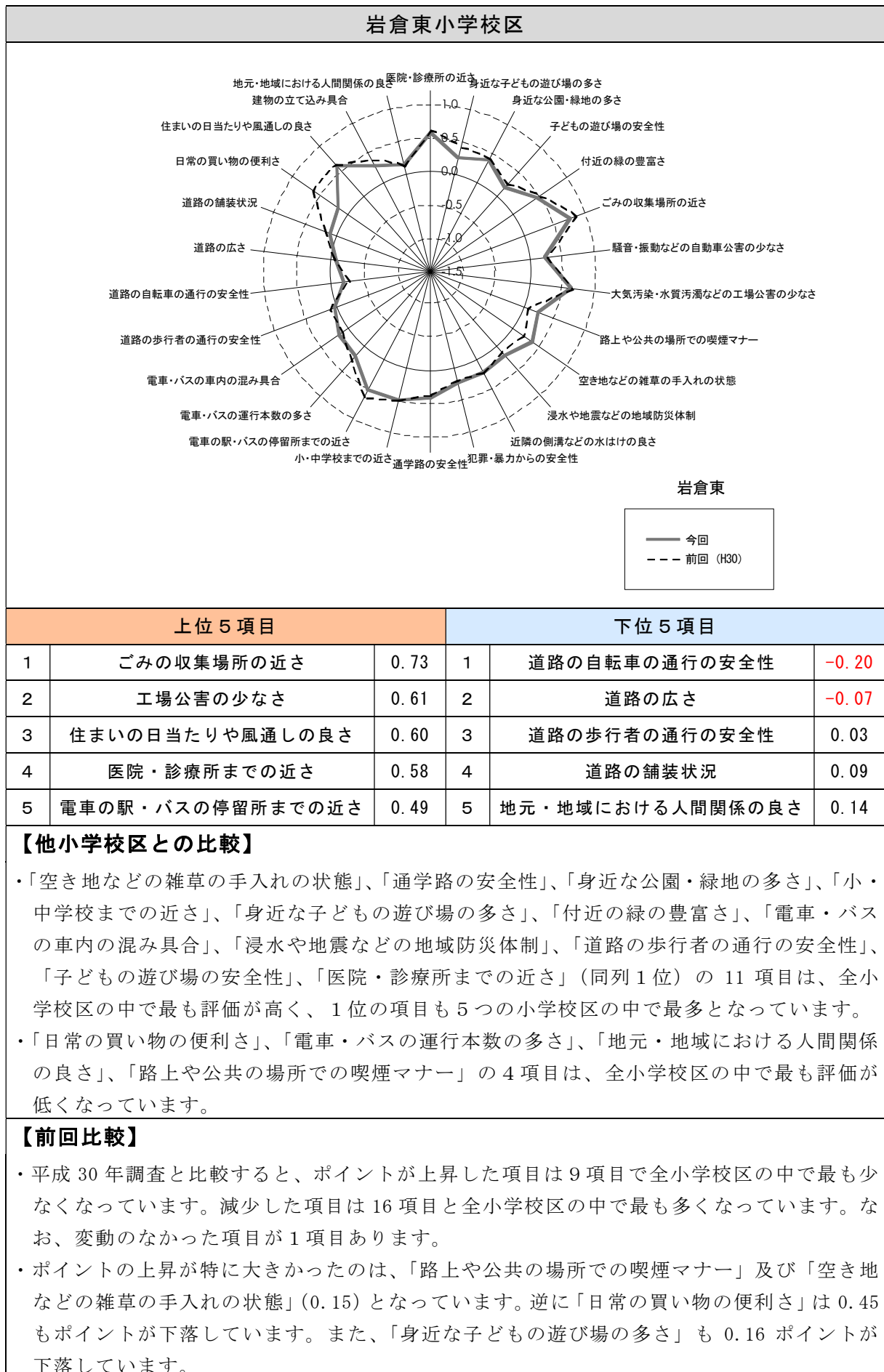
図表 II-7 周辺生活環境評価の分析（岩倉北小学校区）



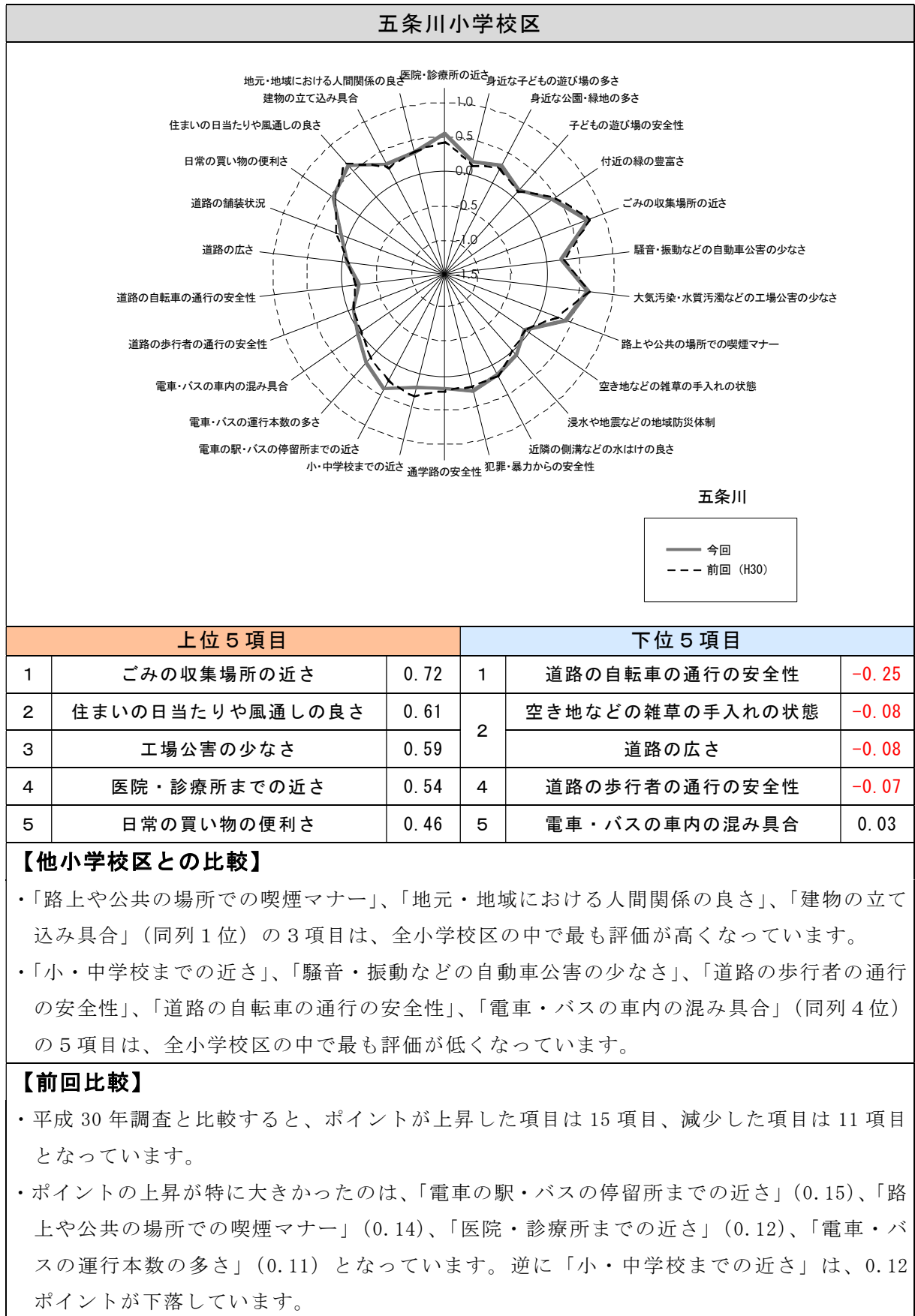
図表 II-8 周辺生活環境評価の分析（岩倉南小学校区）



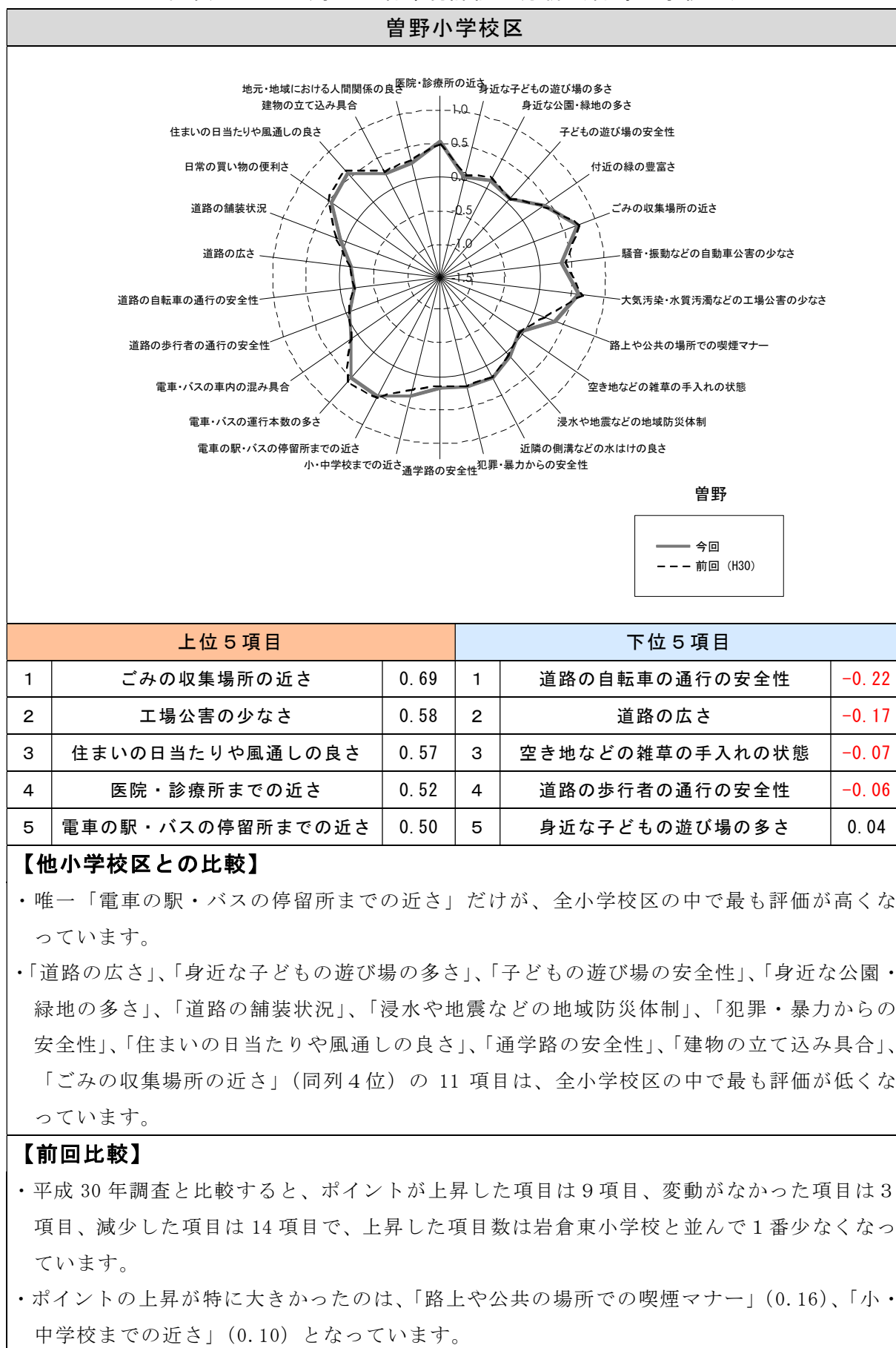
図表 II-9 周辺生活環境評価の分析（岩倉東小学校区）



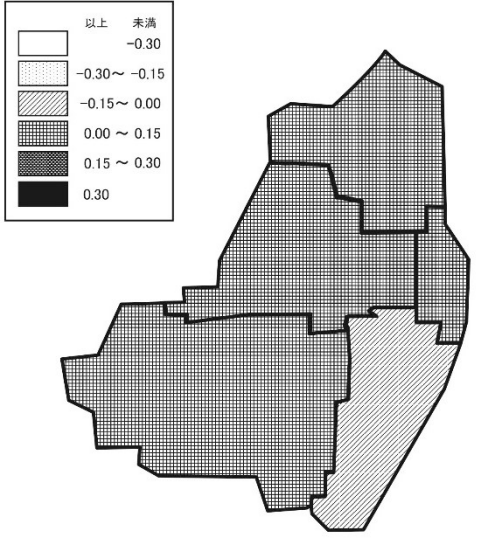
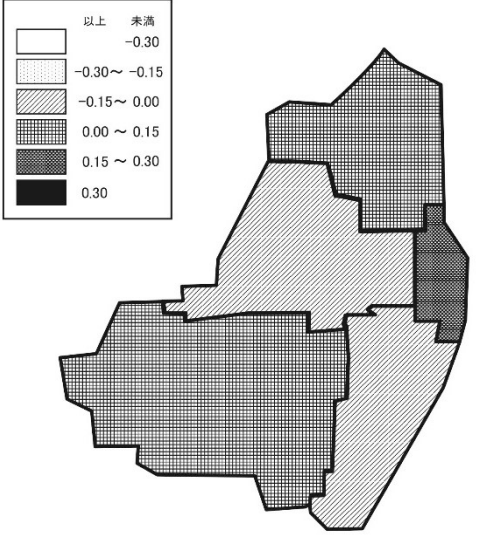
図表 11-10 周辺生活環境評価の分析（五条川小学校区）

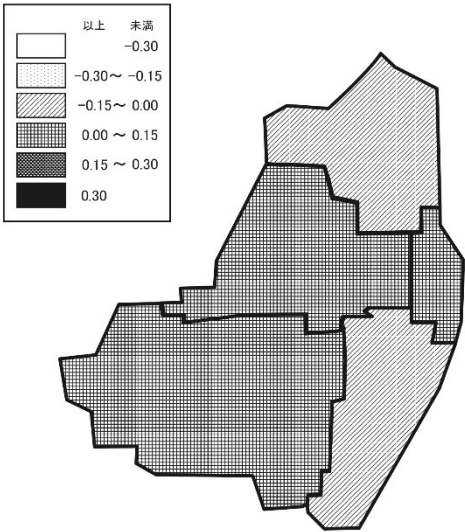
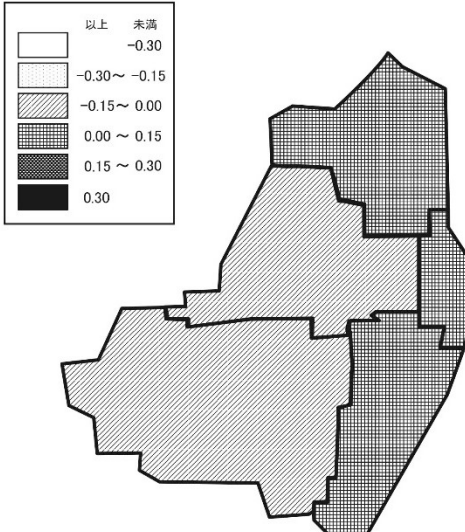
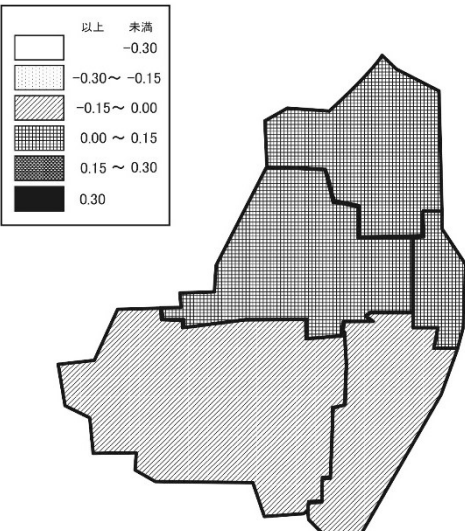
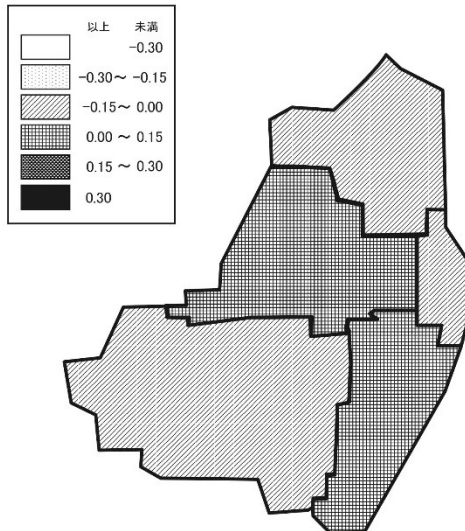


図表 II-11 周辺生活環境評価の分析（曾野小学校区）

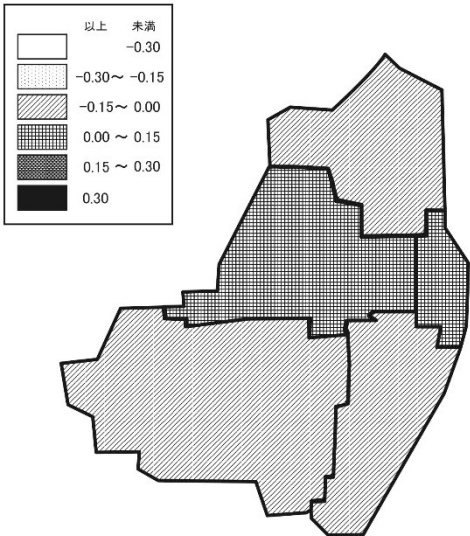
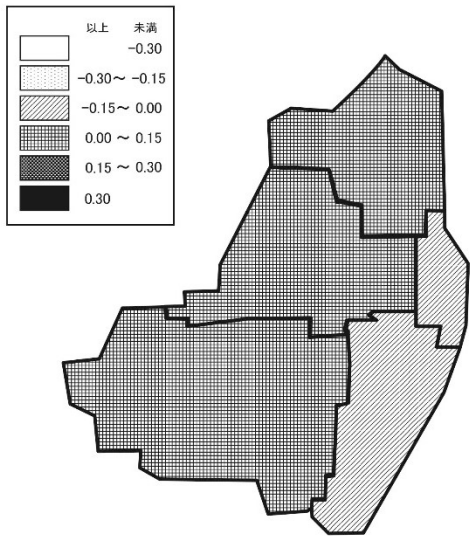
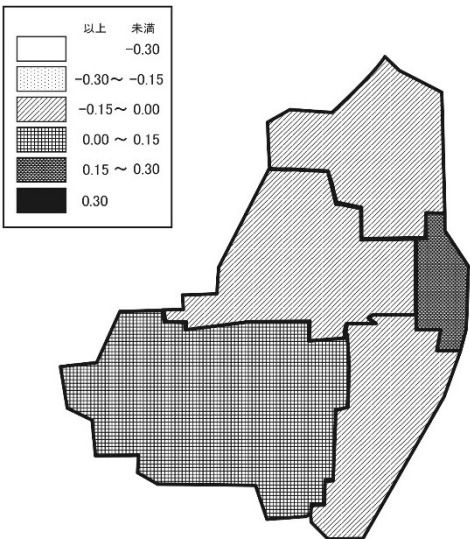
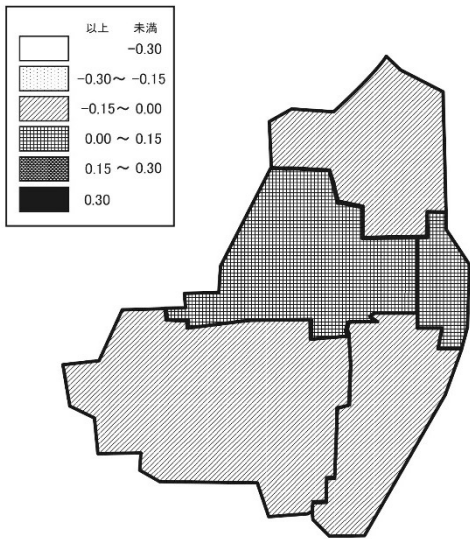


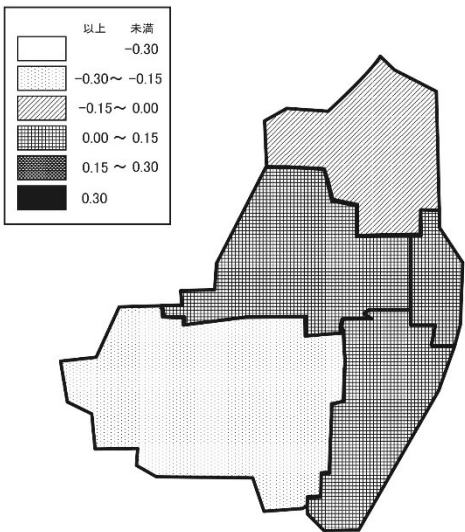
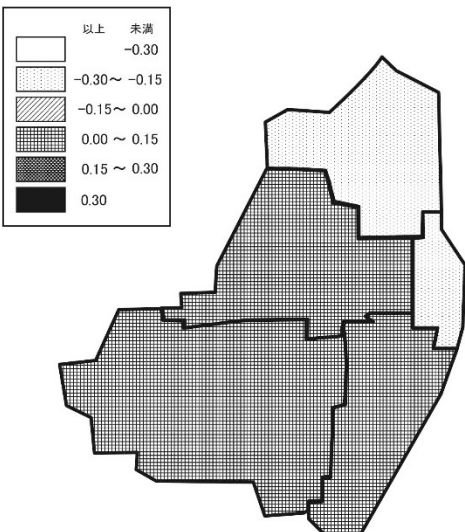
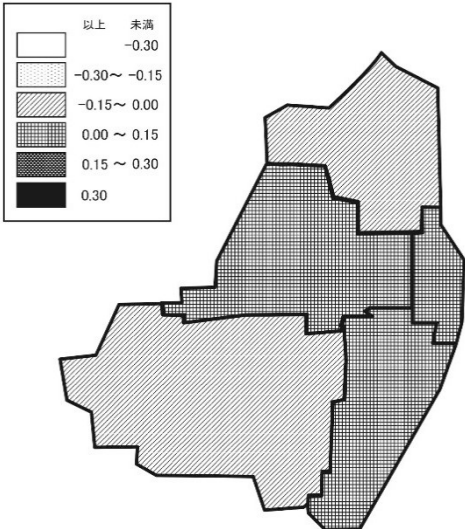
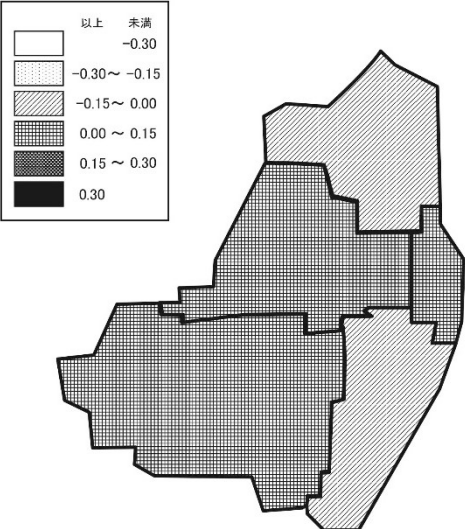
図表 11-12 周辺生活環境評価の平均値との差（小学校区別）

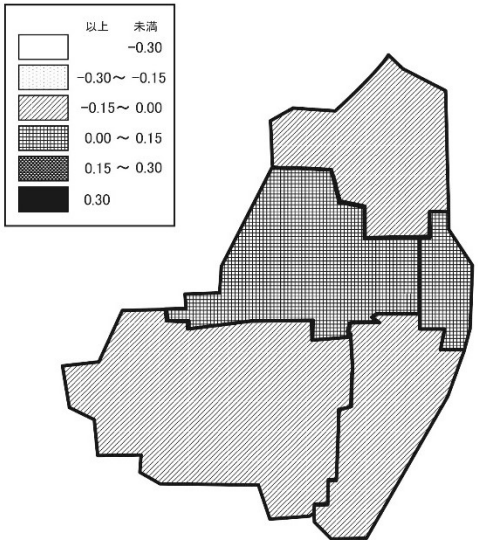
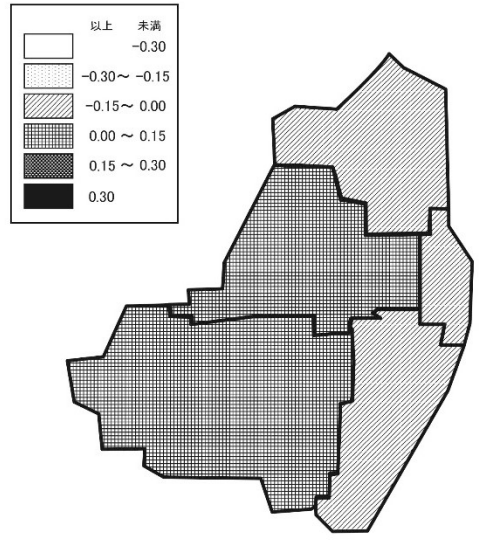
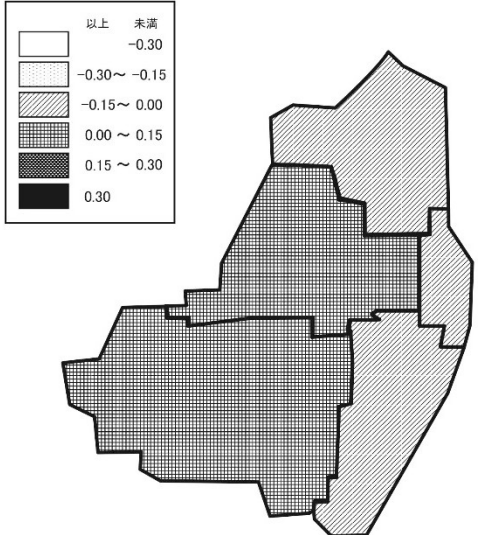
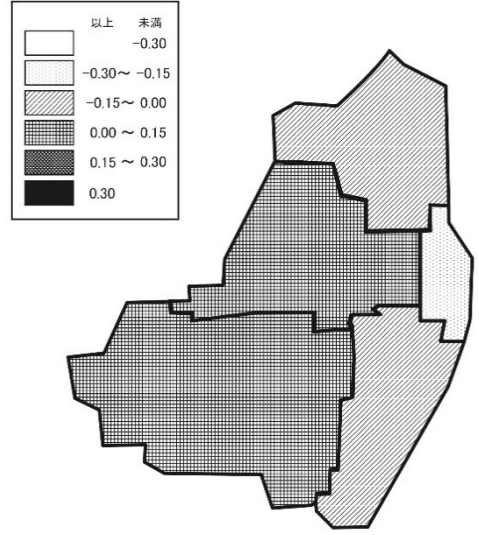
凡例 (市全体の値との差)	順位	-	1 医院・診療所までの 近さ	順位	4
	全体	-		全体	0.54
濃淡は市全体としての値との差を示します					
小学校区間の評点差の平均値は 0.18 で、「空き地などの雑草の手入れの状態」は、差が 0.44 と 26 項目の中で最大となっています。			評点差は 0.10 で平均を下回っています。評点が最も高いのは、岩倉北小学校区と岩倉東小学校区の 0.58 となっています。		
2 身近な子どもの遊び場の 多さ	順位	20	3 身近な公園・緑地の 多さ	順位	15
	全体	0.13		全体	0.20
					
評点差は 0.21 で平均を少し上回っています。評点が最も高いのは岩倉東小学校区の 0.25、最も低いのは曾野小学校区の 0.04 です。			評点差は 0.24 で平均を少し上回っています。評点が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.37 ですこし目立っています。最も低いのは曾野小学校区の 0.13 です。		

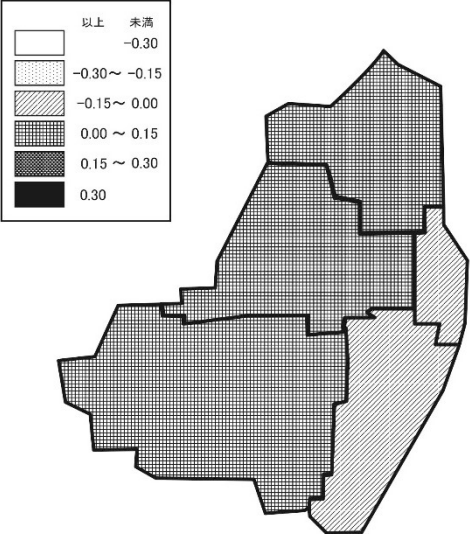
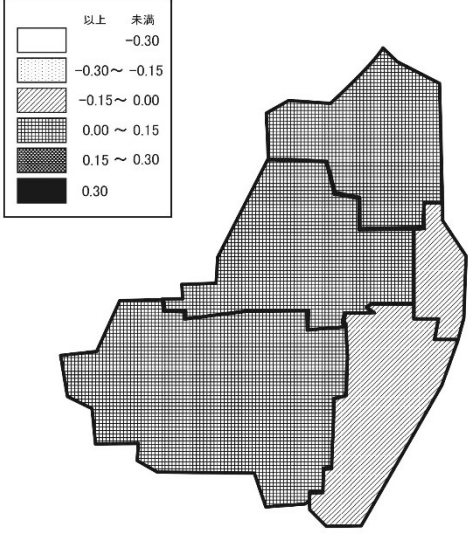
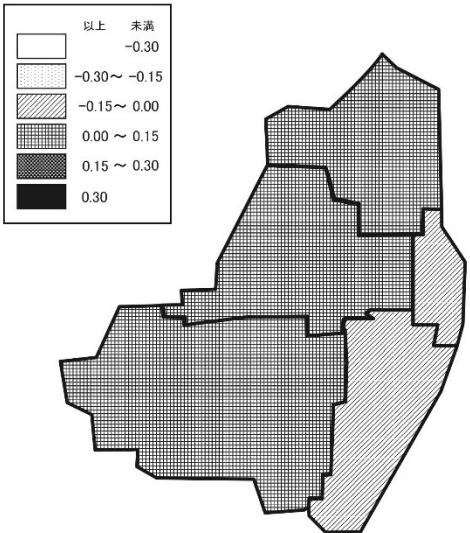
4 子どもの遊び場の 安全性	順位	18	5 付近の緑の豊富さ	順位	9
	全体	0.14		全体	0.34
					
評点差は 0.11 で平均を下回っています。評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.18、最も低いのは曾野小学校区の 0.07 です。			評点差は 0.15 で平均を少し下回っています。評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.43、最も低いのは岩倉北小学校と岩倉南小学校区の 0.28 です。		
6 ごみ収集場所の近さ	順位	1	7 騒音・振動などの 自動車公害の少なさ	順位	12
	全体	0.71		全体	0.29
					
評点差は 0.05 で平均を大きく下回っており、小学校間の格差はほとんどありません。			評点差は 0.12 で平均を下回っています。評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.33、最も低いのは五条川小学校区の 0.21 です。		

8 大気汚染・水質汚濁などの工場公害の少なさ		順位	3	9 路上や公共の場所での喫煙マナー		順位	10
		全体	0.58			全体	0.32
評点差は 0.17 で平均を少し下回っています。評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.64、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.47 で、岩倉南小学校区の低さが少し目立ちます。				評点差は 0.18 で平均値となっています。評価が最も高いのは、五条川小学校区の 0.39、最も低いのは岩倉東小学校区の 0.21 で、岩倉東小学校区が特に低くなっています。			
10 空き地などの雑草の手入れの状態		順位	23	11 浸水や地震などの地域防災体制		順位	21
		全体	-0.02			全体	0.12
評点差は 0.44 で 26 項目の中で最も高くなっています。岩倉東小学校区の 0.34 で少し目立っています。最も低い岩倉南小学校区では -0.10 です。				評点差は 0.11 で平均を下回っています。評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.17、最も低いのは曾野小学校区の 0.06 です。			

12 近隣の側溝などの 水はけの良さ	順位	15	13 犯罪・暴力からの 安全性	順位	14
	全体	0.20		全体	0.23
					
評点差は 0.15 で平均を少し下回っています。評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.28、最も低いのは岩倉南小学校区の 0.13 です。			評点差は 0.09 で平均を下回っています。評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.27、最も低いのは曾野小学校区の 0.18 です。		
14 通学路の安全性	順位	17	15 小・中学校までの 近さ	順位	8
	全体	0.18		全体	0.35
					
評点差は 0.25 で平均を上回っています。評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.39 で目立っています。最も低いのは曾野小学校区の 0.14 となっています。			評点差は 0.28 で平均を上回っています。評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.48、最も低いのは五条川小学校区の 0.20 となっています。		

16 電車の駅・バスの 停留所までの近さ	順位	7	17 電車・バスの 運行本数の多さ	順位	6
	全体	0.40		全体	0.42
					
評点差は 0.38 で 26 項目の中で 3 番目に高くなっています。評価が最も高いのは、曾野小学校区の 0.50、最も低いのは岩倉南小学校の 0.12 で少し目立って低くなっています。			評点差は 0.35 で 26 項目の中で 4 番目に高くなっています。評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.53、最も低いのは岩倉東小学校区の 0.18 となっています。		
18 電車・バスの車内の 混み具合	順位	22	19 道路の歩行者の 通行の安全性	順位	23
	全体	0.07		全体	-0.02
					
評点差は 0.12 で平均を下回っています。評価が最も高いのは岩倉東小学校区の 0.15、最も低いのは五条川小学校区と岩倉南小学校区の 0.03 です。			評点差は 0.10 で平均を下回っています。います。評価が最も高いのは、岩倉東小学校区の 0.03、最も低い五条川小学校区の-0.07 です。		

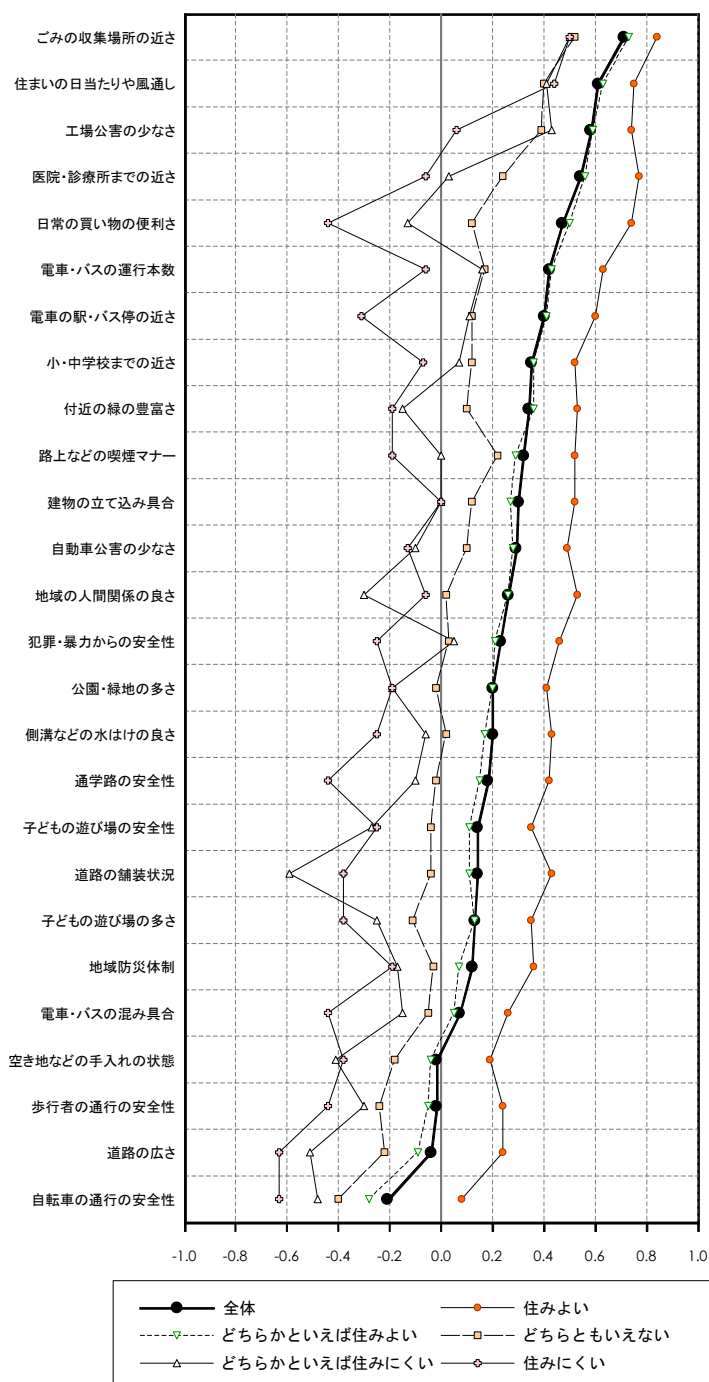
20 道路の自転車の 通行の安全性	順位	26	21 道路の広さ	順位	25
	全体	-0.21		全体	-0.04
					
評点差は 0.06 で平均を大きく下回っており、小学校間の格差なく全市的に評価の低い項目となっています。			評点差は 0.27 で平均を上回っています。評価が最も高いのは、岩倉南小学校区の 0.10 で、唯一プラス評価となっており、最も低い曽野小学校区の -0.17 となっています。		
22 道路の舗装状況	順位	18	23 日常の買い物の 便利さ	順位	5
	全体	0.14		全体	0.47
					
評点差は 0.12 で平均を下回っています。評価が最も高いのは、岩倉北小学校区の 0.20、最も低いのは曽野小学校区の 0.08 です。			評点差は 0.42 で 26 項目の中で 2 番目に高くなっています。評価が最も高いのは、岩倉南小学校区の 0.60、最も低いのは岩倉東小学校区の 0.18 となっています。		

24 住まいの日当たりや 風通しの良さ	順位 全体	2 0.61	25 建物の立て込み具合	順位 全体	11 0.30
					
評点差は 0.07 で平均を大きく下回っており、小学校間の格差なく全市的に評価の高い項目となっています。			評点差は 0.05 で平均を大きく下回っており、小学校間の格差なく全市的に比較的评价の高い項目となっています。		
26 地元・地域における 人間関係の良さ	順位 全体	13 0.26			
			評点差は 0.18 で平均値となっています。評価が最も高いのは、五条川小学校区の 0.32、最も低いのは岩倉東小学校区の 0.14 となっています。		

【住みやすさの評価別】

- おおむね住みやすさの評価が高いほど、住環境の評価も高くなっています。
- 「住みよい」と評価した市民と「住みにくい」と評価した市民との評価の差が大きい上位5項目は、「日常の買い物の便利さ」(1.18)、「電車の駅・バス停の近さ」(0.91)、「道路の広さ」(0.87)、「通学路の安全性」(0.86)、「医院・診療所までの近さ」(0.83)となっています。総合的に住みやすいまちとしての評価をより多くの市民から得るためには、このような施策を重点的に推進することが効果的であると考えられます。

図表 II-13 周辺生活環境の評価（住みやすさの評価別）



(2) 岩倉市の魅力（問8）

問8

岩倉市のまちの魅力についておたずねします。

【魅力がある点と魅力がない点それぞれについて、あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。】

選択された項目数をみると、「魅力がある点」の1人あたりの回答項目数は6.7項目で、前回（平成30年調査）の7.4項目から0.7項目減少しています。

「魅力がない点」の1人あたりの回答項目数は4.6項目となっており、平成30年調査の5.1項目から0.5項目減少しています。

「魅力がある点」と「魅力がない点」の双方とも、平成20年調査と比較して1人あたり回答項目数は増加したものの、平成25年調査や30年調査と比べると減少しています。

【評価の方法】

- これまで実施してきた調査と同様に、「魅力がある点」と「魅力がない点」の双方についてそれぞれ26項目（平成15年調査：24項目）を列挙し、該当するものすべてを回答してもらうことで、岩倉市の魅力について把握しました。
- 魅力がある点・ない点について、回答数の推移は次の表のとおりです。「その他」を含む26個の選択肢の選択数を、無回答を含む全ての回答者数で除することにより、1人あたりの選択数を算出しています。なお、平成15年調査は、項目の内容及び数が一部異なるため、参考値として掲載しています。
- なお、平成25年調査から、選択肢の順序を分類別（健康・福祉、環境・防災防犯、生涯学習・教育、都市基盤、産業、協働、その他の7分類）とし、関連する内容が選択しやすいよう変更しています。
- 平成20年調査で「特別養護老人ホームなどの介護保険施設が整っている（整っていない）」、「保育園・児童館・老人憩の家・ふれあいセンターなどの福祉施設が整っている（不十分である）」、「介護保険サービスが整っている（整っていない）」としていたものを、平成25年調査以降では、「高齢者の福祉サービスが充実している（充実していない）」、「子育て支援サービスが充実している（充実していない）」、「障害者の福祉サービスが充実している（充実していない）」に変更し、対象者を明確にしました。

【選択項目数からみる評価】

- 選択された項目数をみると、「魅力がある点」の総回答数は、回答者数 1,909 人に対して 12,824 項目で、1 人あたりの回答項目数は 6.7 項目と、前回（平成 30 年調査）の 7.4 項目から 0.7 項目減少しています。
- 「魅力がない点」の総回答数は、回答者 1,909 人に対して 8,832 項目で、1 人あたりの回答項目数は 4.6 項目となっており、平成 30 年調査の 5.1 項目から 0.5 項目減少しています。
- 「魅力がある点」と「魅力がない点」の双方とも、平成 30 年調査と比較して 1 人あたり回答項目数は減少しており、平成 25 年調査と比べるとさらに減少しています。
- しかしながら、岩倉市の「魅力のある点」の回答数が「魅力のない点」の回答数を依然として上回っており、魅力がある点をより多く評価するという傾向は大きく変化していません。

図表 II-14 回答数の総数と 1 人あたりの回答数の推移

魅力がある点	項目数	回答者数	魅力がある点の回答数	1 人あたりの回答項目数	1 人あたりの回答項目数の増減（前回比）
令和 5 年	26	1,909	12,824	6.7	-0.7
平成 30 年	26	1,289	9,601	7.4	-0.7
平成 25 年	26	2,229	18,056	8.1	+2.3
平成 20 年	26	2,464	14,219	5.8	-
平成 15 年	24	2,480	8,704	3.5	-

魅力がない点	項目数	回答者数	魅力がない点の回答数	1 人あたりの回答項目数	1 人あたりの回答項目数の増減（前回比）
令和 5 年	26	1,909	8,832	4.6	-0.5
平成 30 年	26	1,289	6,582	5.1	-1.1
平成 25 年	26	2,229	13,820	6.2	+1.7
平成 20 年	26	2,464	11,013	4.5	-
平成 15 年	24	2,480	6,804	2.7	-

※平成 15 年調査は、選択肢の項目数及び内容が異なるため参考値。

回答者数には「無回答」の回答者も含む。「回答数」は「無回答」を除く、26 項目の総選択数。

① 魅力がある点（問 8）

【全体、経年比較】

- 「回答なし」の 5.0%を除いた 95.0%の市民が、岩倉市に何らかの魅力があると回答しています。
- 「交通の便が良い」は 68.0%と、これまでの調査と同じく岩倉市における最大の魅力となっています。次いで、「市内のイベントが活発」が 56.1%で 2 位、「日常の買い物が便利」が 53.8%で 3 位、「自然環境に恵まれている」は 45.9%で 4 位となっており、前回（平成 30 年調査）から順位の変動はありません。
- 平成 30 年調査で 5 位であった「田園環境に恵まれている」が 8 位に順位を落とすと同時に、回答割合も 35.0%から 28.3%に下げています。川井野寄地区工業用地で企業立地が進んだことが影響しているものと考えられます。
- 平成 25 年調査以前は 10 位圏外で、平成 30 年調査で 8 位に浮上した「医療施設が充実している」は、今回調査ではさらに順位を伸ばして 5 位になっています。

図表 11-15 岩倉市の魅力がある点の上位 10 項目（経年比較）

順位	平成 25 年	割合	順位	平成 30 年	割合	順位	令和 5 年	割合	前回比較
1	交通の便が良い	72.6	1	交通の便が良い	70.6	1	交通の便が良い	68.0	↓
2	イベントが活発	65.8	2	イベントが活発	64.8	2	イベントが活発	56.1	↓
3	日常の買い物が便利	64.6	3	日常の買い物が便利	58.2	3	日常の買い物が便利	53.8	↓
4	自然環境に恵まれている	47.4	4	自然環境に恵まれている	49.0	4	自然環境に恵まれている	45.9	↓
5	人々が親切で人間味がある	40.4	5	田園環境に恵まれている	35.0	5	医療施設が充実している	36.9	↑
6	田園環境に恵まれている	38.9	6	人々が親切で人間味がある	34.8	6	人々が親切で人間味がある	32.6	↓
7	人間関係が良い	36.3	7	市が適当な規模でまとまりがある	33.9	7	市が適当な規模でまとまりがある	32.3	↓
8	文化・芸術活動が盛ん	34.1	8	医療施設が充実している	33.8	8	田園環境に恵まれている	28.3	↓
9	開発の余地がある	33.7	9	開発の余地がある	32.1	9	人間関係が良い	28.1	↓
10	市が適当な規模でまとまりがある	33.6	10	人間関係が良い	31.7	10	文化・芸術活動が盛んである	26.9	↓

※割合：各項目の選択数の、回答者総数に対する割合。

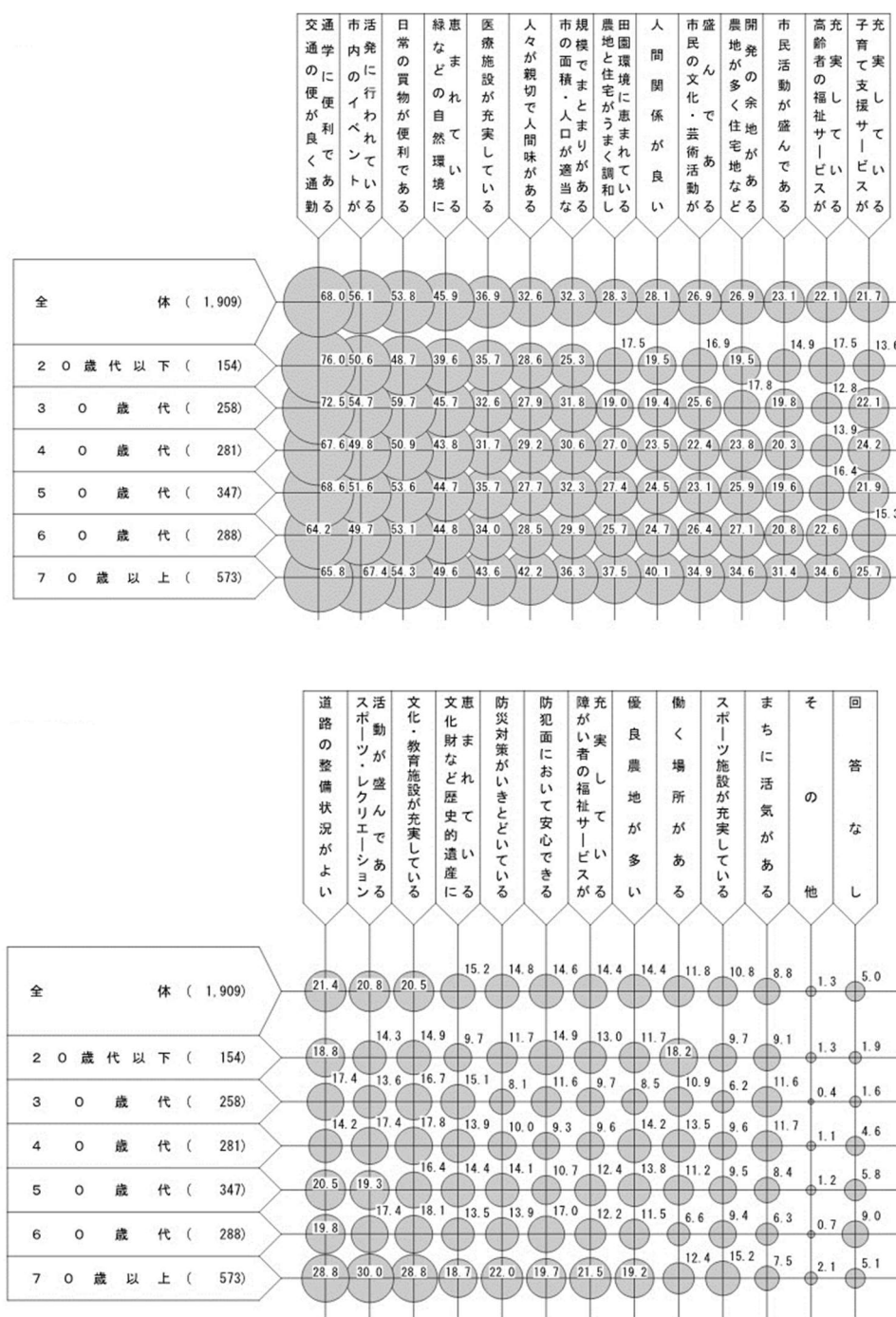
図表 11-16 岩倉市の魅力がある点

順位	令和 5 年	割合
1	交通の便が良く通勤・通学に便利である	68.0%
2	市内のイベントが活発に行われている	56.1%
3	日常の買物が便利である	53.8%
4	緑などの自然環境に恵まれている	45.9%
5	医療施設が充実している	36.9%
6	人々が親切で人間味がある	32.6%
7	市の面積・人口が適当な規模でまとまりがある	32.3%
8	農地と住宅がうまく調和し田園環境に恵まれている	28.3%
9	人間関係が良い	28.1%
10	市民の文化・芸術活動が盛んである	26.9%
	農地が多く住宅地など開発の余地がある	26.9%
12	市民活動が盛んである	23.1%
13	高齢者の福祉サービスが充実している	22.1%
14	子育て支援サービスが充実している	21.7%
15	道路の整備状況がよい	21.4%
16	スポーツ・レクリエーション活動が盛んである	20.8%
17	文化・教育施設が充実している	20.5%
18	文化財など歴史的遺産に恵まれている	15.2%
19	防災対策がいきとどいている	14.8%
20	防犯面において安心できる	14.6%
21	障がい者の福祉サービスが充実している	14.4%
	優良農地が多い	14.4%
23	働く場所がある	11.8%
24	スポーツ施設が充実している	10.8%
25	まちに活気がある	8.8%
26	その他	1.3%

【年齢別】

- 年齢別にみると、70 歳以上の高齢者における割合が全般的に多くなっています。
- また、年齢によって大きな差異が生じている項目が複数みられます。
- 具体的には、「高齢者の福祉サービスが充実している」については、最も高い 70 歳以上が 34.6%であるのに対して最も低い 30 歳代は 12.8%と、21.8 ポイントの差が生じています。また、「人間関係が良い」についても 70 歳以上が 40.1%に対して最も低い 30 歳代は 19.4%と、20.7 ポイントの差が生じています。さらに、「市内のイベントが活発に行われている」についても 70 歳以上が 67.4%に対して最も低い 60 歳代は 49.7%と、17.7 ポイントの差が生じています。

図表 II-17 岩倉市の魅力がある点（年齢別）

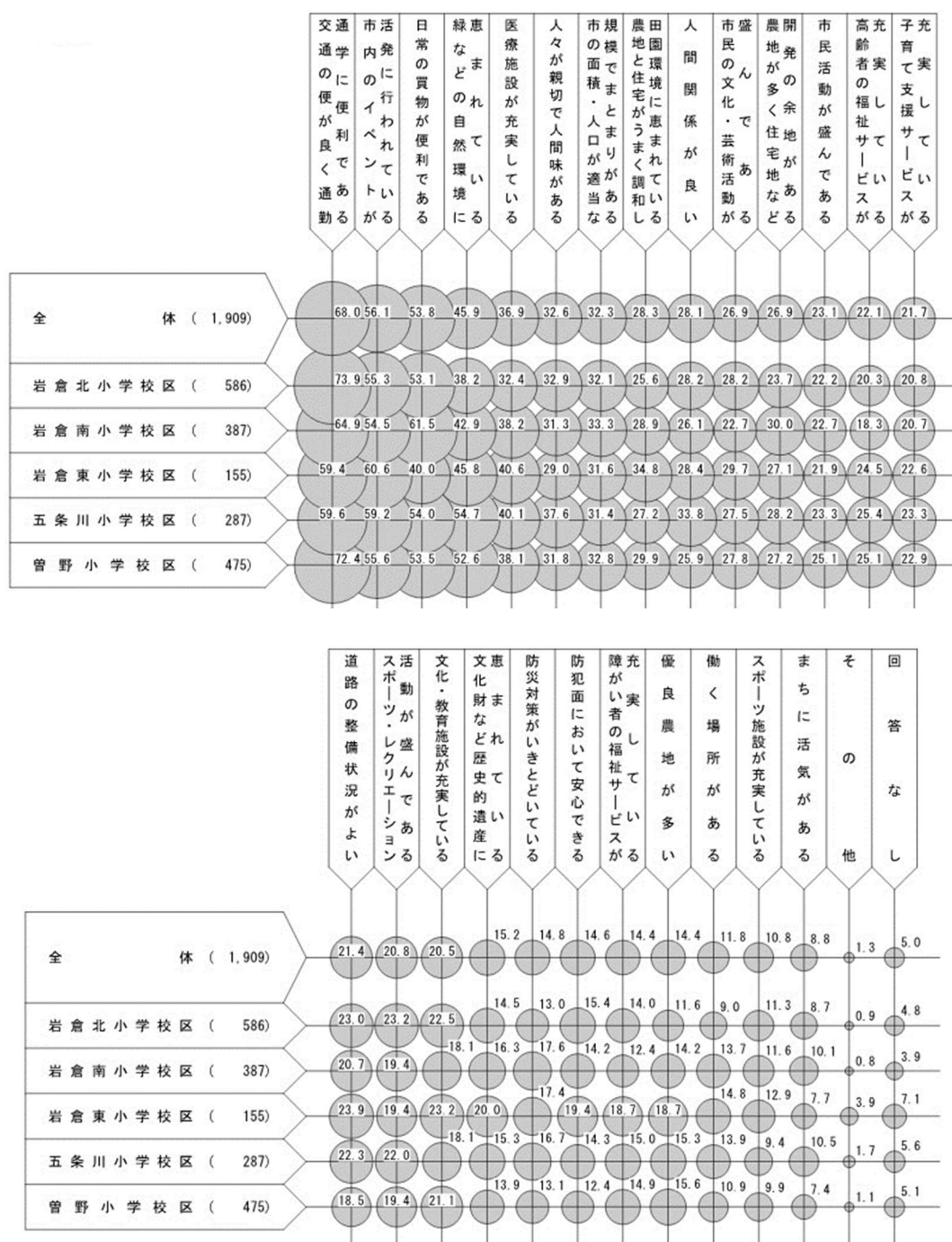


【小学校区別】

○小学校区別にみると、小学校区ごとに大きな差異が生じている項目が複数みられます。小学校区による評価の差が最も大きい項目は、「日常の買物が便利」で、最も高い岩倉南小学校区が 61.5%であるのに対し、最も低い岩倉東小学校区では 40.0%と、21.5 ポイントの差が生じています。

○「緑などの自然環境に恵まれている」についても、最も高い五条川小学校区が 54.7%であるのに対し、最も低い岩倉北小学校区では 38.2%と、16.5 ポイントの差が生じています。また、「交通の便が良く通勤・通学に便利である」についても、最も高い岩倉北小学校区が 73.9%であるのに対し、最も低い岩倉東小学校区では 59.4%と、14.5 ポイントの差が生じています。

図表 II-18 岩倉市の魅力がある点（小学校区別）



② 魅力がない点（問 8）

【全体、経年比較】

- 「回答なし」の 14.2%を除いた、85.8%の市民が岩倉市の魅力がない点について指摘しています。ただし、26 項目中、「子育て支援サービスが充実していない」や「市民活動が盛んでない」などの 5 項目を除く、残りの 21 項目で回答の割合は低下しています。なお、回答の割合が上昇した 5 項目についても最もポイントが上昇した「子育て支援サービスが充実していない」であっても 4.4 ポイントの上昇にとどまっています。
- 「防犯面における不安が多い」は 36.7%で最も高くなっていますが、平成 29 年から令和 4 年にかけて岩倉市の犯罪認知件数は 497 件から 269 件に減少したこともあってか、平成 30 年調査と比べて回答割合は 5.7 ポイント低下しています。
- 「まちに活気がない」が 35.0%で 2 位、「働く場所がない」が 33.9%で 3 位となっており、ベッドタウン的性格が強いという本市の特性が反映された点であるといえます。
- 「スポーツ施設が充実していない」は、平成 20 年調査で 8 位でしたが、平成 25 年調査以来 4 位となっており、魅力がない点として定着化しています。
- 「医療施設が充実していない」は、一貫して第 5 位となっていますが、今回調査では「魅力がある点」でも第 5 位となっており、市民の間で評価が分かれる項目であるといえます。

図表 II-19 岩倉市の魅力がない点の上位 10 項目（経年比較）

順位	平成 25 年	割合	順位	平成 30 年	割合	順位	令和 5 年	割合	前回比較
1	防犯面における不安が多い	51.0	1	防犯面における不安が多い	42.4	1	防犯面における不安が多い	36.7	↓
2	働く場所がない	49.5	2	まちに活気がない	41.7	2	まちに活気がない	35.0	↓
3	まちに活気がない	48.3	3	働く場所がない	37.4	3	働く場所がない	33.9	↓
4	スポーツ施設が充実していない	41.2	4	スポーツ施設が充実していない	35.2	4	スポーツ施設が充実していない	31.6	↓
5	医療施設が充実していない	38.4	5	医療施設が充実していない	28.5	5	医療施設が充実していない	25.6	↓
6	防災対策がいきとどいていない	32.4	6	道路の整備状況が悪い	28.0		道路の整備状況が悪い	25.6	↓
7	道路の整備状況が悪い	27.9	7	防災対策がいきとどいていない	26.8	7	防災対策がいきとどいていない	20.6	↓
8	歴史的遺産に恵まれていない	27.2	8	歴史的遺産に恵まれていない	22.2	8	文化・教育施設が充実していない	20.2	↓
9	文化・教育施設が充実していない	25.3	9	文化・教育施設が充実していない	21.4	9	歴史的遺産に恵まれていない	19.9	↓
10	市域が狭く開発の余地が少ない	23.1	10	市域が狭く開発の余地が少ない	20.6	10	子育て支援サービスが充実していない	18.6	↑

図表 11-20 岩倉市の魅力がない点

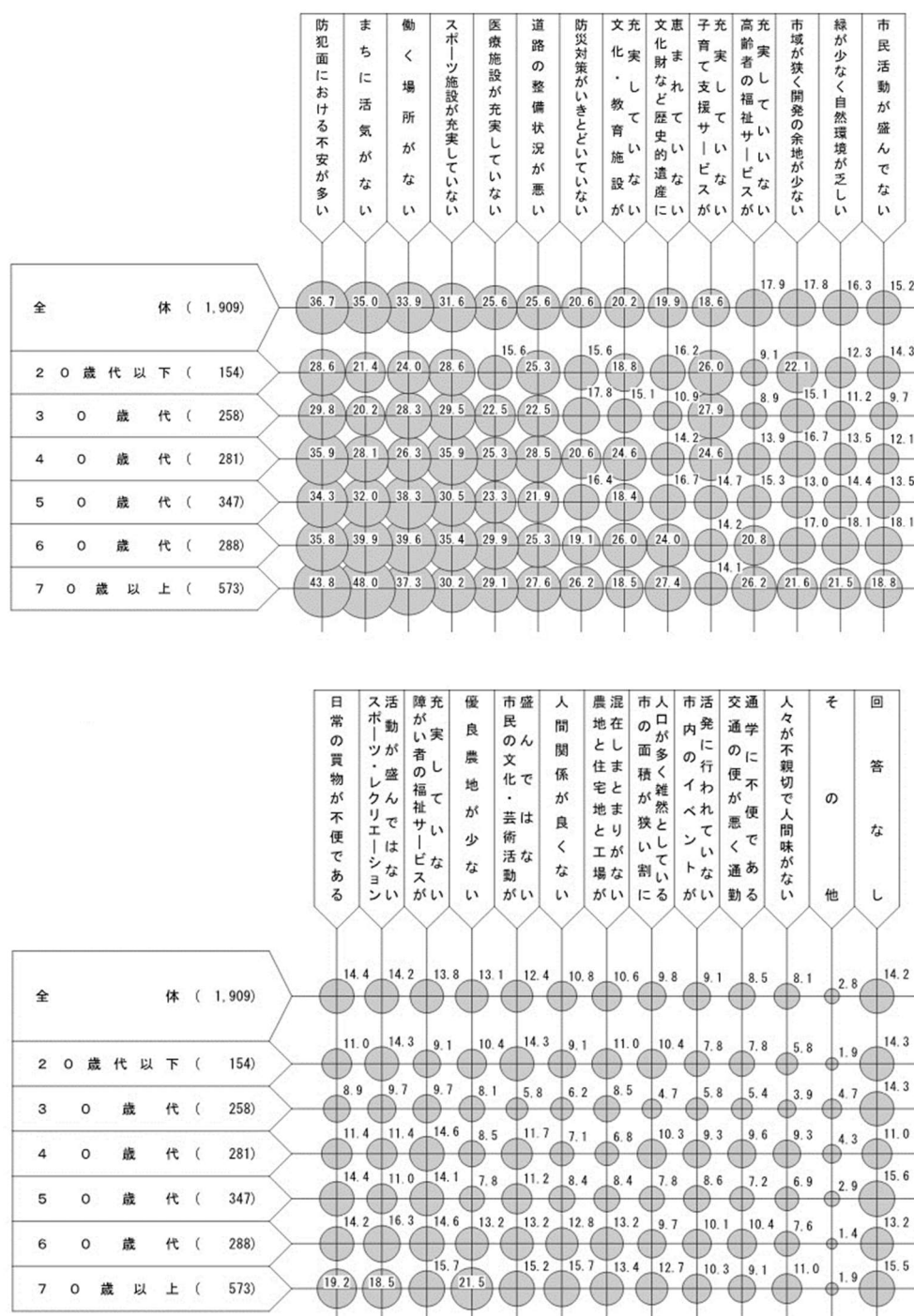
順位	令和 5 年	割合
1	防犯面における不安が多い	36.7%
2	まちに活気がない	35.0%
3	働く場所がない	33.9%
4	スポーツ施設が充実していない	31.6%
5	医療施設が充実していない	25.6%
	道路の整備状況が悪い	25.6%
7	防災対策がいきとどいていない	20.6%
8	文化・教育施設が充実していない	20.2%
9	文化財など歴史的遺産に恵まれていない	19.9%
10	子育て支援サービスが充実していない	18.6%
11	高齢者の福祉サービスが充実していない	17.9%
12	市域が狭く開発の余地が少ない	17.8%
13	緑が少なく自然環境が乏しい	16.3%
14	市民活動が盛んでない	15.2%
15	日常の買物が不便である	14.4%
16	スポーツ・レクリエーション活動が盛んではない	14.2%
17	障がい者の福祉サービスが充実していない	13.8%
18	優良農地が少ない	13.1%
19	市民の文化・芸術活動が盛んではない	12.4%
20	人間関係が良くない	10.8%
21	農地と住宅地と工場が混在しまとまりがない	10.6%
22	市の面積が狭い割に人口が多く雑然としている	9.8%
23	市内のイベントが活発に行われていない	9.1%
24	交通の便が悪く通勤・通学に不便である	8.5%
25	人々が不親切で人間味がない	8.1%
26	その他	2.8%

【年齢別】

○年齢別にみると、年齢によって大きな差異が生じている項目が複数みられます。年齢による評価の差が最も大きい項目は、「まちに活気がない」で、最も高い70歳以上が48.0%であるのに対し、最も低い30歳代は20.2%と、27.8ポイントもの差が生じています。

○以下、ポイント差の大きい項目を列記すると、「高齢者福祉が充実していない」(17.3ポイント)、「文化財など歴史的遺産に恵まれていない」(16.5ポイント)、「働く場所がない」(15.6ポイント)、「防犯面における不安が多い」(15.2ポイント)の順となっています。

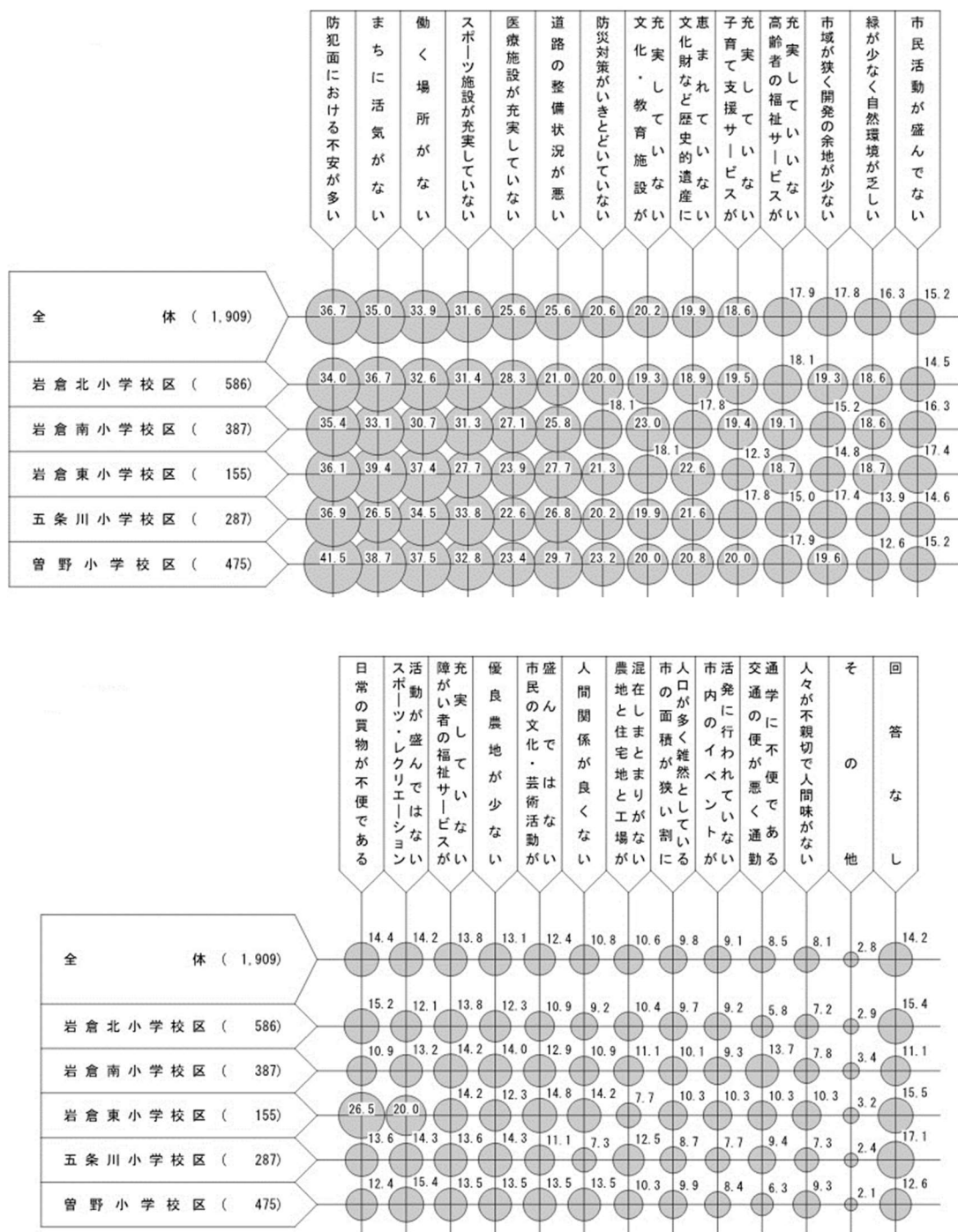
図表 II-21 岩倉市の魅力がない点（年齢別）



【小学校区別】

○全般的にみて、小学校区別による大きな差異はみられませんが、「日常の買い物が不便である」については、最も高い岩倉東小学校区が 26.5%であるのに対し、最も低い岩倉南小学校区では 10.9%と、15.6 ポイントの差が生じています。

図表 11-22 岩倉市の魅力がない点（小学校区別）



2. 施策に対する満足度と重要度

(1) 施策に対する満足度（問9）

問9

岩倉市が行っている施策について、満足度と重要度をおたずねします。
【①～④について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

満足度がプラスの評価の項目は、43項目中40項目となっています。

「五条川や桜並木などの自然環境の保全」、「安全な水道水の安定した供給の確保」、
「電車やバスなどの公共交通の利便性」、「ごみ収集・処理体制」、「消防・救急体制」
といった項目は、満足度の得点が特に高くなっています。

43項目中満足度がマイナスとなっているのは「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」と「産業振興」の2項目だけとなっています。

岩倉市の施策に関する各項目の満足度及び重要度について、下記の方法で5段階の評価を得点化し、平均得点を算出しました。また、この得点を指標として、満足度と重要度の分析を行いました。なお、平均得点は、+2に近いほど満足度または重要度が高いことを示し、-2に近いほど満足度が低い（不満度が高い）、または重要度が低いことを示しています。

◆ 満足度・重要度の平均得点の算出方法

図表 II-23 評価と得点

満足度	重要度	得点（評点）
満足	非常に重要	+2点
やや満足	重要	+1点
どちらともいえない	普通	0点
やや不満	あまり重要でない	-1点
不満	重要でない	-2点

◆ 満足度の平均得点

＝〔「満足」の回答数×（+2点）＋「やや満足」の回答数×（+1点）＋「どちらともいえない」の回答数×（0点）
＋「やや不満」の回答数×（-1点）＋「不満」の回答数×（-2点）〕÷総回答数

◆ 重要度の平均得点

＝〔「非常に重要」の回答数×（+2点）＋「重要」の回答数×（+1点）＋「普通」の回答数×（0点）
＋「あまり重要でない」の回答数×（-1点）＋「重要でない」の回答数×（-2点）〕÷総回答数

※総回答数は、無回答を除く当該項目の回答数

【全体】

- 満足度がプラスの評価の項目は、43 項目中 40 項目となっています。そのうち、満足度の上位及び下位の 10 項目は下表のとおりです。
- 「五条川や桜並木などの自然環境の保全」、「安全な水道水の安定した供給の確保」、「電車やバスなどの公共交通の利便性」、「ごみ収集・処理体制」、「消防・救急体制」といった項目は、満足度の得点が 0.50 を上回っており、特に高くなっています。
- 一方で、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」と「産業振興」の 2 項目は満足度がマイナスとなっています。また、「観光・交流の振興」や「小売商業の振興」の得点もそれぞれ 0.00、0.01 と低く、全般的に産業に関する項目の満足度が低くなっています。

図表 II-24 施策に対する満足度の上位 10 項目

順位	満足度上位 10 項目	得点
1	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.88
2	安全な水道水の安定した供給の確保	0.75
3	電車・バスなどの公共交通の利便性	0.71
4	ごみ収集・処理体制	0.67
5	消防・救急体制	0.58
6	下水道整備などの生活排水処理	0.47
7	健康づくりへの支援	0.41
8	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.34
9	生涯学習の充実	0.33
10	乳幼児健診などの母子保健サービス	0.31

図表 II-25 施策に対する満足度の下位 10 項目

順位	満足度下位 10 項目	得点
1	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	-0.17
2	産業振興	-0.04
3	観光・交流の振興	0.00
4	小売商業の振興	0.01
5	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	0.02
6	市政への市民参画（市民意見の反映）	0.04
7	図書館の充実	0.05
8	消費生活相談体制	0.06
9	NPO・市民活動団体への支援	0.09
	男女共同参画の推進	0.09

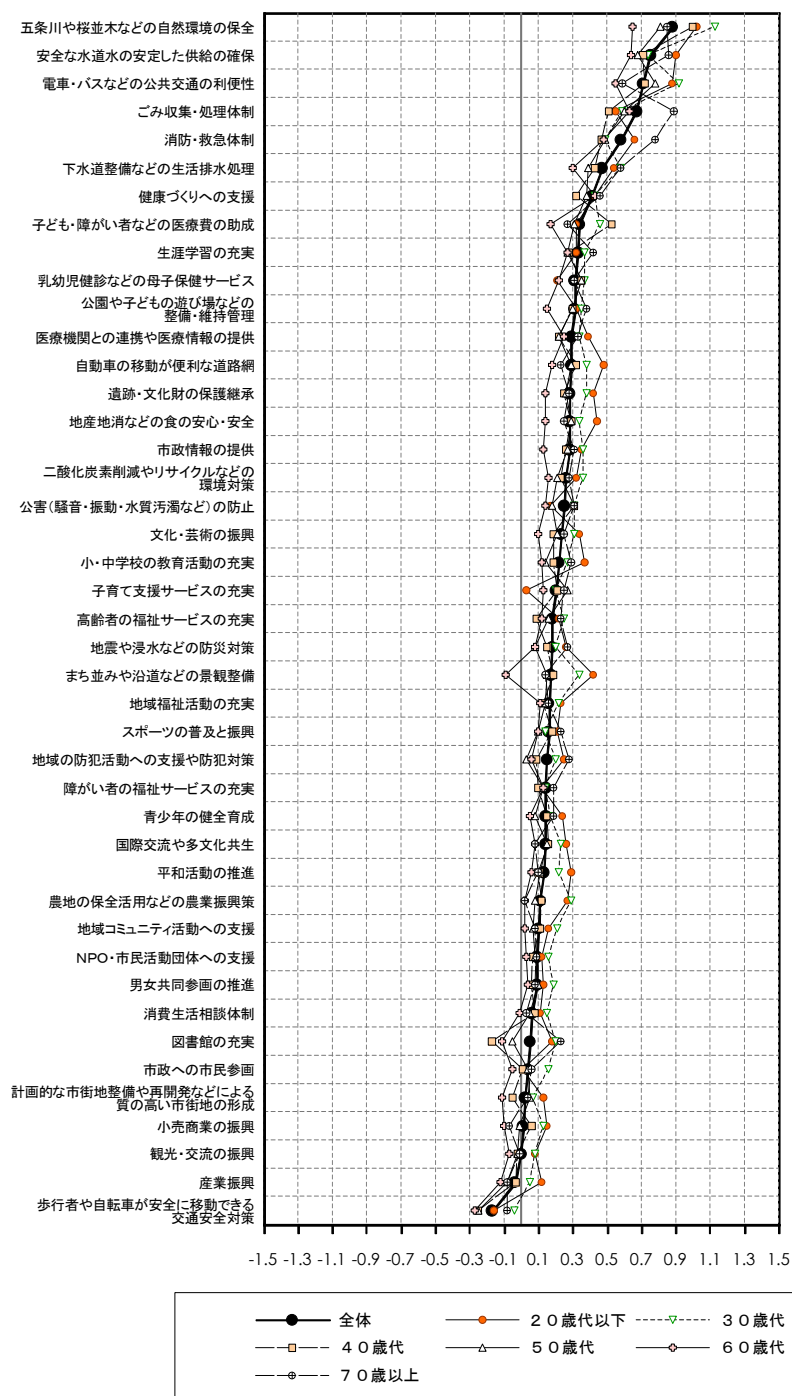
図表 11-26 施策に対する満足度

順位	項目	得点
1	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.88
2	安全な水道水の安定した供給の確保	0.75
3	電車・バスなどの公共交通の利便性	0.71
4	ごみ収集・処理体制	0.67
5	消防・救急体制	0.58
6	下水道整備などの生活排水処理	0.47
7	健康づくりへの支援	0.41
8	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.34
9	生涯学習の充実	0.33
10	乳幼児健診などの母子保健サービス	0.31
	公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.31
12	医療機関との連携や医療情報の提供	0.29
	自動車の移動が便利な道路網	0.29
14	遺跡・文化財の保護継承	0.28
	地産地消などの食の安心・安全	0.28
	市政情報の提供	0.28
17	二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	0.26
18	公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止	0.25
19	文化・芸術の振興	0.23
20	小・中学校の教育活動の充実	0.22
21	子育て支援サービスの充実	0.20
22	高齢者の福祉サービスの充実	0.18
	地震や浸水などの防災対策	0.18
24	まち並みや沿道などの景観整備	0.17
25	地域福祉活動の充実	0.16
	スポーツの普及と振興	0.16
27	地域の防犯活動への支援や防犯対策	0.15
28	障がい者の福祉サービスの充実	0.14
	青少年の健全育成	0.14
	国際交流や多文化共生	0.14
31	平和活動の推進	0.13
32	農地の保全活用などの農業振興策	0.11
33	地域コミュニティ活動への支援	0.10
34	NPO・市民活動団体への支援	0.09
	男女共同参画の推進	0.09
36	消費生活相談体制	0.06
37	図書館の充実	0.05
38	市政への市民参画（市民意見の反映）	0.04
39	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	0.02
40	小売商業の振興	0.01
41	観光・交流の振興	0.00
42	産業振興	-0.04
43	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	-0.17

【年齢別】

- 全般的にみて年齢による施策の満足度に大きな差異はみられませんが、「まち並み沿道などの景観整備」と「五条川や桜並木などの自然環境の保全」、「図書館の充実」の3項目については多少の差異が生じています。
- 具体的には、「まち並み沿道などの景観整備」については、最も高い20歳代以下の0.42に対し、最も低い60歳代では-0.09と、0.51ポイントの差が生じています。「五条川や桜並木などの自然環境の保全」については0.48ポイント、「図書館の充実」については、0.40ポイントの差が生じています。

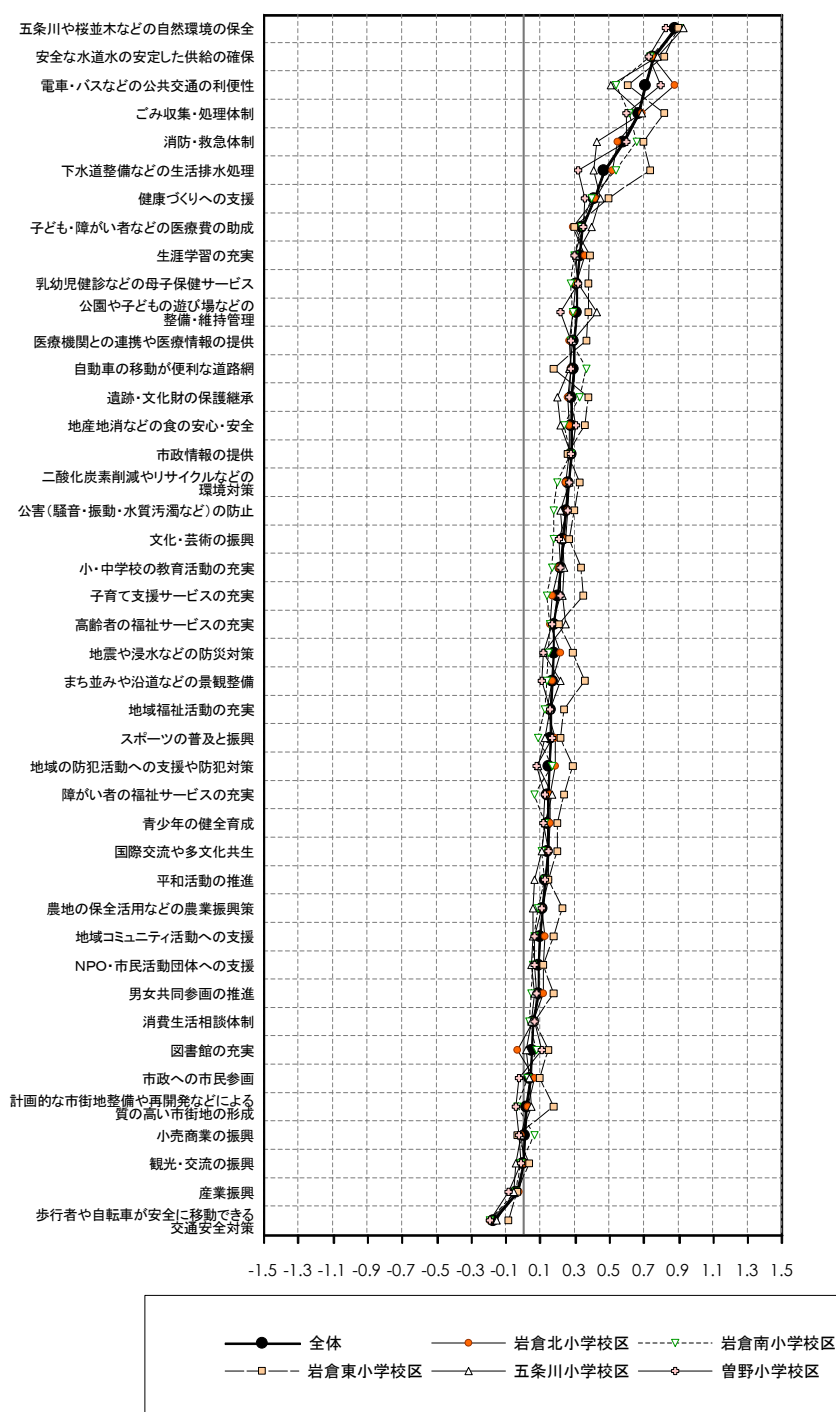
図表 II-27 施策に対する満足度（年齢別）



【小学校区別】

- 全般的にみて小学校区別による施策の満足度に大きな差異はみられませんが、「下水道整備などの生活排水処理」と「電車・バスなどの公共交通の利便性」の2項目については多少の差異が生じています。
- 具体的には、「下水道整備などの生活排水処理」については、最も高い岩倉東小学校区の0.74に対し、最も低い曾野小学校区では0.32と、0.42ポイントの差が生じています。「電車・バスなどの公共交通の利便性」については0.37ポイントの差が生じています。

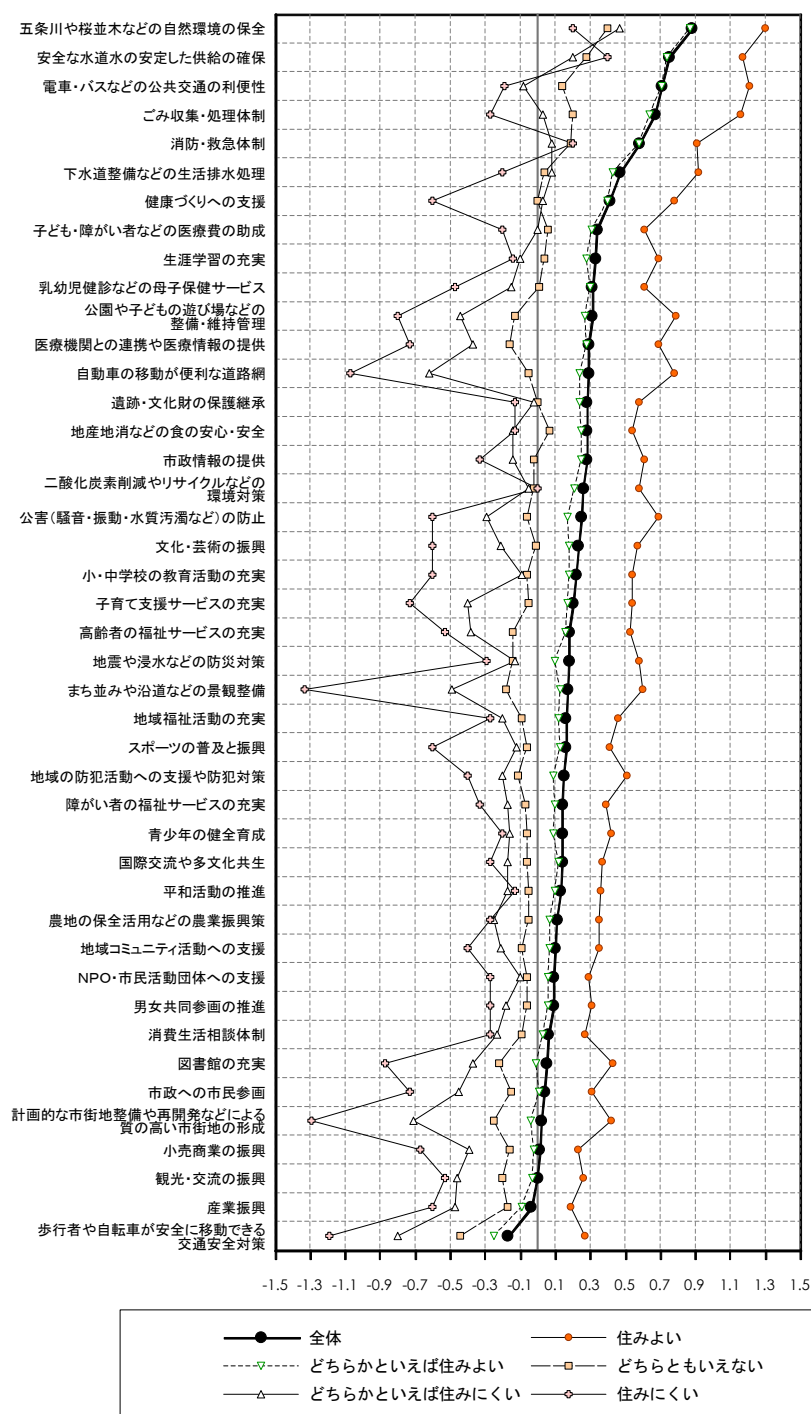
図表 II-28 施策に対する満足度（小学校区別）



【住みやすさの評価別】

- おおむね住みやすさの評価が高いほど、施策の満足度も高くなっています。
- 「住みよい」と評価した市民と「住みにくい」と評価した市民との評価の差が大きい上位5項目は、「まち並みや沿道などの景観整備」(1.93)、「自動車の移動が便利な道路網」(1.85)、「計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成」(1.71)、「公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理」(1.59)、「歩行者や自転車安全に移動できる交通安全対策」(1.46)となっています
- 総合的に住みやすいまちとしての評価をより多くの市民から得るためには、このような施策を重点的に推進することが効果的であると考えられます。

図表 II-29 施策に対する満足度（住みやすさの評価別）



(2) 施策に対する重要度（問9）

問9

岩倉市が行っている施策について、満足度と重要度をおたずねします。

【①～④について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

全項目がプラス評価となっており、程度に差はあるものの、どの施策もそれぞれ「重要である」と認識されていることがわかります。

【全体】

- 全項目がプラス評価となっています。そのうち、重要度の上位及び下位の10項目は下表のとおりです。
- 「消防・救急体制」、「安全な水道水の安定した供給の確保」、「地震や浸水などの防災対策」、「電車・バスなどの公共交通の利便性」、「下水道整備などの生活排水処理」といった暮らしの安全・安心や暮らしの公衆衛生を担保する施策項目が上位となっています。また、こうした分野とは少し異なる「子育て支援サービスの充実」が10位に入っていることも特徴としてみられます。
- 下位10項目についても、どれもプラス評価となっており、市民生活の質的向上や誰もが平等に暮らしていくために大切な施策です。

図表 II-30 施策に対する重要度の上位10項目

順位	重要度上位10項目	得点
1	消防・救急体制	1.21
	安全な水道水の安定した供給の確保	1.21
3	地震や浸水などの防災対策	1.14
4	電車・バスなどの公共交通の利便性	1.12
	下水道整備などの生活排水処理	1.12
6	ごみ収集・処理体制	1.09
7	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	1.07
8	医療機関との連携や医療情報の提供	1.04
9	地域の防犯活動への支援や防犯対策	1.03
10	子育て支援サービスの充実	1.02

図表 II-31 施策に対する重要度の下位10項目

順位	重要度下位10項目	得点
1	NPO・市民活動団体への支援	0.18
2	地域コミュニティ活動への支援	0.27
3	国際交流や多文化共生	0.30
4	観光・交流の振興	0.32
5	男女共同参画の推進	0.33
6	文化・芸術の振興	0.36
7	遺跡・文化財の保護継承	0.40
8	消費生活相談体制	0.42
9	平和活動の推進	0.43
10	スポーツの普及と振興	0.45

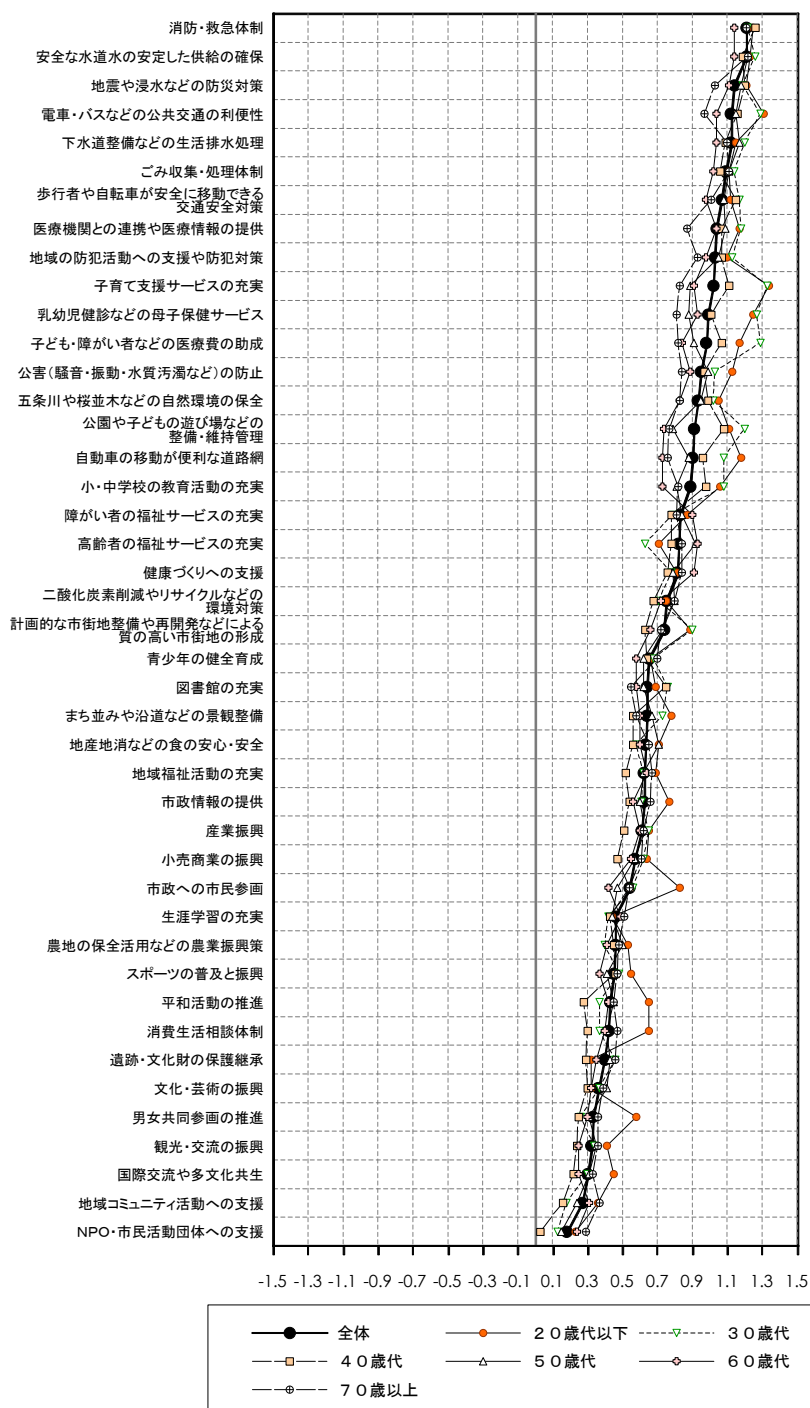
図表 11-32 施策に対する重要度

順位	項目	得点
1	消防・救急体制	1.21
	安全な水道水の安定した供給の確保	1.21
3	地震や浸水などの防災対策	1.14
4	電車・バスなどの公共交通の利便性	1.12
	下水道整備などの生活排水処理	1.12
6	ごみ収集・処理体制	1.09
7	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	1.07
8	医療機関との連携や医療情報の提供	1.04
9	地域の防犯活動への支援や防犯対策	1.03
10	子育て支援サービスの充実	1.02
11	乳幼児健診などの母子保健サービス	0.99
12	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.98
13	公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止	0.95
14	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.93
15	公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.91
16	自動車の移動が便利な道路網	0.90
17	小・中学校の教育活動の充実	0.89
18	障がい者の福祉サービスの充実	0.83
19	高齢者の福祉サービスの充実	0.82
20	健康づくりへの支援	0.81
21	二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	0.75
22	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	0.74
23	青少年の健全育成	0.65
24	図書館の充実	0.64
	まち並みや沿道などの景観整備	0.64
26	地産地消などの食の安心・安全	0.63
27	地域福祉活動の充実	0.62
	市政情報の提供	0.62
29	産業振興	0.61
30	小売商業の振興	0.57
31	市政への市民参画（市民意見の反映）	0.54
32	生涯学習の充実	0.46
	農地の保全活用などの農業振興策	0.46
34	スポーツの普及と振興	0.45
35	平和活動の推進	0.43
36	消費生活相談体制	0.42
37	遺跡・文化財の保護継承	0.40
38	文化・芸術の振興	0.36
39	男女共同参画の推進	0.33
40	観光・交流の振興	0.32
41	国際交流や多文化共生	0.30
42	地域コミュニティ活動への支援	0.27
43	NPO・市民活動団体への支援	0.18

【年齢別】

- 全般的にみて年齢による施策の重要度に大きな差異はみられませんが、多少の差異が生じている施策項目もいくつかみられます。
- 具体的には、「子育て支援サービスの充実」については、最も高い 20 歳代以下の 1.34 に対し、最も低い 70 歳以上では 0.83 と、0.51 ポイントの差が生じています。また、「子ども・障がい者などの医療費の助成」については 0.47 ポイント、「乳幼児健診などの母子保健サービス」及び「公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理」については、共に 0.46 ポイント、「自動車の移動が便利な道路網」については、0.45 ポイントの差が生じています。

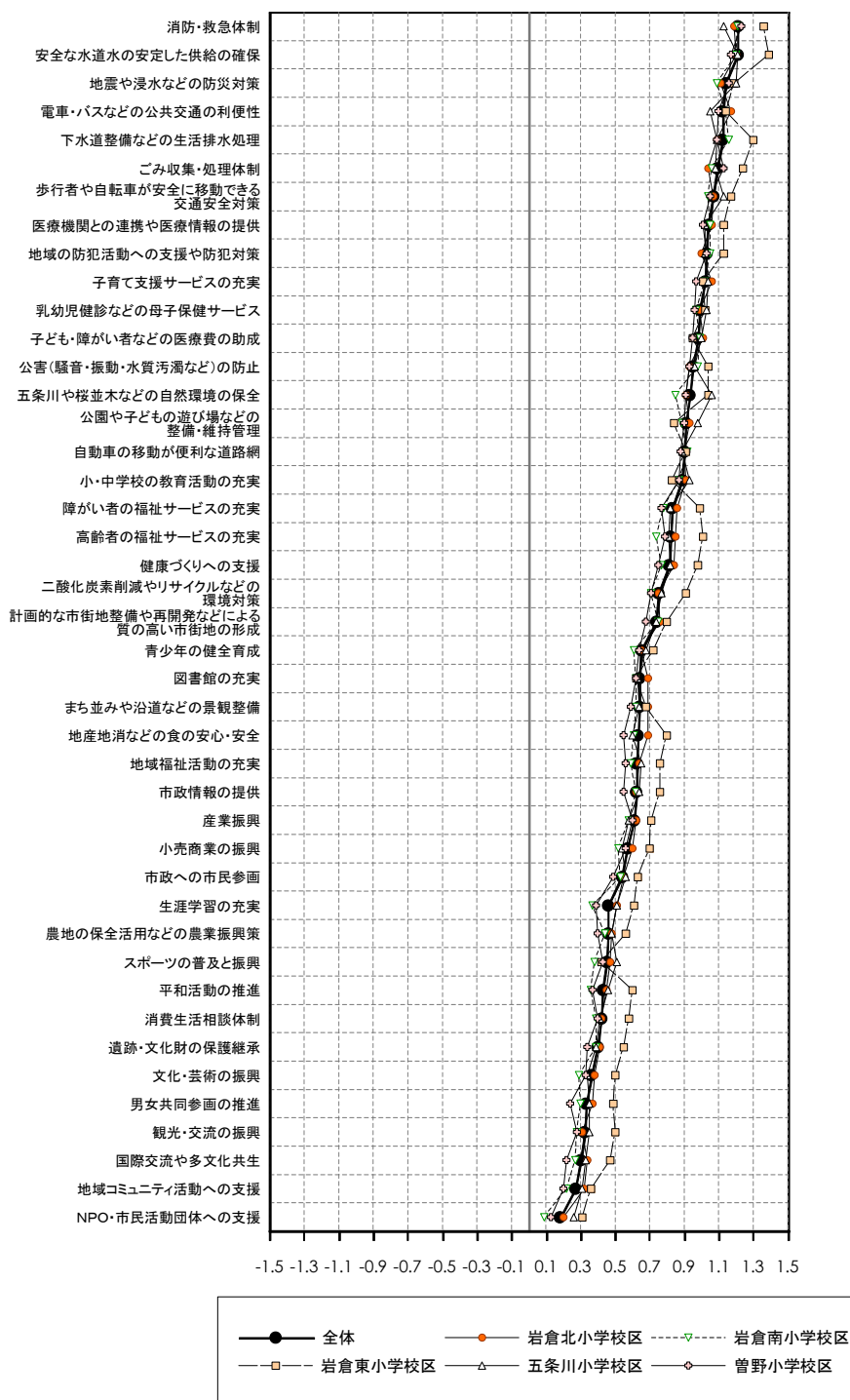
図表 II-33 施策に対する重要度（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別にみると、重要度の評価が一番高くなっている施策項目が岩倉東小学校区で多いという傾向が特徴としてみられますが、全般的にみて小学校区別による施策の重要度に大きな差異はみられません。

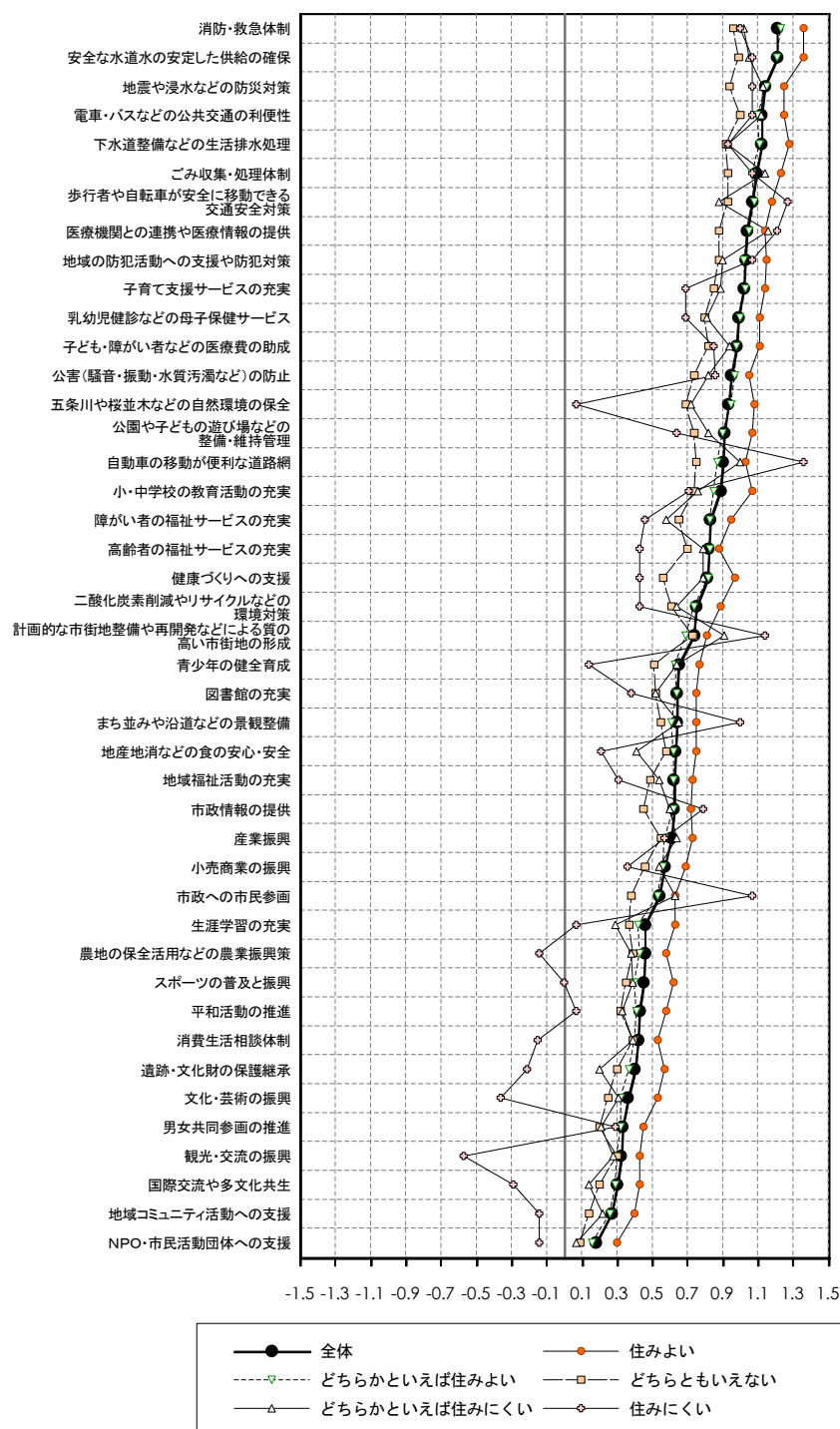
図表 II-34 施策に対する重要度（小学校区別）



【住みやすさの評価別】

- おおむね住みやすさの評価が高いほど、施策の満足度も高くなっていますが、「市政への市民参画」や「自動車の移動が便利な道路網」など、「住みにくい」と回答した市民による重要度の得点が「住みやすい」と回答した市民の重要度の得点を上回る施策項目もいくつかみられます。
- 「住みよい」と評価した市民と「住みにくい」と評価した市民との評価の差が大きい上位5項目は、「五条川や桜並木などの自然環境の保全」(1.01)、「観光・交流の振興」(1.00)、「文化・芸術の振興」(0.89)、「遺跡・文化財の保護継承」(0.78)、「農地の保全活用などの農業振興策」(0.72)、「国際交流や多文化共生」(0.72)となっています。

図表 II-35 施策に対する重要度（住みやすさの評価別）



（３） 施策に対する満足度と重要度の評価（ポートフォリオ分析）（問 9）

重要度から満足度を差し引いた“優先度”の得点についてみると、優先度の得点は「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」が 1.24 で最も高くなっています。

「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」と「地震や浸水などの防災対策」、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」、「子育て支援サービスの充実」をはじめとした 8 項目は、全体平均より満足度が低く、重要度が高い「重点改善施策項目」となっており、最優先で改善が求められている施策項目であるといえます。

【全体】

- 岩倉市の施策に対する市民の満足度の平均得点を横軸、重要度の平均得点を縦軸として施策を位置付け、その特性によって分類を行います。
 - 43 項目全体の満足度得点の平均値は、「0.24」となっています。満足度得点の平均値を示す図の縦の太線より右側にある項目は、43 項目全体の平均得点より高い項目（相対的に満足度の高い施策項目）であり、左側にある項目は、満足度が全体平均よりも低い項目（相対的に満足度の低い施策項目）です。
 - 43 項目全体の重要度得点の平均値は、「0.73」となっています。重要度得点の平均値を示す図の横の太線より上側にある項目は、重要度が 43 項目全体の平均得点よりも高い項目（相対的に重要度の高い施策項目）であり、下側にある項目は重要度が全体平均よりも低い項目（相対的に重要度の低い施策項目）です。
 - 着目すべきは、図の左上にある、重要度が高いと評価されているにもかかわらず、満足度が低くなっている項目です。この項目は、当該項目について重要だと考えているにもかかわらず、現状には満足していない人が多く、重点的に改善を図ることが求められる施策（重点改善施策項目）であるといえます。
 - 重要度から満足度を差し引いた“優先度”の得点についてみると、優先度の得点は「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」が 1.24 で最も高く、次いで「地震や浸水などの防災対策」、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」、「子育て支援サービスの充実」の順となっています。
 - これら 4 項目に「計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成」、「障がい者の福祉サービスの充実」、「小・中学校の教育活動の充実」、「高齢者の福祉サービスの充実」を加えた計 8 項目は、全体平均より満足度が低く、重要度が高い「重点改善施策項目」となっており、最優先で改善が求められている施策項目であるといえます。
-

図表 II-36 施策に対する優先度の上位 20 項目（重要度と満足度の差）

順位	項目	優先度 (重要度-満足度)	満足度	重要度
1	歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	1.24	-0.17	1.07
2	地震や浸水などの防災対策	0.96	0.18	1.14
3	地域の防犯活動への支援や防犯対策	0.88	0.15	1.03
4	子育て支援サービスの充実	0.82	0.20	1.02
5	医療機関との連携や医療情報の提供	0.75	0.29	1.04
6	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	0.72	0.02	0.74
7	公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止	0.70	0.25	0.95
8	障がい者の福祉サービスの充実	0.69	0.14	0.83
9	乳幼児健診などの母子保健サービス	0.68	0.31	0.99
10	小・中学校の教育活動の充実	0.67	0.22	0.89
11	下水道整備などの生活排水処理	0.65	0.47	1.12
	産業振興	0.65	-0.04	0.61
13	高齢者の福祉サービスの充実	0.64	0.18	0.82
	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.64	0.34	0.98
15	消防・救急体制	0.63	0.58	1.21
16	自動車の移動が便利な道路網	0.61	0.29	0.90
17	公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.60	0.31	0.91
18	図書館の充実	0.59	0.05	0.64
19	小売商業の振興	0.56	0.01	0.57
20	青少年の健全育成	0.51	0.14	0.65

	平均より満足度が低く重要度が高い 重点改善施策項目
--	------------------------------

【施策の優先度】

- 日々の暮らしの安全・安心に関わる項目についての優先度は高くなっており、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」、「地震や浸水などの防災対策」、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」がトップ3となっています。
- 医療・福祉分野の施策項目では、「子育て支援サービスの充実」、「医療機関との連携」、「障がい者の福祉サービスの充実」が上位10項目に入っています。また、「高齢者の福祉サービスの充実」も13位に入っています。
- 「計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成」、「公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止」といった都市的な環境改善に対する項目も上位10項目に入っています。
- さらには、「小・中学校の教育活動の充実」も10位に位置付けられています。
- なお、重要度が平均値よりも低い項目をみると、「NPO・市民活動団体の支援」や「地域コミュニティ活動への支援」、「国際交流や多文化共生」、「観光・交流の振興」、「男女共同参画の推進」、「文化芸術の振興」といった、生活の質を向上及び成熟した社会において不可欠な要素の充足に関する項目が多くみられます。こうした施策項目も重要度評価はプラスであり、喫緊の課題として捉えられているとはいえないものの、軽視されているものではありません。

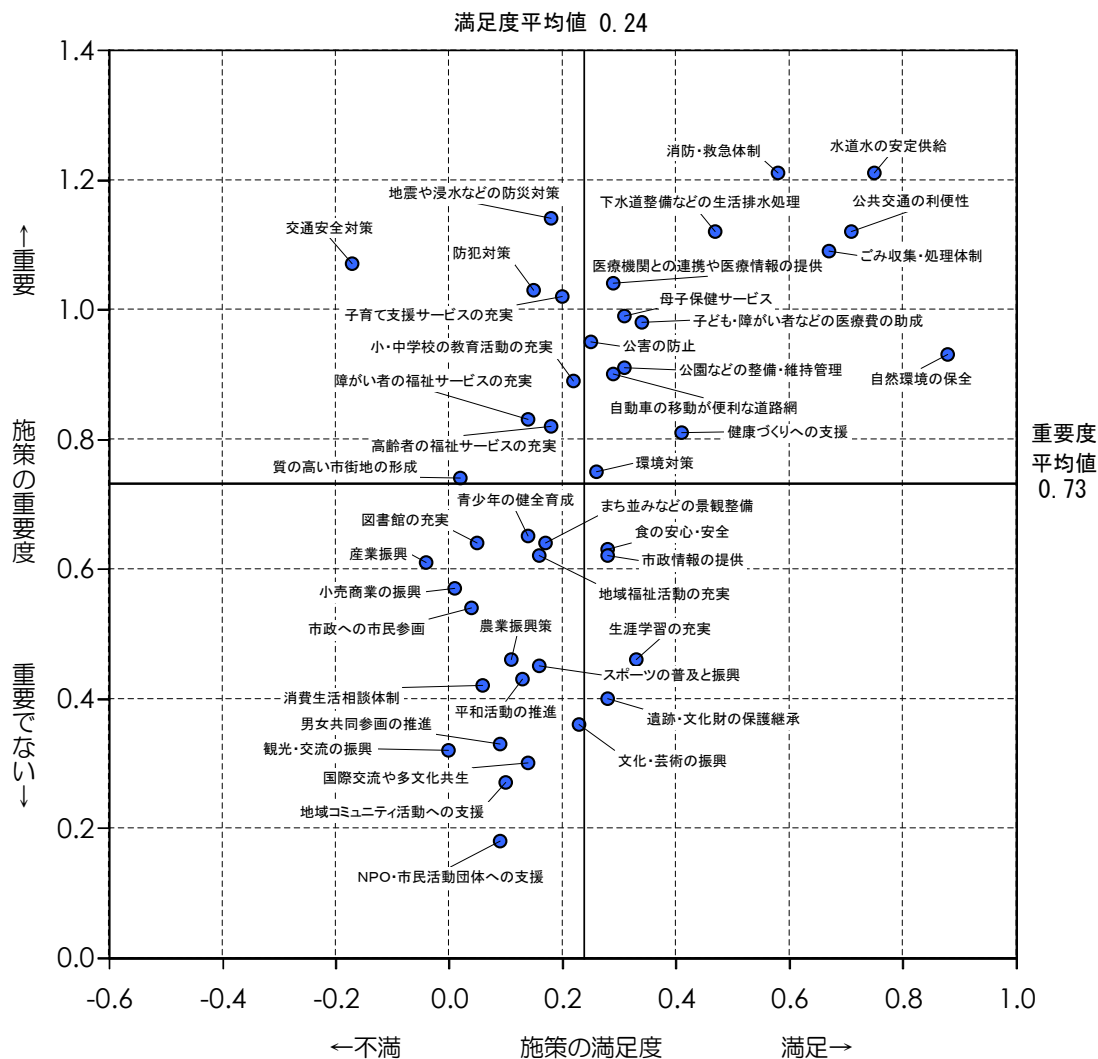
図表 11-37 施策に対する優先度（重要度と満足度の差）

	項 目	満足度 (a)	順位	重要度 (b)	順位	優先度 (b-a)	順位	位置
1	健康づくりへの支援	0.41	7	0.81	20	0.40	28	B
2	医療機関との連携や医療情報の提供	0.29	12	1.04	8	0.75	5	B
3	高齢者の福祉サービスの充実	0.18	22	0.82	19	0.64	13	A
4	乳幼児健診などの母子保健サービス	0.31	10	0.99	11	0.68	9	B
5	子育て支援サービスの充実	0.20	21	1.02	10	0.82	4	A
6	障がい者の福祉サービスの充実	0.14	28	0.83	18	0.69	8	A
7	地域福祉活動の充実	0.16	25	0.62	27	0.46	24	C
8	子ども・障がい者などの医療費の助成	0.34	8	0.98	12	0.64	13	B
9	五条川や桜並木などの自然環境の保全	0.88	1	0.93	14	0.05	43	B
10	公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.31	10	0.91	15	0.60	17	B
11	公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止	0.25	18	0.95	13	0.70	7	B
12	二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	0.26	17	0.75	21	0.49	22	B
13	ごみ収集・処理体制	0.67	4	1.09	6	0.42	26	B
14	地震や浸水などの防災対策	0.18	22	1.14	3	0.96	2	A
15	消防・救急体制	0.58	5	1.21	1	0.63	15	B
16	地域の防犯活動への支援や防犯対策	0.15	27	1.03	9	0.88	3	A

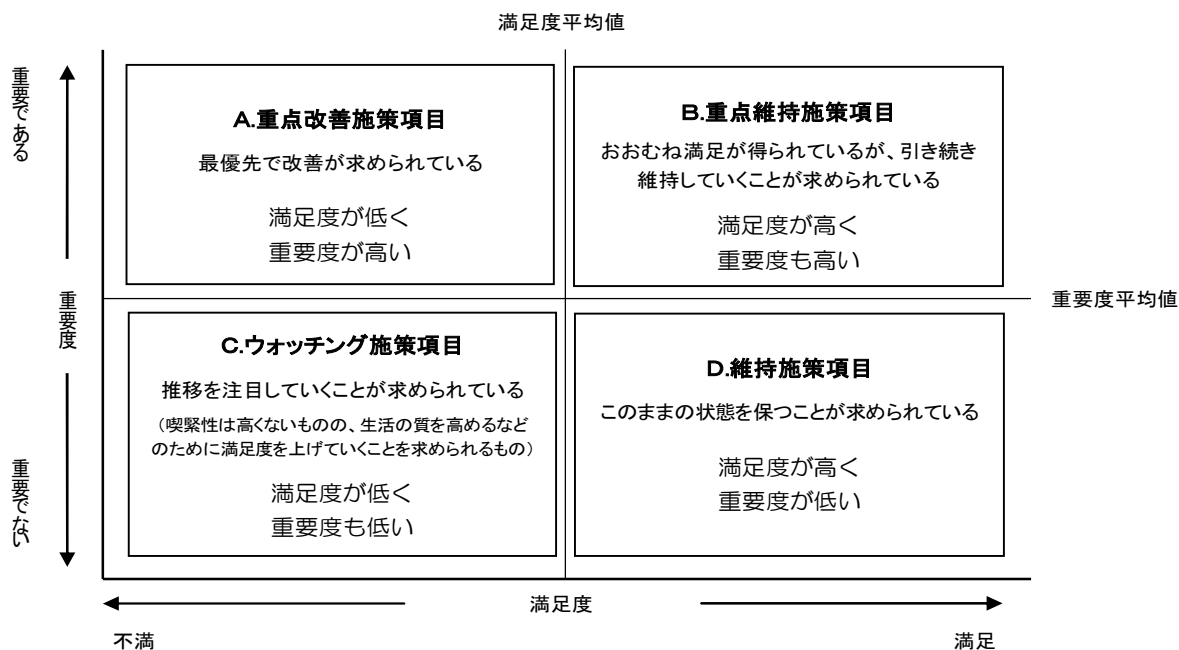
	項 目	満足度 (a)	順位	重要度 (b)	順位	優先度 (b-a)	順位	位置
17	歩行者や自転車及安全に移動できる交通安全対策	-0.17	43	1.07	7	1.24	1	A
18	生涯学習の充実	0.33	9	0.46	32	0.13	39	D
19	遺跡・文化財の保護継承	0.28	14	0.40	37	0.12	41	D
20	文化・芸術の振興	0.23	19	0.36	38	0.13	39	C
21	図書館の充実	0.05	37	0.64	24	0.59	18	C
22	青少年の健全育成	0.14	28	0.65	23	0.51	20	C
23	スポーツの普及と振興	0.16	25	0.45	34	0.29	35	C
24	小・中学校の教育活動の充実	0.22	20	0.89	17	0.67	10	A
25	電車・バスなどの公共交通の利便性	0.71	3	1.12	4	0.41	27	B
26	自動車の移動が便利な道路網	0.29	12	0.90	16	0.61	16	B
27	計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	0.02	39	0.74	22	0.72	6	A
28	まち並みや沿道などの景観整備	0.17	24	0.64	24	0.47	23	C
29	安全な水道水の安定した供給の確保	0.75	2	1.21	1	0.46	24	B
30	下水道整備などの生活排水処理	0.47	6	1.12	4	0.65	11	B
31	農地の保全活用などの農業振興策	0.11	32	0.46	32	0.35	30	C
32	地産地消などの食の安心・安全	0.28	14	0.63	26	0.35	30	D
33	産業振興	-0.04	42	0.61	29	0.65	11	C
34	小売商業の振興	0.01	40	0.57	30	0.56	19	C
35	消費生活相談体制	0.06	36	0.42	36	0.36	29	C
36	観光・交流の振興	0.00	41	0.32	40	0.32	33	C
37	NPO・市民活動団体への支援	0.09	34	0.18	43	0.09	42	C
38	地域コミュニティ活動への支援	0.10	33	0.27	42	0.17	37	C
39	市政への市民参画（市民意見の反映）	0.04	38	0.54	31	0.50	21	C
40	男女共同参画の推進	0.09	34	0.33	39	0.24	36	C
41	国際交流や多文化共生	0.14	28	0.30	41	0.16	38	C
42	平和活動の推進	0.13	31	0.43	35	0.30	34	C
43	市政情報の提供	0.28	14	0.62	27	0.34	32	D

	優先度：1位～10位
	優先度：11位～20位

図表 II-38 ポートフォリオ分析



図表 II-39 ポートフォリオ分析図の見方



【小学校区別】

- 施策の優先度について小学校区別にみると、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」については、すべての小学校区で1位になっています。「地震や浸水などの防災対策」についてもすべての小学校区で2位になっています。
- 全体の順位と大きく異なるものとしては、岩倉北小学校区では、全体13位の「子ども・障がい者などの医療費の助成」が7位になっていることと、全体18位の「図書館の充実」が同列7位になっていることが特徴としてみられます。
- また、岩倉東小学校区では、全体13位の「高齢者の福祉サービスの充実」が4位になっていることと、全体16位の「自動車の移動が便利な道路網」が9位になっていること、全体19位の「小売商業の振興」が9位になっていることが特徴としてみられます。
- さらに、曾野小学校区では、全体11位の「下水道整備などの生活排水処理」が4位になっていることと全体17位の「公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理」が8位になっていることが特徴としてみられます。
- 五条川小学校区では、全体15位の「消防・救急体制」が8位になっていることが特徴としてみられます。
- これらは、小学校区特有の優先的な施策課題であるといえます。

図表 II-40 施策の優先度（小学校区別）

項目	全体	順位	岩倉北	順位	岩倉南	順位	岩倉東	順位	五条川	順位	曾野	順位
歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	1.24	1	1.26	1	1.23	1	1.25	1	1.28	1	1.24	1
地震や浸水などの防災対策	0.96	2	0.89	2	0.94	2	0.90	2	1.08	2	1.04	2
地域の防犯活動への支援や防犯対策	0.88	3	0.81	4	0.88	3	0.84	3	0.93	3	0.95	3
子育て支援サービスの充実	0.82	4	0.89	2	0.88	3	0.66	11	0.81	4	0.75	5
医療機関との連携や医療情報の提供	0.75	5	0.79	5	0.77	7	0.76	5	0.73	6	0.73	6
計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	0.72	6	0.73	6	0.78	6	0.62	15	0.69	9	0.72	7
公害（騒音・振動・水質汚濁など）の防止	0.70	7	0.67	13	0.80	5	0.74	7	0.74	5	0.67	10
障がい者の福祉サービスの充実	0.69	8	0.70	9	0.71	8	0.75	6	0.65	12	0.64	12
乳幼児健診などの母子保健サービス	0.68	9	0.68	12	0.69	10	0.64	14	0.71	7	0.64	12
小・中学校の教育活動の充実	0.67	10	0.70	9	0.70	9	0.49	25	0.69	9	0.65	11
下水道整備などの生活排水処理	0.65	11	0.57	19	0.62	12	0.56	18	0.68	11	0.77	4
産業振興	0.65	11	0.64	14	0.62	12	0.74	7	0.63	13	0.68	8

項目	全体	順位	岩倉北	順位	岩倉南	順位	岩倉東	順位	五条川	順位	曾野	順位
高齢者の福祉サービスの充実	0.64	13	0.69	11	0.58	16	0.80	4	0.56	17	0.62	15
子ども・障がい者などの医療費の助成	0.64	13	0.72	7	0.65	11	0.65	13	0.60	16	0.60	16
消防・救急体制	0.63	15	0.64	14	0.55	17	0.66	11	0.70	8	0.63	14
自動車の移動が便利な道路網	0.61	16	0.62	17	0.55	17	0.73	9	0.62	14	0.60	16
公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	0.60	17	0.64	14	0.60	14	0.46	28	0.55	18	0.68	8
図書館の充実	0.59	18	0.72	7	0.54	19	0.47	27	0.61	15	0.51	21
小売商業の振興	0.56	19	0.61	18	0.45	26	0.73	9	0.55	18	0.58	18
青少年の健全育成	0.51	20	0.49	23	0.48	22	0.52	21	0.55	18	0.52	20
市政への市民参画（市民意見の反映）	0.50	21	0.48	24	0.50	21	0.53	19	0.52	22	0.51	21
二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	0.49	22	0.50	21	0.51	20	0.58	16	0.50	23	0.44	24
まち並みや沿道などの景観整備	0.47	23	0.52	20	0.48	22	0.32	34	0.42	26	0.48	23
地域福祉活動の充実	0.46	24	0.50	21	0.46	24	0.52	21	0.49	24	0.40	26
安全な水道水の安定した供給の確保	0.46	24	0.45	25	0.46	24	0.57	17	0.43	25	0.44	24
ごみ収集・処理体制	0.42	26	0.35	30	0.44	27	0.42	32	0.39	28	0.53	19
電車・バスなどの公共交通の利便性	0.41	27	0.29	34	0.60	14	0.53	19	0.54	21	0.30	29

	優先度：1位～10位
	優先度：11位～20位

3. 住みやすさの評価と定住意向

(1) 住む場所としての評価（問 10）

問 10

次の観点から岩倉市を見た場合、どのように感じますか。

【①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

「子育てするまち」が 0.25 で最も高く、次いで「児童、生徒、学生が生活するまち」、「健康で幸せに暮らすまち」、「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」、「高齢者が生活するまち」がプラス評価となっています。

一方で、「家族で休日や余暇を過ごすまち」は、唯一マイナス評価となっています。

【全体】

○岩倉市を生活の場としてどのように感じているのかについて、「子育てするまち」、「児童、生徒、学生が生活するまち」、「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」、「家族で休日や余暇を過ごすまち」、「お年寄りが生活するまち」、「健康で幸せに暮らすまち」の6つの観点からの評価し、「良い」を+1点、「普通」を0点、「悪い」を-1点として、その得点を求めます。

○「子育てするまち」が 0.25 で最も高く、次いで「児童、生徒、学生が生活するまち」が 0.23、「健康で幸せに暮らすまち」が 0.19、「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」が 0.17、「高齢者が生活するまち」が 0.07 でプラス評価となっています。

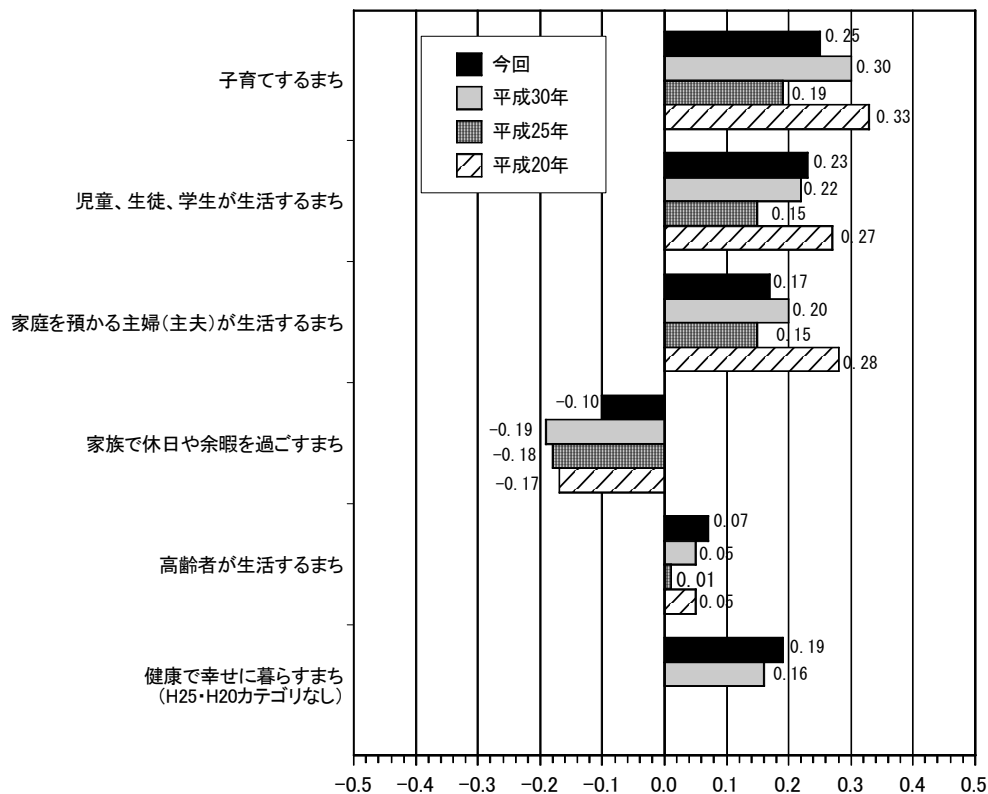
○一方で、「家族で休日や余暇を過ごすまち」は、-0.10 と唯一マイナス評価となっています。

○「家族で休日や余暇を過ごすまち」のマイナス評価は、市域が狭く娯楽施設や公園等の大規模な整備が難しい状況にあることが、背景にあると考えられます。

【経年比較】

- 平成 30 年調査と比較すると、「子育てするまち」と「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」の 2 項目については、得点が若干下降しています。
- 一方、残りの 4 項目については、得点が若干上昇しています。中でも「家族で休日や余暇を過ごすまち」については、0.09 ポイント上昇しています。
- この 5 年間で、家族で休日や余暇を過ごせるような施設等の整備は特に行われていませんが、コロナ禍で数年にわたって外出が制約される中で、身近な市内の公園や家庭で過ごす機会が増えたことやコロナ禍が明けたことに伴う心理的な変化などが要因として働いたものと推察されます。

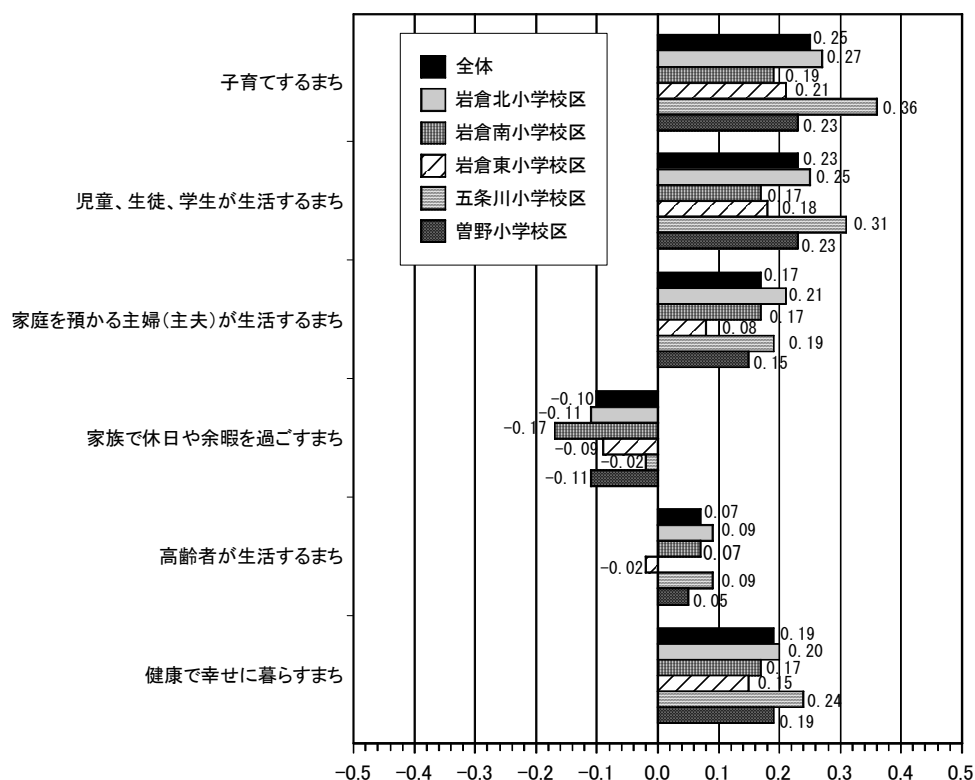
図表 II-41 住む場所としての評価（経年比較）



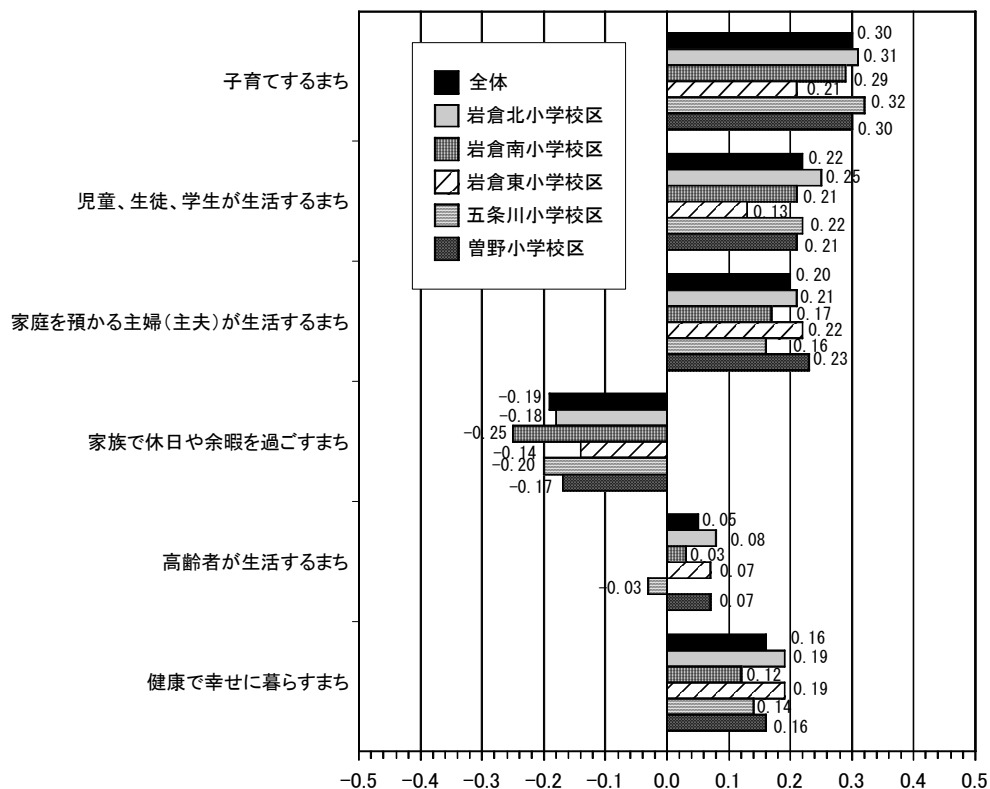
【小学校区別経年比較】

- 小学校区別にみると、「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」については、岩倉北小学校区における評価が 0.21 と最も高くなっています。
- 残りの 5 項目については、五条川小学校区における評価が最も高くなっています。中でも「子育てするまち」としての評価と「児童、生徒、学生が生活するまち」としての評価がそれぞれ 0.36、0.31 と他の小学校区に比べて高くなっています。
- 逆に、岩倉東小学校区における「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」としての評価や「高齢者が生活するまち」としての評価が他の小学校区と比べて低く、5 小学校区の中で最下位になっています。
- 前回（平成 30 年調査）と比較すると、「子育てするまち」については、岩倉南小学校区の評価が 0.10 ポイント低下しています。
- 「児童、生徒、学生が生活するまち」については、五条川小学校区の評価が 0.09 ポイント高まっています。
- 「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」については、岩倉東小学校区の評価が 0.14 ポイント低下しています。
- 「家族で休日や余暇を過ごすまち」や「高齢者が生活するまち」、「健康で幸せに暮らすまち」については、いずれも五条川小学校区の評価がそれぞれ、0.18 ポイント、0.12 ポイント、0.10 ポイント高まっています。
- 逆に岩倉東小学校区における「高齢者が生活するまち」としての評価が 0.09 ポイント低下しています。

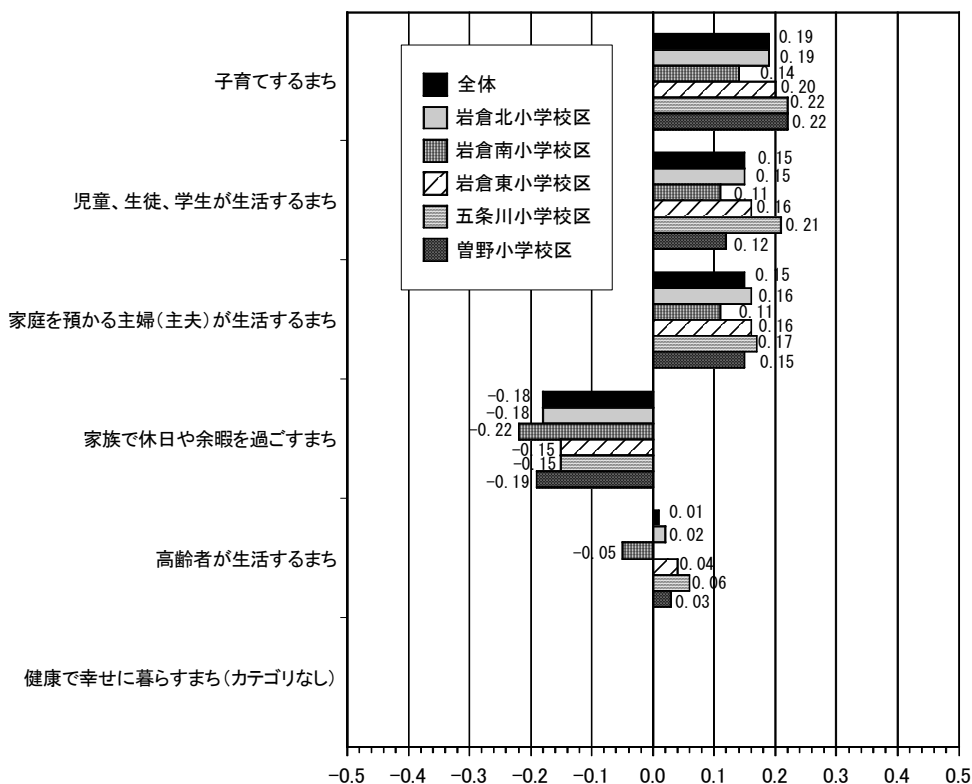
図表 11-42 住む場所としての評価（今回調査：小学校区別）



図表 II-43 住む場所としての評価（平成 30 年調査：小学校区別）



図表 II-44 住む場所としての評価（参考：平成 25 年調査：小学校区別）



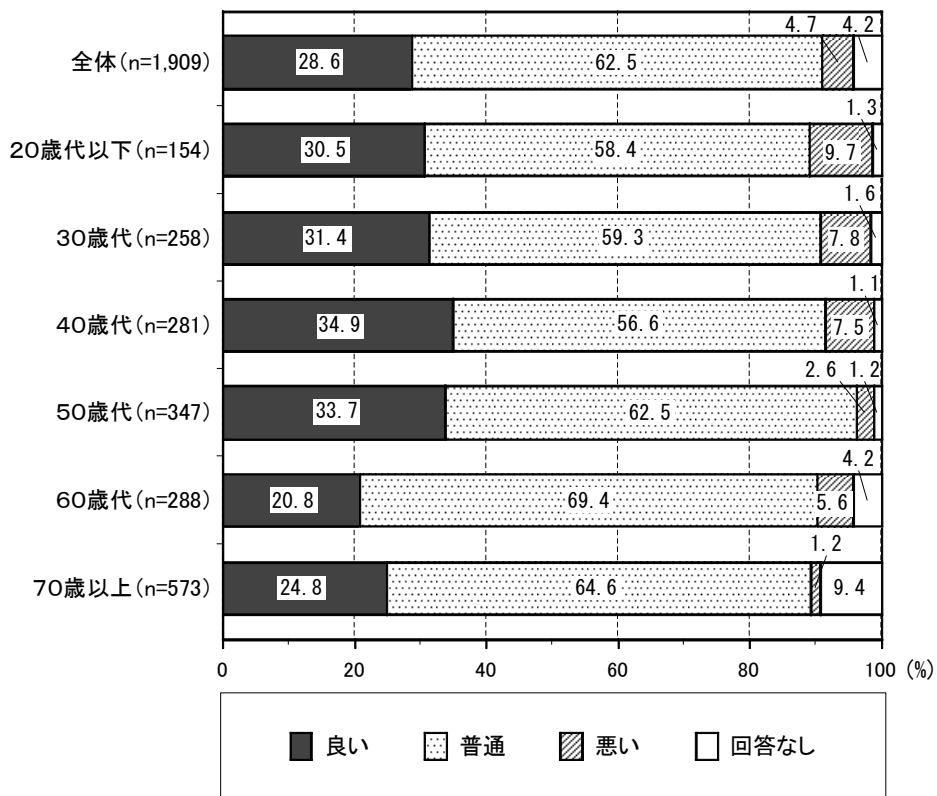
① 子育てするまち

【年齢・世帯の構成者別】

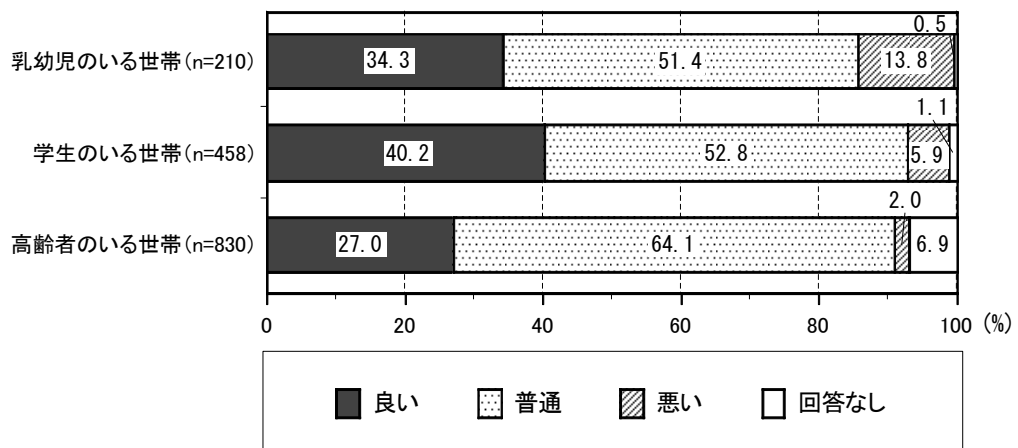
○「良い」との評価は、40歳代が34.9%で最も高く、次いで50歳代が33.7%となっています。

○世帯の構成者別でみると、学生のいる世帯では40.2%、乳幼児のいる世帯では34.3%と、全体の28.6%を最大で11.6ポイント上回っており、実際に子育てをしている市民からの評価が高くなっています。

図表 II-45 「子育てするまち」としての評価（年齢別）



図表 II-46 「子育てするまち」としての評価（世帯の構成者別）

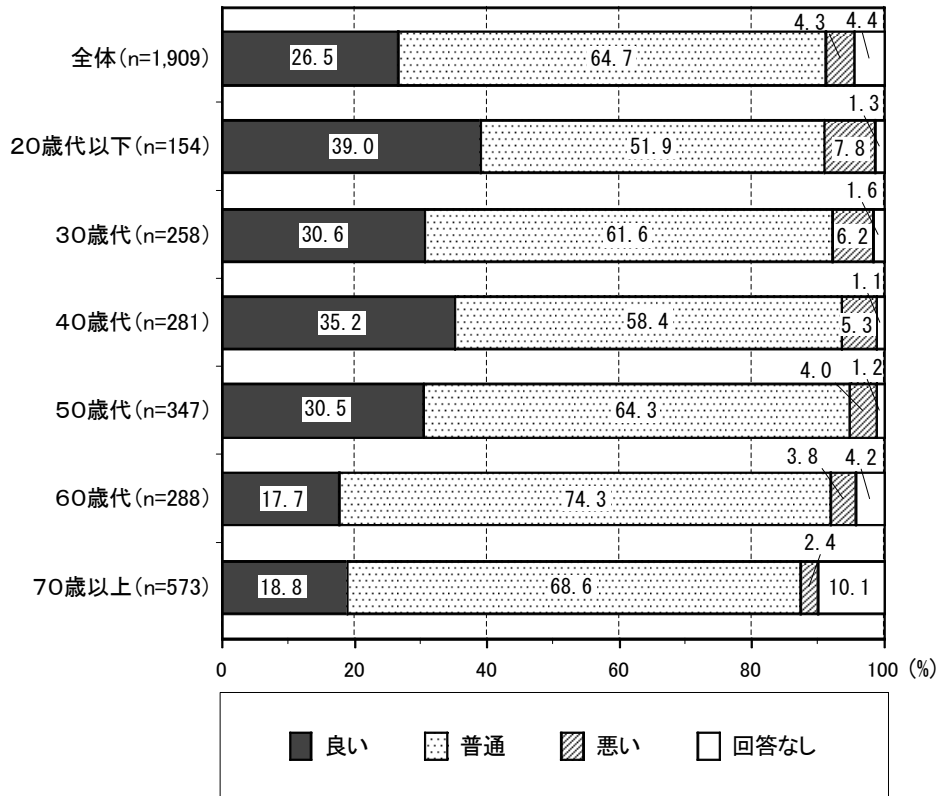


② 児童、生徒、学生が生活するまち

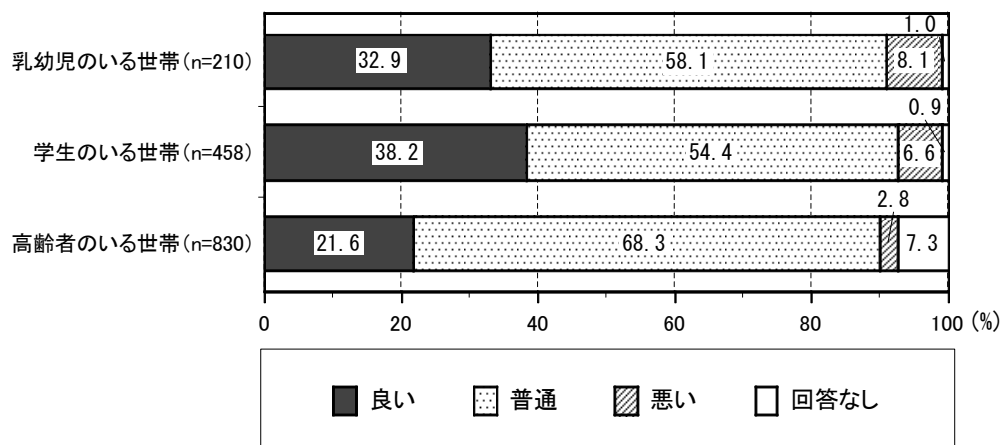
【年齢・世帯の構成者別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が39.0%、次いで40歳代が35.2%と高くなっています。
- 世帯の構成者別でみると、学生のいる世帯では38.2%と、全体の26.5%を11.7ポイント上回っており、世帯に学生がいる市民からの評価が高くなっています。

図表 II-47 「児童、生徒、学生が生活するまち」としての評価（年齢別）



図表 II-48 「児童、生徒、学生が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）

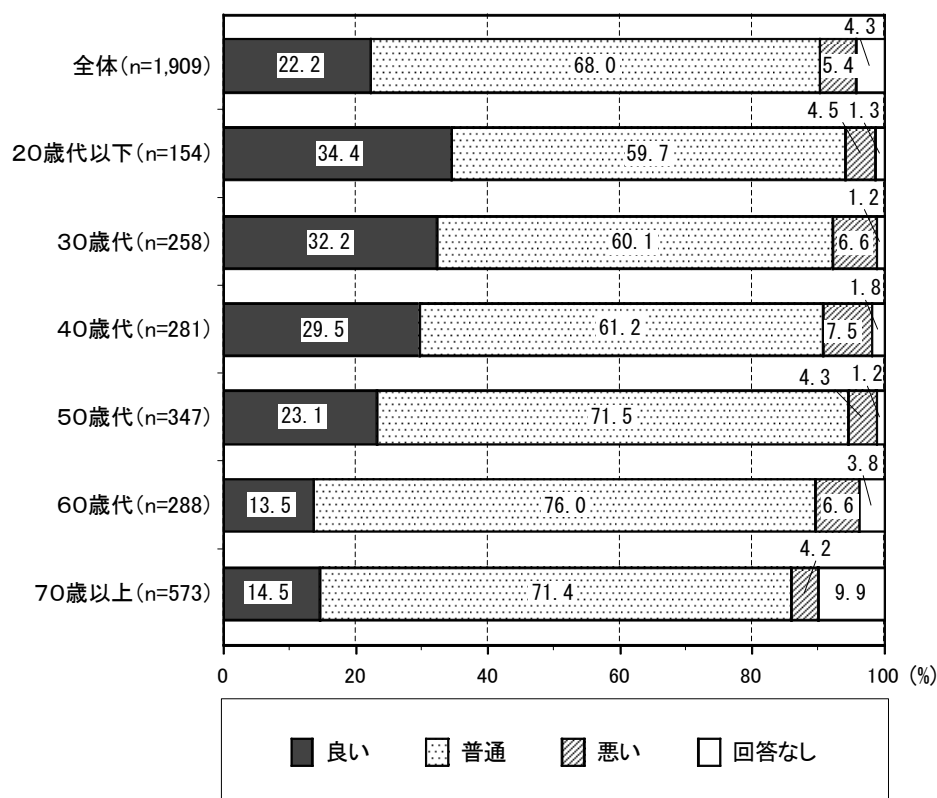


③ 主婦（主夫）が生活するまち

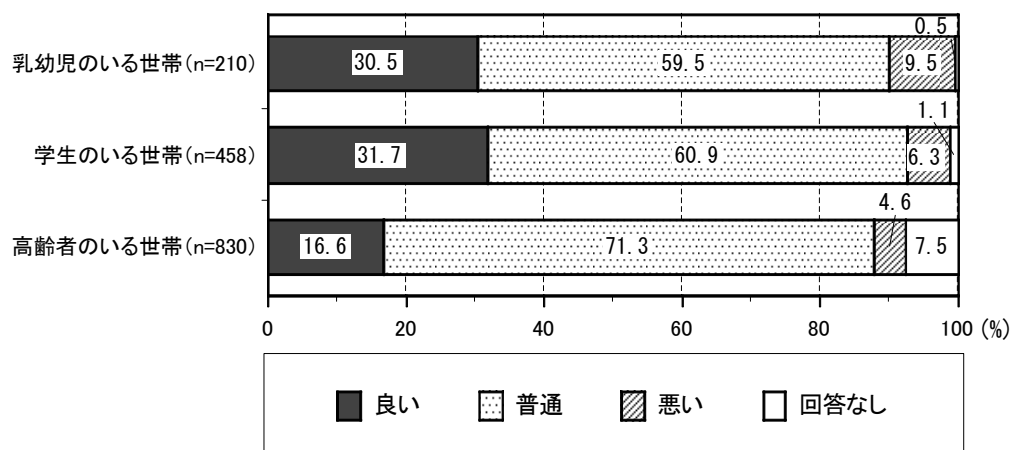
【年齢・世帯の構成者別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が34.4%で最も高く、次いで30歳代が32.2%、40歳代が29.5%の順となっています。
- 世帯の構成者別でみると、学生のいる世帯が31.7%、乳幼児のいる世帯が30.5%と、全体平均をそれぞれ9.5ポイント、8.3ポイント上回っています。

図表 II-49 「主婦（主夫）が生活するまち」としての評価（年齢別）



図表 II-50 「主婦（主夫）が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）

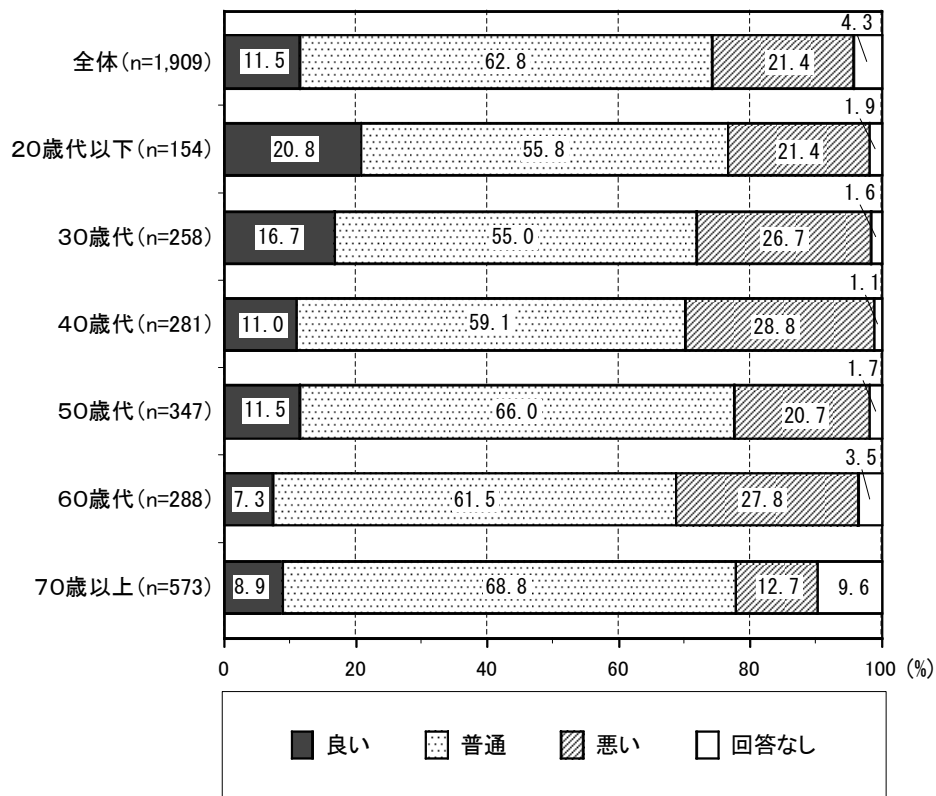


④ 家族で休日や余暇を過ごすまち

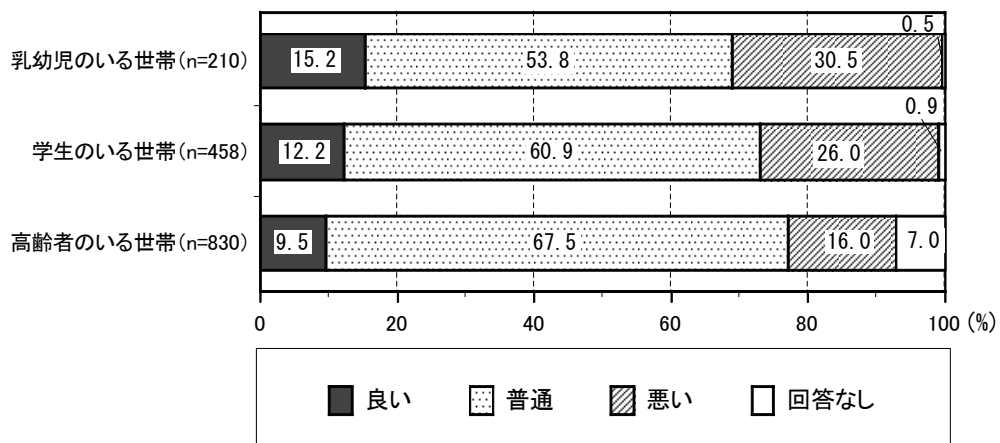
【年齢・世帯の構成者別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が20.8%で最も高くなっていますが、「悪い」との評価（21.4%）よりも低くなっています。また、すべての年齢層において「悪い」の割合が「良い」を上回っており、特に40歳代と60歳代において顕著です。
- 世帯の構成者別でみると、いずれの世帯も「悪い」の割合が「良い」を上回っています。

図表 II-51 「家族で休日や余暇を過ごすまち」としての評価（年齢別）



図表 II-52 「家族で休日や余暇を過ごすまち」としての評価（世帯の構成者別）

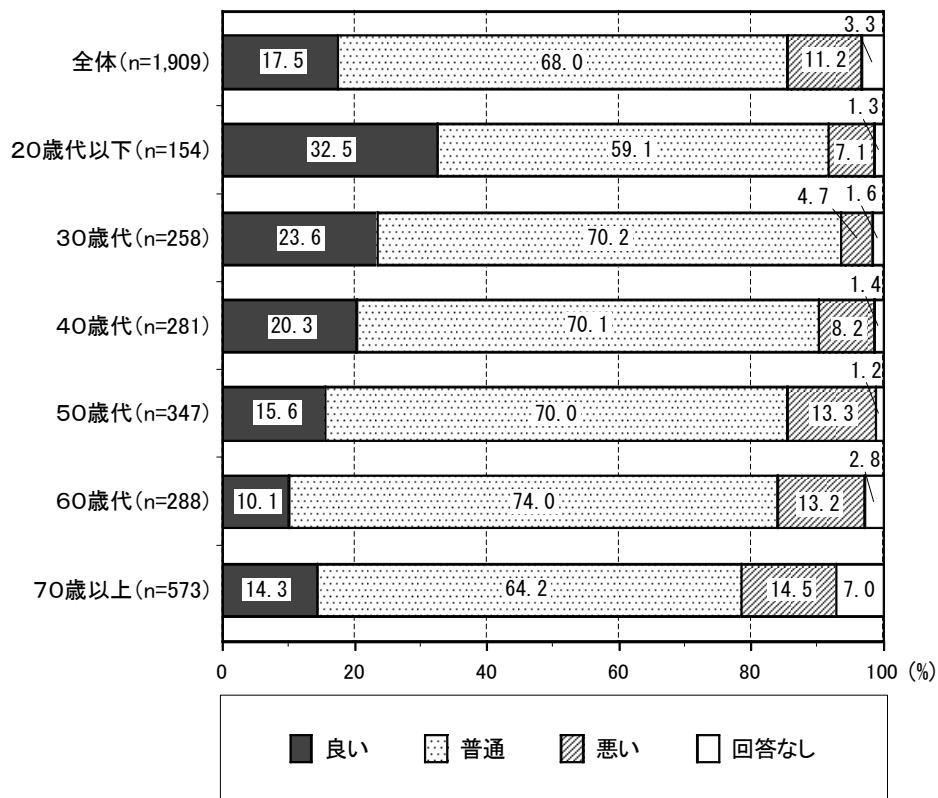


⑤ 高齢者が生活するまち

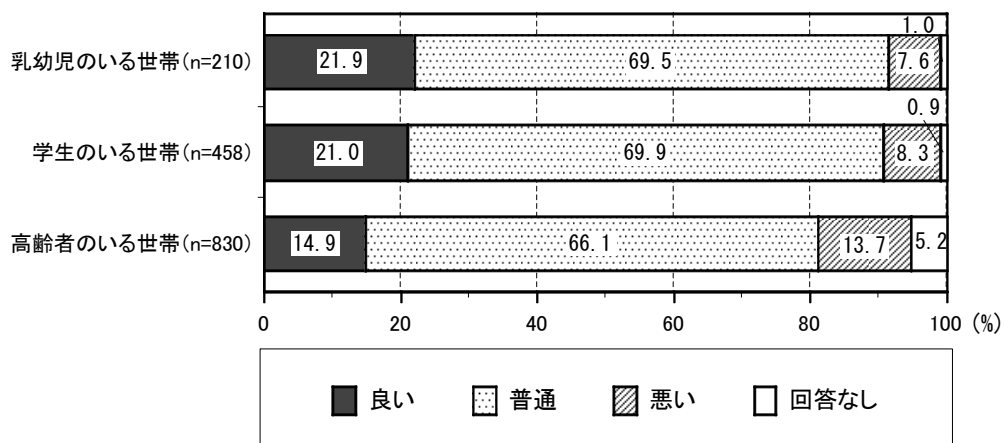
【年齢・世帯の構成者別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が32.5%で最も高く、次いで30歳代が23.6%、40歳代が20.3%と、若い世代で評価が高い傾向がみられます。
- 一方で、60歳代は10.1%と最も低く、70歳以上でも14.3%と、全体平均の17.5%をやや下回っており、また、高齢者のいる世帯でも14.9%と全体平均をやや下回っており、当事者に近い人や当事者のいる世帯からの評価が低くなっていることが特徴としてみられます。

図表 II-53 「高齢者が生活するまち」としての評価（年齢別）



図表 II-54 「高齢者が生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）

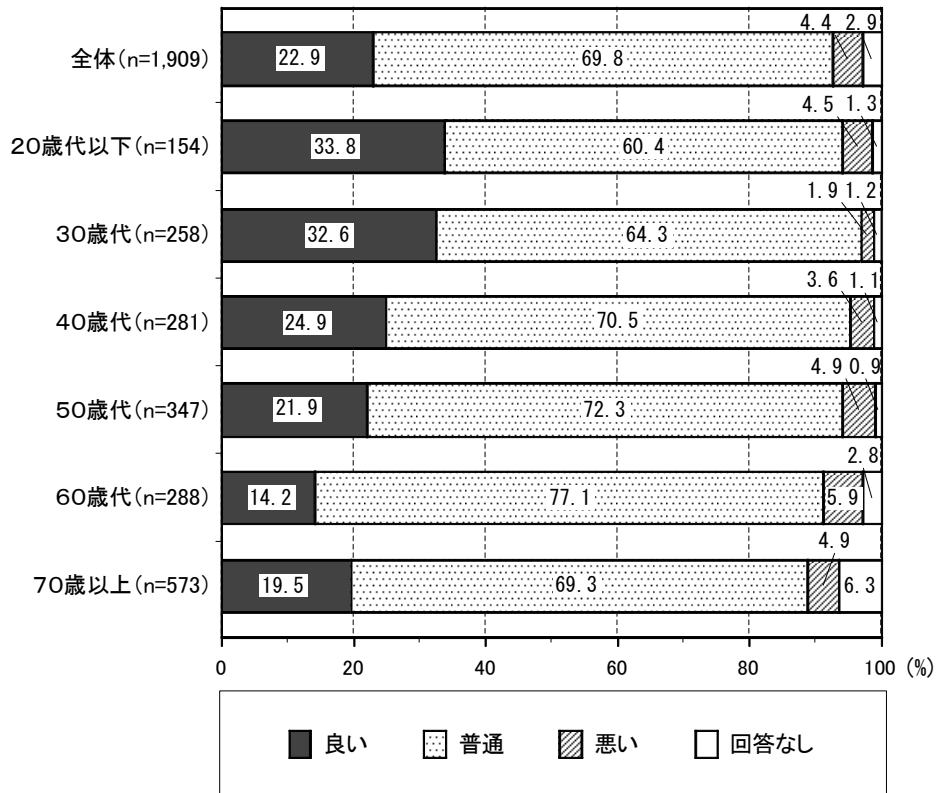


⑥ 健康で幸せに暮らすまち

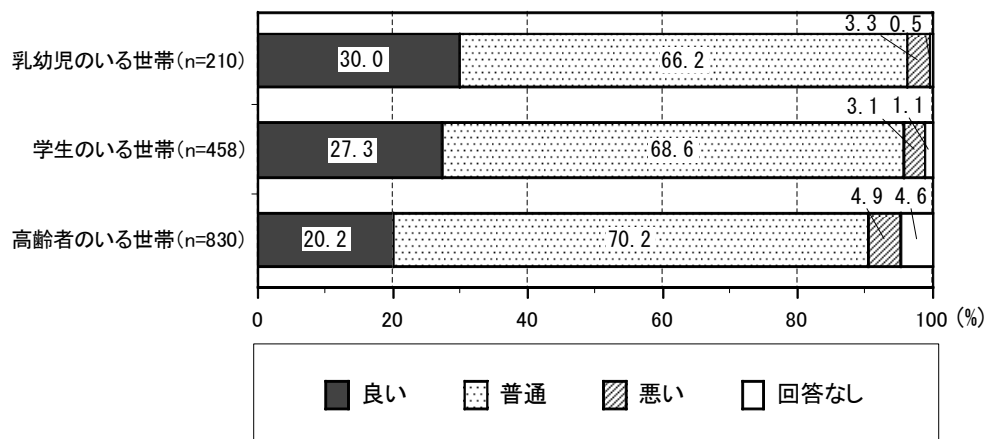
【年齢・世帯の構成者別】

- 「良い」との評価は、20歳代以下が33.8%で最も高く、次いで30歳代が32.6%と、若い世代で評価が高い傾向がみられます。
- 一方で、60歳代では14.2%と最も低く、また、高齢者のいる世帯でも20.2%と、全体平均をやや下回っています。

図表 II-55 「健康で幸せに暮らすするまち」としての評価（年齢別）



図表 II-56 「健康で幸せに生活するまち」としての評価（世帯の構成者別）



(2) 総合的な住みやすさの評価 (問 11)

問 11

総合的にみて岩倉市は住みよいまちだと思いますか。

【○は1つだけ】

「住みよい」が 24.5%、「どちらかと言えば住みよい」が 53.4%であり、これらを合わせた「岩倉市は住みよいと評価する」市民の割合は 77.9%となっています。

「岩倉市は住みにくいと評価する」市民の割合は 4.1%にとどまっており、岩倉市は多くの市民から住みよいまちであると評価されているといえます。

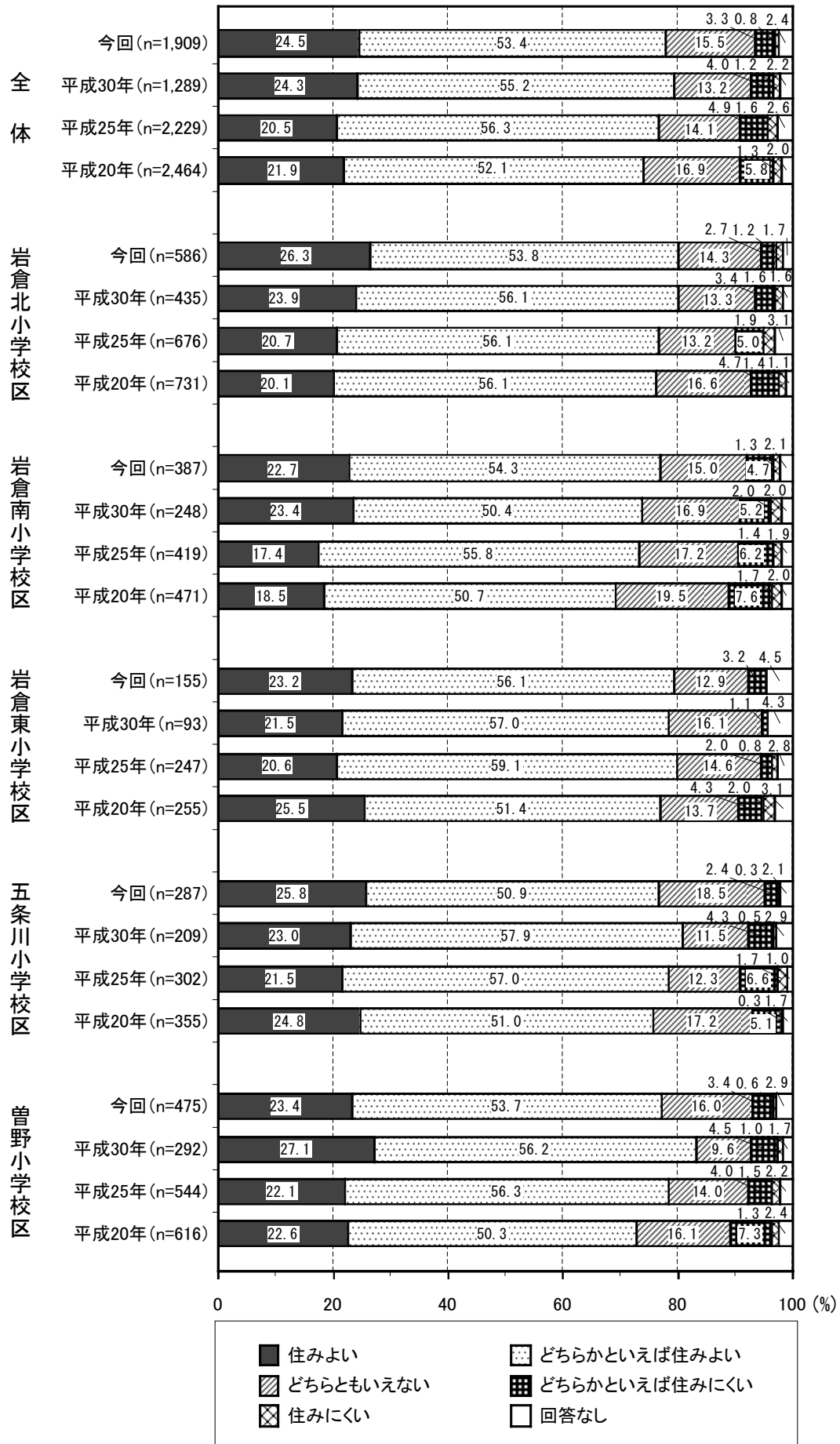
【全体】(経年比較)

- 「住みよい」が 24.5%、「どちらかと言えば住みよい」が 53.4%であり、これらを合わせた「岩倉市は住みよいと評価する」(以下「住みよいとの評価」という。)市民の割合は 77.9%となっています。
- 一方、「どちらかと言えば住みにくい」が 3.3%、「住みにくい」が 0.8%となっており、これらを合わせた「岩倉市は住みにくいと評価する」市民の割合(以下「住みにくいとの評価」)は 4.1%にとどまっており、岩倉市は多くの市民から住みよいまちであると評価されているといえます。
- 過去の調査の結果と比較すると、「住みよいとの評価」は、平成 30 年までは一貫して増加傾向にありましたが、平成 30 年から今回調査にかけてはほぼ横ばいになっています。

【小学校区別】(経年比較)

- 小学校区別にみると、「住みよいとの評価」は岩倉北小学校区で 80.1%と最も高くなっていますが、一番低い五条川小学校区でも 76.7%を占めており、小学校区によって大きな差はみられません。
 - 小学校区別に経年比較をみると、岩倉北小学校区と岩倉南小学校区の 2 小学校区では平成 20 年調査から一貫して「住みよいとの評価」が増加傾向にあります。
 - 五条川小学校区と曾野小学校区の 2 小学校区については、平成 30 年調査までは一貫して「住みよいとの評価」が増加傾向にありましたが、今回の調査では、「住みよいとの評価」が、五条川小学校区において 4.2 ポイント、曾野小学校区において 6.2 ポイント、それぞれ低下しています。
 - 岩倉東小学校区では、これまで、「住みよいとの評価」がおおむね横ばいで推移しています。
-

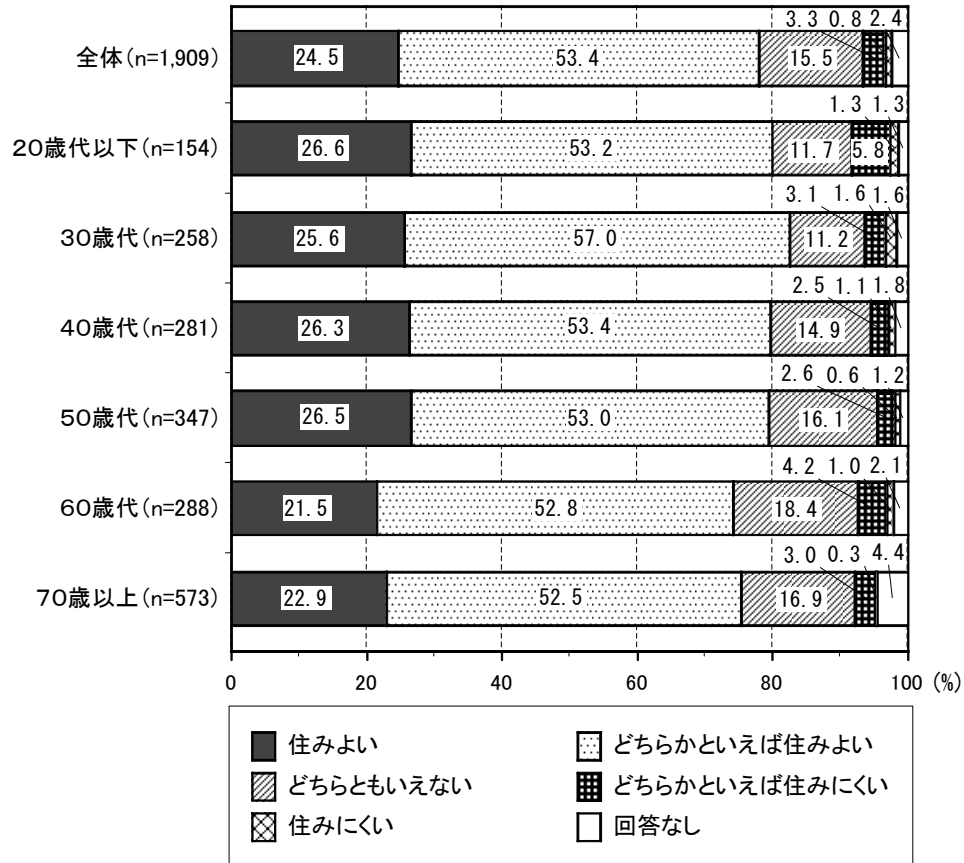
図表 11-57 総合的な住みやすさの評価（小学校区別：経年比較）



【年齢別】

○年齢別による住みやすさ評価の有意な差はみられません。

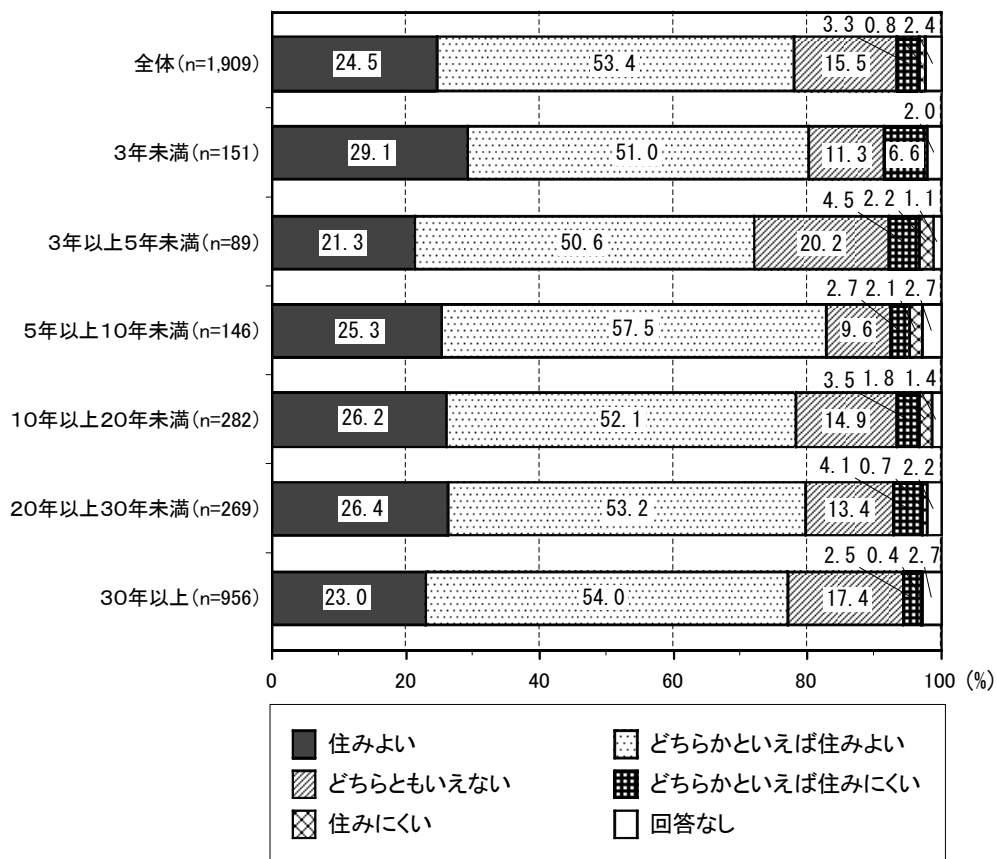
図表 II-58 総合的な住みやすさの評価（年齢別）



【居住年数別】

○居住年数別にみると、“住みよいたの評価”の割合は、居住年数が3年以上5年未満で71.9%と全体平均に比べて6.0ポイント低くなっていますが、全般的に居住年数の長短による差はみられません。

図表 11-59 総合的な住みやすさの評価（居住年数別）



(3) 定住意向 (問 12)

問 12

これからも岩倉市に住み続けたいと思いますか。

【○は1つだけ】

「永住したい」が 37.7%、「当分住み続けたい」が 46.0%となっています。これらを合わせた“定住意向を持つ市民”は、83.7%となっています。

“岩倉市から他市町村への移転意向を持つ市民”は 7.5%となっています。

平成 30 年調査で“定住意向を持つ市民”は 72.4%であったのに対し、今回調査では 83.7%で、11.3 ポイント増えています。

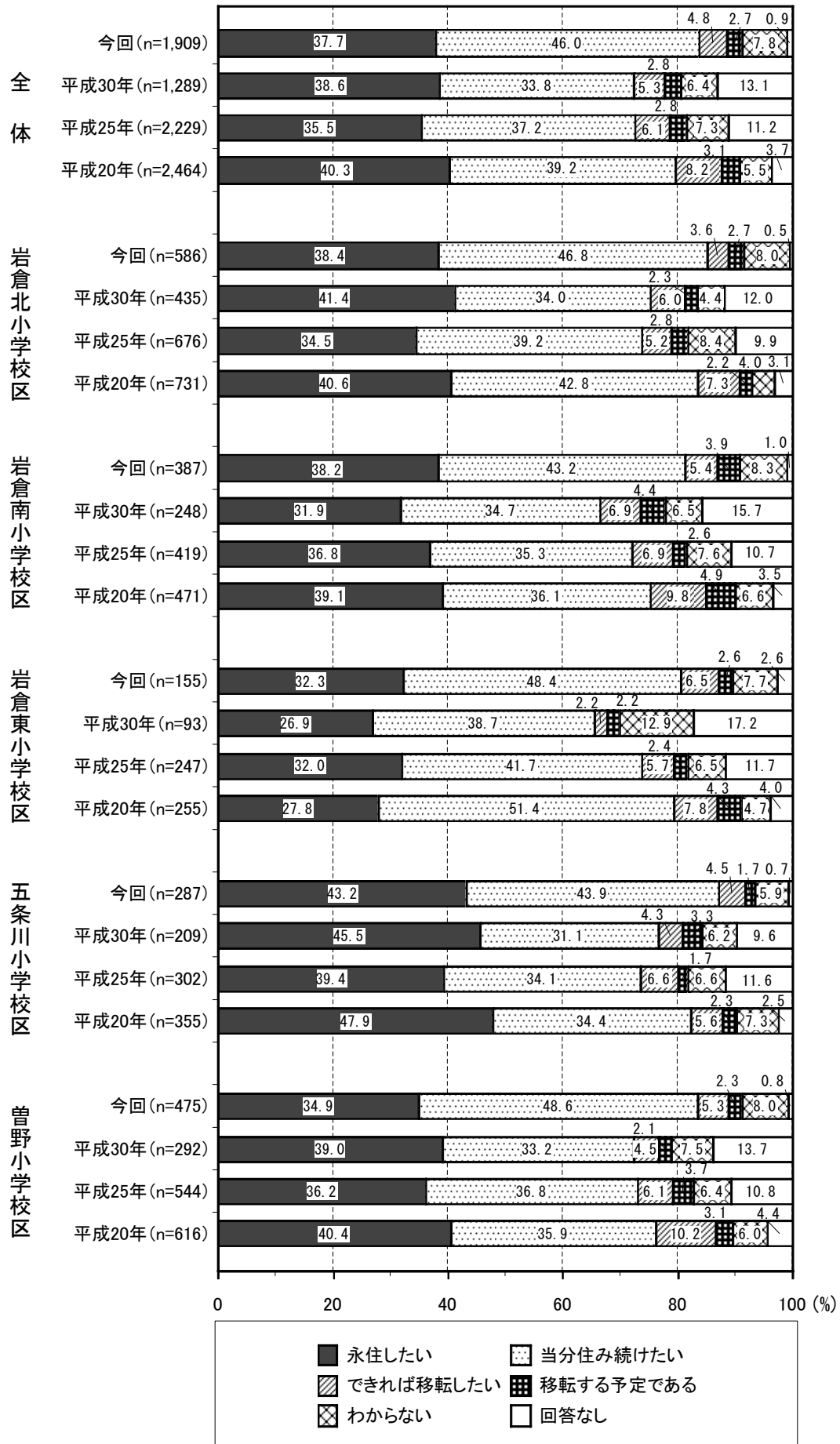
【全体】(経年比較)

- 「永住したい」が 37.7%、「当分住み続けたい」が 46.0%となっています。これらを合わせた“定住意向を持つ市民”(以下、“定住意向”という。)は、83.7%となっています。
- 「できれば移転したい」が 4.8%、「移転する予定である」は 2.7%であり、これらを合わせた“岩倉市から他市町村への移転意向を持つ市民”(以下、“移転意向”という。)は 7.5%となっています。
- 過去の調査結果と比較すると、平成 20 年調査から平成 25 年調査にかけて“定住意向”の割合は 79.5%から 72.7%に減少し、平成 30 年調査では 72.4%と横ばいでしたが、今回調査では 83.7%と増加に転じ、平成 30 年調査よりも 11.3 ポイント増加しました。

【小学校区別】(経年比較)

- 小学校区別にみると、「永住したい」については、五条川小学校区が 43.2%で最も高く、全体平均の 37.7%を 5.5 ポイント上回っています。一方、岩倉東小学校は 32.3%と、全体平均を 5.4 ポイント下回っています。
 - “定住意向”の割合についてみると、五条川小学校区で 87.1%と最も高くなっていますが、一番低い岩倉東小学校区でも 80.7%を占めており、小学校区によって大きな格差はみられません。
 - 平成 30 年調査と比べると、“定住意向”の割合はすべての小学校区において増加に転じています。特に岩倉東小学校区と岩倉南小学校区では、平成 30 年調査よりもそれぞれ、15.1 ポイント、14.8 ポイントも増加しています。
-

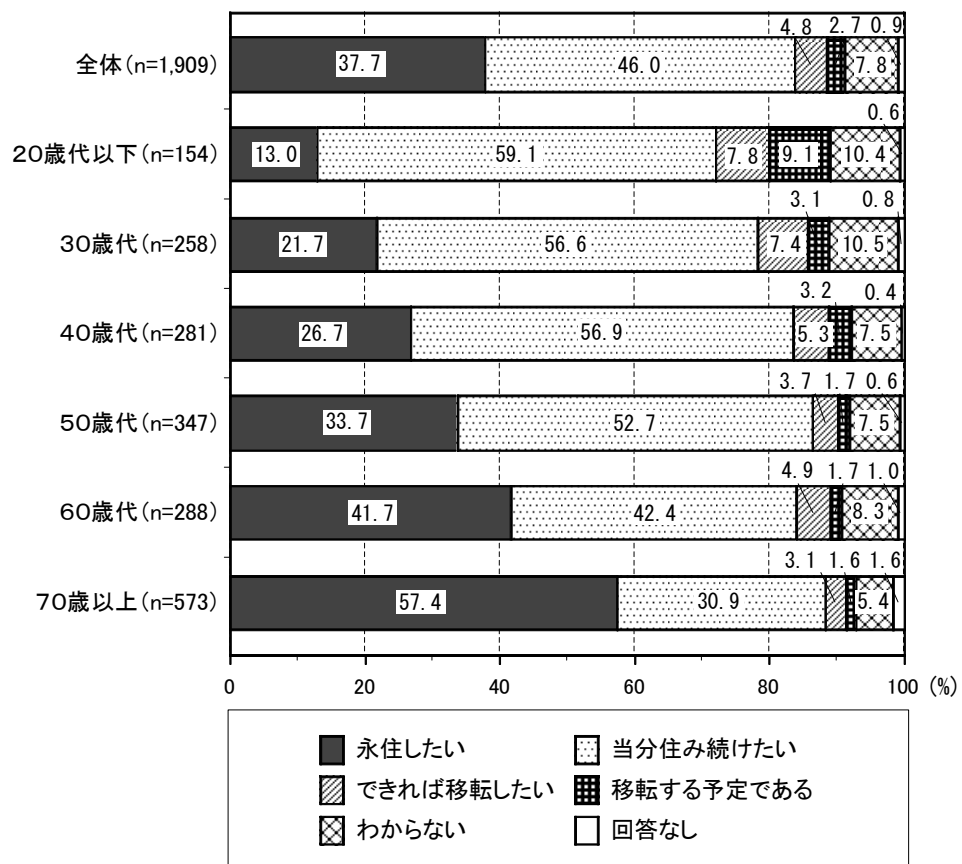
図表 11-60 定住意向（小学校区別：経年比較）



【年齢別】

- 年齢別にみると、年齢層が高くなるにしたがって「永住したい」と回答する割合は増加しており、20歳代以下が13.0%であるのに対して、70歳以上では57.4%と、44.4ポイントもの差がみられます。
- “定住意向”についても、年齢層が高くなるにしたがっておおむね回答割合が増加する傾向がみられ、20歳代以下において72.1%である割合が、70歳以上では88.3%になっています。
- “移転意向”については、全く逆の傾向がみられ、20歳代以下が16.9%である割合が、70歳以上では4.7%になっています。
- このように、若年層は、就学、就職及び婚姻による移動が他の年齢層と比較して多く見込まれることから、“移転意向”や「わからない」という回答の占める割合が、他の年齢層と比べて多くなっていますが、20歳代以下でも“定住意向”を示す市民の割合が72.1%も占めています。

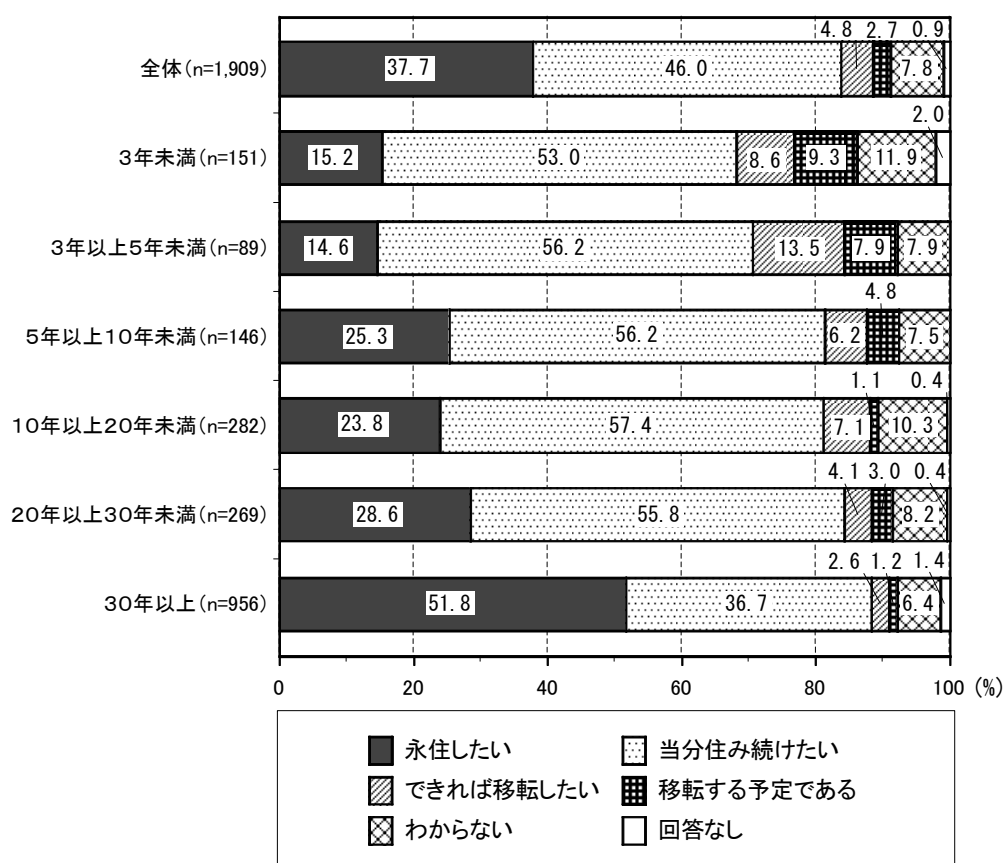
図表 II-61 定住意向（年齢別）



【居住年数別】

- 居住年数別にみると、居住年数が長くなるにしたがって「永住したい」との回答の割合がおおむね増加する傾向がみられ、居住年数が30年以上では51.8%と、過半数を占めています。
- “定住意向”についても同様に、居住年数が長いほど回答割合がおおむね増加する傾向がみられ、居住年数が30年以上では“定住意向”が88.5%（「永住したい」51.8%、「当分住み続けたい」36.7%）と、9割近くを占めています。
- “移転意向”については、ほぼ全く逆の傾向がみられ、居住年数が3年以上5年未満で21.4%（「できれば移転したい」13.5%、「移転する予定である」7.9%）と最も高くなっており、30年以上では僅か3.8%になっています。

図表 II-62 定住意向（居住年数別）



(4) 定住理由 (問 12)

問 12 永住したい、当分住み続けたい理由は何ですか。【○は3つまで】

「自分の家や土地があるから」が 63.0%と最も多く、次いで「交通の便が良い」、「通勤・通学に便利」の順となっています。

【全体】

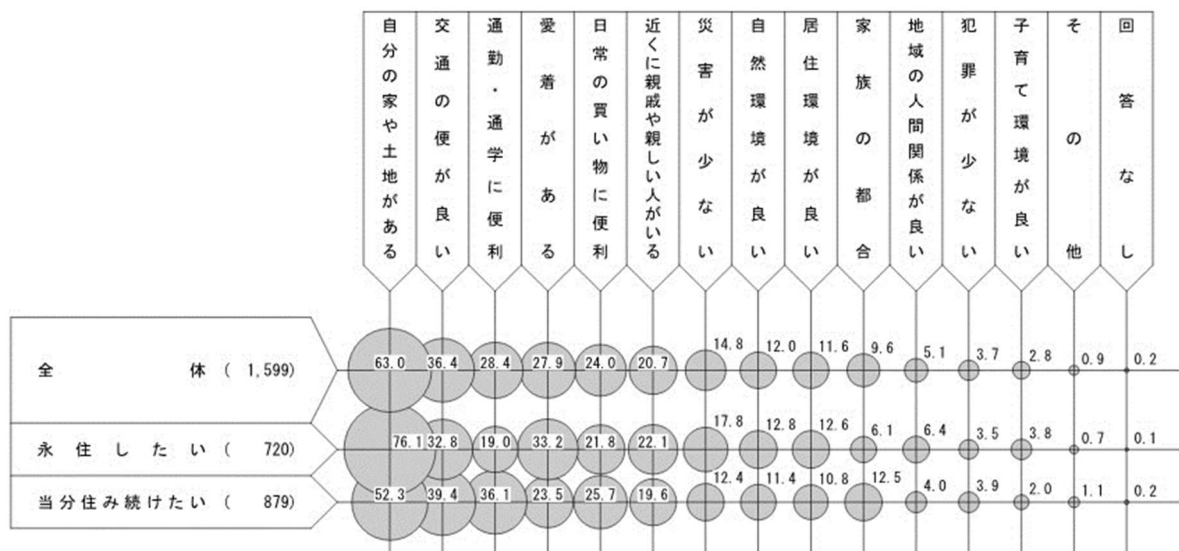
○「自分の家や土地があるから」が 63.0%と最も多く、次いで「交通の便が良い」が 36.4%、「通勤・通学に便利」が 28.4%の順となっています。

【定住意向別】

○「永住したい」と回答した場合についてみると、「自分の家や土地がある」が 76.1%と際立って高く、次いで「愛着がある」が 33.2%、「交通の便が良い」が 32.8%の順となっており、地縁や愛着が主たる理由になっています。

○これに対して、「当分住み続けたい」と回答した場合についてみると、「自分の家や土地がある」が 52.3%と全体平均に比べて 10.7 ポイント低くなっています。これに次いで、「交通の便が良い」が 39.4%、「通勤・通学に便利」が 36.1%、の順となっており、地縁もさることながら、利便性が主たる理由として挙げられています。

図表 II-63 定住理由 (定住意向別)



(5) 移転理由 (問 12)

問 12 できれば移転したい、移転する予定である理由は何ですか。【○は3つまで】

「愛着がない」が23.1%で最も高く、次いで「自分の家や土地がない」、「近くに親戚や親しい人がいない」の順となっています。

【全体】

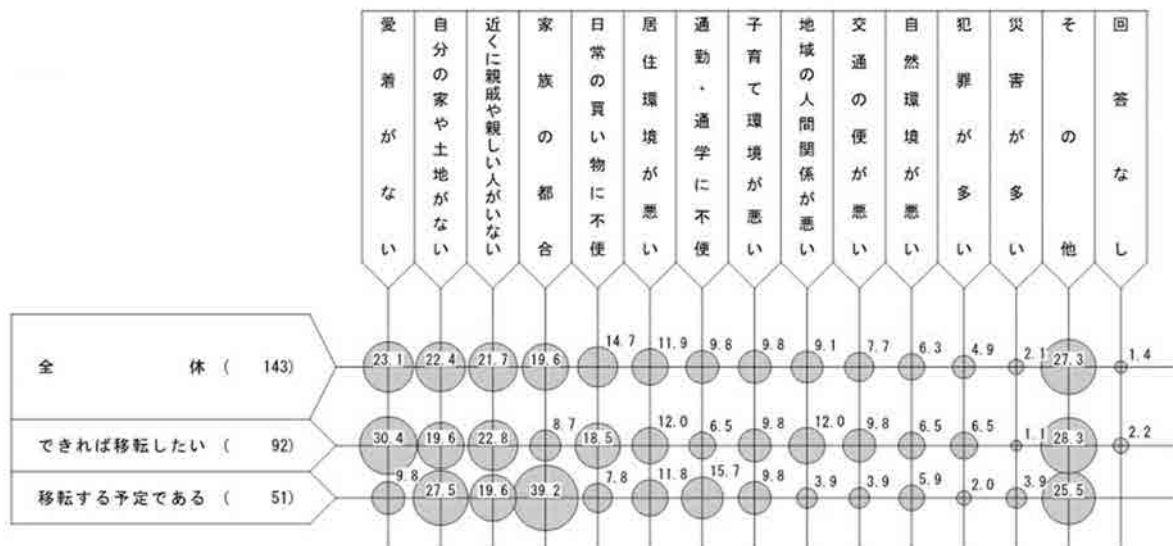
○「愛着がない」がともに23.1%で最も高く、次いで「自分の家や土地がない」が22.4%、「近くに親戚や親しい人がいない」が21.7%の順となっています。

【移転意向別】

○「できれば移転したい」と回答した場合についてみると、「愛着がない」が30.4%で最も高く、次いで「その他」が28.3%、「近くに親戚や親しい人がいない」が22.8%、「自分の家や土地がない」が19.6%、「日常の買い物に不便」が18.5%の順となっており、愛着をはじめ、血縁や地縁、買い物の不便さが主な理由として挙げられています。

○「移転する予定である」と回答した場合についてみると、「家族の都合」が39.2%で最も高く、次いで「自分の家や土地がない」が27.5%、「その他」が25.5%、「近くに親戚や親しい人がいない」が19.6%の順となっており、愛着以上に家族の都合が主な理由になっていることが特徴としてみられます。

図表 II-64 移転理由 (移転意向別)



III. 多文化共生

Ⅲ. 多文化共生

(1) 外国人とのコミュニケーションの機会の有無 (問 13)

問 13

最近1年間で、家族や親族以外の外国人と会話したり、一緒に活動したりするなど、コミュニケーションをとる機会がありましたか。【○は1つだけ】

最近1年間で外国人と「コミュニケーションをとった」という市民は24.2%で、全体の1/4程度を占めています。その割合は若い人ほど高くなっています。

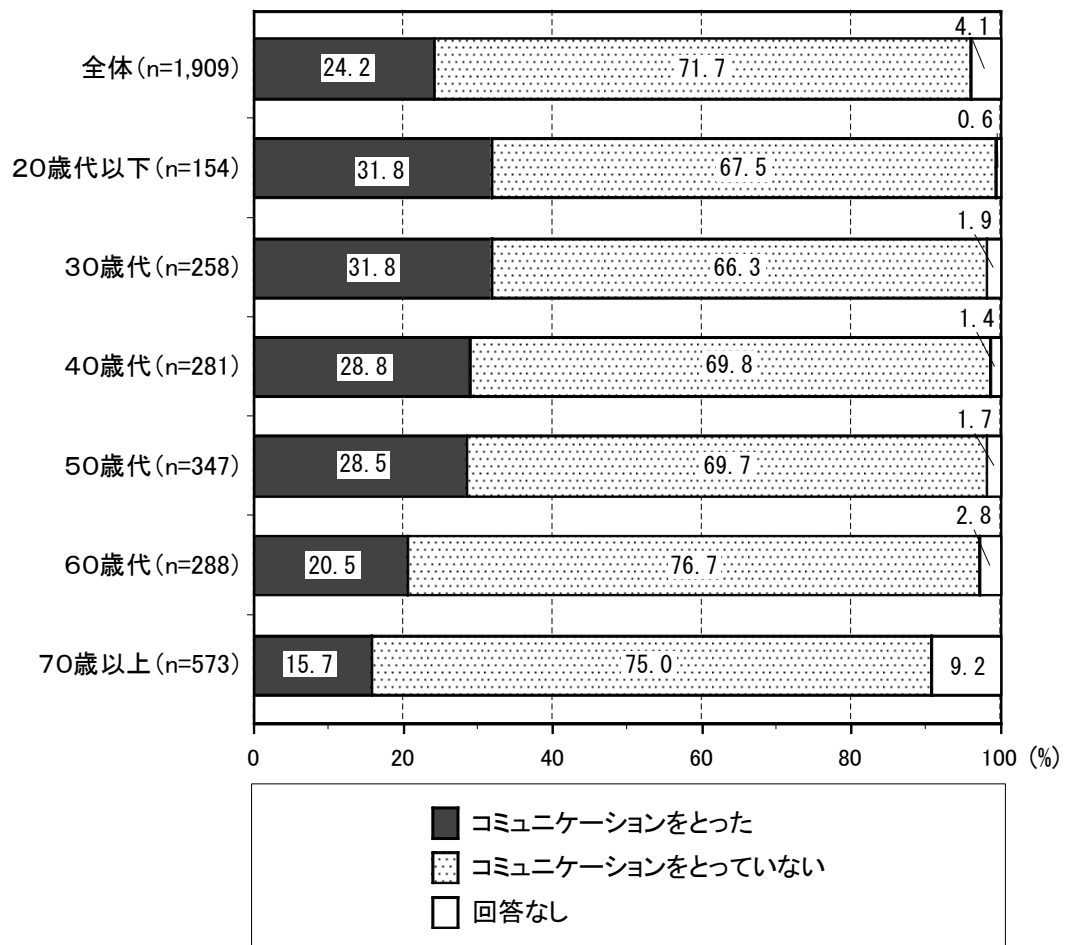
【全体】

○最近1年間で外国人と「コミュニケーションをとっていない」と回答した市民は71.7%に対して、「コミュニケーションをとった」は24.2%で、全体の1/4程度になっています。

【年齢別】

○年齢別にみると、「コミュニケーションをとった」と回答した割合は、年齢が若いほど増加する傾向がみられ、70歳以上が15.7%であるのに対して、20歳代以下と30歳代では共に31.8%となっています。

図表 Ⅲ-1 外国人とのコミュニケーションの機会の有無 (年齢別)

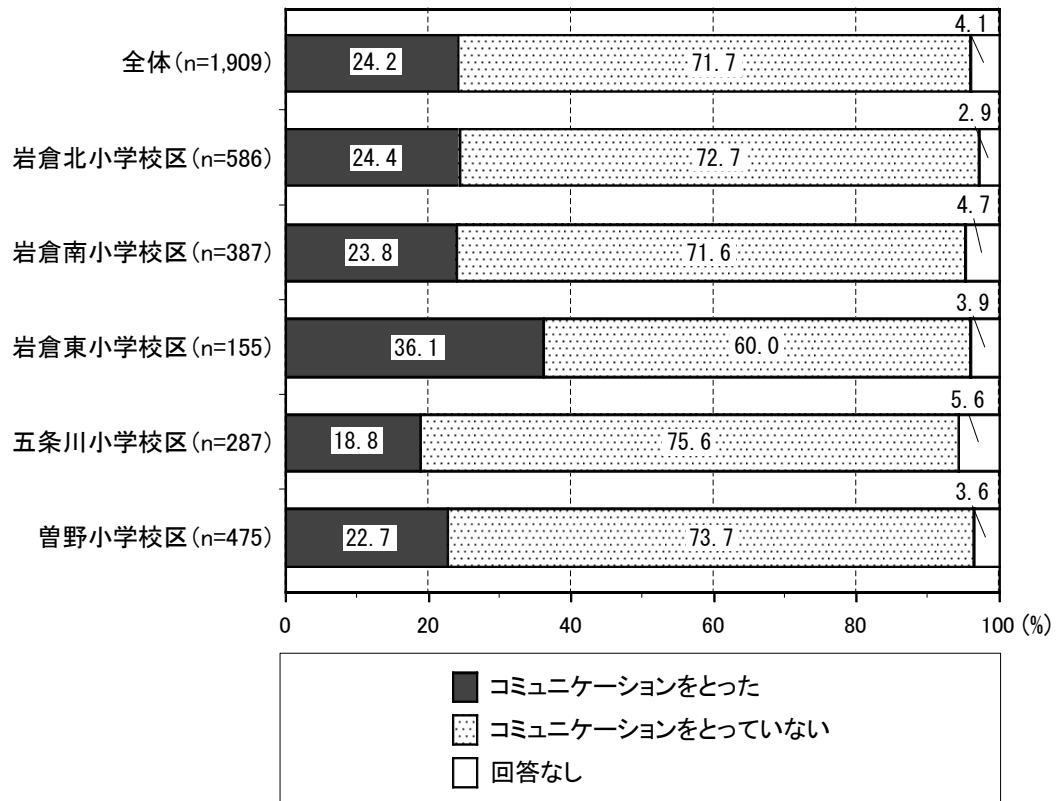


【小学校区別】

○小学校区別にみると、「コミュニケーションをとった」と回答した割合は、五条川小学校では 18.8%と全体平均よりも 5.4 ポイント低くなっています。

○一方、外国籍の居住者が多い岩倉東小学校区では 36.1%と全体平均よりも 11.9 ポイントも高くなっていることが特徴としてみられます。

図表 Ⅲ-2 外国人とのコミュニケーションの機会の有無（小学校区別）



(2) 外国人とのコミュニケーションの内容（問 13-1）

問 13-1

外国人とどんなコミュニケーションをとりましたか。

【あてはまるものすべてに○】

コミュニケーションの内容については、「外国人と簡単な会話をした」が 52.6%で最も多く、次いで「外国人と会ってあいさつをした」(47.2%)、「外国人と仕事をした」(25.3%)が多くなっています。

【全体】

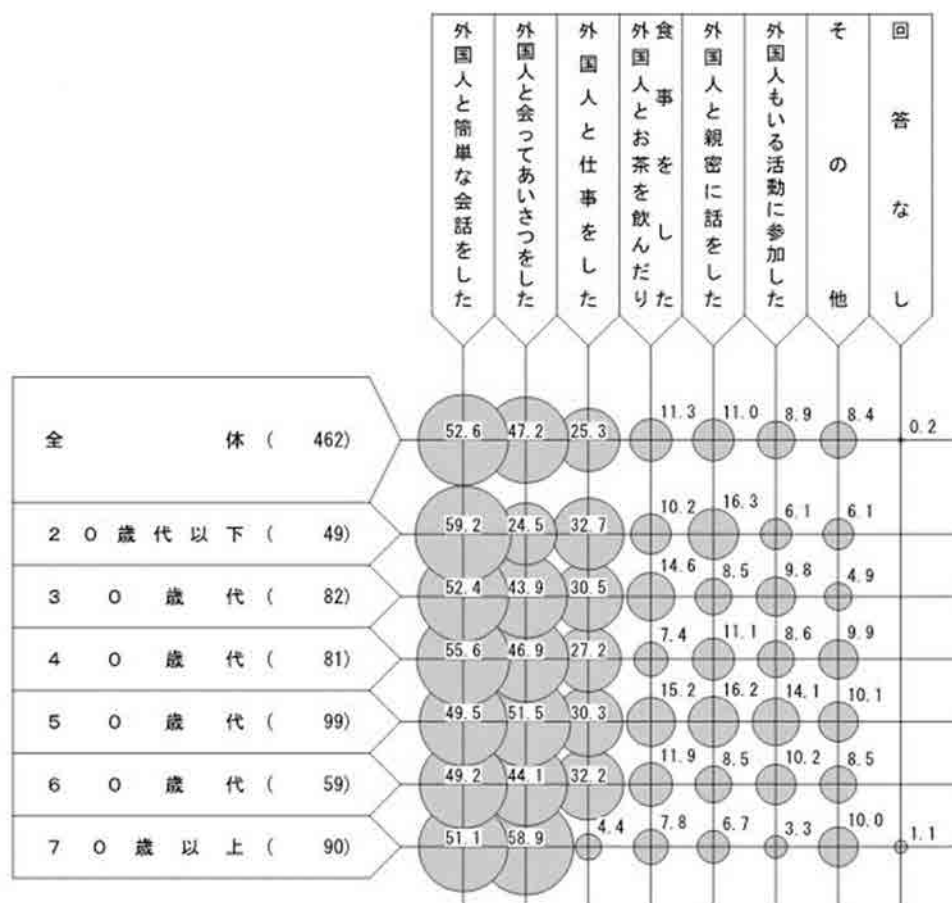
○最近 1 年間で外国人と「コミュニケーションをとった」と回答した 462 人に対して、コミュニケーションの内容について尋ねたところ、「外国人と簡単な会話をした」が 52.6%で最も多く、次いで「外国人と会ってあいさつをした」が 47.2%、「外国人と仕事をした」が 25.3%の順となっています。

【年齢別】

○年齢別にみると、「外国人と会ってあいさつをした」は、70 歳以上で 58.9%と多い一方で、20 歳代以下では 24.5%と少なくなっています。また、「外国人と仕事をした」は、20 歳代以下と 60 歳代においてそれぞれ 32.7%、32.2%と、どちらも 7 ポイント近く全体平均を上回っています。

○「外国人と親密に話をした」と「外国人もいる活動に参加した」の割合は、50 歳代で全体平均よりも若干多くなっています。

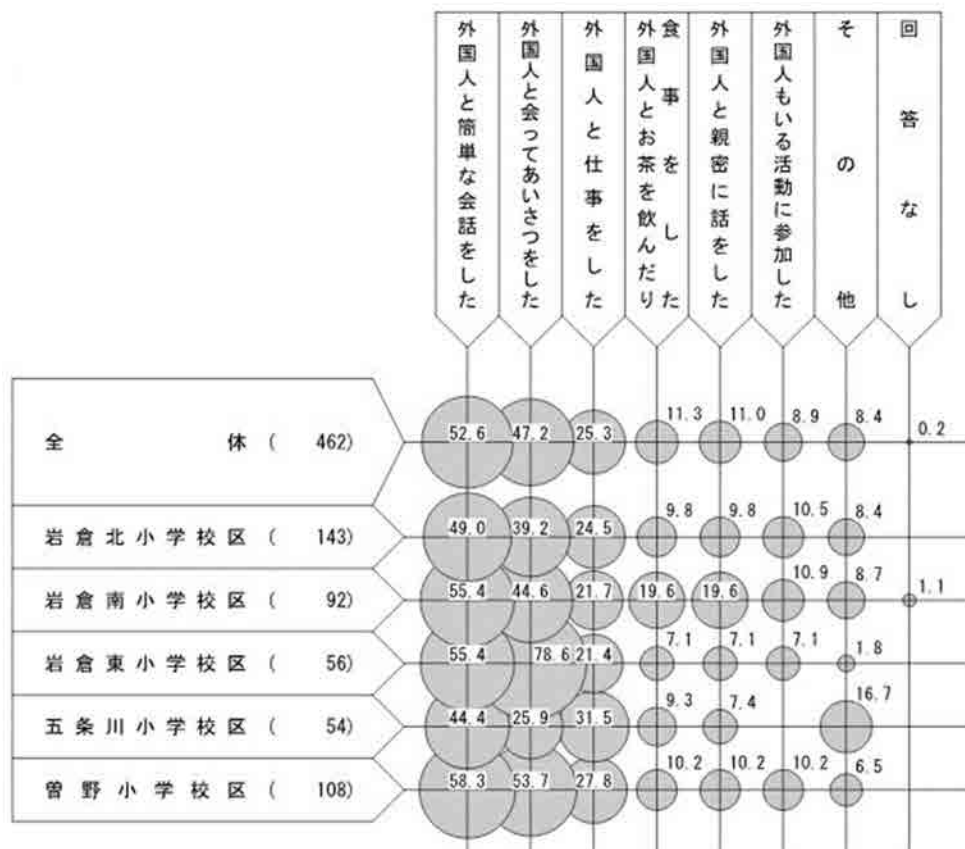
図表 Ⅲ-3 外国人とのコミュニケーションの内容（年齢別）



【小学校区別】

- 小学校区別にみると、「外国人と会ってあいさつをした」は、特に岩倉東小学校区で 78.6%と全体平均を 31.4 ポイントも上回っており際立って多くなっています。また、曾野小学校でも 53.7%と、全体平均を 6.5 ポイント上回っています。
- 「外国人と仕事をした」は、五条川小学校区において 31.5%と若干多くなっています。また、「外国人とお茶を飲んだり、食事をした」と「外国人と親密に話をした」については、岩倉南小学校区で共に 19.6%で他の小学校区に比べて多くなっています。

図表 Ⅲ-4 外国人とのコミュニケーションの内容（小学校区別）



(3) 多文化共生の認知度 (問 14)

問 14 「多文化共生」という言葉を聞いたことはありますか。【○は1つだけ】

多文化共生という言葉に“一定理解（内容も理解＋内容は何となく理解）している”という人は 45.6%”を占めています。

【全体】

○多文化共生という言葉「聞いたことがあり、内容もよく理解している」と回答した市民は 10.8%にとどまっていますが、「聞いたことはあり、内容は何となく理解している」の 34.8%と合わせた“一定理解（内容も理解＋内容は何となく理解）している”という人は 45.6%”を占めています。

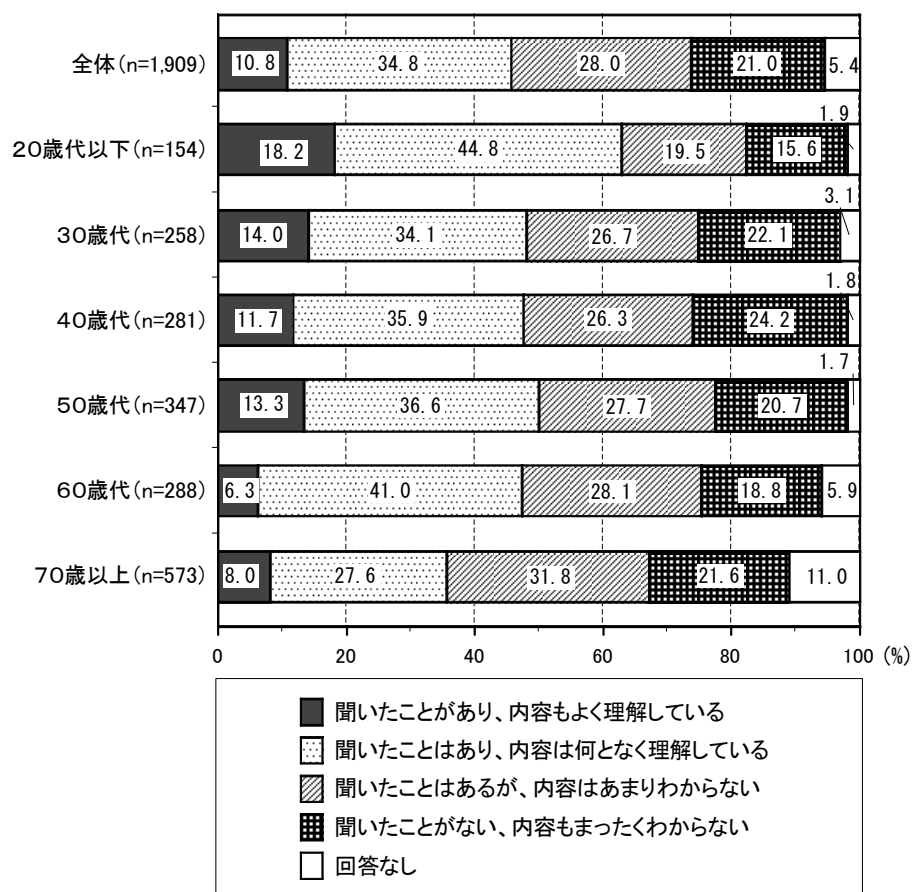
○“一定理解している”に「聞いたことはあるが、内容はあまり知らない」の 28.0%を加えると、“多文化共生という言葉聞いたことがある”という人は 73.6%になります。

○しかしながら、「聞いたことはない、内容もまったくわからない」という人も 21.0%を占め、決して少ないとはいえません。

【年齢別】

○年齢別にみると、年齢が若い層ほど“一定理解している”の割合がおおむね高くなる傾向がみられ、70 歳以上で 35.6%であるのに対して、20 歳代以下では 63.0%と過半数を占めています。

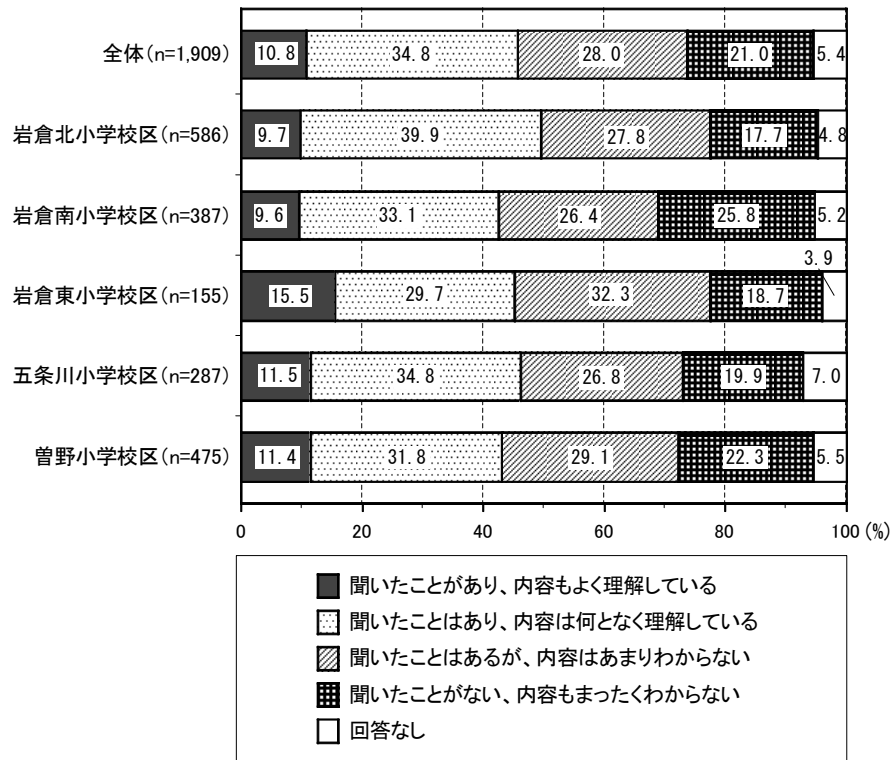
図表 Ⅲ-5 多文化共生の認知度（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別による有意な差はみられません。

図表 Ⅲ-6 多文化共生の認知度（小学区別）



(4) 外国人にとって暮らしやすくするための実践事項（問 15）

問 15

外国人住民にとって暮らしやすくするために、あなたが実践している、または実践したいと思うことは何ですか。【あてはまるものすべてに○】

68.2%の市民が、外国人住民にとって暮らしやすくするための取組を何らか実践している・実践したいと思っており、「あいさつや日常会話をする」が 45.4%で最も多くなっています。

【全体】

○外国人にとって暮らしやすくするために実践していること・実践したいことについて尋ねたところ、「特になし」の 25.3%と「回答なし」の 6.5%を合わせた 31.8%を除く 68.2%の市民が、外国人住民にとって暮らしやすくするための取組を何らか実践している・実践したいと思っています。

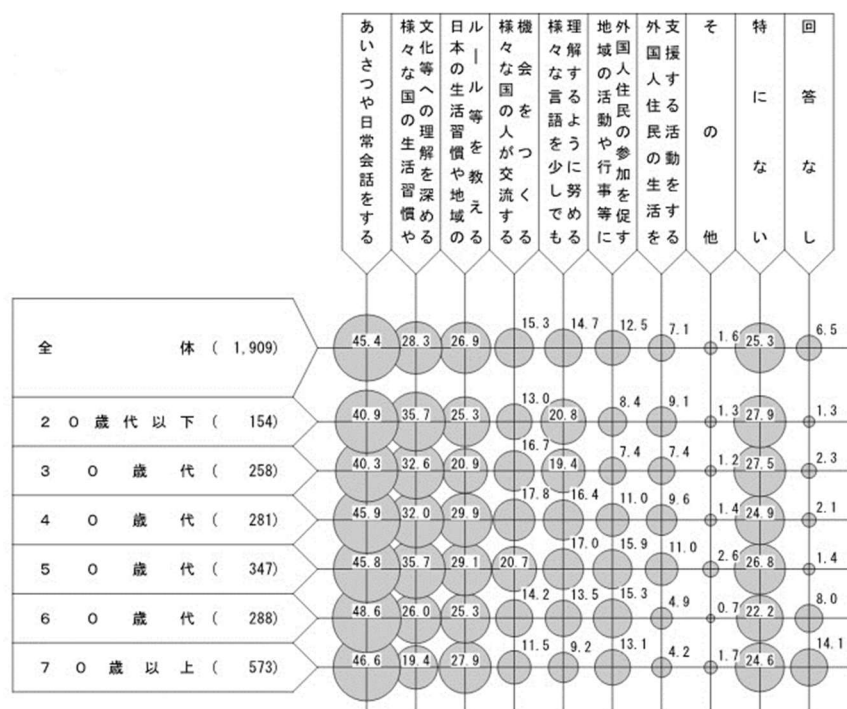
○実践事項としては、「あいさつや日常会話をする」が 45.4%で最も多く、次いで「様々な国の生活習慣や文化等への理解を深める」が 28.3%、「日本の生活習慣や地域のルール等を教える」が 26.9%の順となっています。

【年齢別】

○全般的にみて年齢による大きな差はみられませんが、「様々な国の生活習慣や文化等への理解を深める」については、20 歳代以下と 50 歳代で共に 35.7%と全体平均を 7.4 ポイント上回っている一方で、70 歳以上で 19.4%と全体平均を 8.9 ポイント下回っています。

○また、「様々な国の人が交流する機会をつくる」については 50 歳代で、「様々な言語を少しでも理解するように努める」については 20 歳代以下で、それぞれ 5 ポイントを超えて全体平均を上回っています。

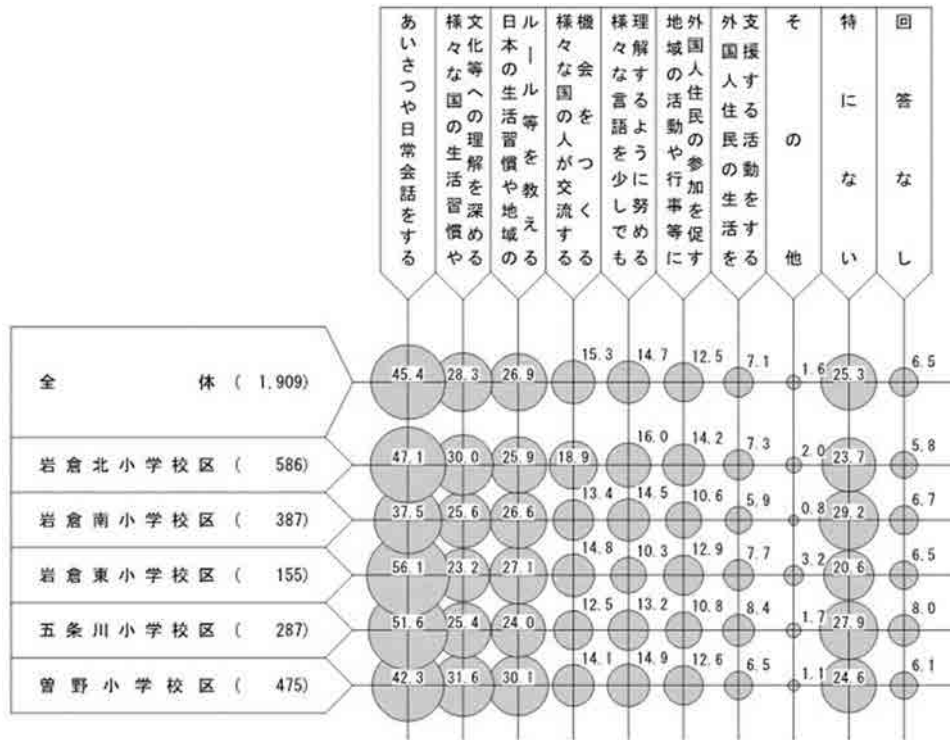
図表 Ⅲ-7 外国人にとって暮らしやすくするための実践事項（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別にみると、岩倉東小学校区において「あいさつや日常会話をする」が56.1%と、全体平均を10.7ポイント上回っている一方で、「様々な国の生活習慣や文化等への理解を深める」が23.2%と、他の小学校区に比べて低くなっていることが特徴としてみられます。

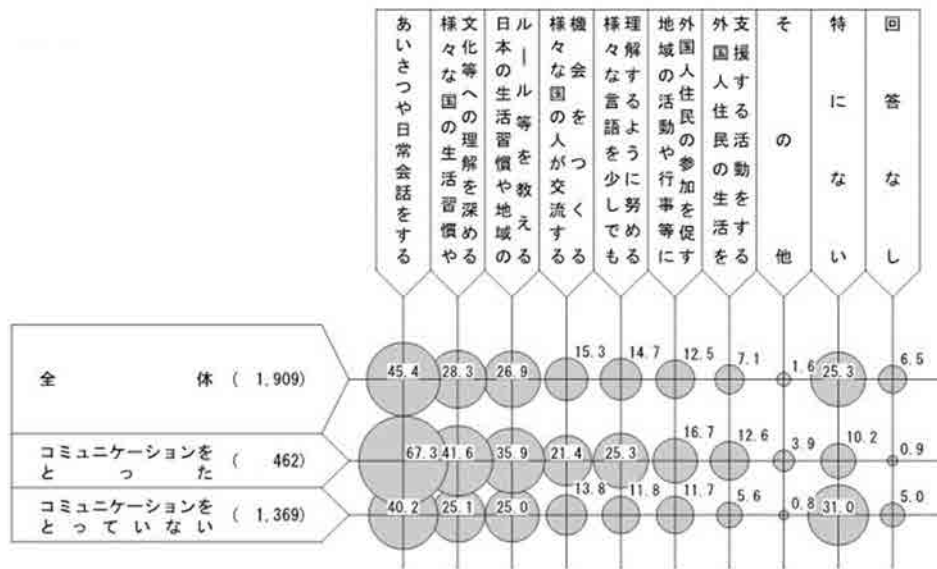
図表 Ⅲ-8 外国人にとって暮らしやすくするための実践事項（小学校区別）



【外国人とのコミュニケーションの機会の有無別】

- 外国人とのコミュニケーションの有無別にみると、最近1年間で外国人と「コミュニケーションをとった」という人の方が、「あいさつや日常会話をする」(67.3%をはじめとしたすべての項目にわたって割合が高くなっていることが特徴としてみられます。
- まずは外国人と何らかの接点を持つこと・コミュニケーションをとることが、実践的な取組の広がりにつながっていく可能性を示唆する結果となっています。

図表 Ⅲ-9 外国人にとって暮らしやすくするための実践事項
(外国人とのコミュニケーションの機会の有無別)



IV. 岩倉駅東地区のまちづくり

Ⅳ. 岩倉駅東地区のまちづくり

(1) 岩倉駅東地区のあり方（問16）

問 16

岩倉市では、岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区で都市計画道路桜通線の整備を進めています。あなたは、岩倉駅東地区がこれからどのようなになると良いと思いますか。【○は3つまで】

92.4%の市民は、岩倉駅東地区のあり方について、何らかの考えを持っています。岩倉駅東地区のあり方については、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」が53.4%で最も高く、次いで「駅のまわりが賑やかになり、まちに活気が生まれる」、「道路が整備されて交通の流れがスムーズになる」の順となっており、主に利便性や賑わいに対する期待が大きいといえます。

また、回遊性や美観、安全性といった面に対する回答の割合も高く、多様な面にわたって期待されていることがうかがえます。

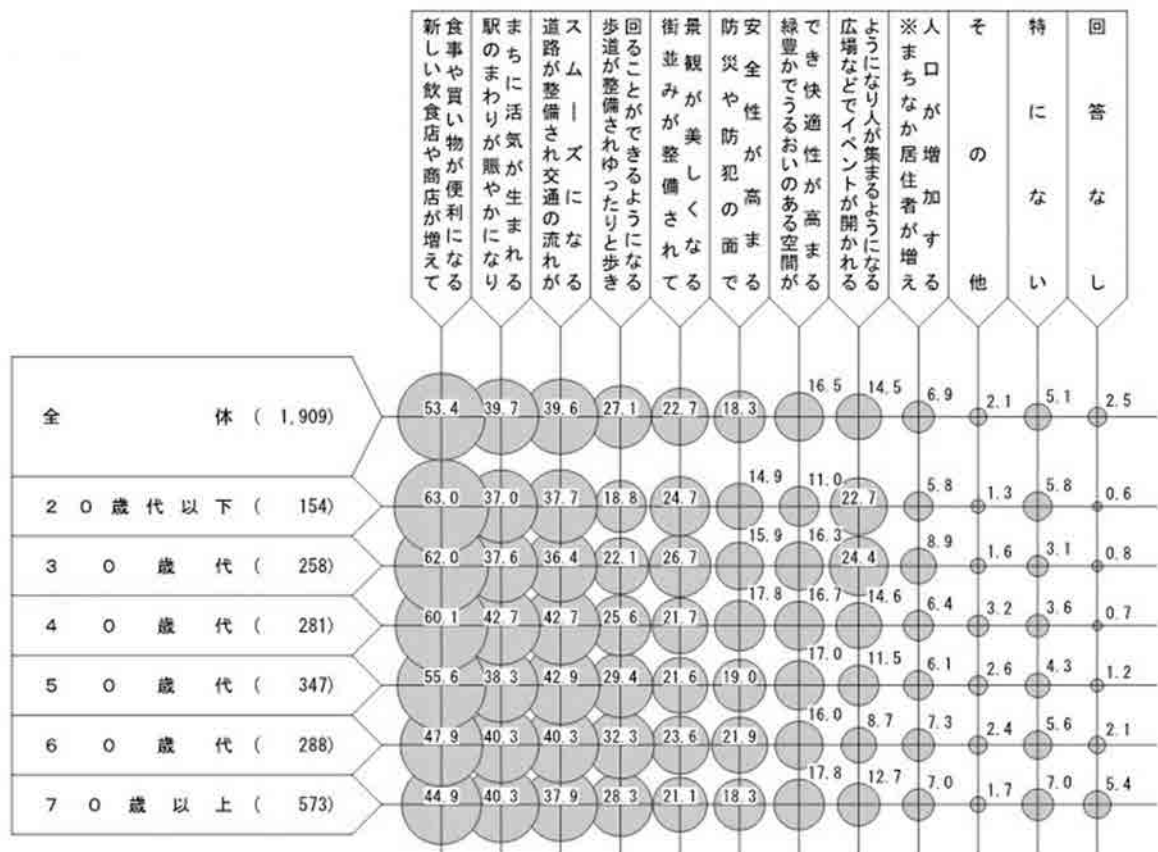
【全体】

- 「特になし」の5.1%と、「回答なし」の2.5%を合わせた7.6%を除く92.4%の市民は、岩倉駅東地区のあり方について何らかの考えを持っています。
 - 岩倉駅東地区のあり方については、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」が53.4%で最も高く、次いで「駅のまわりが賑やかになり、まちに活気が生まれる」が39.7%、「道路が整備されて交通の流れがスムーズになる」は39.6%の順となっており、主に利便性や賑わいに対する期待が大きいといえます。
 - また、「歩道が整備されてゆったりと歩き回ることができるようになる」が27.1%、「街並みが整備されて景観が美しくなる」は22.7%、「防災や防犯の面で安全性が高まる」が18.3%となっており、回遊性や美観、安全性といった面に対する回答の割合も高く、多様な面にわたって期待されています。
-

【年齢別】

- 年齢別にみると、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」は、若年層ほど割合が高くなる傾向がみられ、20歳代以下が63.0%で最も高く、最も低い70歳以上の44.9%と18.1ポイントの差がみられます。
- また、「歩道が整備されてゆったりと歩き回ることができるようになる」については、60歳代が32.3%と全体平均を5.2ポイント上回っている一方で、20歳代以下が18.8%、30歳代が22.1%と、他の年齢層と比べてやや低くなっています。
- 「広場などでイベントが開かれるようになり、人が集まるようになる」については、他の年齢層と比べて20歳代以下（22.7%）と30歳代（24.4%）からやや強く期待されています。

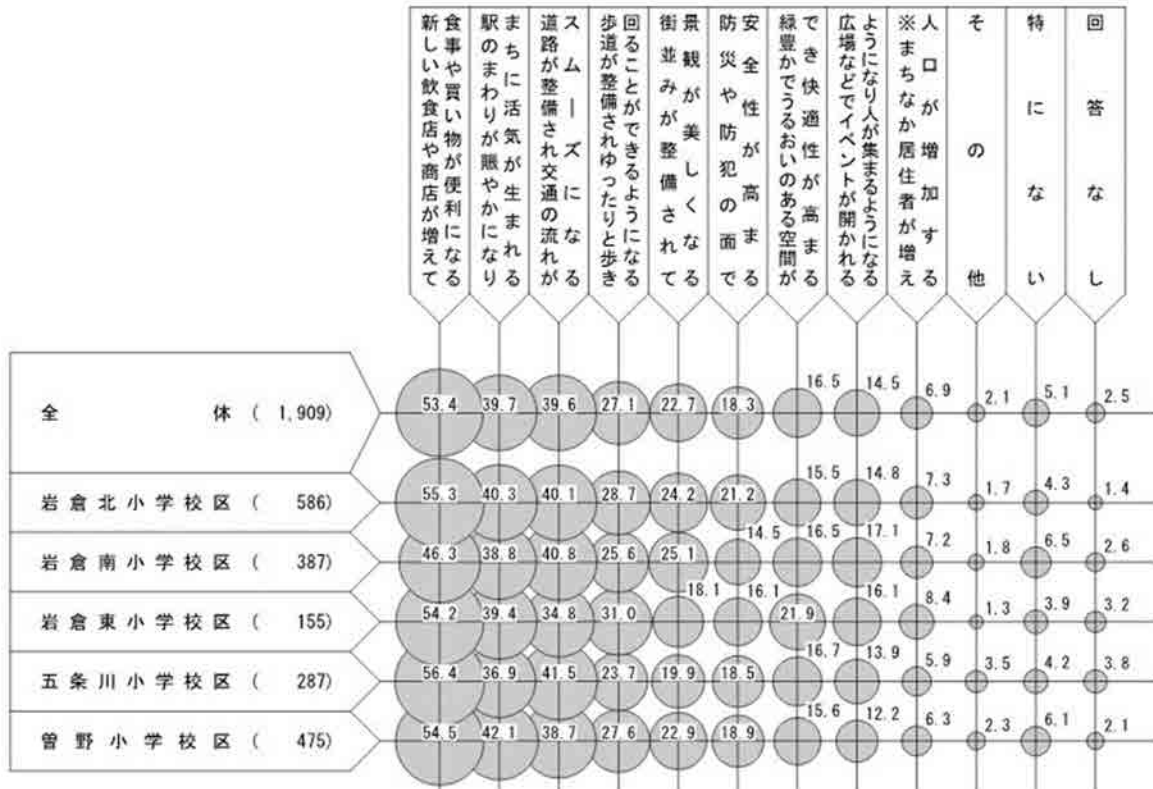
図表 IV-1 岩倉駅東地区のあり方（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別にみると、岩倉駅から離れている岩倉南小学校区において「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」の割合が46.3%と他の小学校区と比べて低めになっているものの、全般的にみて小学校区による大きな差はみられません。

図表 IV-2 岩倉駅東地区のあり方（小学校区別）



(2) 岩倉駅東地区への関わり方（問 17）

問 17

あなたは、岩倉駅東地区のまちにどのように関わりたいと思いますか。
【〇は3つまで】

71.2%の市民は、何らかの形で岩倉駅東地区に関わると回答しています。

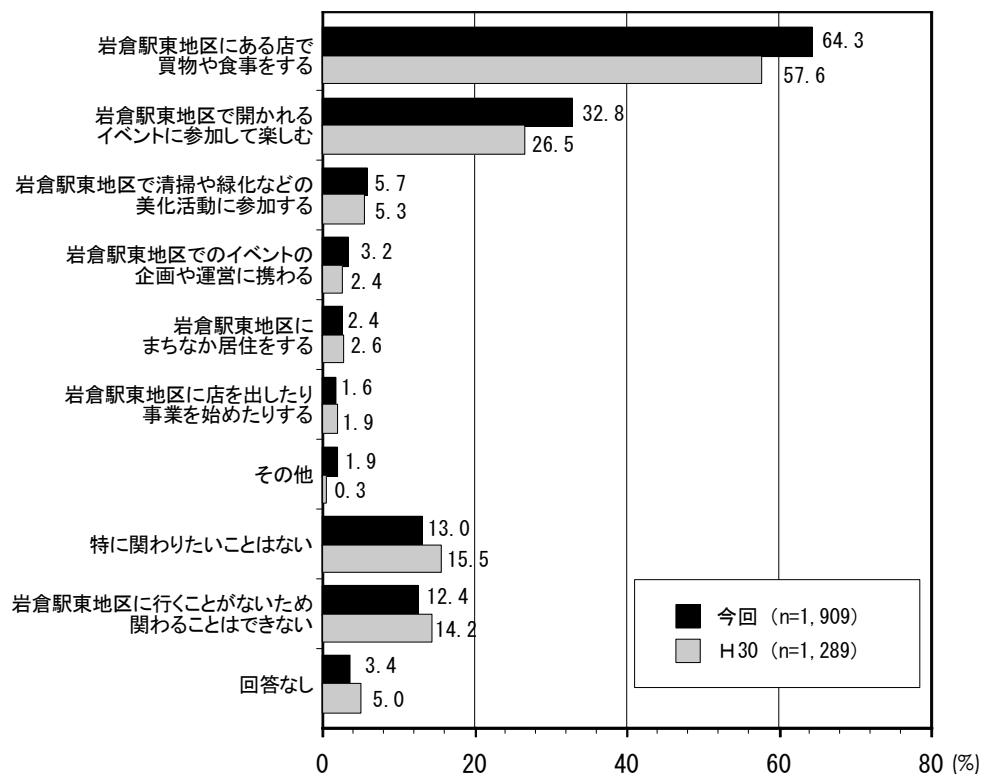
「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」が64.3%で最も高く、次いで「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」の32.8%となっています。

「岩倉駅東地区で清掃や緑化などの美化活動に参加する」などといった、岩倉駅東地区にお客としてではなく主体的に関わりたいという意向を持つ市民は、いずれも数パーセントですが、実人数に換算するとかなりの人数になります。

【全体】（前回比較）

- 「特に関わりたいことはない」の13.0%と「岩倉駅東地区に行くことがないため、関わることはできない」の12.4%に、回答なしの3.4%を加えた28.8%を除く71.2%の市民は、何らかの形で岩倉駅東地区に関わると回答しています。平成30年調査65.3%よりも5.9ポイント上昇しています。
- 「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」が64.3%で最も高く、次いで「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」の32.8%となっています。平成30年調査に比べると、それぞれ6.7ポイント、6.3ポイント上昇しています。
- 「岩倉駅東地区で清掃や緑化などの美化活動に参加する」や「イベントの企画や運営に携わる」、「店を出したり事業を始めたりする」といった、岩倉駅東地区にお客としてではなく主体的に関わりたいという意向を持つ市民は、いずれも数パーセントですが、実人数に換算するとかなりの人数になります。

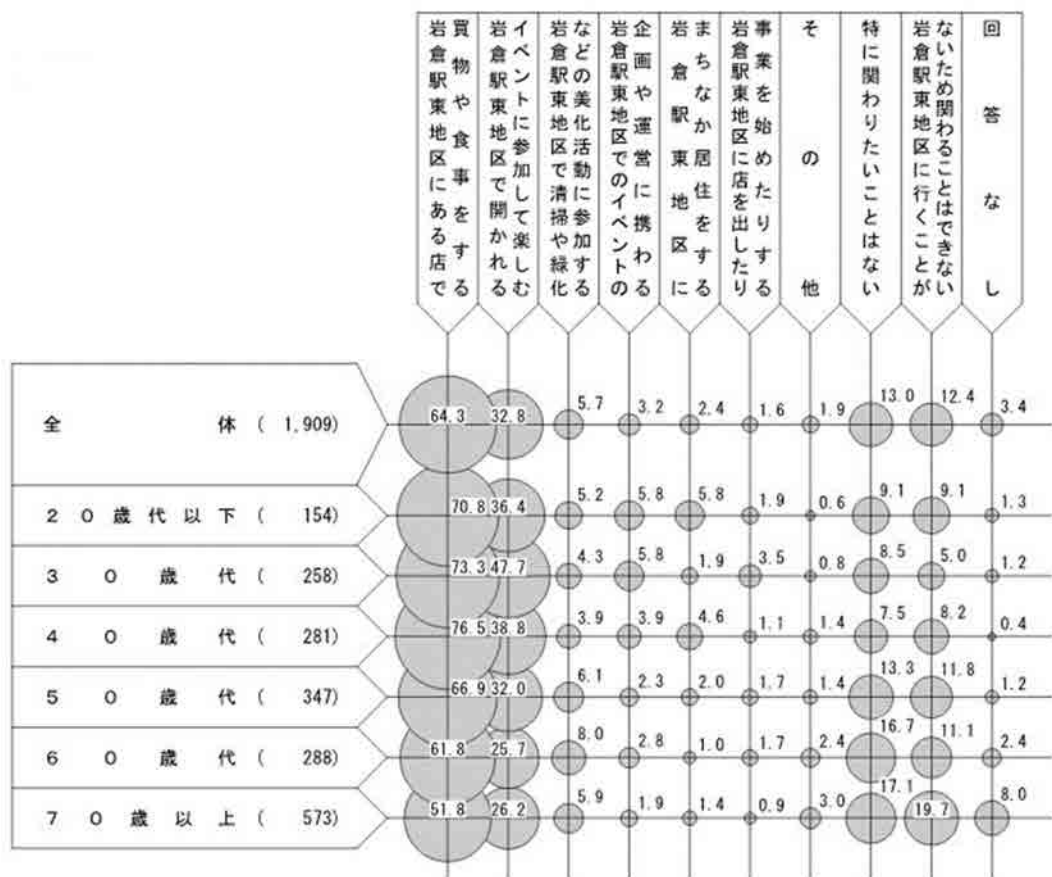
図表 IV-3 岩倉駅東地区への関わり方（前回比較）



【年齢別】

- 年齢別でみると、「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」については、40歳代が76.5%で最も高く、30歳代（73.3%）や20歳代以下（70.8%）といった通勤通学等で駅を利用する機会が多い若年層や中高年層において割合が高くなっています。
- 「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」については、30歳代が47.7%と他の年齢層と比べて高くなっています。
- 他の年齢層と比べて30歳代や40歳代は、岩倉駅東地区のまちとの関わりに対する意欲が高い年齢層であるといえます。

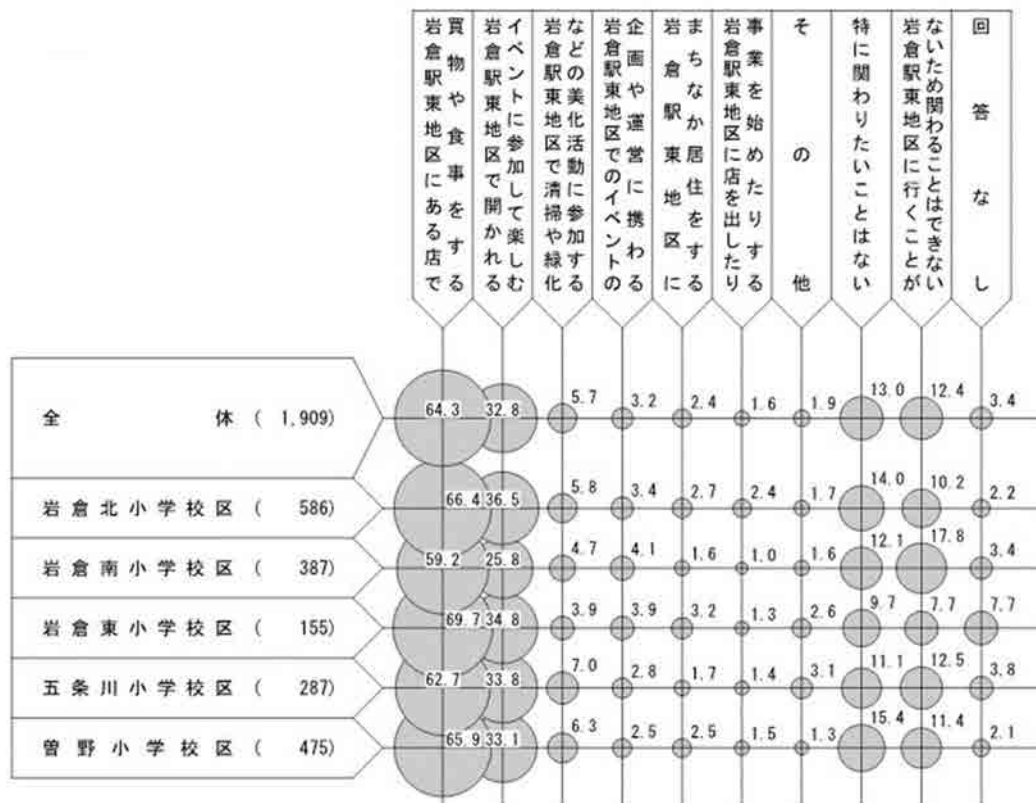
図表 IV-4 岩倉駅東地区への関わり方（年齢別）



【小学校區別】

- 全般的にみて小学校区による大きな差はみられませんが、「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」は岩倉東小学校区において 69.7%と全体平均に比べて 5.4 ポイント高くなっています。
- また、岩倉駅から離れている岩倉南小学校区に在住する市民は、「岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする」(59.2%)と「岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ」(25.8%)の回答割合が他の小学校区に比べて低い一方で、「岩倉駅東地区に行くことがないため関わることはできない」が 17.8%と若干高くなっていることが特徴としてみられます。

図表Ⅳ-5 岩倉駅東地区への関わり方（小学校区別）



V. 少子化対策

V. 少子化対策

(1) 少子化に対する危機感（問 18）

問 18

あなたは、出生率の低下に伴う子ども数の減少について危機感を覚えていますか。【○は1つだけ】

少子化に対して“危機感を覚えている”という市民は、71.3%を占めています。36.6%の市民が強い危機感を覚えています。

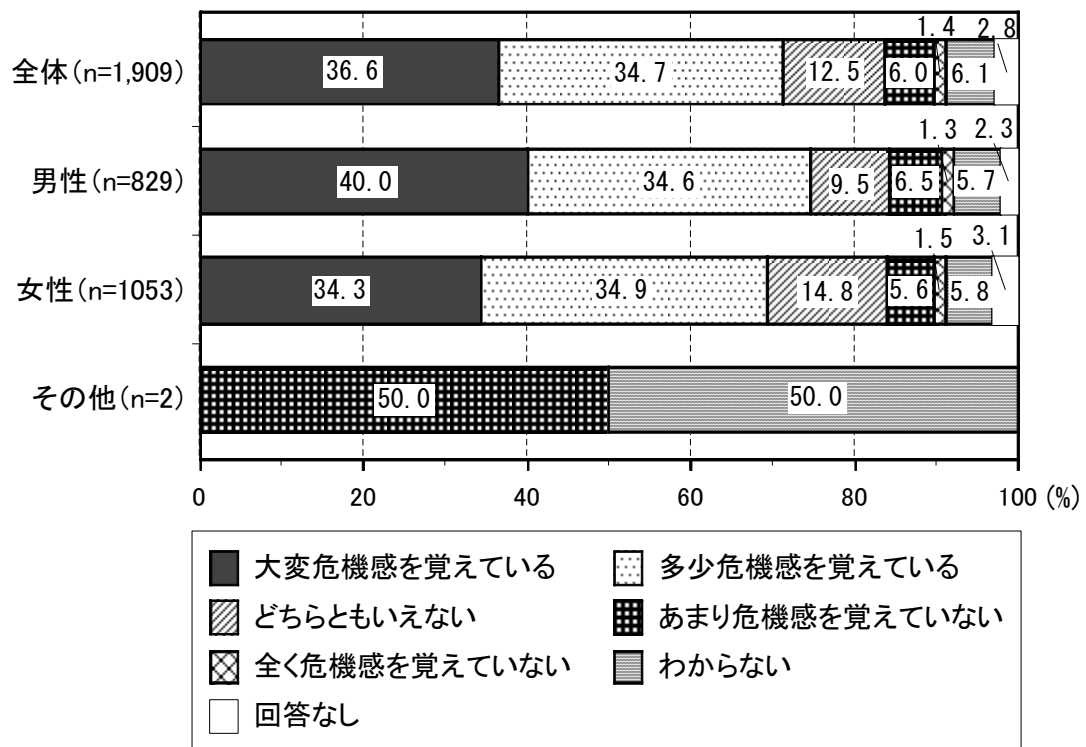
【全体】

- 少子化に対して「大変危機感を覚えている」と回答した市民は、36.6%を占めており、「多少危機感を覚えている」の34.7%と合わせると“危機感を覚えている”は71.3%を占めています。
- これに対して、「全く危機感を覚えていない」は1.4%で、「あまり危機感を覚えていない」の6.0%と合わせても“危機感を覚えていない”という市民は7.4%と少なくなっています。

【性別】

- 女性よりも男性の方が危機感を覚えている人がやや多い傾向があります。

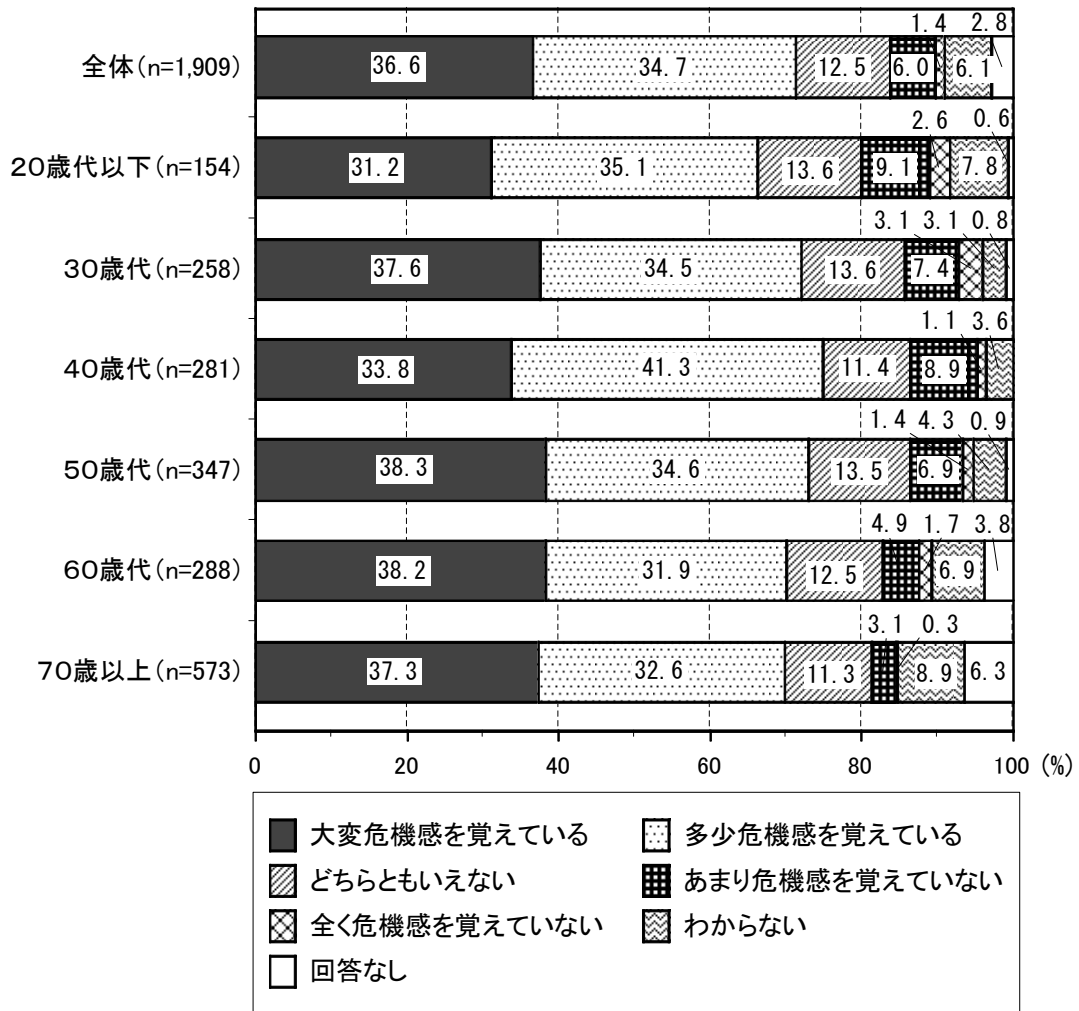
図表 V-1 少子化に対する危機感（性別）



【年齢別】

○年齢の違いによる有意な差はみられません。

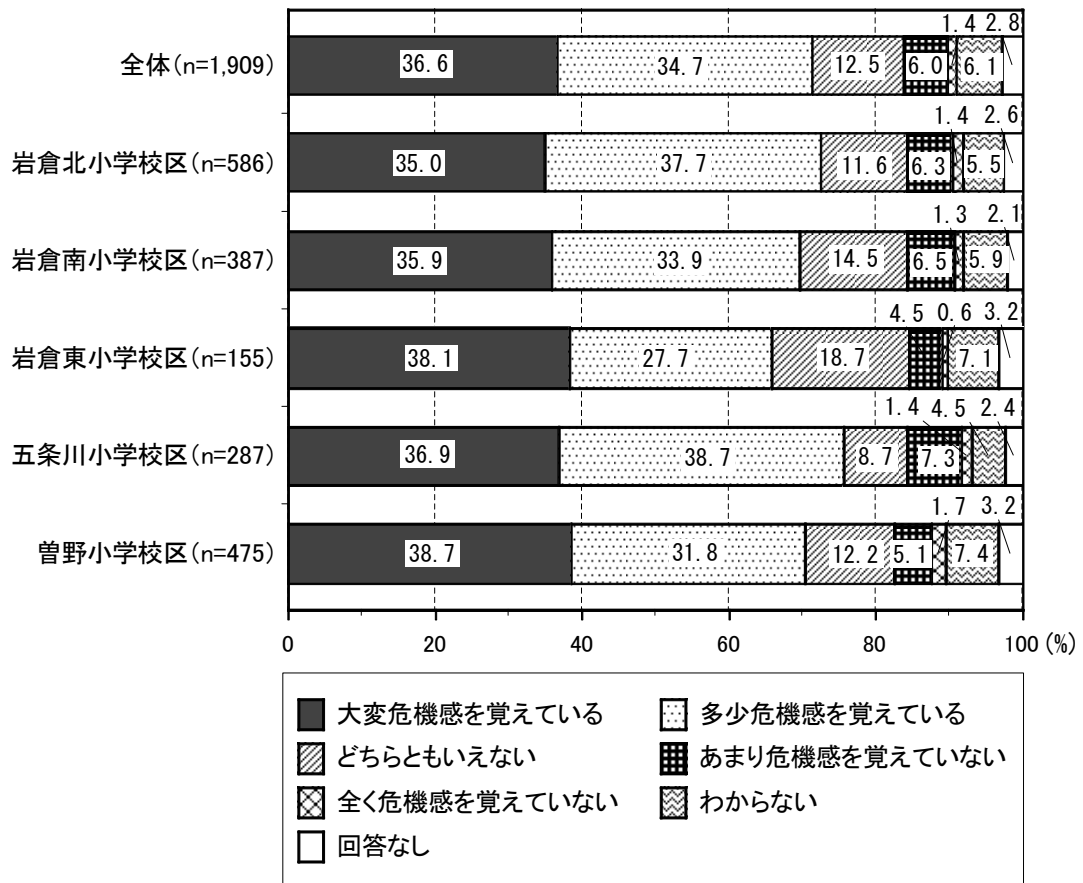
図表 V-2 少子化に対する危機感（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別にみると、岩倉東小学校区において“危機感を覚えている”の割合が65.8%で全体平均よりも5.5ポイント下回っていますが、全般的にみて小学校区による少子化の危機感に大きな差はみられません。

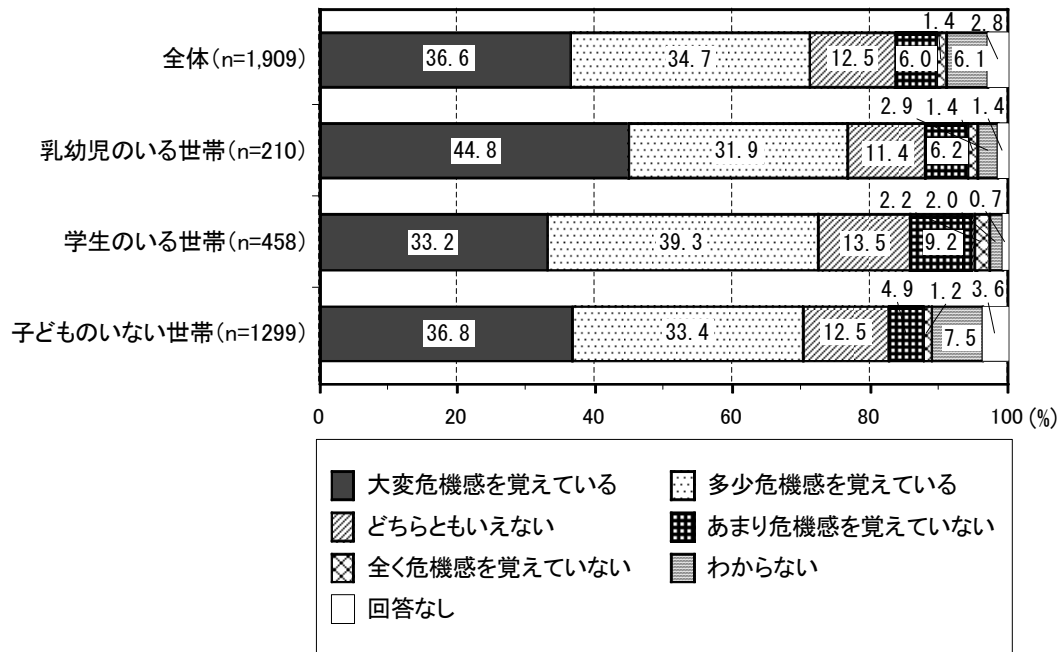
図表 V-3 少子化に対する危機感（小学校区別）



【世帯の構成者別】

○子どものいる世帯の中でも乳幼児のいる世帯では「大変危機感を覚えている」が44.8%を占めており、全体平均を8.2ポイント上回っており、少子化に対する危機感が強く表れています。

図表 V-4 少子化に対する危機感（世帯の構成者別）



(2) 有効だと思う少子化対策（問 19）

問 19

あなたは、少子化対策としてどのような取り組みを充実して進めることが有効だと思いますか。【○は5つまで】

「妊娠・出産の支援体制の確保」が 43.5%で最も多く、次いで「教育費負担の軽減」、「育児休業制度や仕事と家庭の両立支援の普及」、「若者の自立した生活と就労の促進」の順になっています。

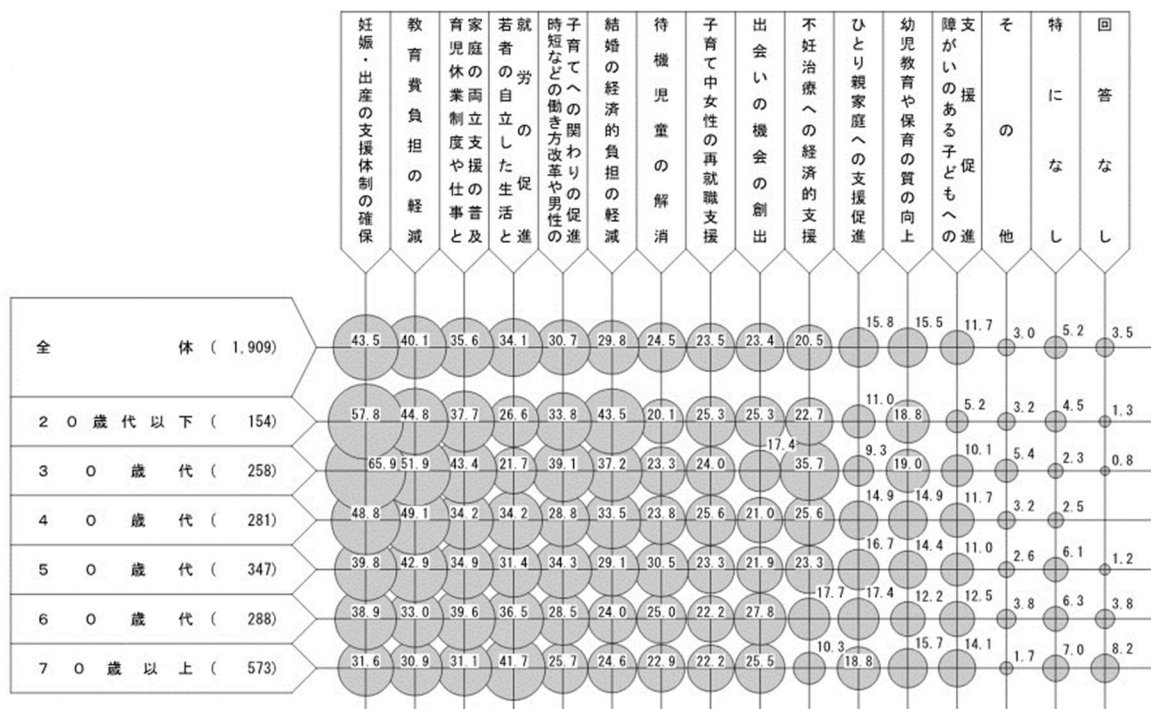
【全体】

- 充実して進めることが有効だと思う少子化対策について尋ねたところ、「妊娠・出産の支援体制の確保」が 43.5%で最も多くなっています。
- 次いで「教育費負担の軽減」が 40.1%、「育児休業制度や仕事と家庭の両立支援の普及」が 35.6%、「若者の自立した生活と就労の促進」が 34.1%、「時短などの働き方改革や男性の子育てへの関わりの促進」が 30.7%の順になっています。

【年齢別】

- 「妊娠・出産の支援体制の確保」については、特に 30 歳代と 20 歳代以下でそれぞれ、65.9%、57.8%と多くなっています。「教育費負担の軽減」については、30 歳代（51.9%）に加えて 40 歳代（49.1%）で多くなっています。
- 「育児休業制度や仕事と家庭の両立支援の普及」と「時短などの働き方改革や男性の子育てへの関わりの促進」については、共に 30 歳代（43.4%、39.1%）、「結婚の経済的負担の軽減」については、これから結婚期を迎える 20 歳代以下（43.5%）に加えて 30 歳代（37.2%）、「不妊治療への経済的支援」については、出産期の年代層である 30 歳代（35.7%）といった若い年齢層における割合が多くなっています。
- 一方、「若者の自立した生活と就労の促進」については、30 歳代（21.7%）をはじめ 20 歳代以下（26.6%）の若い年齢層では割合が少なく、70 歳以上（41.7%）をはじめとした中高年層における割合が多くなっています。

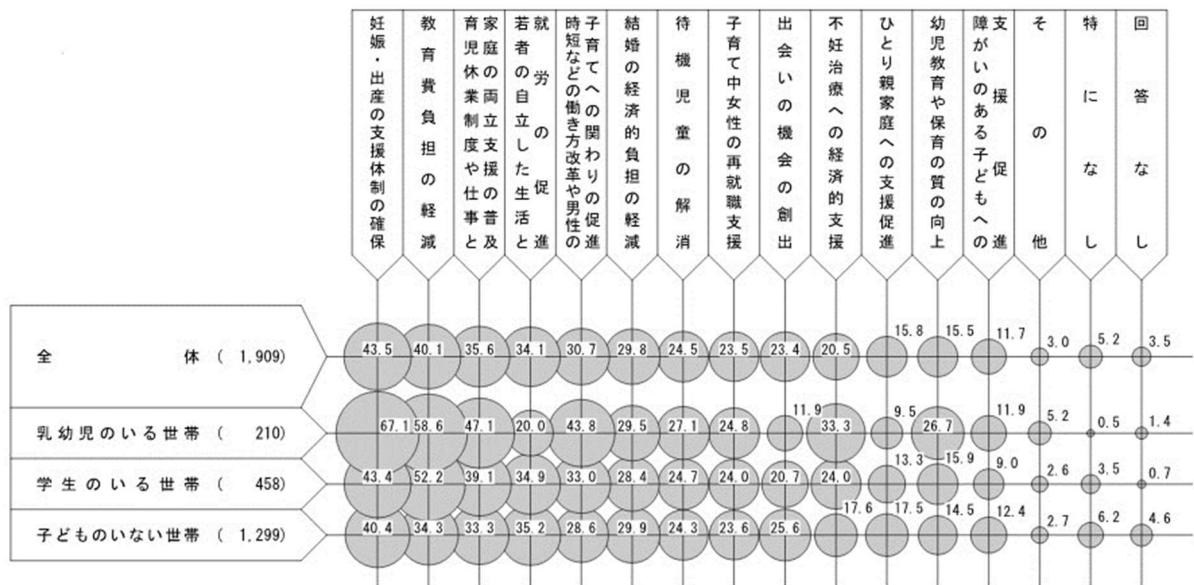
図表 V-5 有効だと思う少子化対策（年齢別）



【世帯の構成者別】

- 「若者の自立した生活と就労の促進」と「出会いの機会の創出」、「ひとり親家庭への支援促進」の3項目を除く、「妊娠・出産の支援体制の確保」や「教育費負担の軽減」をはじめとした残りの10項目の少子化対策については、乳幼児のいる世帯の割合が多くなっていることが特徴としてみられます。
- 「教育費負担の軽減」については、学生のいる世帯においても52.2%と多くなっています。

図表 V-6 有効だと思う少子化対策（世帯の構成者別）



(3) 少子化対策を充実していく上での考え方 (問 20)

問 20

少子化対策を充実していく上での考え方のうち、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。【○は1つだけ】

“市が予算を増額していくべき”という考えにある市民は、50.1%を占めており、“市の予算は現在と同額程度”という考え方を持つ市民の 34.9%を 15.2 ポイント上回っています。

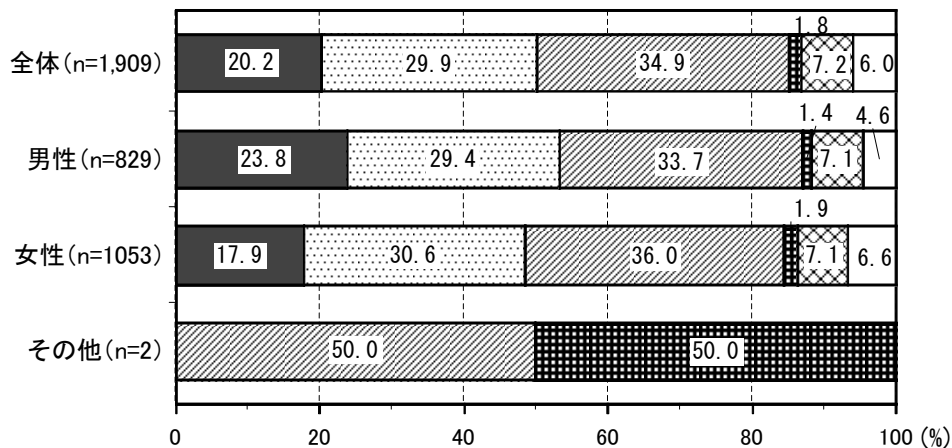
【全体】

- 少子化対策を充実していく上での財源の考え方について尋ねたところ、「少子化対策を充実していく必要はあるが、市の予算は現在と同額程度で、国や県の予算投入を増額していくべき」が 34.9%で最も多くなっています。
- 一方、「少子化対策を充実していくためには、市が多少は予算を増額していくべき」が 29.9%、「少子化対策を充実していくためには、市が大幅に予算を増額していくべき」が 20.2%の順になっています。これらを足し合わせた“市が予算を増額していくべき”という考えにある市民は、50.1%を占めており、“市の予算は現在と同額程度”という考え方を持つ市民を 15.2 ポイント上回っています。
- なお、「少子化対策を特に充実して進める必要はない・これまで通りでよい」という考えを持った市民も 7.2%みられます。

【性別】

- 性別による大きな差はみられないものの女性よりも男性の方が“市が予算を増額していくべき”という考えを持った人の割合が、どちらかと言えば多い傾向がみられます。

図表 V-7 少子化対策を充実していく上での考え方 (性別)

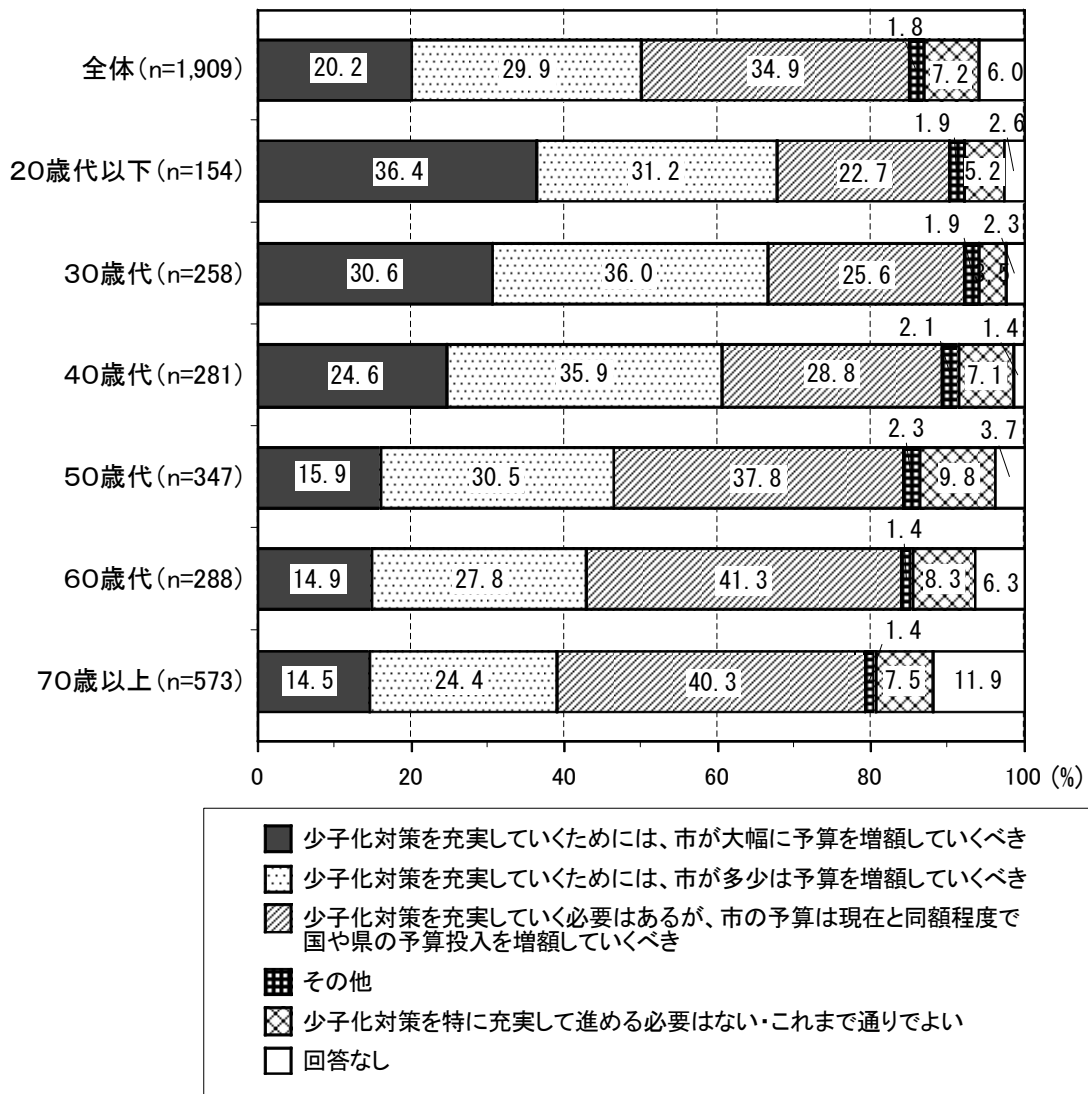


- 少子化対策を充実していくためには、市が大幅に予算を増額していくべき
- ▨ 少子化対策を充実していくためには、市が多少は予算を増額していくべき
- ▩ 少子化対策を充実していく必要はあるが、市の予算は現在と同額程度で国や県の予算投入を増額していくべき
- その他
- ▩ 少子化対策を特に充実して進める必要はない・これまで通りでよい
- 回答なし

【年齢別】

○年齢が若い層ほど、“市が予算を増額していくべき”の割合が多くなる傾向がみられます。しかも「少子化対策を充実していくためには、市が大幅に予算を増額していくべき」という割合は、70歳以上では14.5%であるのに対して、20歳代以下では36.4%で一番多くなっています。

図表 V-8 少子化対策を充実していく上での考え方（年齢別）



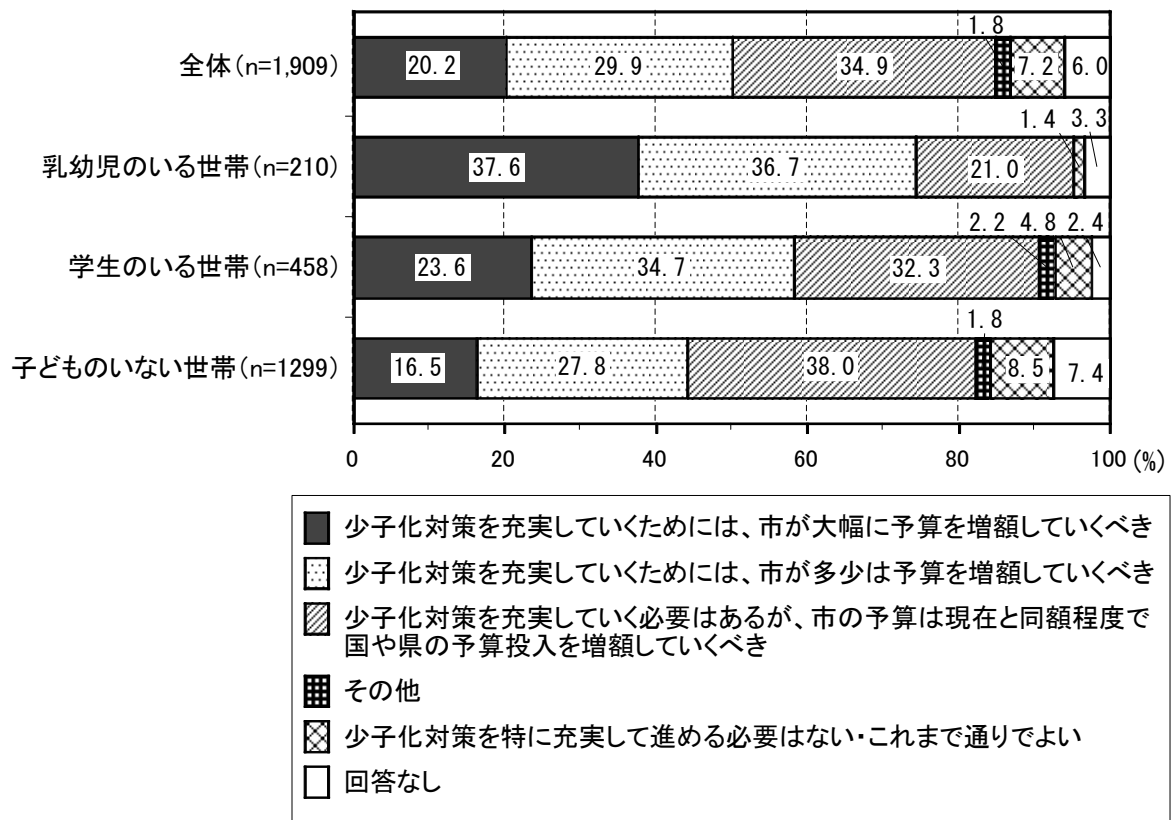
【世帯の構成者別】

○子どものいる世帯では、“市が予算を増額していくべき”という考えにある市民が多い傾向がみられます。

○具体的には、乳幼児のいる世代では、「少子化対策を充実していくためには、市が大幅に予算を増額していくべき」が 37.6%で最も多く、“市が予算を増額していくべき”という考えにある市民は合わせて 74.3%を占め、“市の予算は現在と同額程度”の割合を 53.3 ポイントも上回っています。

○学生のいる世帯でも、“市が予算を増額していくべき”という考えにある市民は合わせて 58.3%を占め、“市の予算は現在と同額程度”の割合を 26.0 ポイントも上回っています。

図表 V-9 少子化対策を充実していく上での考え方（世帯の構成者別）



VI. 市政への参加や近所づきあい

VI. 市政への参加や近所づきあい

(1) 市民の意見の市政への反映で重要なこと (問 21)

問 21

市民の意見を十分に反映した市政を行っていくために、何が重要だと思いますか。【○は2つまで】

93.0%の市民は、市民の意見を十分反映した市政を行っていくために何らかの重要なことがあると回答しています。重要なこととしては、「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」が40.6%で最も高く、次いで「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」、「市政情報の公開」の順となっています。

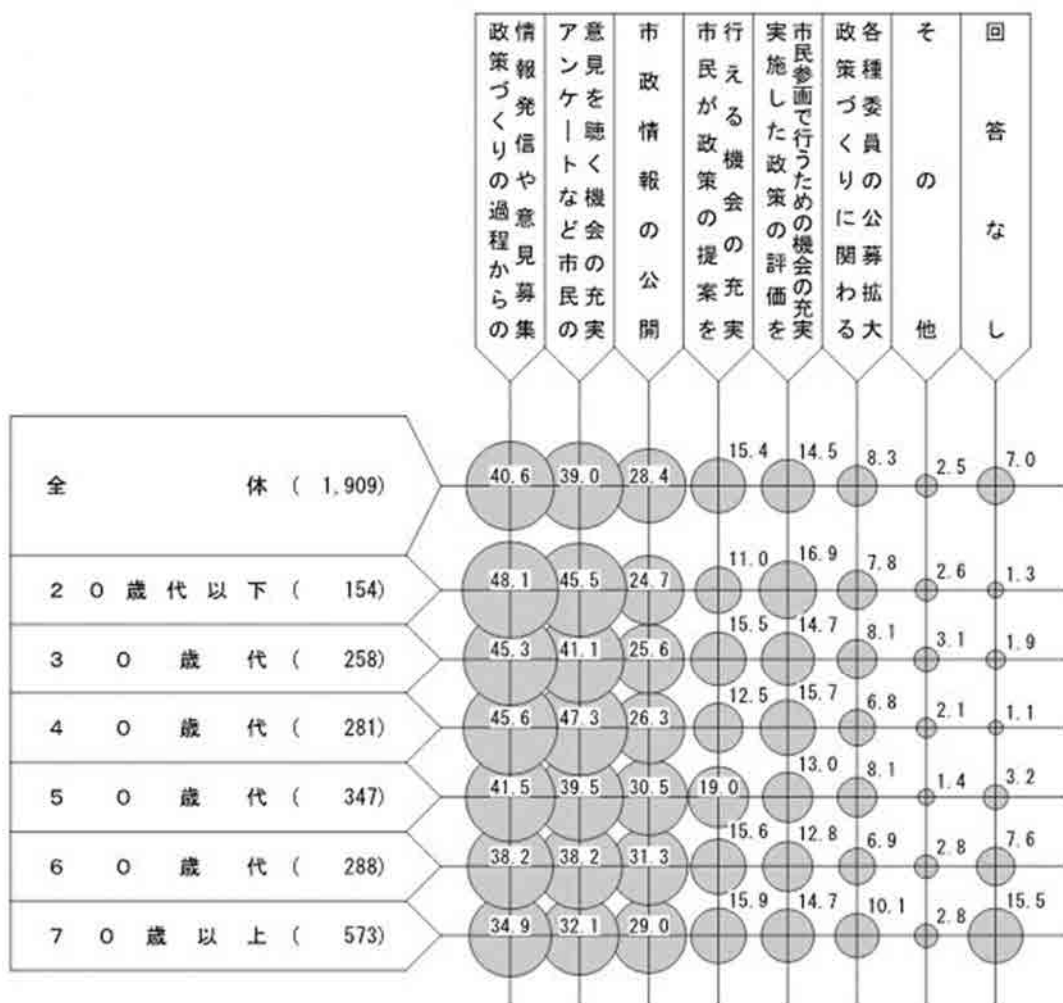
【全体】

- 「回答なし」の7.0%を除いた93.0%の市民は、市民の意見を十分反映した市政を行っていくために重要なことが何らかあると回答しています。
 - 重要なこととしては、「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」が40.6%で最も高く、次いで「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」が39.0%、「市政情報の公開」が28.4%の順となっています。
 - このように、全般的に間接参加が重要視されていますが、「市民が政策の提案を行える機会の充実」や「実施した政策の評価を市民参画で行うための機会の充実」などの直接参加を重要とする市民もそれぞれ、15.4%、14.5%と決して少なくありません。
-

【年齢別】

- 年齢別にみると、「政策づくりの過程からの情報発信や意見募集」については、20歳代以下で48.1%、40歳代で45.6%と、全体平均の40.6%と比べてそれぞれ、7.5ポイント、5.0ポイント高くなっています。逆に70歳以上では34.9%と5.7ポイント低くなっています。
- 「アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実」についても同様に、20歳代以下と40歳代において全体平均の39.0%と比べてそれぞれ、6.5ポイント、8.3ポイント上回っており、70歳以上で全体平均を下回っています。
- なお、「回答なし」の割合が、70歳以上では15.5%と高くなっていますが、加齢に伴う影響であると推察されます。

図表 VI-1 市民の意見の市政への反映で重要なこと（年齢別）



(2) 市政への参加の意向 (問 22)

問 22

あなたは、今後、どのような方法で市政に参加したいと思いますか。

【○はいくつでも】

75.0%の市民が“市政に参加したい”と回答しており、市政の参加経験がなくとも市政への参加を希望する市民が一定の割合でいることがわかります。

参加の方法としては、「アンケートなどに回答する」が 65.5%で最も多くなっています。

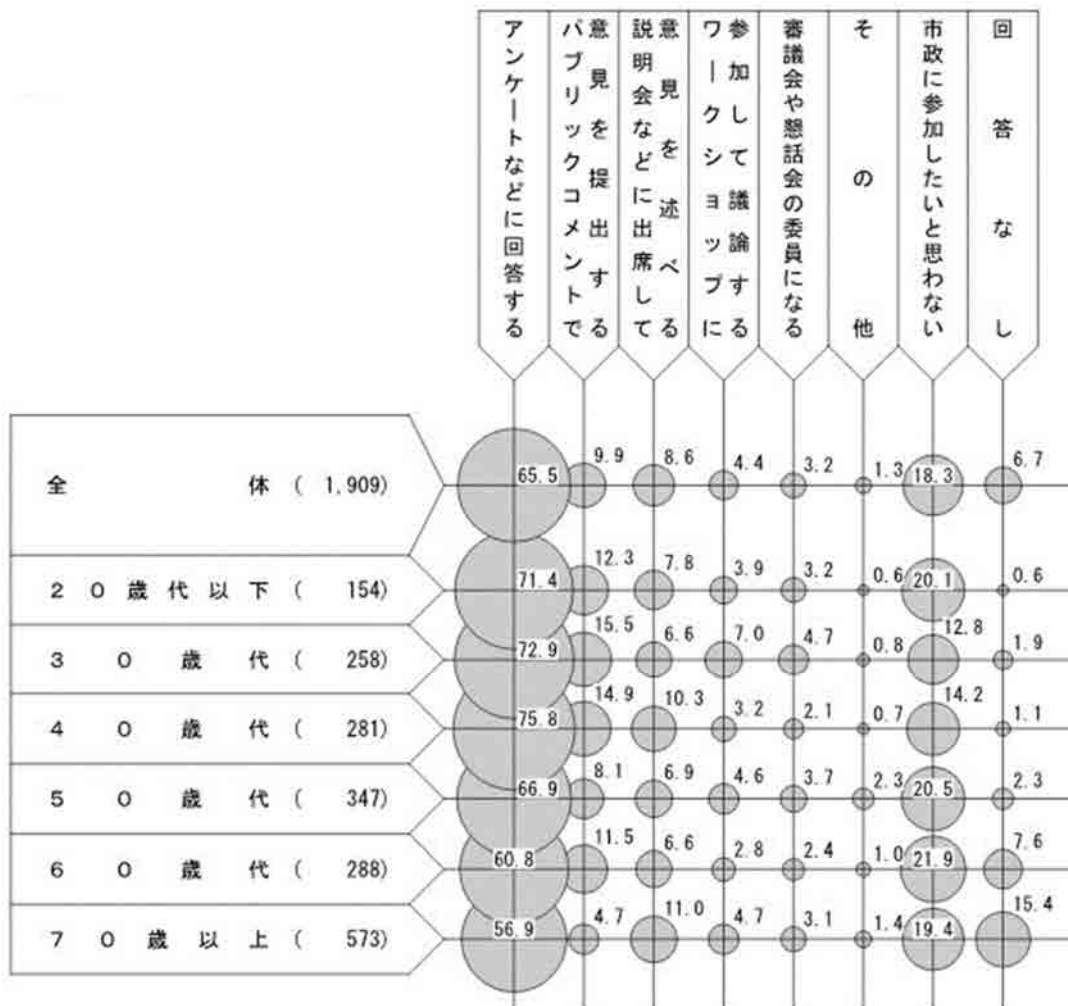
【全体】

- 「市政に参加したいと思わない」は 18.3%で、これと「回答なし」の 6.7%を除いた、残りの 75.0%の市民が何らかの方法の“市政に参加したい”と回答していることになります。
 - 平成 30 年調査結果によれば、“市政に参加したことがある”と回答した市民が 49.5%であったことを踏まえると、市政の参加経験がなくとも市政への参加を希望する市民がかなりの割合でいることがわかります。
 - また、「市政に参加したいと思わない」と回答した市民は、平成 30 年調査の 25.4%よりも 7.1 ポイント減少しており、市政への参加意向は若干上昇しているといえます。
 - 参加の方法としては、「アンケートなどに回答する」が 65.5%で最も多く、その他の項目については 1.3%~9.9%と、どれも 1 割にも満たないですが、実人数に置き換えてみるとかなりの人数になります。
 - 例えば、「ワークショップに参加して議論する」に参加したいという市民は 4.4%ですが、本意向調査の母集団は 40,792 人ですので、実人数に換算すると 1,795 人と相当な人数になります。
-

【年齢別】

- 「アンケートなどに回答する」は40歳代が75.8%で最も高く、最も低い70歳以上の56.9%と18.9ポイントの差がみられます。また、30歳代や20歳代以下でもそれぞれ、72.9%、71.4%と比較的多く、40歳代以下の年齢層における参加意向が強い傾向がみられます。
- 「パブリックコメントで意見を提出する」についても30歳代（15.5%）や40歳代（14.9%）において全体平均に比べてやや高くなっています。
- なお、70歳以上では“市政に参加したい”が65.2%と、他の年齢層に比べて低くなっていますが、これは加齢に伴う影響であると推察されます。

図表 VI-2 市政への参加意向（年齢別）



(3) 近所づきあいの程度（問 23）

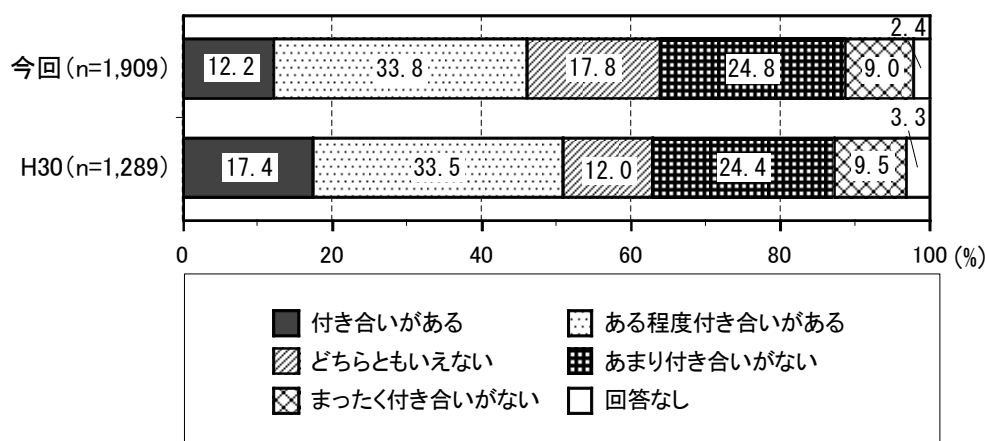
問 23 あなたは、地域での近所づきあいをどの程度していますか。【○は1つだけ】

46.0%の市民が“近所付き合いがある”と回答しています。一方で、33.8%の市民は、“近所づきあいがいい”と回答しています。

【全体】（前回比較）

- 「ある程度付き合いがある」との回答が 33.8%で最も多く、「付き合いがある」の 12.2%を合わせて 46.0%となり、半数近くの市民が“近所付き合いがある”と回答しています。
- 一方で、「あまり付き合いがない」は 24.8%と 2 番目に多く、「まったく付き合いがない」の 9.0%と合わせて 33.8%の市民は、“近所づきあいがいい”と回答しています。
- 平成 30 年調査の結果と比較すると、近所付き合いが若干希薄化しています。コロナ禍の頃の影響が近所づきあいにも少しあらわれているものと推察されます。

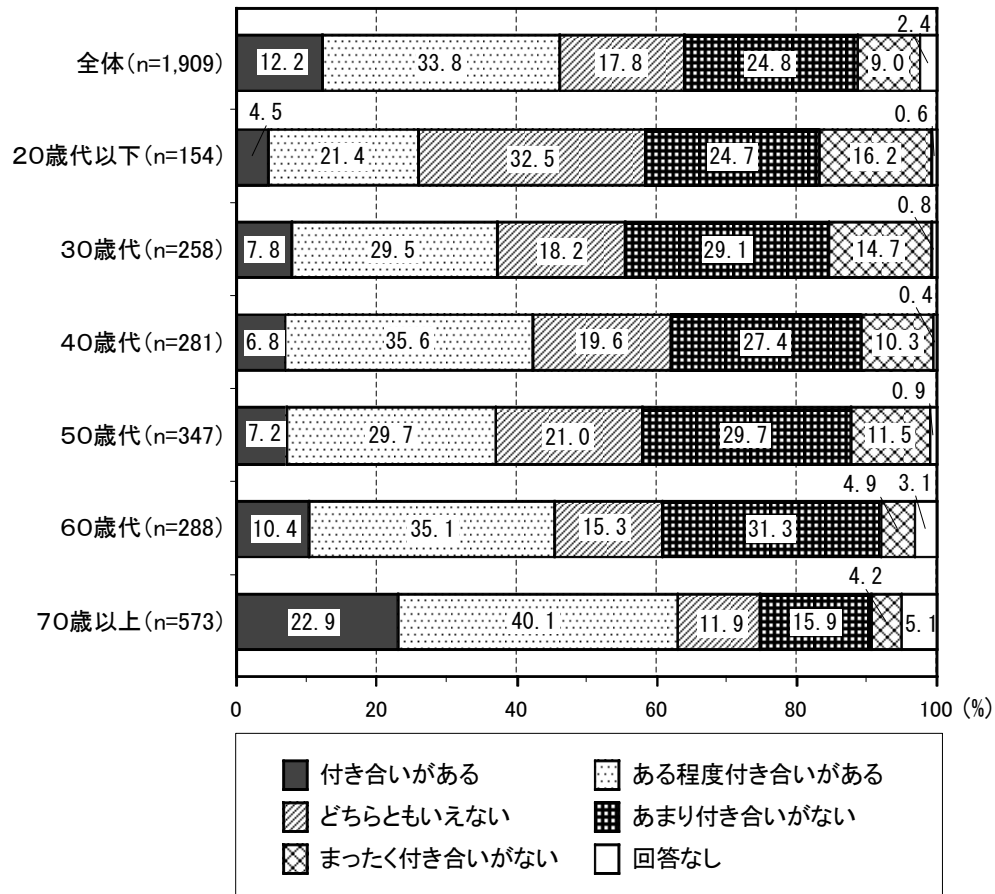
図表 VI-3 近所づきあいの程度（前回比較）



【年齢別】

○ “近所づきあいがある”との回答に着目して年齢別にみると、年齢が低いほど、その割合がおおむね順次減少する傾向がみられ、70歳以上では63.0%であるのに対し、20歳代以下が25.9%であり37.1ポイントもの大きな差がみられます。

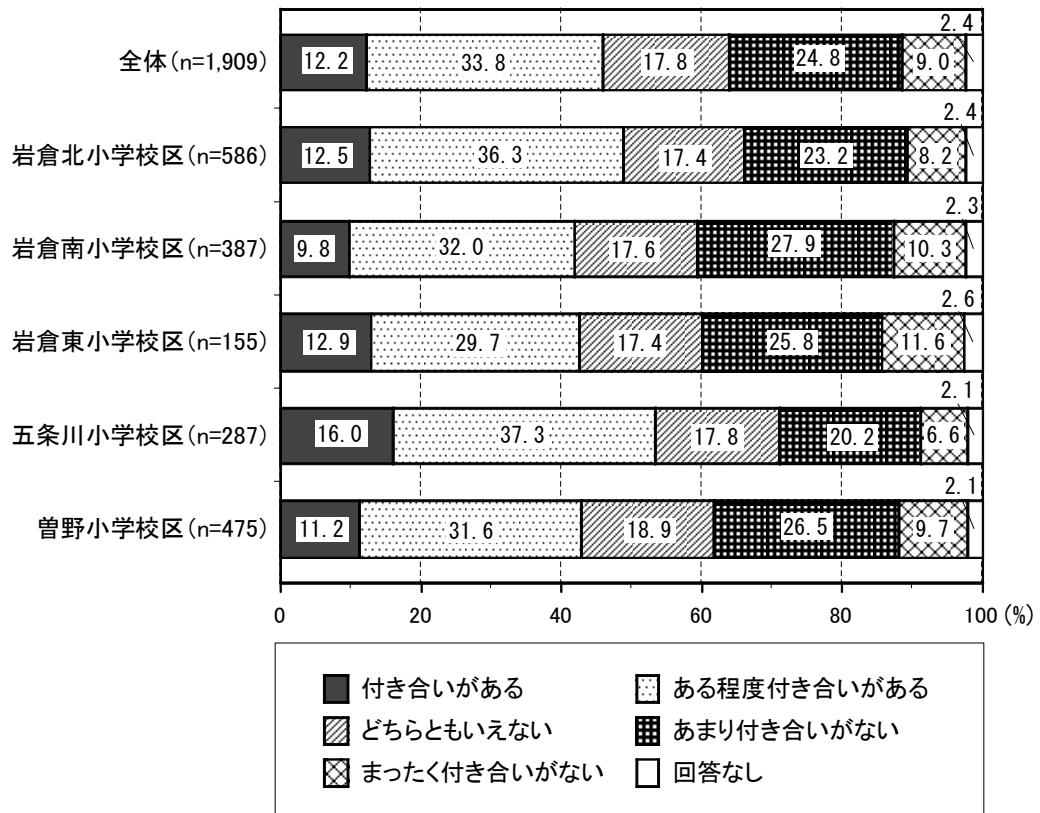
図表 VI-4 近所づきあいの程度（年齢別）



【小学校区別】

○小学校区別に“近所づきあいがある”との回答についてみると、岩倉市内で唯一コミュニティ推進協議会が設置されている五条川小学校区において 53.3%で最も高く、全体平均の 46.0%を 7.3 ポイント上回っていますが、全般的にみて小学校区による大きな差はみられません。

図表 VI-5 近所づきあいの程度（小学校区別）



(4) 近所づきあいの満足度 (問 24)

問 24 あなたは、地域での近所づきあいに満足していますか。【○は1つだけ】

近所づきあいについて、44.2%の市民が“満足している”と回答しています。

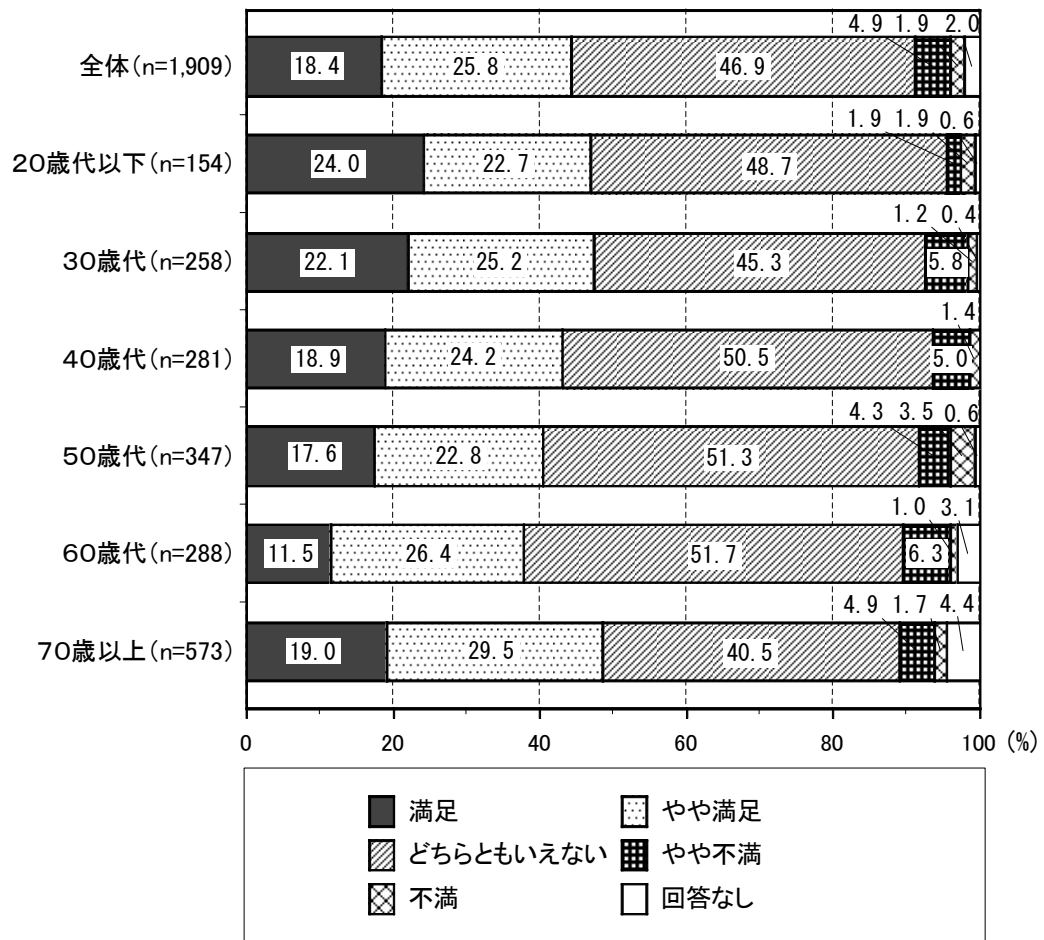
【全体】

- 近所づきあいの満足度について尋ねたところ、「どちらともいえない」が 46.9%で最も多くを占めています。これに対して「満足」が 18.4%、「やや満足」が 25.8%で、これらを合わせた“満足している”と回答した市民は 44.2%と、「どちらともいえない」を少し下回っています。
- 一方、「やや不満」は 4.9%、「不満」は 1.9%で、これらを合わせた“不満がある”との回答割合は 6.8%であり、“満足している”、“どちらともいえない”と比べてかなり低くなっています。

【年齢別】

- 年齢別にみると、「満足」と「やや満足」を合わせて“満足している”と回答した割合は、60 歳代で 37.9%と全体平均よりも 6.3 ポイント低くなっていますが、全般的に年齢による大きな差はみられません。
- 図表VI-4 近所づきあいの程度（年齢別）でみたように、20 歳代以下や 30 歳代では“近所づきあいがある”の割合が他の年齢層に比べて少なかった割には“満足している”の割合が全体平均を僅かではあるとはいえ上回っていることが特徴としてみられます。これは、若い年代層では、近所づきあいが希薄でありながらそれに満足している人が少なくないことを示すものです。

図表 VI-6 近所づきあいの満足度（年齢別）

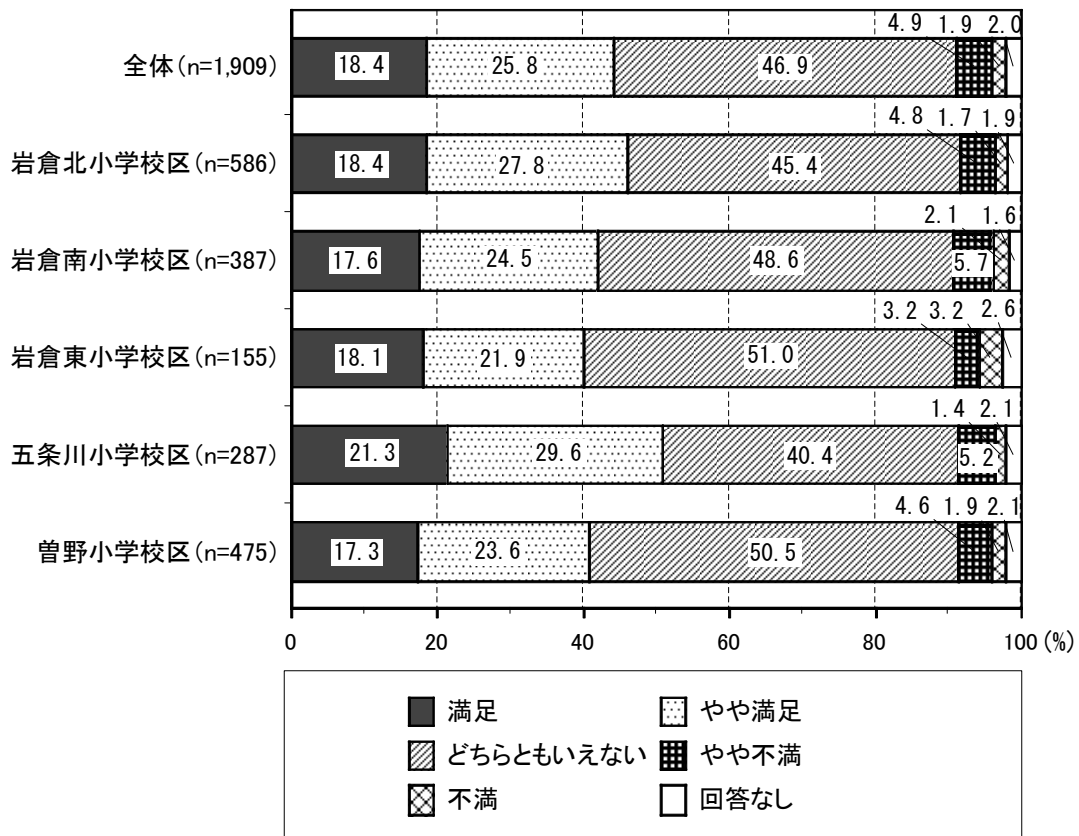


【小学校区別】

○ “満足している” との回答に着目して小学校区別にみると、岩倉市内で唯一コミュニティ推進協議会が設置されており、かつ、先にみたとおり、他の小学校区よりも“近所づきあいがある”の割合が高かった五条川小学校区が 50.9%で最も高く、全体平均より 6.7 ポイント上回っています。

○これ以外は、小学校区による大きな差はみられません。

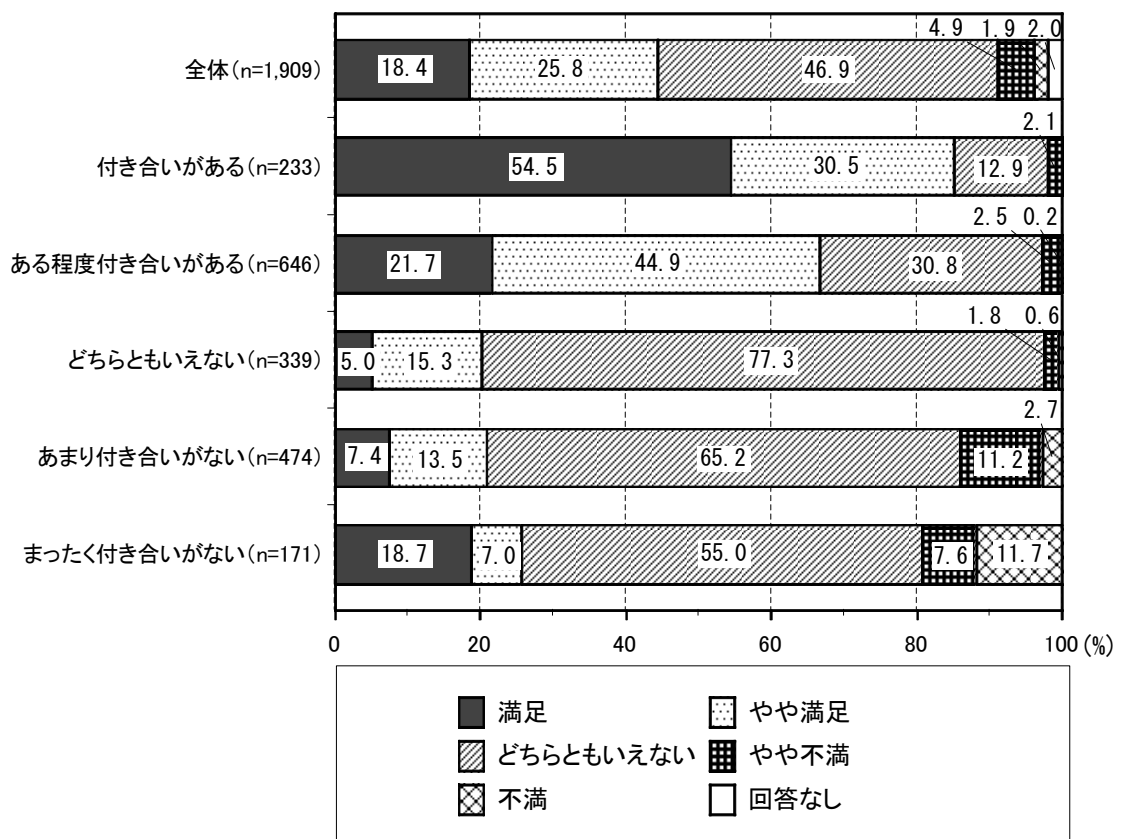
図表 VI-7 近所づきあいの満足度（小学校区別）



【近所付き合いの程度別】

- 近所付き合いの程度別でみると、付き合いが緊密であるほど「満足」または「やや満足」と回答する割合は高くなっています。
- 「付き合いがある」と回答した市民では、「満足」が 54.5%、「やや満足」が 30.5%で、これらを合わせた“満足している”という回答が 85.0%も占めています。
- 「ある程度付き合いがある」と回答した市民においても、“満足している”という回答が 66.6%を占めています。
- 「まったく付き合いがない」と回答した市民については、「不満」が 11.7%、「やや不満」が 7.6%で、合わせて“不満がある”が 19.3%と高くなっていますが、「満足」が 18.7%、「やや満足」が 7.0%で、合わせて 25.7%は“満足している”と回答しており、“不満がある”を 6.4 ポイント上回っています。
- 総じて、緊密な近所付き合いに対して不満を持つ割合は低く、緊密な近所付き合いは、近所付き合いの満足度の高さとは相関しています。しかしながらその一方で、先にも触れたように、近所づきあいが希薄でありながらそれに満足している市民が少なくない状況もうかがえます。

図表 VI-8 近所づきあいの満足度（近所づきあいの程度別）



VII. 行政経営や情報化

VII. 行政経営や情報化

(1) 行政経営に対する要望（問 25）

問 25

岩倉市に対してどのような行政経営を求めますか。

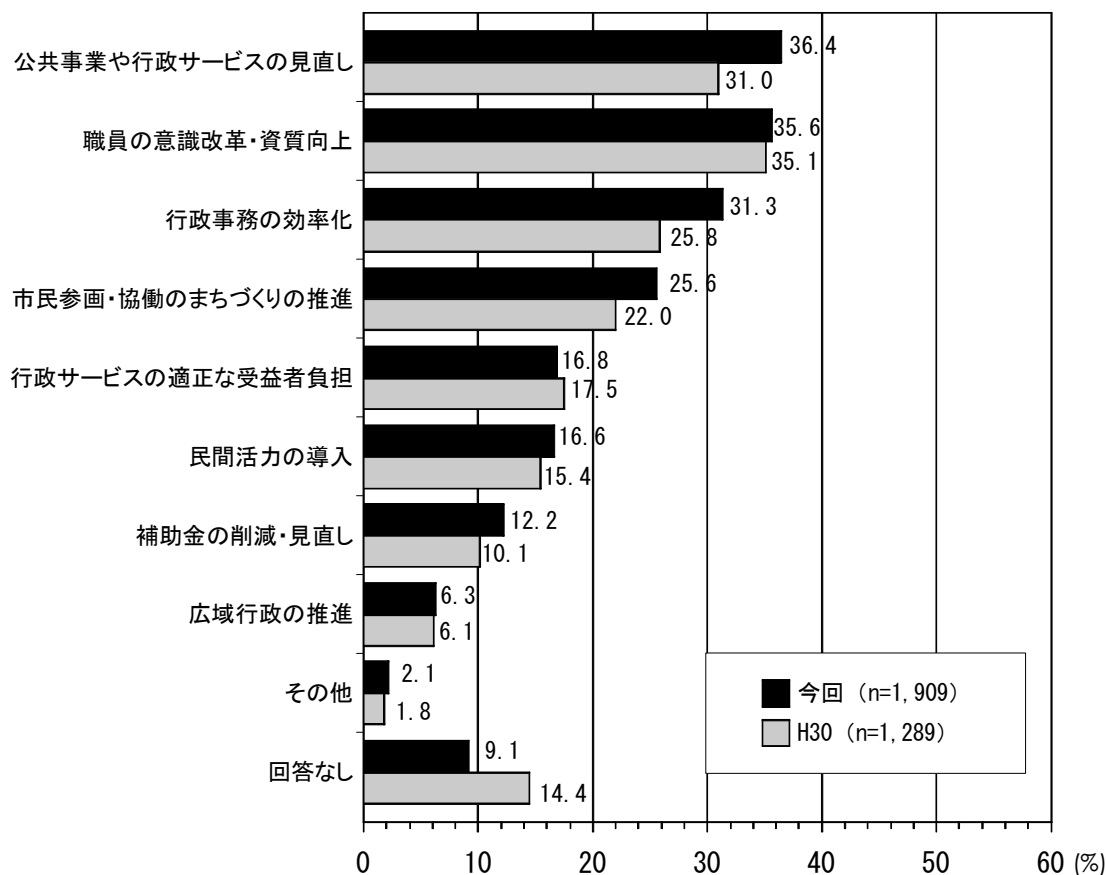
【○は3つまで】

90.9%の市民が、“岩倉市の行政経営に何らか求めることがある”と回答しています。行政経営に対する要望は、「公共事業や行政サービスの見直し」が36.4%で最も高くなっています。

【全体】（前回比較）

- 「回答なし」の9.1%を除いた90.9%の市民が、“岩倉市の行政経営に何らか求めることがある”と回答しています。
- 行政経営に対する要望は、「公共事業や行政サービスの見直し」が36.4%で最も高く、次いで「職員の意識改革・資質向上」が35.6%、「行政事務の効率化」が31.3%、「市民参画・協働のまちづくりの推進」が25.6%の順となっています。
- 平成30年調査と比較して、「公共事業や行政サービスの見直し」と「行政事務の効率化」がそれぞれ、5.4ポイント、5.5ポイント上昇しています。

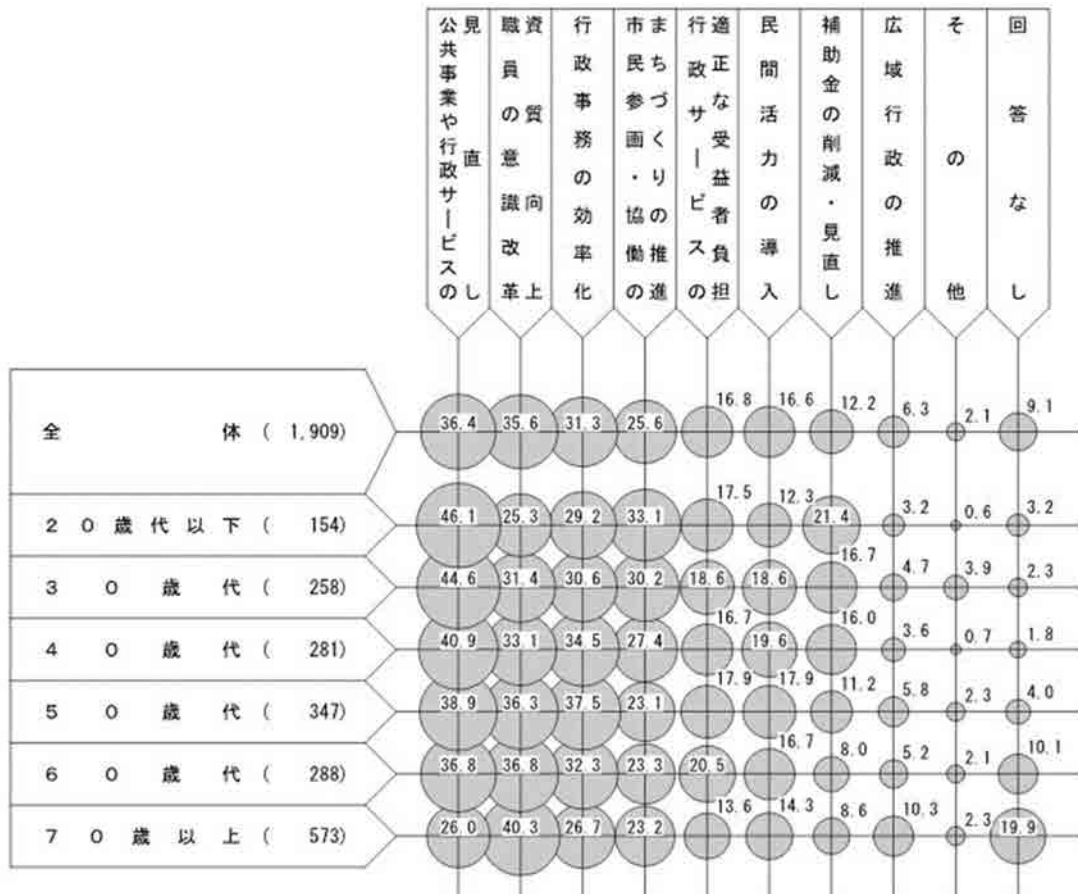
図表 VII-1 行政経営に対する要望（前回比較）



【年齢別】

- 「公共事業や行政サービスの見直し」については、70 歳以上が 26.0%で最も低く、年齢が若くなるほど割合が高くなり、20 歳代以下では 46.1%で 70 歳以上よりも 20.1 ポイントも高くなっています。
- 「職員の意識改革・資質向上」については、全く逆の傾向がみられ、20 歳代以下が 25.3%で最も低くなっており、年齢が上がるにしたがって割合が高くなり、70 歳以上では 40.3%になります。
- 他には、「市民参画・協働のまちづくりの推進」と「補助金の削減・見直し」については、双方とも 20 歳代以下において 33.1%、21.4%と全体平均を若干上回っていることが特徴としてみられます。また、双方とも若い年代ほど割合が高い傾向もみられます。

図表 VII-2 行政経営に対する要望（年齢別）



(2) 行政サービスと市民負担のバランス (問 26)

問 26

行政サービスと市民負担のバランスをどのように考えますか。

【○は1つだけ】

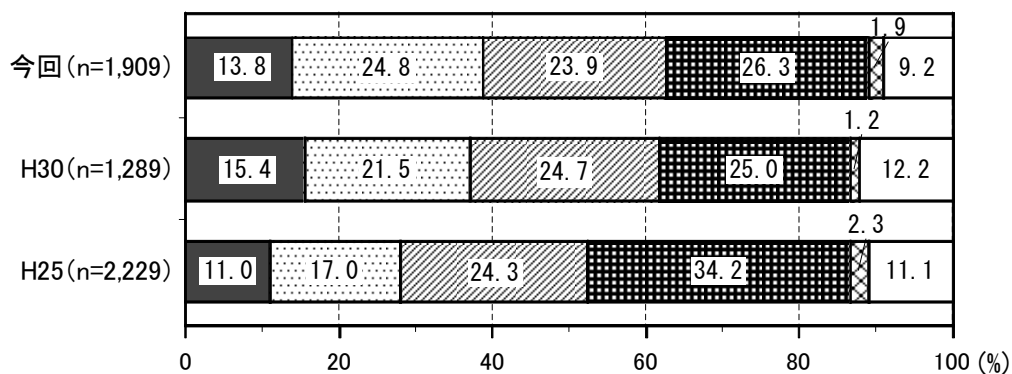
「行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により財源を生みだすべき」が26.3%で、依然として1番多いですが、平成25年調査結果からみれば7.9ポイント低く、平成30年調査結果からほとんど変化はみられません。

「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」については、平成25年調査以来、一貫して増えています。

【全体】(経年比較)

- 「行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により財源を生みだすべき」が26.3%で最も多くなっています。しかしながら、平成25年調査の34.2%からみれば7.9ポイント低く、平成30年調査結果とは、ほぼ変化はありません。
- これに次いで2番目に多いのは、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」で24.8%を占めています。この割合は、平成25年調査以来、一貫して増えており、平成25年調査の17.0%から7.8ポイント上昇しています。
- 3番目に多い「受益者負担を増やすべきで市民全体の負担を増やすべきではない」と4番目の「行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない」についてはそれぞれ、23.9%、13.8%で、平成30年調査からみてほとんど変化はありません。

図表 VII-3 行政サービスと市民負担のバランス (経年比較)



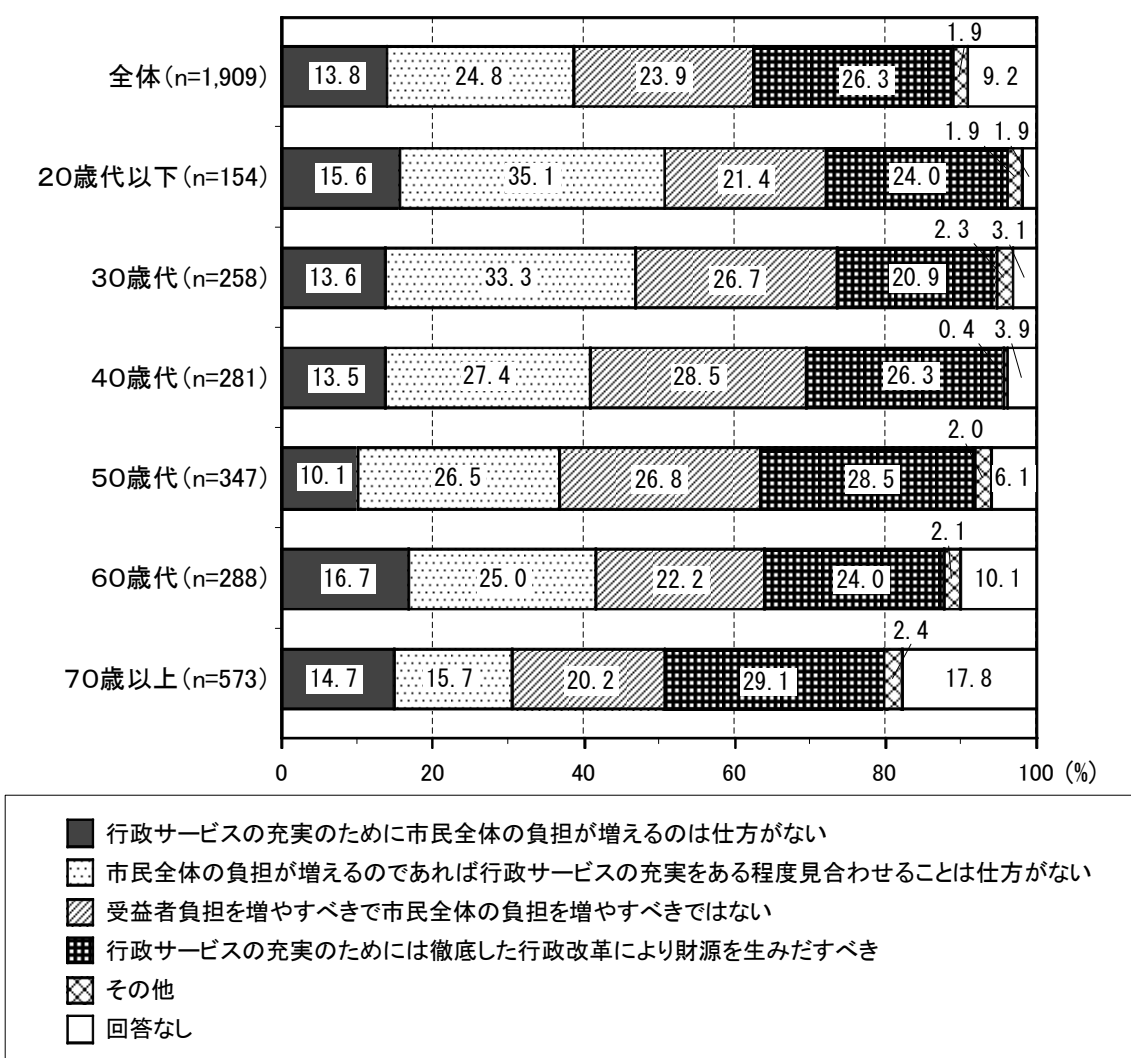
- 行政サービスの充実のために市民全体の負担が増えるのは仕方がない
- ▨ 市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない
- ▧ 受益者負担を増やすべきで市民全体の負担を増やすべきではない
- ▩ 行政サービスの充実のためには徹底した行政改革により財源を生みだすべき
- ◻ その他
- 回答なし

【年齢別】

○年齢別にみると、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」との回答は、20 歳代以下において 35.1%で最も多く、全体平均を 10.3 ポイントも上回っているとともに、20 歳代において最も多くを占める考え方になっています。また、30 歳代においても 33.3%と全体平均に比べて 8.5 ポイント高くなっています。

○これに対して、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」との回答は、70 歳以上では 15.7%と少なくなっています。その分、「回答なし」が 17.8%と多く、また、「行政サービスの充実のためには徹底した行政改革により財源を生みだすべき」という考え方が 70 歳以上では 29.1%と最も多くを占める考え方となっています。

図表 VII-4 行政サービスと市民負担のバランス（年齢別）



(3) 情報通信機器等の利用状況（問 27）

問 27

情報通信機器等の利用状況についてお答えください。

【①～④のそれぞれの情報通信機器等について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

スマートフォンについては、80.9%の市民が既に利用しています。

【全体】

<パソコン>

○「ほぼ毎日利用している」が 29.0%、「週に4～5回程度利用している」が 8.2%、「週に2～3回程度未満利用している」が 18.0%で、合わせて 55.2%の市民が利用しています。

○「現在利用していないが、今後は、利用したい」は 9.4%とあまり多くありませんが、既に利用している市民と合わせると 64.6%になります。

<スマートフォン>

○「ほぼ毎日利用している」が 75.4%、「週に4～5回程度利用している」が 2.5%、「週に2～3回程度未満利用している」が 3.0%で、合わせて 80.9%の市民が利用しています。

○「現在利用していないが、今後は、利用したい」は 3.2%と少ないですが、既に利用している市民と合わせると 84.1%になります。

<タブレット端末>

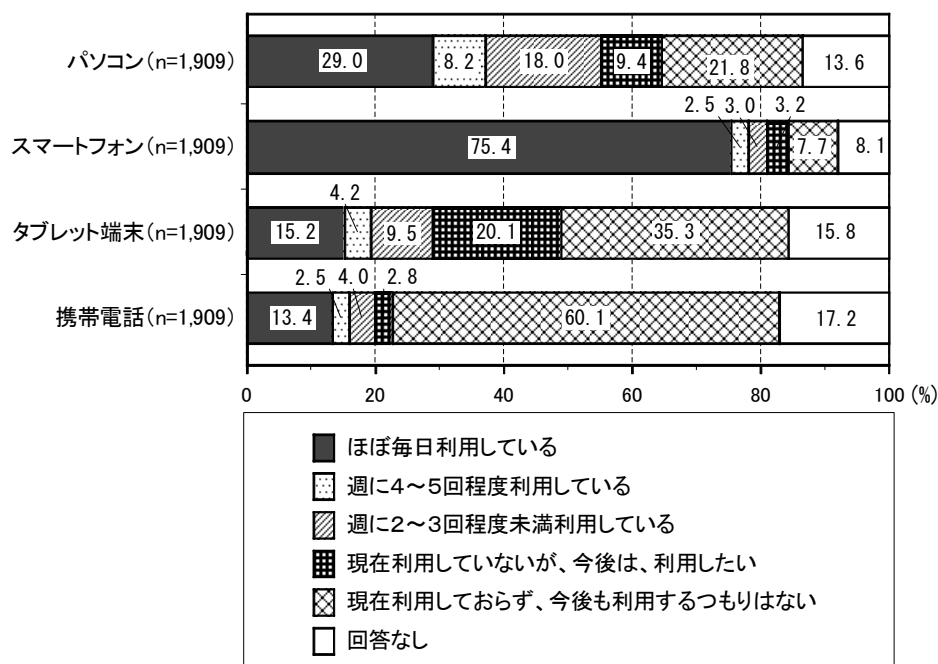
○「ほぼ毎日利用している」が 15.2%、「週に4～5回程度利用している」が 4.2%、「週に2～3回程度未満利用している」が 9.5%で、合わせて 28.9%の市民が利用しています。

○「現在利用していないが、今後は、利用したい」は 20.1%となっており、まだまだ利用拡大の余地のある媒体であると言えます。

<携帯電話（いわゆるガラケー）>

○利用している市民は合わせて 19.9%にとどまっています。今後の利用拡大の余地を含めても 22.7%とあまり多くありません。

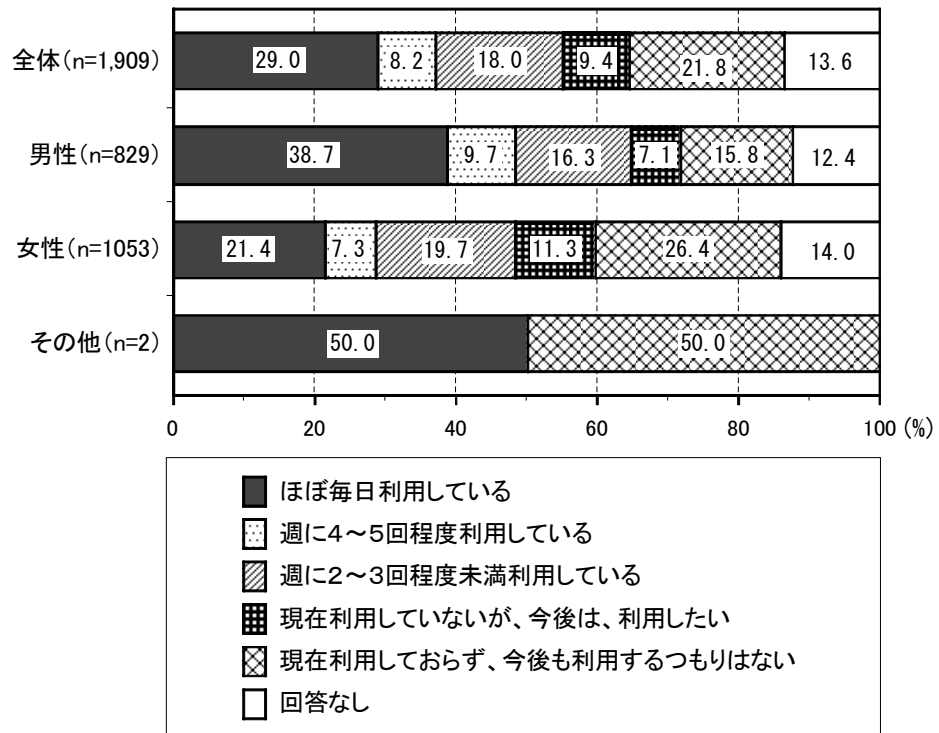
図表 VII-5 情報通信機器等の利用状況



【性別】：パソコン

○男性の利用率が高く、女性を大きく上回っています。

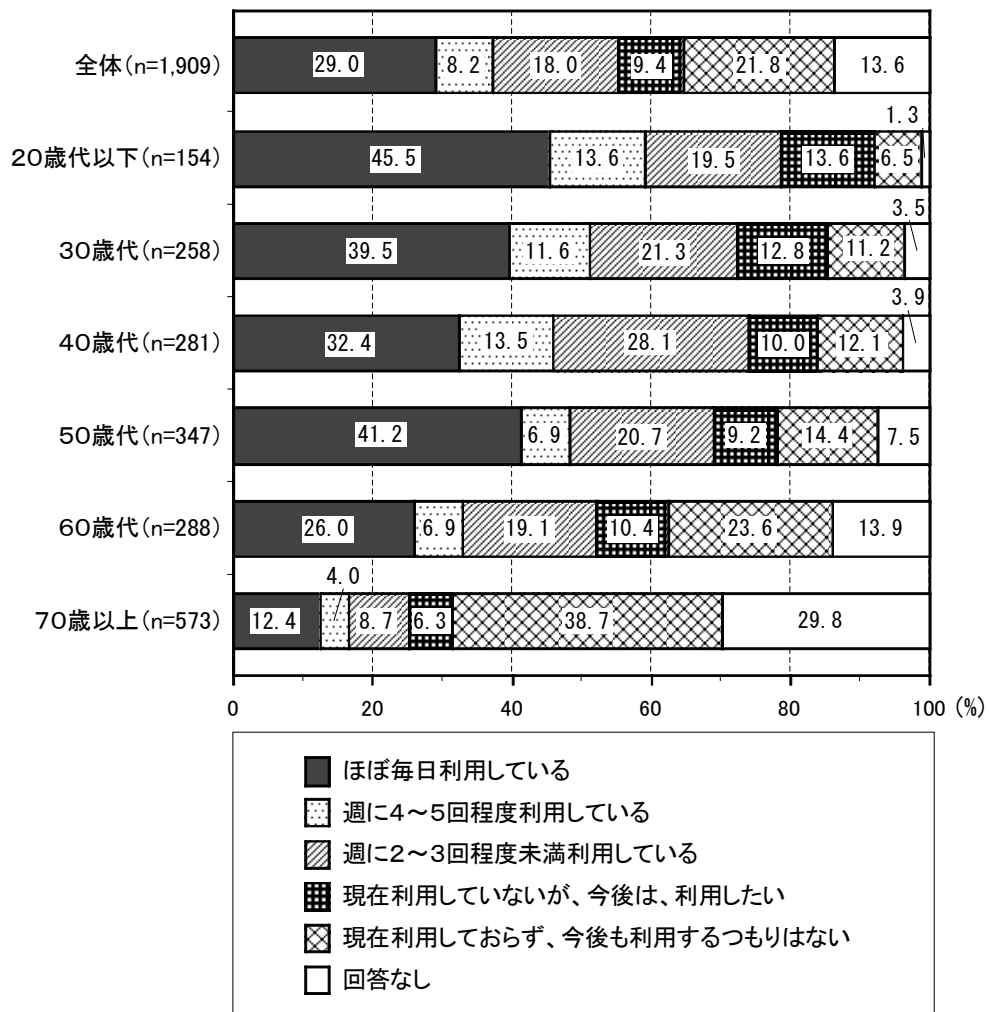
図表 VII-6 情報通信機器等の利用状況：パソコン（性別）



【年齢別】：パソコン

- 若い世代ほど利用率は高く、20歳代以下では、78.6%の人が利用しています。
- 70歳以上の利用率は25.1%にとどまっていますが、60歳代では52.0%と過半数の人が利用しており、将来的には高齢者の利用率も次第に高まっていくことが予想されます。
- 50歳代以下の年代層では一番利用率が低い50歳代でも68.8%の人が利用しています。

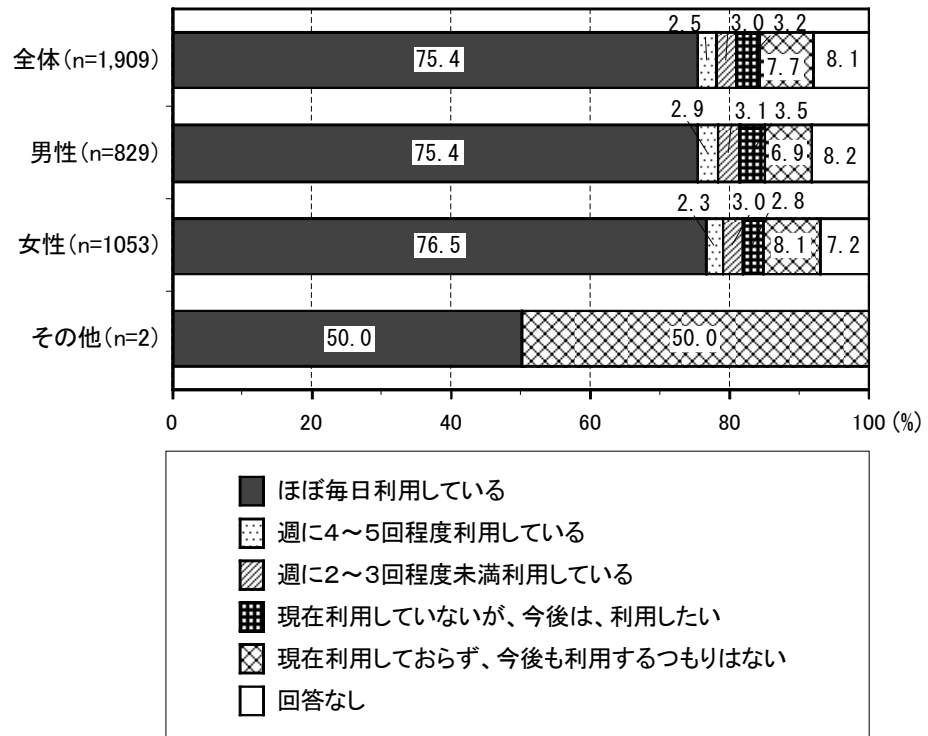
図表 VII-7 情報通信機器等の利用状況：パソコン（年齢別）



【性別】：スマートフォン

○男性も女性もほぼ同割合でスマートフォンを利用しています。

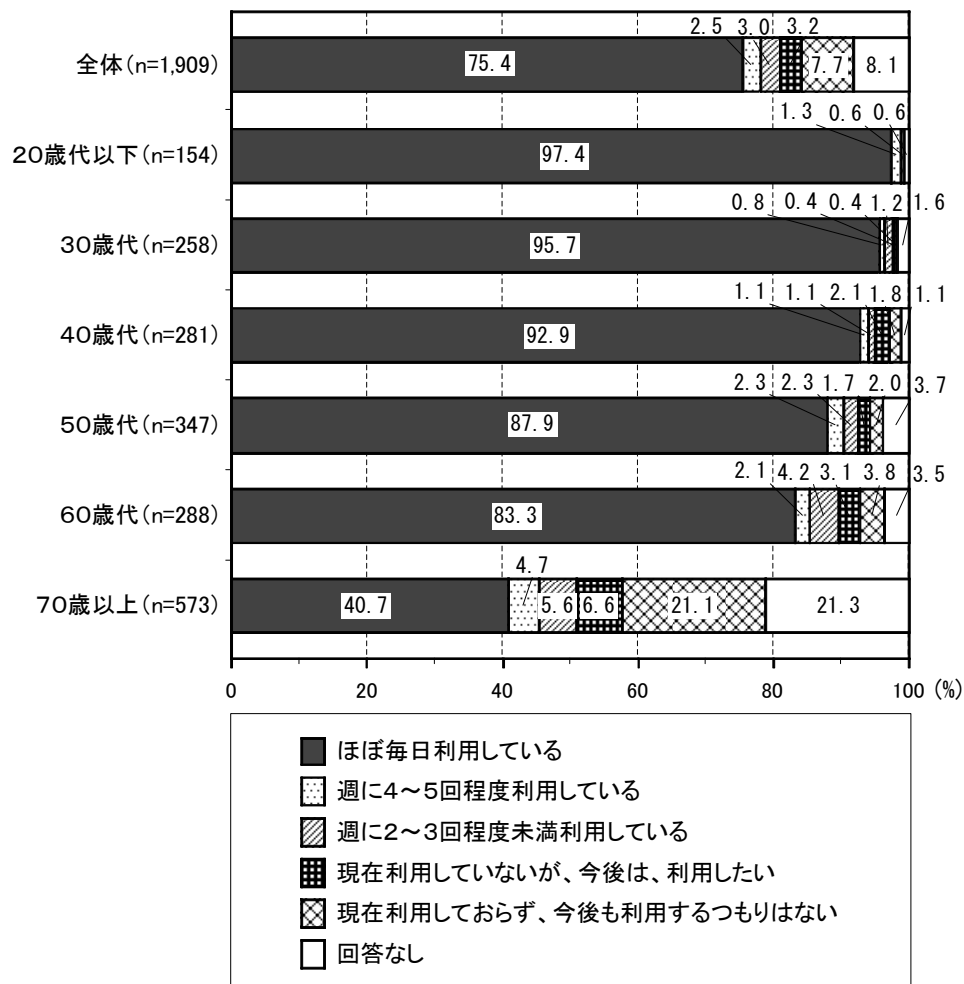
図表 VII-8 情報通信機器等の利用状況：スマートフォン（性別）



【年齢別】：スマートフォン

- 20 歳代以下や 30 歳代におけるスマートフォンの利用率はそれぞれ、98.7%、97.7%と、ほぼすべての人が利用しています。
- 70 歳以上の年齢層になると大幅に利用率が低下しますが、それでも 51.0%の人が利用しており、「現在利用していないが、今後は、利用したい」の 6.6%と合わせると 57.6%になります。しかも、「ほぼ毎日利用している」という人は 40.7%も占めています。
- 60 歳代の利用率は既に 89.6%、「現在利用していないが、今後は、利用したい」の 3.1%と合わせると 92.7%になります。このような結果を踏まえると、近い将来には、高齢者でもスマートフォンを利用する時代になることが予感させられます。

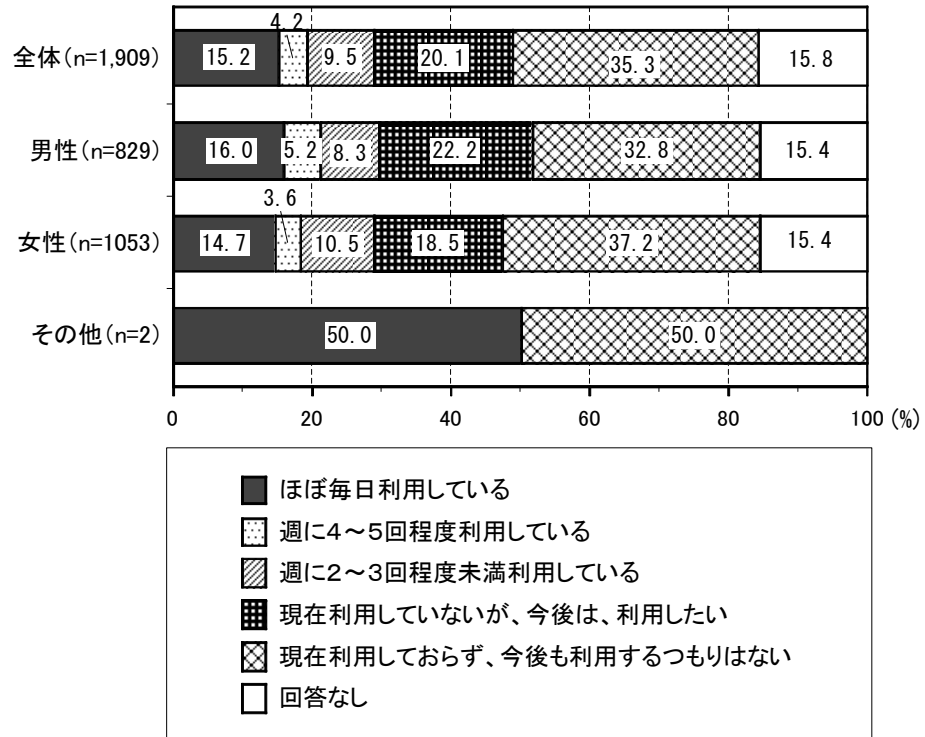
図表 VII-9 情報通信機器等の利用状況：スマートフォン（年齢別）



【性別】：タブレット端末

○男性も女性もほぼ同割合でタブレット端末を利用しています。

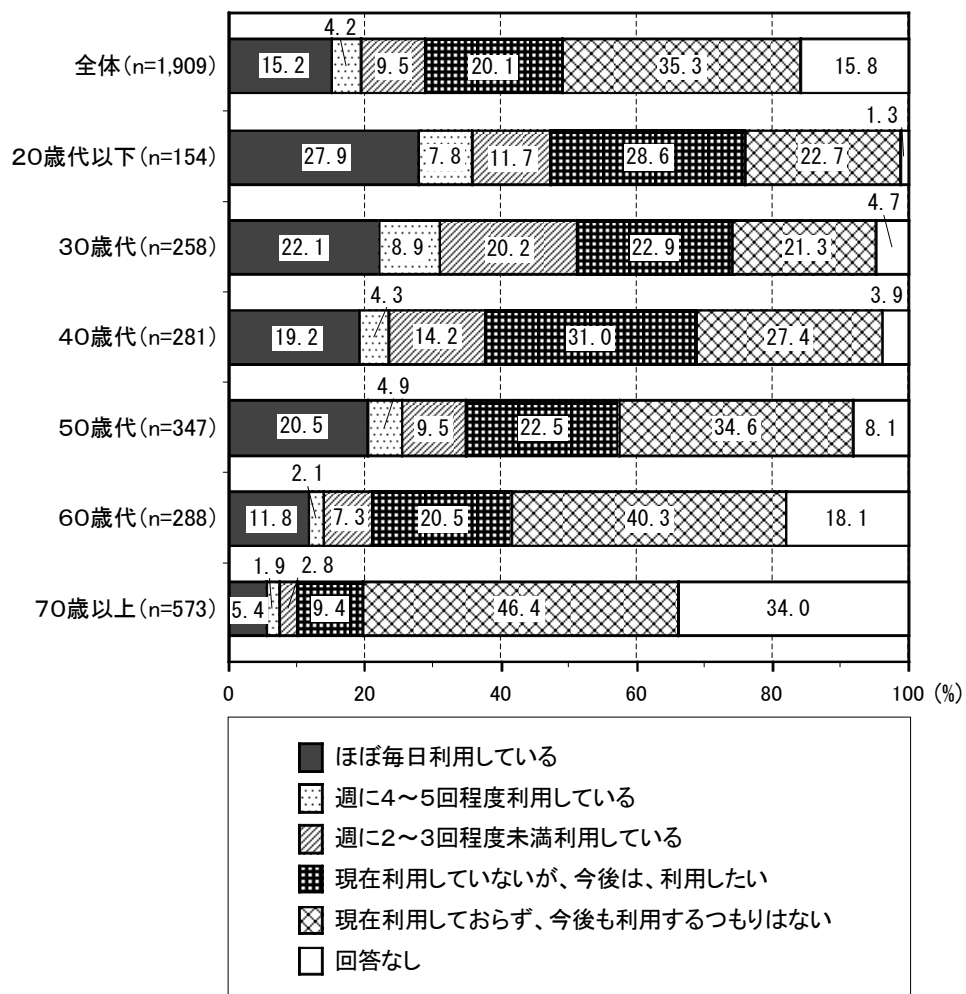
図表 VII-10 情報通信機器等の利用状況：タブレット端末（性別）



【年齢別】：タブレット端末

- 若い世代ほど利用率・利用ポテンシャルは高く、最も利用率の高い30歳代では51.2%と過半数の人が利用しています。最も利用ポテンシャルの高い20歳代以下では、76.0%の人が既に利用・今後利用したいと回答しています。
- 一方、70歳以上の利用率は10.1%で、「現在利用していないが、今後は、利用したい」を加えても19.5%とあまり多くはありませんが、60歳代では、その割合は41.7%となっています。

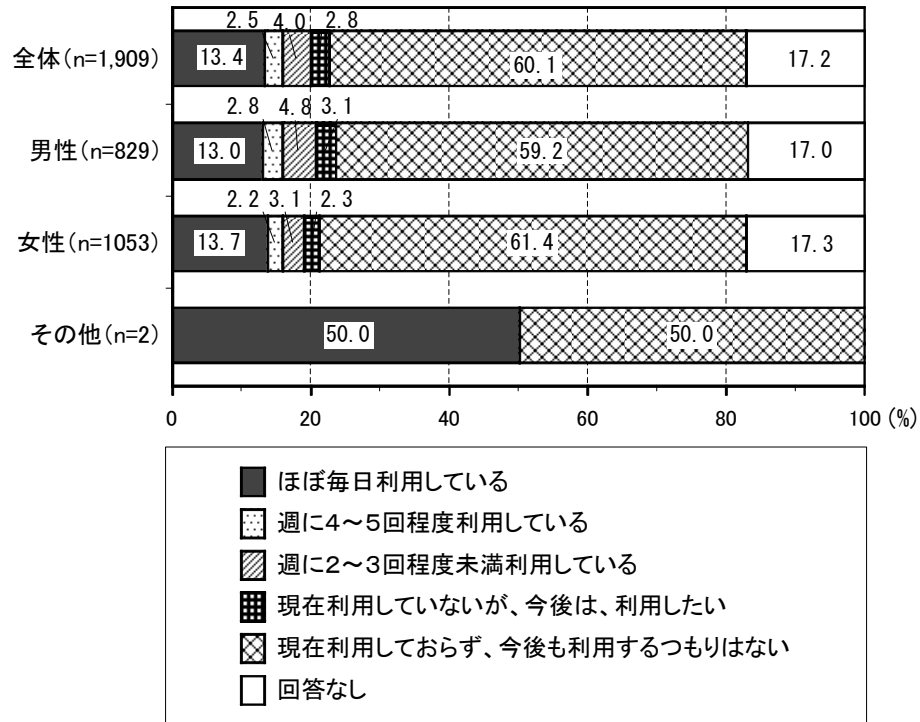
図表 VII-11 情報通信機器等の利用状況：タブレット端末（年齢別）



【性別】：携帯電話（いわゆるガラケー）

○男性も女性もほぼ同割合で携帯電話を利用しています。

図表 VII-12 情報通信機器等の利用状況：携帯電話（性別）

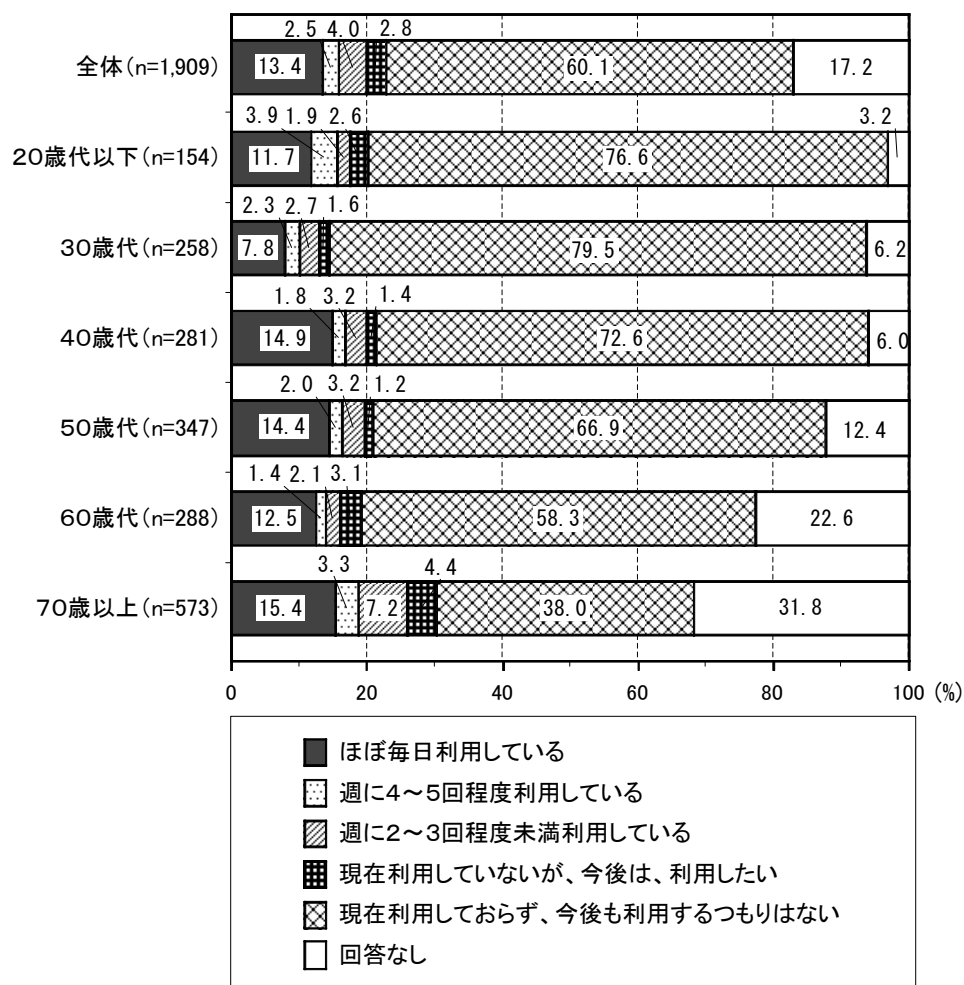


【年齢別】：携帯電話（いわゆるガラケー）

○70 歳以上を除いたすべての年齢層において、利用率は 20%未満となっており、今や携帯電話（いわゆるガラケー）はスマートフォンに取って代わられた情報通信手段となっている状況がうかがえます。

○しかしながら、70 歳以上の高齢者においては、利用率が 25.9%と決して低くありません。また、「現在利用していないが、今後は、利用したい」を加えると、30.3%となり、70 歳以上の高齢者においてはそれなりの需要がある情報通信手段になっています。

図表 VII-13 情報通信機器等の利用状況：携帯電話（年齢別）



(4) インターネット利用の有無（問 28）

問 28 あなたは、インターネットを利用していますか。【○は1つだけ】

インターネットを「利用している」という市民は 77.8%を占めています。20 歳代以下では、98.7%となっています。70 歳以上の年齢層になると、一気に利用率は低下するものの、それでも 42.8%の市民がインターネットを利用しています。近い将来には、高齢者でもインターネットを普通に利用する時代になることが予感されます。

【全体】

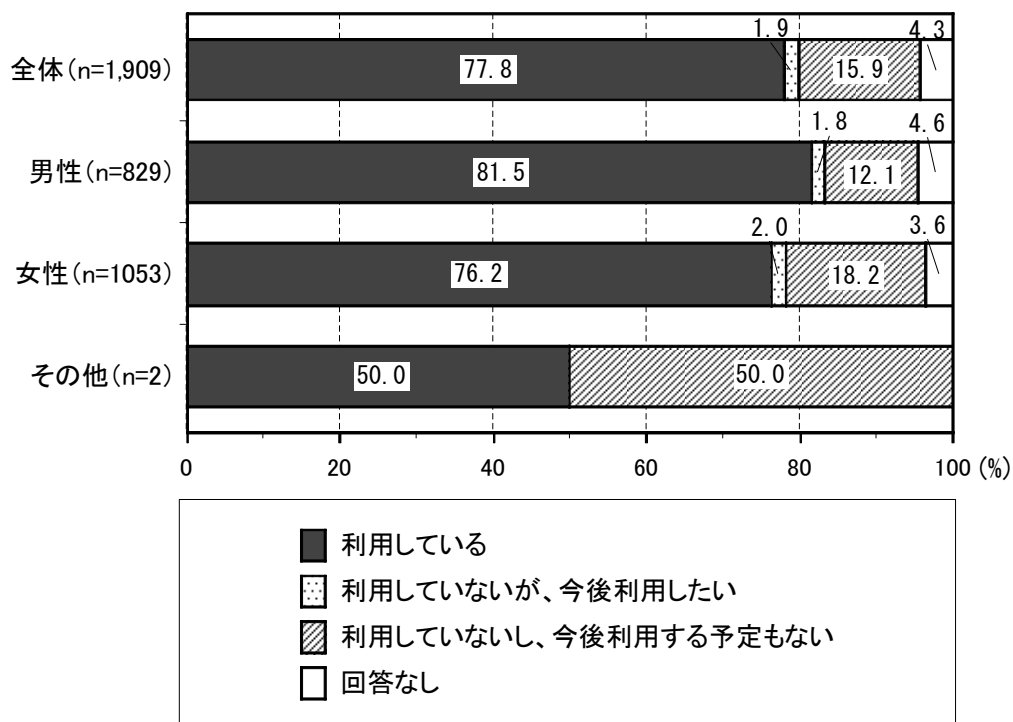
○インターネットを「利用している」という市民は 77.8%を占めています。これに対して、「利用していないが、今後利用したい」が 1.9%、「利用していないし、今後利用する予定もない」が 15.9%となっており、これらを合わせた“利用していない”という市民は 17.8%で、「利用している」が 60.0 ポイントも上回っています。

○「利用していないが、今後利用したい」が 1.9%しかいないので、インターネットの利用は現状から大きな増加が見込まれないといえます。

【性別】

○インターネットの利用率は、女性よりも男性の方が若干多くなっています。

図表 VII-14 インターネット利用の有無（性別）

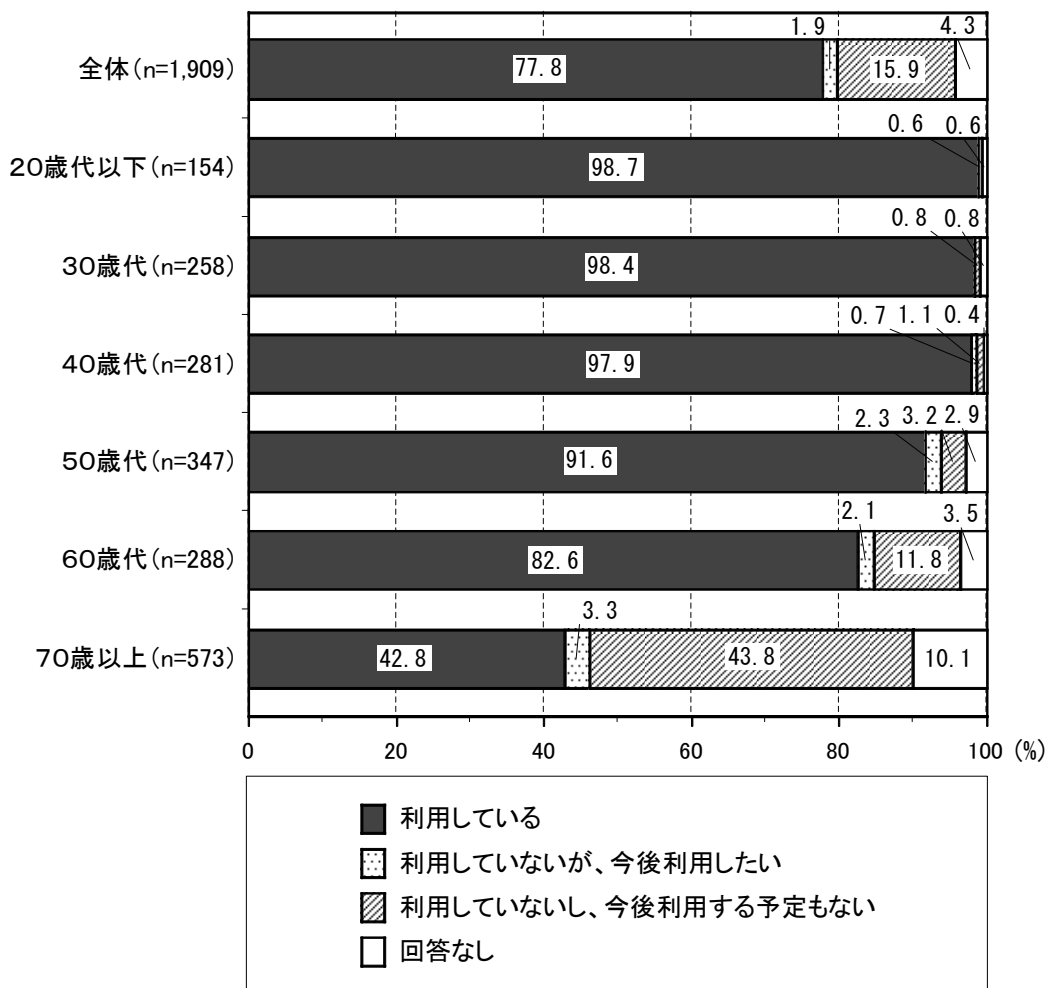


【年齢別】

○年齢別にみると、インターネットの利用率は、20歳代以下では、98.7%となっています。また、50歳代までの年齢層においては、インターネットの利用率はいずれも9割を超えています。

○70歳以上の年齢層になると、一気に利用率は低下するものの、それでも42.8%の市民がインターネットを利用しています。既に60歳代では82.6%の市民がインターネットを利用している状況にあることから、近い将来には、高齢者でもほとんどの人がインターネットを利用ようになることが予感させられます。

図表 VII15 インターネット利用の有無（年齢別）



(5) インターネットの利用目的 (問 28-1)

問 28-1

インターネットの利用目的についてお答えください。

【あてはまるものすべてに○】

「ウェブサイトの閲覧」が 83.9%と最も多く、次いで「情報検索」(80.9%)、「電子メールの送受信」(69.4%)、「オンラインショッピング」(58.8%)、「交通機関や宿泊施設、医療機関等の予約」(58.6%)など、多様な目的でインターネット利用がなされています。若者ほどではないものの、高齢者でも多様に利用されています。

【全体】

○インターネット利用者 1,486 人を対象にインターネットの利用目的について尋ねたところ、「ウェブサイトの閲覧」が 83.9%で最も多く、次いで「情報検索」が 80.9%、「電子メールの送受信」が 69.4%、「オンラインショッピング」が 58.8%、「交通機関や宿泊施設、医療機関等の予約」が 58.6%、「SNS」が 55.8%の順になっています。多様な目的での利用が市民の間で浸透しています。

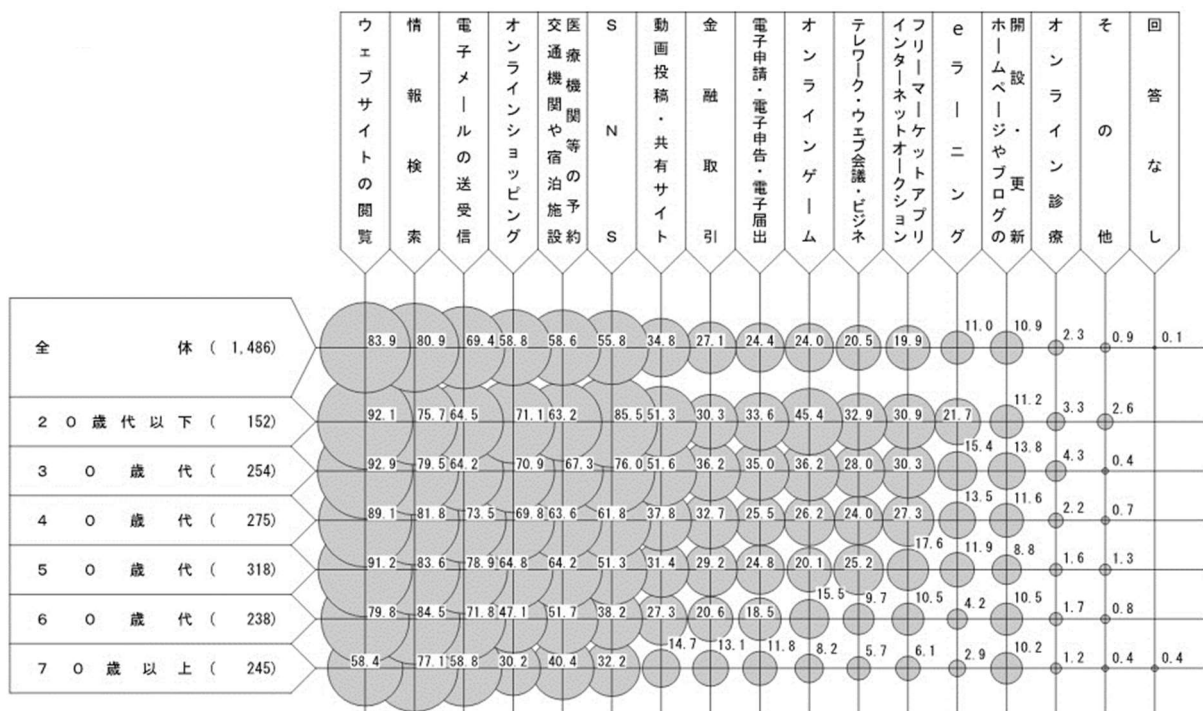
【年齢別】

○年齢別にみると、「オンラインショッピング」や「SNS」、「動画投稿・共有サイト」、「金融取引」、「電子申請、電子申告、電子届出」、「オンラインゲーム」など、若者ほど多様な目的にわたってインターネット利用をしています。

○70 歳以上の高齢者でも「情報検索」や「ウェブサイトの閲覧」、「電子メールの送受信」などの目的を中心に多様な利用がされています。

○先にみたように、70 歳以上の高齢者のインターネット利用率は 42.8%にとどまっていますが、利用している人は比較的多様な目的で利用している状況がうかがえます。

図表 VII-17 インターネットの利用目的 (年齢別)



(6) 利用しているSNS（問 28-2）

問 28-2

あなたが利用しているSNS等をお答えください。

【あてはまるものすべてに○】

「SNS」または「動画投稿・共有サイト」を利用している 956 人（50.1%）の市民を対象に、利用しているSNSの種類について尋ねたところ、「LINE」が 88.8%で最も多く、次いで「ユーチューブ」（72.5%）、「Instagram」（54.7%）、「X（旧ツイッター）」（43.5%）の順になっています。

【全体】

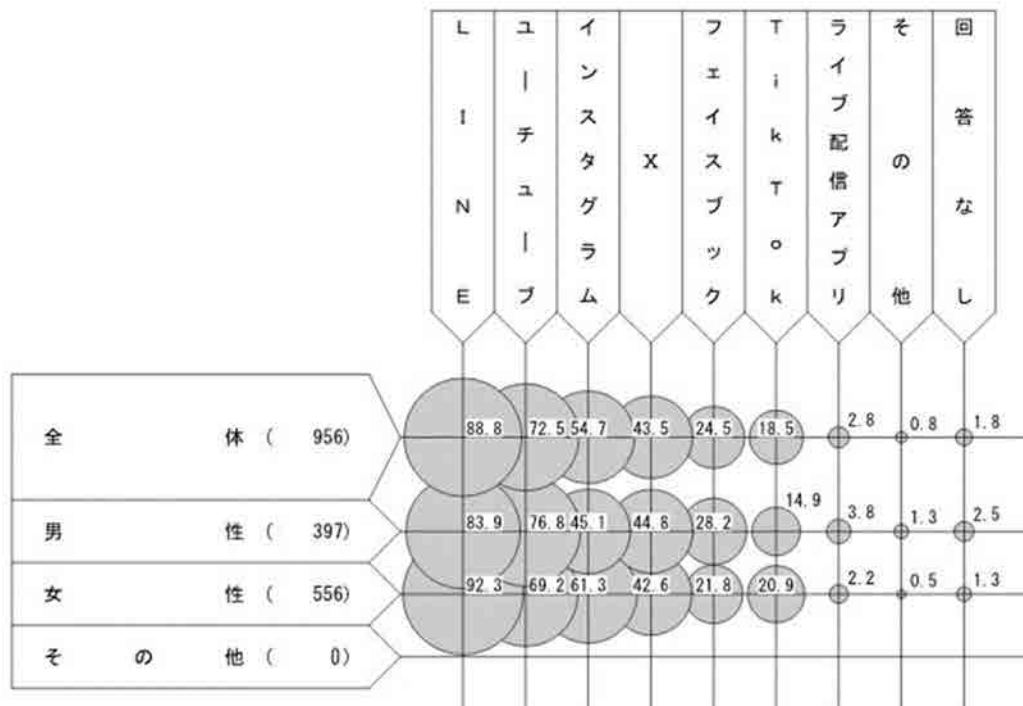
○「SNS」または「動画投稿・共有サイト」を利用している 956 人（50.1%）の市民を対象に、利用しているSNSの種類について尋ねたところ、「LINE」が 88.8%で最も多く、次いで「ユーチューブ」が 72.5%、「Instagram」が 54.7%、「X（旧ツイッター）」が 43.5%の順になっています。

○「LINE」と「ユーチューブ」についてはそれぞれ、44.5%、36.3%の市民が利用していることになります。

【性別】

○「LINE」や「Instagram」については、男性よりも女性の方が利用割合は高くなっています。逆に「ユーチューブ」については、女性よりも男性の方が利用割合は高くなっています。

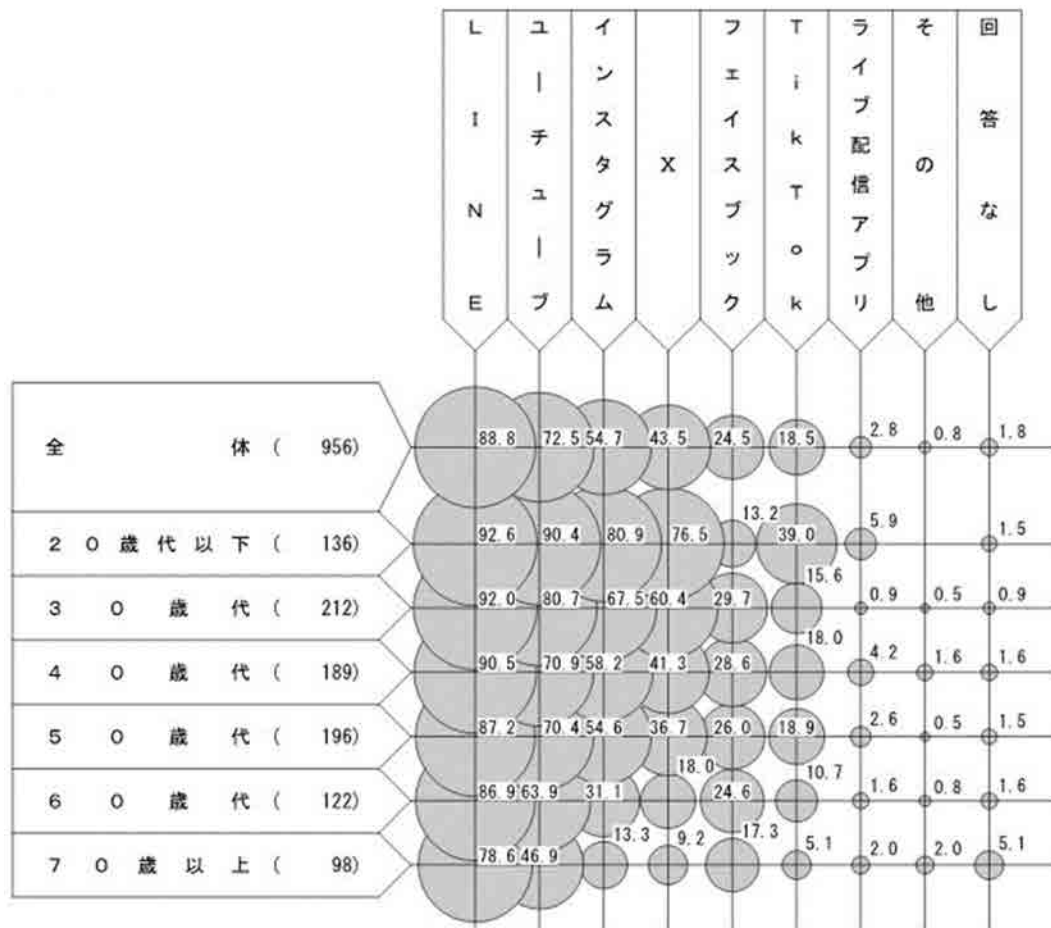
図表 VII-18 利用しているSNS（性別）



【年齢別】

- 年齢別にみると、「LINE」と「ユーチューブ」、「インスタグラム」、「X（旧ツイッター）」の上位4つのSNSはいずれも若い人ほど利用率が高くなっています。
- 「フェイスブック」については、いわゆるZ世代と呼ばれる世代が多くを占める20歳代以下の若者層では、13.2%と少なくなっています。
- 「LINE」については、70歳以上の高齢者でも78.6%となっています。高齢者はインターネットの利用自体多くありませんが、70歳以上の高齢者全体の13.4%（573人中98人×78.6%）の人が「LINE」を利用しています。

図表 VII-19 利用しているSNS（年齢別）



(7) キャッシュレス決済の利用程度（問 29）

問 29

あなたはキャッシュレス決済をどの程度利用していますか。

【○は1つだけ】

キャッシュレス決済を「よく利用している」が 40.4%で最も多く、「ときどき利用している」（27.4%）と「あまり利用していない」（11.7%）を加えると、“利用している”という市民は 79.5%を占めています。70 歳以上の高齢者でも半数を超えてキャッシュレス決済が利用されています。

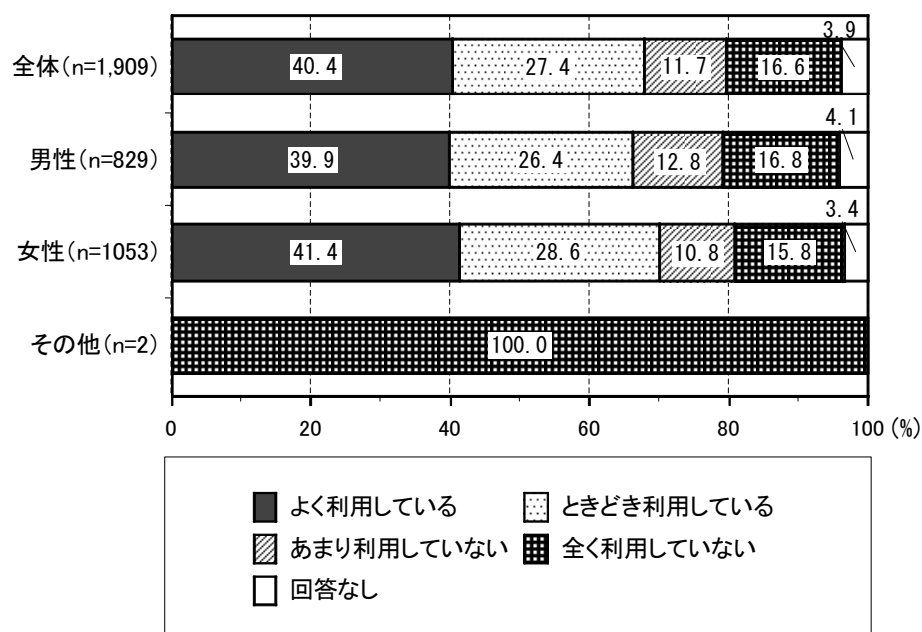
【全体】

○キャッシュレス決済の利用状況を尋ねたところ、「よく利用している」が 40.4%で最も多く、次いで多い「ときどき利用している」の 27.4%と合わせると、67.8%になります。さらに、「あまり利用していない」の 11.7%を加えると、キャッシュレス決済を“利用している”という市民は 79.5%にのびります。

【性別】

○性別による有意な差はみられません。

図表 VII-20 キャッシュレス決済の利用程度（性別）

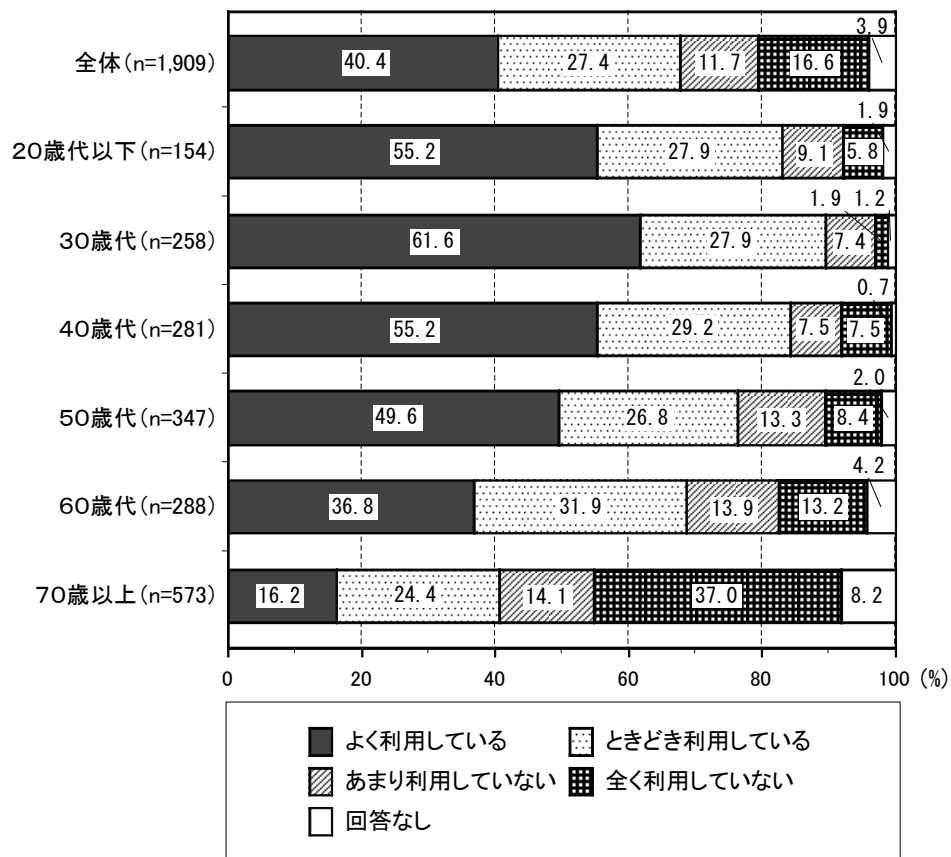


【年齢別】

○年齢別にみると、“利用している”の割合は30歳代で96.9%と最も多く、年齢が高くなるにしたがって割合が少なくなる傾向がみられます。

○70歳以上では、「全く利用していない」が37.0%で他の年齢層に比べて目立って多くなっていますが、“利用している”は54.7%となっており、キャッシュレス決済は70歳以上の高齢者でも半数を超えて利用されています。

図表 VII-21 キャッシュレス決済の利用程度（年齢別）



(8) 利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段 (問 29-1)

問 29-1

あなたが比較的利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段は何ですか。
【あてはまるものすべてに○】

キャッシュレス決済を利用していると回答した市民 1,517 人に対して比較的利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段を尋ねたところ、「クレジットカード」が 67.6%で最も多く、次いで「バーコード、QRコード決済」が 43.0%、「交通系電子マネー」が 38.8%の順になっています。

「クレジットカード」については、幅広い年齢層で利用されています。60 歳代や 70 歳以上の年齢層では、「バーコード、QRコード決済」よりも「交通系電子マネー」の利用者の方が多くなっています。

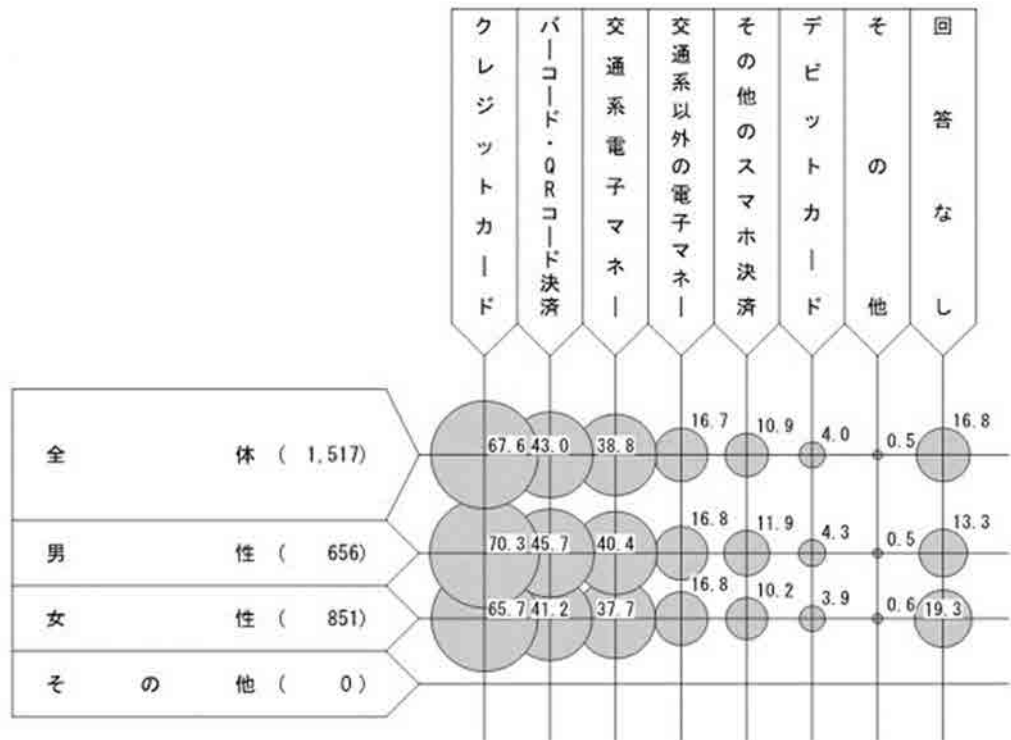
【全体】

○キャッシュレス決済を利用していると回答した市民 1,517 人に対して比較的利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段を尋ねたところ、「クレジットカード」が 67.6%で最も多くの市民から利用されています。次いで「バーコード、QRコード決済」が 43.0%、「交通系電子マネー」が 38.8%の順になっています。

【性別】

○性別の違いによる有意な差はみられません。

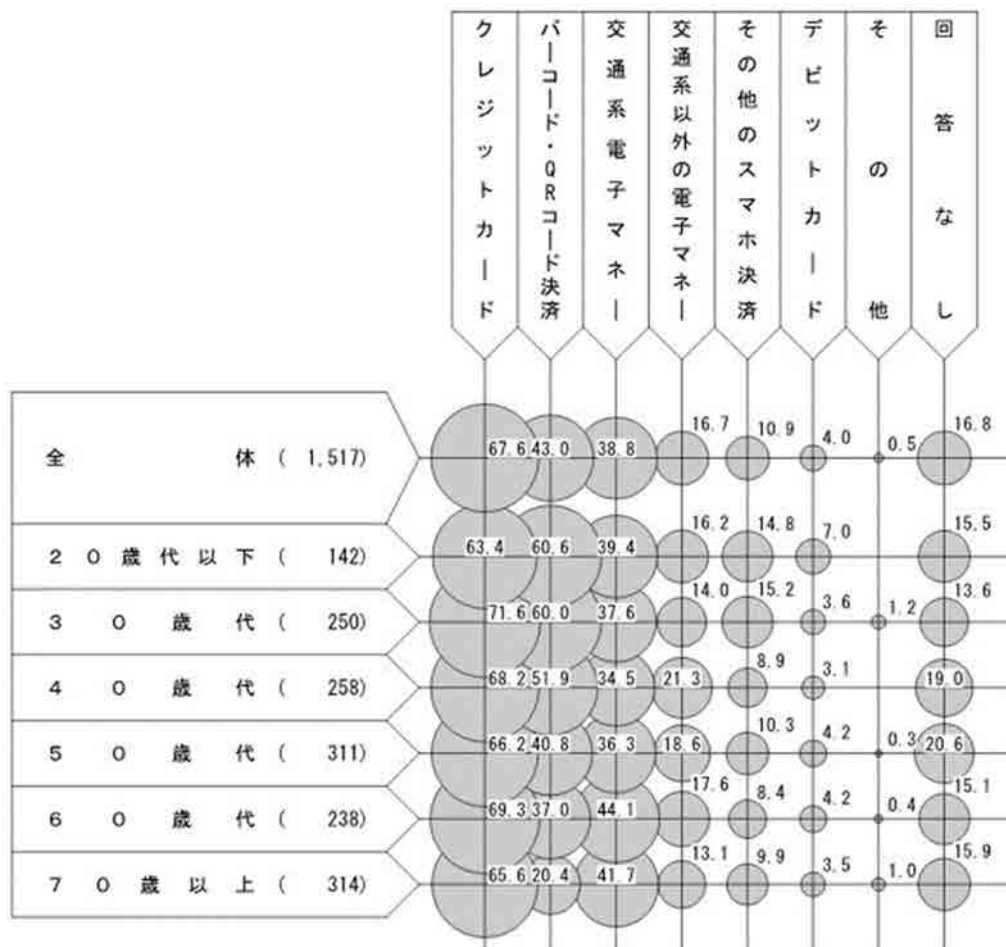
図表 VII-22 利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段 (性別)



【年齢別】

- 年齢別にみると、「クレジットカード」については、すべての年齢層において、一番多く利用されているキャッシュレス決済手段となっています。
- 「バーコード、QRコード決済」については、若い年齢層ほど利用率が高く、20歳代以下では60.6%となっていますが、70歳以上の高齢者では、20.4%にとどまっています。60歳代や70歳以上の年齢層では、「バーコード、QRコード決済」よりも「交通系電子マネー」の利用者の方が多くなっています。

図表 VII-23 利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段（年齢別）



(9) 公共料金の支払いで利用できるようにしてほしい決済サービス (問 30)

問 30

今後市税や手数料などの公共料金の支払いで利用できるようにして欲しい決済サービスはどれですか。【あてはまるものすべてに○】

67.5%の市民は、公共料金で利用できる何らかのキャッシュレス決済を望んでいます。「クレジットカード払い」が 47.0%で最も多く、次いで「スマホ決済・QRコード決済」が 29.5%、「コンビニエンスストアでの支払い」が 25.5%の順になっています。

「コンビニエンスストアでの支払い」を除くと、若い世代ほど割合が高くなる傾向がみられます。

【全体】

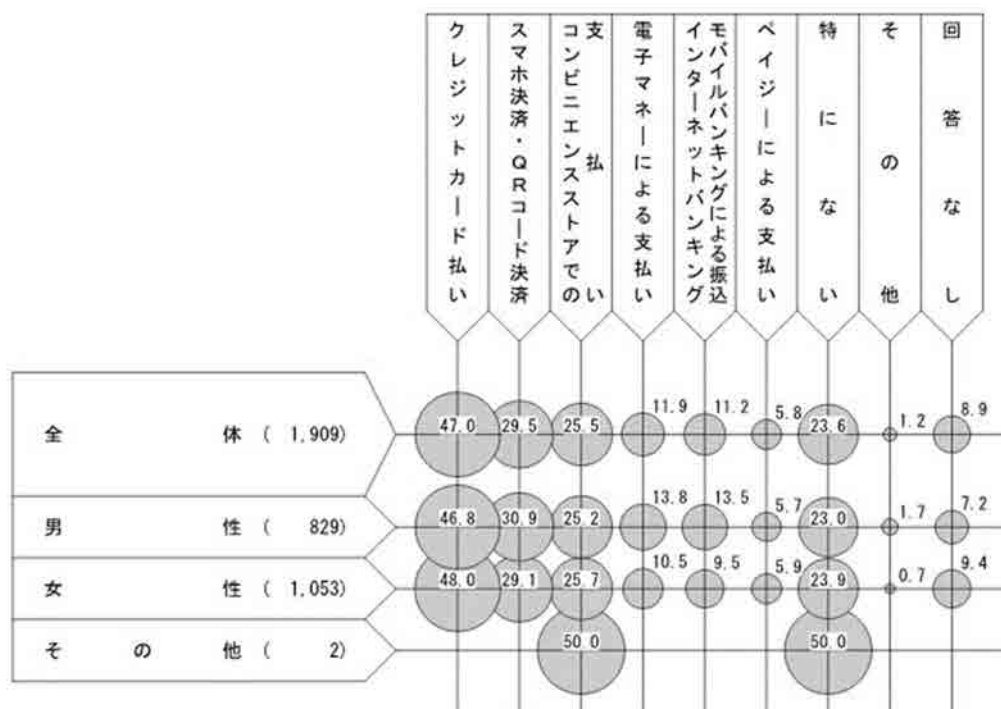
○今後公共料金の支払いで利用できるようにして欲しい決済サービスについて尋ねたところ、「特になし」が 23.6%と 1/4 近くを占めているものの、これと、「回答なし」の 8.9%を除いた残りの 67.5%の市民は、公共料金で利用できる何らかのキャッシュレス決済を望んでいます。

○具体的には、「クレジットカード払い」が 47.0%で最も多く、次いで「スマホ決済・QRコード決済」が 29.5%、「コンビニエンスストアでの支払い」が 25.5%の順になっています。

【性別】

○性別の違いによる有意な差はみられません。

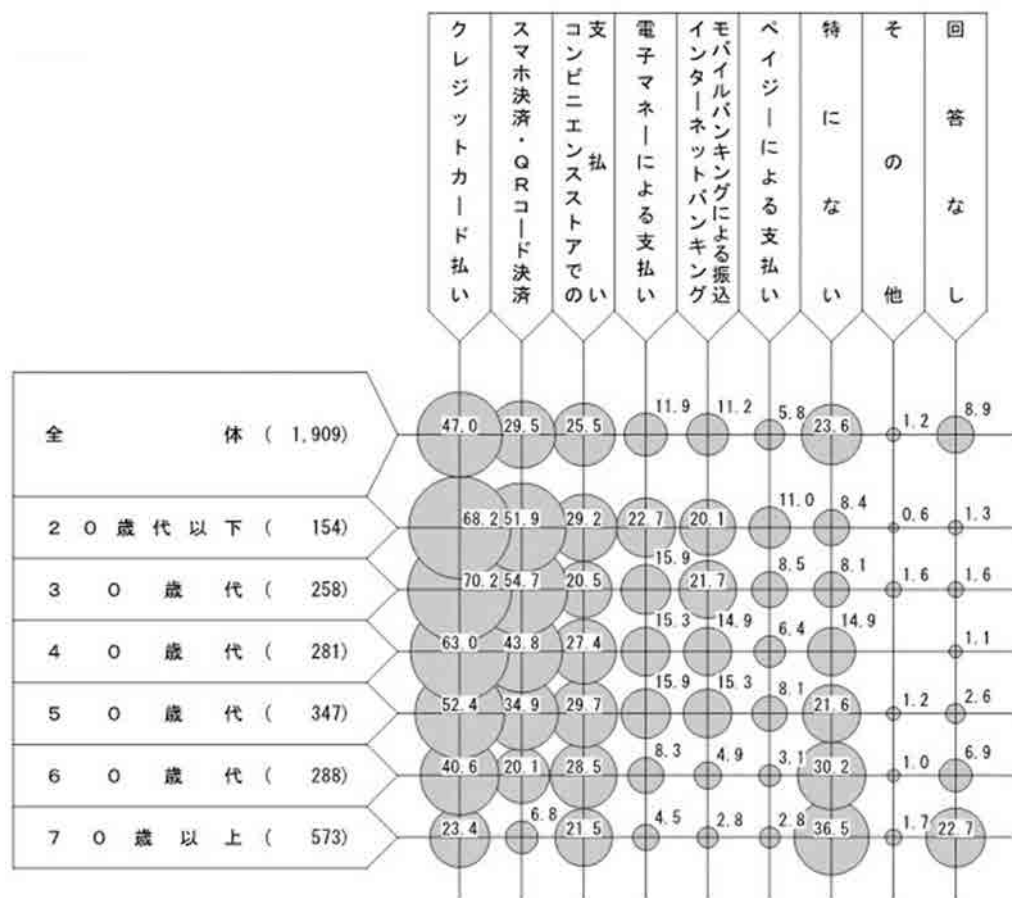
図表 VII-24 公共料金の支払いで利用できるようにしてほしい決済サービス (性別)



【年齢別】

- 年齢別にみると、「コンビニエンスストアでの支払い」については、年齢による大きな差はみられず、おおむねどの年齢層からも均等な要望としてあげられています。
- これ以外の決済サービスについては、おおむね若い世代ほど多くなる傾向がみられます。それに反比例する形で、「特にない」という割合は年齢が高くなるにしたがって高くなる傾向が顕著にみられ、70 歳以上では「特にない」が 36.5% となっています。

図表 VII-25 公共料金の支払いで利用できるようにしてほしい決済サービス（年齢別）



(10) 情報化に伴い向上すべき市民サービスの内容（問 31）

問 31

あなたは、今後、岩倉市が情報化を進めていく上で、どのような市民サービスをさらに向上させていく必要があると思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

情報化を進めていく上で、どのような市民サービスをさらに向上させていく必要があるかについて尋ねたところ、「行政機関への申込み・手続きのオンライン化に関すること」が 44.9%で最も多く、2 番目に「スマートフォンなどによる公共料金等の決済に関すること」が 28.3%多くなっています。このように、どちらかといえば、直接的に市民サービスに結び付く事項が強く望まれています。

【全体】

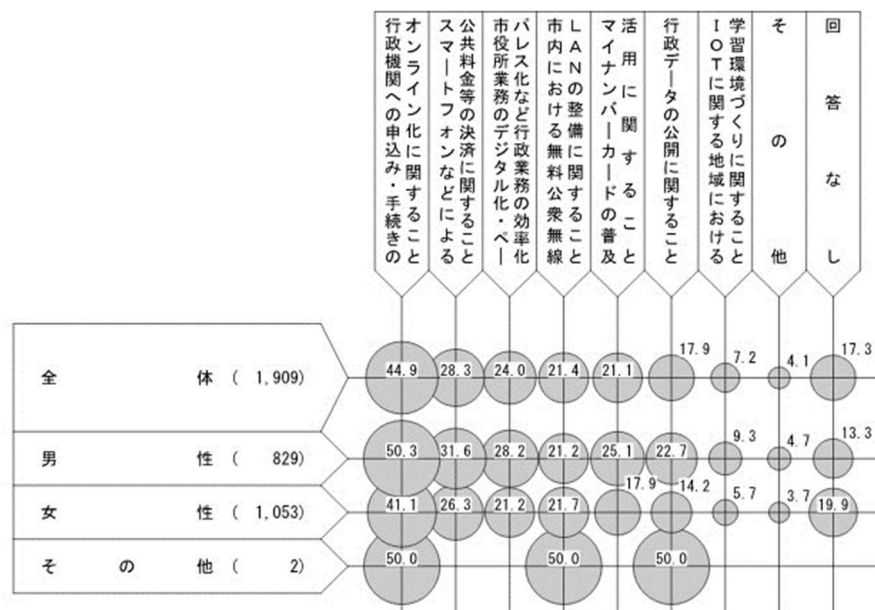
○今後、岩倉市が情報化を進めていく上で、どのような市民サービスをさらに向上させていく必要があるかについて尋ねたところ、「行政機関への申込み・手続きのオンライン化に関すること」が 44.9%で最も多く、次いで「スマートフォンなどによる公共料金等の決済に関すること」が 28.3%、「市役所業務のデジタル化・ペーパレス化など行政業務の効率化に関すること」が 24.0%、「市内における無料公衆無線 LAN の整備に関すること」が 21.4%、「マイナンバーカードの普及・活用に関すること」が 21.1%の順になっています。

○どちらかといえば、直接的に市民サービスに結び付く事項が強く望まれています。

【性別】

○「市内における無料公衆無線 LAN の整備に関すること」を除いた、「行政機関への申込み・手続きのオンライン化に関すること」をはじめとした多くの事項において男性の方が女性を上回っていますが、性別による大きな差異はないといえます。

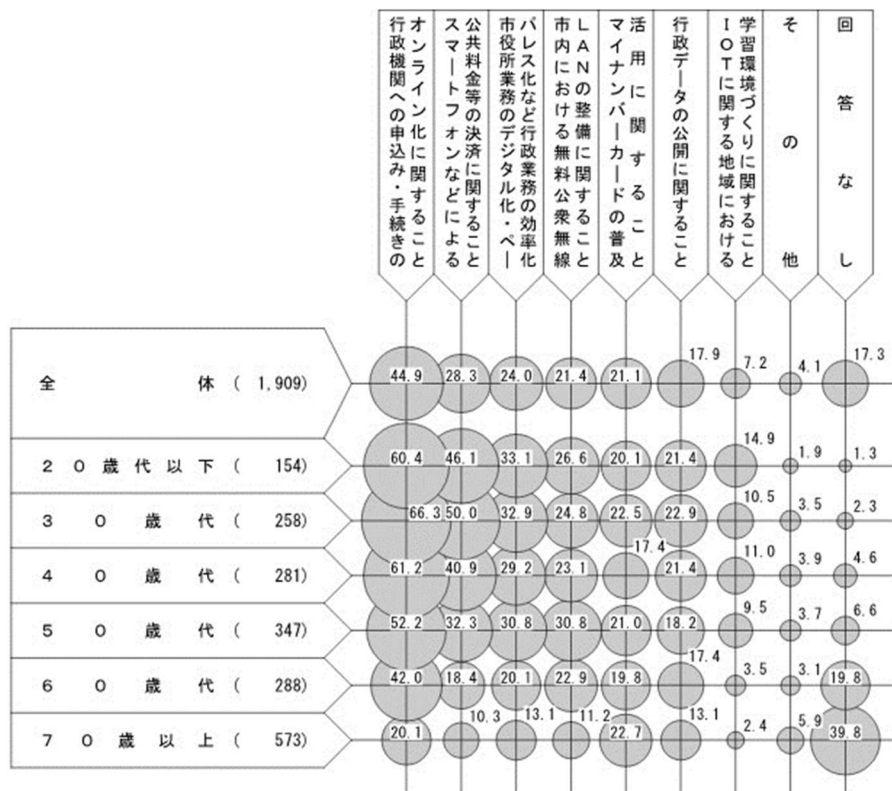
図表 VII-26 情報化に伴い向上すべき市民サービスの内容（性別）



【年齢別】

- 年齢別にみると、「行政機関への申込み・手続きのオンライン化に関すること」や「スマートフォンなどによる公共料金等の決済に関すること」については、特に20歳代以下の年齢層から40歳代以下の年齢層において要望としてあげる割合が高くなっています。
- 「マイナンバーカードの普及・活用に関すること」や「市内における無料公衆無線LANの整備に関すること」を除くと、総じて年齢が若いほどニーズがおおむね高くなる傾向がみられます。

図表 VII-27 情報化に伴い向上すべき市民サービスの内容（年齢別）



(11) 岩倉市への情報化に対する要望（問 32）

問 32

岩倉市に対して、今後どのような情報提供を充実してほしいと思いますか。

【○は3つまで】

88.7%の市民が、何らかの情報提供を充実してほしいと回答しています。

充実してほしい情報としては、「救急医療などの医療機関に関する情報」が 32.1%で最も高く、3番目に高い「いろいろな災害に備えるために必要な情報」（24.2%）とともに、安全・安心に関わる情報提供ニーズが高くなっています。

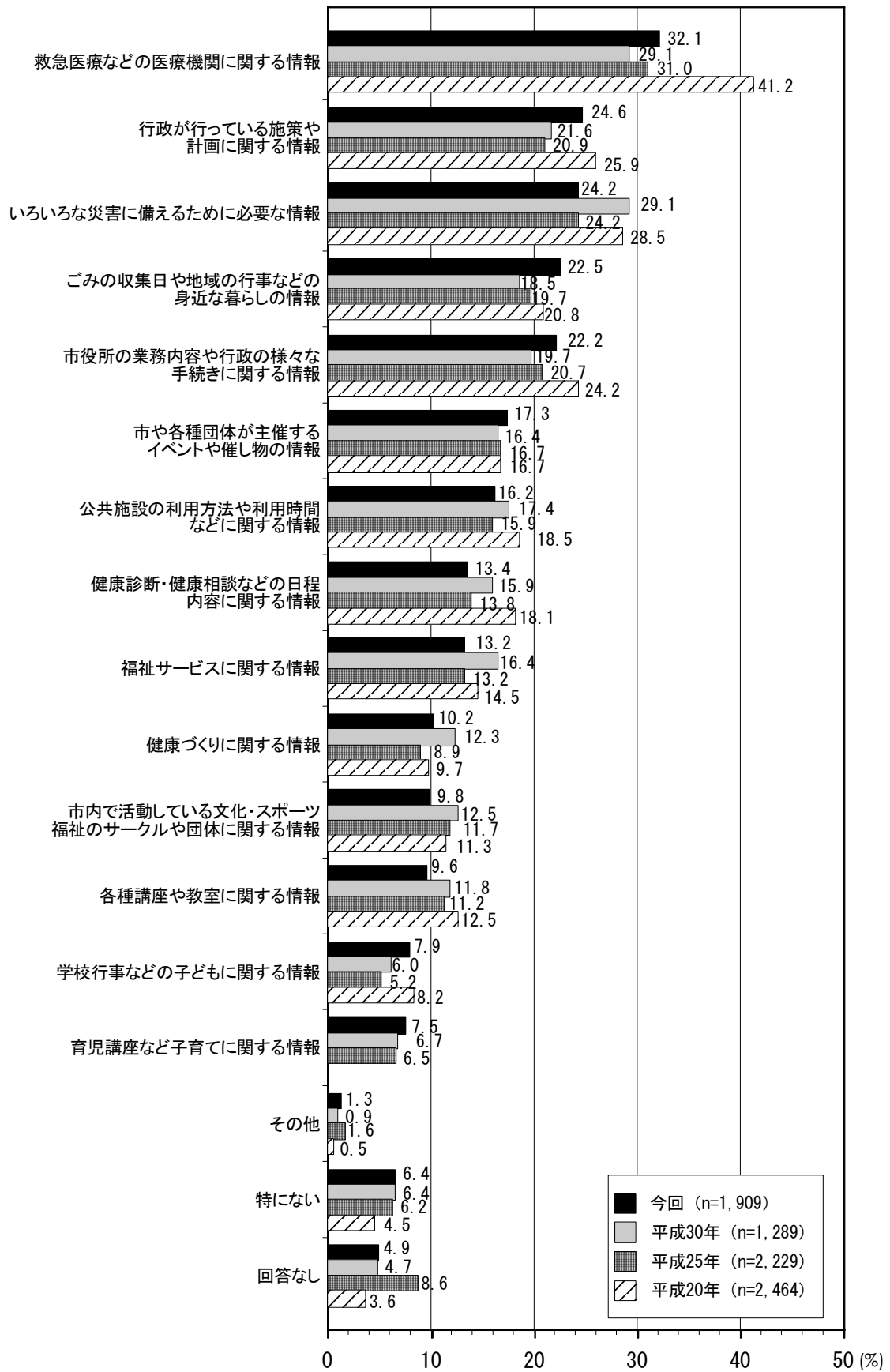
【全体】

- 「特にない」の 6.4%と、「回答なし」の 4.9%を合わせた 11.3%を除いた 88.7%の市民が、何らかの情報提供を充実してほしいと回答しています。
- 充実してほしい情報としては、「救急医療などの医療機関に関する情報」が 32.1%で最も高くなっています。また、「いろいろな災害に備えるために必要な情報」が 24.2%で3番目になっており、安全・安心に関わる情報提供ニーズの割合が高くなっています。
- 2番目は、「行政が行っている施策や計画に関する情報」が 24.6%で市政に関する情報提供を求める市民の割合も高くなっています。
- 以下、「ごみ収集日や地域行事などの暮らしの情報」が 22.5%、「市役所の業務内容や行政の様々な手続きに関する情報」が 22.2%、「市や各種団体が主催するイベントや催し物の情報」が 17.3%の順となっています。

【経年比較】

- 平成 30 年調査と比べると、多少の順位の変動はあるものの、回答割合に大きな差はみられません。また、医療や防災といった、市民生活の安全・安心に関する項目が上位となっている点についても、大きな傾向の変化はみられません。
- もう少し長期的にみると、回答割合が低下傾向にある項目と、横ばいまたは微増の項目に大別されます。平成 20 年調査と比較して、回答割合の減少が最も大きかったのは「救急医療などの医療機関に関する情報」であり、平成 20 年調査では 41.2%であったものが、平成 25 年調査には 31.0%に低下し、その後は、29.1%、32.1%と横ばいになっているのが特徴となっている以外は、大きな変化はみられません。

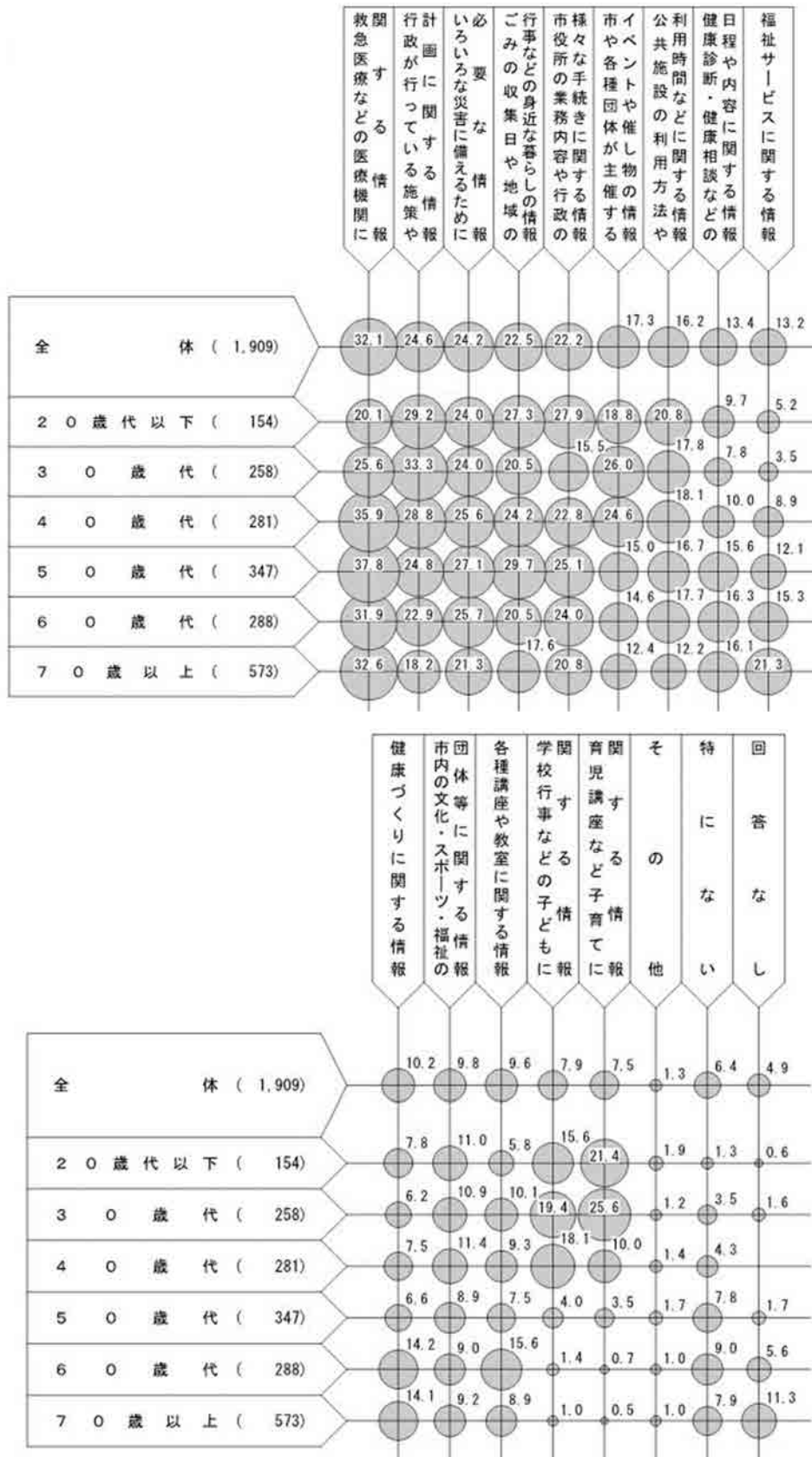
図表 VII-28 岩倉市への情報化に対する要望（経年比較）



【年齢別】

- 全般的にみると、年齢層によって多少の差がある項目がみられ、それぞれのライフステージに合った情報提供が求められています。
 - 具体的には、「育児講座など子育てに関する情報」は、乳幼児や小学生の子を持つ割合が高い年齢層である 30 歳代で 25.6%、20 歳代以下で 21.4%と、全体平均の 7.5%と比べて際立って高くなっています。同様に、「学校行事などの子どもに関する情報」は、学齢期の子を持つ割合が高い年齢層である 30 歳代で 19.4%、40 歳代でも 18.1%と、全体平均の 7.9%と比べて高くなっています。
 - 一方で、「福祉サービスに関する情報」については、70 歳以上が 21.3%で最も高く、全体平均の 13.2%と比べて 8.1 ポイント高く、最も低い 30 歳代の 3.5%とは 17.8 ポイントの差がみられます。
-

図表 VII-29 岩倉市への情報化に対する要望（年齢別）



VIII. ま と め

—第5次総合計画中間見直しに向けた主な課題—

Ⅷ. まとめ―第5次総合計画中間見直しに向けた主な課題

本章では、アンケート調査の結果と社会の動向等から浮かび上がってきた第5次総合計画中間見直しにおいて考慮すべき主な課題を、次の①～⑫のとおり整理します。

①全般的に周辺の生活環境評価が高まっているものの、優先度の高い課題となっている安全・安心に関する生活環境の改善及び子育て支援サービスの充実

○岩倉市に対する総合的な住みやすさの評価は、少しずつではあるものの平成10年以降平成30年までは一貫して増加傾向を示しており、平成30年から今回調査にかけてはほぼ横ばいとなったものの、“住みよいの評価”は77.9%を占めています。

○また、お住まい周辺の生活環境に対する市民の評価についても前回調査よりも全般的に高まっており、全26生活環境項目のうち、18項目が前回調査よりもポイントが増加しています。

○特にポイントの上昇幅が大きかった項目としては、「路上や公共の場所での喫煙マナー」(0.15)、「浸水や地震などの地域防災体制」(0.10)、「犯罪・暴力からの安全性」(0.08)など、生活上の安全・安心に関する事項がみられます。

○その一方で、「道路の自転車の通行の安全性」をはじめ、「道路の広さ」や「道路の歩行者の通行の安全性」といった交通安全に関する身近な生活環境評価と「空き地などの雑草の手入れの状態」の4項目については、依然としてマイナスとなっていますが、いずれも前回調査よりもポイントが上昇しています。

○このようなこともあり、Ⅱ.の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」が最も優先度の高い“重点改善施策項目”として多くの市民から重要視されています。

○これに加えて、「地震や浸水などの防災対策」と「地域の防犯活動への支援や防犯対策」といった暮らしの安全・安心に関する項目が多くの市民から重要視されています。また、これら3項目に次いで「子育て支援サービスの充実」についても優先度の高い“重点改善施策項目”として多くの市民から重要視されています。

○以上のように、総合的な住みやすさや身近な生活環境に対する市民の評価は全般的に高水準になっていますが、主として安全・安心に関する生活環境の向上が依然として解決すべき課題として残っています。また、少子化対策が大きな社会的課題になっている中、「子育て支援サービスの充実」も優先度の高い施策項目となっています。

②相対的な優位性がさらに低下している岩倉東小学校区への対応

○①で記述したとおり、全般的に身近な生活環境に対する評価は高まってきています。

○しかしながら、身近な生活環境の評価は、今でも岩倉東小学校区が高いものの、かつてのような岩倉東小学校区だけが突出して高いという傾向が薄れてから久

しくなっています。

- また、Ⅱ. の 3. の「(1) 住む場所としての評価」でみたように、「家庭を預かる主婦（主夫）が生活するまち」としての評価と「高齢者が生活するまち」としての評価、「健康で幸せに暮らせるまち」としての評価については、5 小学校中最下位になってしまっています。
- 以上のように、かつては群を抜いて生活環境面等の評価が高かった岩倉東小学校区の優位性はさらに低下しています。児童数が少ない状況も続いています。また、高齢化と小世帯化も進んでいます。
- その一方で、岩倉東小学校区では、これまで一貫して低下していた「永住したい」を含む定住意向を示す人の割合が大幅に増加に転じています。UR 都市機構岩倉団地で外壁修繕やエレベーター設置などが進められたことも影響しているものと考えられます。
- しかしながら、既に住棟は建設後 55 年以上経っていることから岩倉団地の再生と子育て世代や高齢者にとって暮らしやすいまちづくりの推進などが求められます。

③小学校区間格差は縮小傾向であるものの、依然として求められる格差改善

- 岩倉東小学校区の評価だけかなり突出するような傾向が薄れたことは、都市としての成熟度が増す中で、生活環境も平準化してきた側面として捉えることができます。
- 実際、平成 30 年調査では、平成 25 年調査と比較して周辺生活環境評価の学区間格差が拡大した項目が 15 項目であったのに対して今回調査では 6 項目に大幅に減少し、学区間格差が縮小した項目が 10 項目から 19 項目に増加しています。
- ところが、「日常の買い物の便利さ」をはじめ、小学校間格差が拡大した項目もみられるなど、その改善が課題として残されています。

④持続的なまちの発展のための都市開発・住宅地の形成

- Ⅱ. の 1. の「(2) 岩倉市の魅力」でみたように、「交通の便が良い」(68.0%) が岩倉市の最大の魅力になっています。「日常の買い物が便利」(53.8%) も大きな魅力になっています。
- また、Ⅱ. の 3. の「(1) 住む場所としての評価」でみたように、「子育てするまち」や「児童、生徒、学生が生活するまち」として子育て世代の市民を中心に比較的高い評価が得られています。
- このように本市は、名古屋から交通至便なところに位置し、子育て世代にとって住みやすいまちです。
- ところが、実際は、出産・子育て世代（30 歳代から 40 歳代前半）の人口流出が恒常化している状況です。市域が狭く、人口密度が高いために戸建て住宅が取得しにくい本市の構造的な問題がこのような状況を生み出している大きな原因となっているものと考えられます。
- そこで、都市としての発展・活力と持続的な都市経営を図っていくためには、子どもや子育て世代が一定の割合で居住し続けている状況を創り出し、 balan

スのよい人口構成を将来にわたって維持・発展させていくことが必要不可欠です。

- このためには、子育て世代が住宅を取得して住み続けられるような市街地開発、住宅地の形成を進めるなど、②で述べた岩倉団地の再生も視野に入れつつ、子育て世代を中心とした移住定住の受け皿を確保していくことが依然として重要な課題の一つであると言えます。
- また、第5次岩倉市総合計画では、まちづくり戦略2として「子育て世代の移住・定住を促すー人口減少を予防し、バランスのとれた人口構成を維持させていくための戦略ー」を掲げ、「名古屋駅や名古屋都心への交通アクセスに優れているという本市の立地特性を生かし、リニア中央新幹線開業のインパクトも視野に入れながら、岩倉駅前市街地における民間マンション等の開発・整備の促進、空き家の活用などにより、子育て世代をメインターゲットとした街なか居住、移住・定住を推進します」という施策の展開方針を示しています。
- ところが、Ⅳ.「(1) 岩倉駅東地区のあり方」でみたように、岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区の今後のあり方としては、「新しい飲食店や商店が増えて、食事や買物が便利になる」(53.4%)をあげる市民が最も多い一方で、「まちなか居住者が増えて人口が増加する」との回答は、6.9%と最下位になっています。
- こうした市民との意識ギャップを埋めつつ、面整備や街路整備も視野に入れながらマンション等の開発・整備を誘導し街なか居住を進めていくことが求められます。

⑤効果的かつ多面的な少子化対策の推進と世代を超えたコンセンサスの形成

- 本市に限ったわけではありませんが、コロナ禍を契機に出生数（出生率）がさらに低下し、少子化傾向が加速化している状況にあります。また、先にも触れたように出産・子育て世代（30歳代から40歳代前半）の流出超過も恒常的に続いています。
- このような状況にある中、Ⅴ.の「(1) 少子化に対する危機感」でみたように、少子化に対して“危機感を覚えている”という市民は、71.3%を占めており、しかも、その半数以上にあたる36.6%の市民が強い危機感を覚えています。また、年齢に関係なくどの世代からも危機感が示されています。
- そして、「妊娠・出産の支援体制の確保」(43.5%)をはじめ、「教育費負担の軽減」(40.1%)や「育児休業制度や仕事と家庭の両立支援の普及」(35.6%)、「若者の自立した生活と就労の促進」(34.1%)、「時短などの働き方改革や男性の子育てへの関わりの促進」(30.7%)など、多様な少子化対策が望まれています。
- また、Ⅱ.の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「子育て支援サービスの充実」が施策の優先度の第4位にあげられています。
- ところが、少子化対策を充実していく上での財源の考え方については、世代間のギャップが如実に表れています。具体的には、年齢が若い層ほど、“市が予算を増額していくべき”の割合が多くなる傾向がみられます。しかも「少子化対策を充実していくためには、市が大幅に予算を増額していくべき」という割合

は、70 歳以上では 14.5%であるのに対して、20 歳代以下では 36.4%となっています。

- こうした世代間ギャップを埋めながら、将来に向けて最も大きな課題の一つである少子化の改善・解決の実現に向け、効果的かつ多面的な少子化対策を模索し、総合行政的な視点から実施していく必要があります。

⑥安全・安心施策の充実－防災対策

- Ⅱ. の 1. の「(1) 周辺の生活環境」でみたように、「浸水や地震などの地域防災体制」に対する評価は、前回調査に比べてポイントは上昇しましたが、26 項目中 21 位と下位にあります。
- また、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「地震や浸水などの防災対策」は、施策の優先度の第 2 位になっています。また、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」といった暮らしの基本的要素である安全に関する事項が多く市民から重要視されています。
- 岩倉市は「南海トラフ地震防災対策推進地域」に指定されており、最大震度 6 強の揺れが発生すると予測されています。
- こうした大規模災害発生時には、食料・飲料・生活必需品などの備蓄は 1 週間分が望ましいとされており、こうした自助努力はもとより、減災対策や防災訓練の充実など「災害予防対策」、救援活動など災害発生直後に求められる「応急対策」、災害後しばらくしてから必要となる「復旧対策」など多段階的・多面的な防災対策を引き続き充実する必要があります。

⑦安全・安心施策の充実－防犯対策・交通安全対策

- ①でも述べたように、周辺の生活環境に対する市民の評価のうち「犯罪・暴力からの安全性」に対する評価は上昇しました。しかし、26 項目中 14 位と高水準の評価が得られているとは言えません。
- また、平成 29 年から令和 4 年にかけて岩倉市の犯罪認知件数は 495 件から 269 件に減少しているにもかかわらず、「防犯面における不安が多い」が岩倉市の魅力がない点のワースト 1 位になっています。
- さらに、全国的にみて依然として子どもが被害者となるような犯罪が発生している状況や、凶悪犯罪や振り込め詐欺等の犯罪が全国的に頻発している状況も相まって、「地域の防犯活動への支援や防犯対策」が施策の優先度の上位 3 番目になっています。
- “地域コミュニティに勝るセーフティネットは無し”と言われているように、防災と同様に防犯も地域コミュニティや市民の役割が重要であることから、それぞれの地域が地域コミュニティ力を発揮しつつ、警察等とも連携しながら防犯対策を進めていく必要があります。
- また、先にもふれたように、「道路の歩行者の通行の安全性」や「道路の自転車の通行の安全性」といった交通安全に関する身近な生活環境評価は依然としてマイナスとなっているとともに、「子どもの遊び場の安全性」や「通学路の安全性」も高水準の評価が得られているとは言えない状況が続いています。このよ

うな状況にあることから、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策」が施策の優先度のトップになっています。

- 市域が狭く、道路整備・道路拡幅やすべての道路における歩道の設置は物理的にも財政的にも困難であることから、カラー舗装の整備や道路規制など、ハード・ソフト両面の交通安全対策を引き続き実施していくことが求められます。

⑧安心施策の充実－誰もが医療が受けられるような情報提供

- Ⅱ. の1. の「(2) 岩倉市の魅力」でみたように、調査を開始以来、一貫して魅力がない点の第1位となっていた「医療施設が整っていない」(25.6%)が、平成20年の調査以降では一貫して5位にとどまっています。しかも、「医療施設が充実している」が、魅力がある点の第5位に浮上しています。これは、市内各所で新たな診療所・クリニックが開設されたことや、広報紙等によって医療情報の提供等を行ってきたことが多分に影響しているものと考えられます。
- しかしながらその一方で、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「医療機関との連携」が5番目に優先度の高い施策として多くの市民から重要視されています。また、Ⅶ. の「(11) 岩倉市への情報化に対する要望」でみたように、「救急医療などの医療機関に関する情報」は、最も多くの市民から望まれています。

⑨超高齢化社会に対応した地域社会づくり－地域共生社会の実現とそのための重層的支援体制の構築

- 団塊世代のすべてが後期高齢者になる2025年問題が間近に控えている中、包括的支援体制構築の必要性がいられています。
- “愛知県下でも高齢化率の低いまち”という時代は終焉を迎え、本市の高齢化率は今や愛知県の平均とほぼ同水準です。しかも、介護需要が高まる後期高齢者の人口は、既に前期高齢者の人口を上回り、令和12年(2030年)に一旦ピークを迎えるものの、2040年以降再び増加に転じることが予想されています。また、世帯の小規模化(高齢単身世帯や高齢夫婦世帯の増加)が同時進行しています。
- こうした状況にある中、将来にわたって介護需要が増大していくことが予想されます。
- このようなこともあり、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「高齢者の福祉サービスの充実」が優先度の高い“重点改善施策項目”の第13位になっています。
- このような高齢者問題だけではなく、ダブルケアや8050問題への対応、生活困窮者やヤングケアラー、障害をかかえている人々など、複雑かつ複合的な地域生活課題を抱えている人々に対する地域社会における包摂、「地域共生社会」の実現が求められています。このため、支え合い・助け合いの地域福祉活動の推進とそのための仕組みづくり(重層的支援体制整備など)が大きな課題となっています。

○また、本市では、平成 30 年（2018 年）12 月 1 日に「健幸都市いわくら」を宣言し、五条川健幸ロード整備や健幸づくり応援事業を実施していますが、引き続き、人生 100 年時代を見据え、市民一人ひとりが夢と希望を持って自分らしく充実した人生を健康的に送ることができるようにしていくことが求められます。このため、健康寿命の延伸を目指し、各種保健事業はもとより生涯スポーツと連携した身体健康づくり、生涯学習と連携した心や知の健康づくり、生きがいの醸成を進めていく必要があります。

⑩子どもの遊び場の確保や安全性の向上を含めた子育て支援策等の充実

○本市では、第 4 次岩倉市総合計画においてまちづくり戦略の一つとして「子育て世代の移住・定住（世代循環）を促す」を掲げ、また、それを引き継いで第 5 次岩倉市総合計画においては、まちづくり戦略 2 として「子育て世代の移住・定住を促すー人口減少を予防し、バランスのとれた人口構成を維持させていくための戦略ー」を掲げ、施策を推進してきました。

○そして、その一環として、私立保育園整備や幼稚園の認定こども園への移行等による保育利用定員の拡大や病後児保育事業の実施、放課後児童クラブ施設整備及び定員拡大など子育て・子育て支援施策を展開してきました。

○しかしながら、先にもふれたように、コロナ禍で出生数は大きく減少しました。その一方で、少子化傾向にありながら、保育需要の拡大は依然として進んでいます。また、子育て世代の移住定住は、今なお重要な課題の一つとして残っています。

○先にみたように、「子どもの遊び場の安全性」や「身近な子どもの遊び場の多さ」の生活環境評価については、高水準の評価が得られているとは言い難い状況が続いています。

○また、Ⅱ. の「2. 施策に対する満足度と重要度」でみたように、「子育て支援サービス」は優先度の高い“重点改善施策項目”の第 4 位になっています。

○さらに、先にもふれたように、少子化に対して“危機感を覚えている”という市民は、71.3%を占めており、しかも、その半数以上にあたる 36.6%の市民が強い危機感を覚えています。

○以上のことから、子どもの遊び場の確保や安全性の向上を含めた子育て支援及び少子化対策（子どもの維持増加策）が重要な課題になっています。

⑪マルチパートナーシップの具現化と 4 つのまちづくり戦略の着実な推進

○Ⅶ. の「（2）行政サービスと市民負担のバランス」でみたように、「行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により財源を生みだすべき」が 26.3%で依然として最も多いものの、平成 25 年調査の 34.2%からみれば 7.9 ポイント低く、平成 30 年調査結果とは、ほぼ変化はありません。一方で、「市民全体の負担が増えるのであれば行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない」で 24.8%を占めています。この割合は、平成 25 年調査以来、一貫して増えています。

○これは、人口構造が大きく変化し、行政経営が益々厳しくなる中で、市民も一

定の負担や痛みを受容しながら行政経営をしていくことに対する理解が広がったことを示すものと考えられます。

- 本市では、「多様な縁で創る『役立ち感』に満ちた市民社会をめざす」という第4次総合計画で掲げた基本理念の進化系の協働概念として“マルチパートナーシップ”という言葉をもとに新たな基本理念の中に盛り込み、参画と協働によるまちづくりの進化に努めてきました。
- しかしながら、防災・防犯や地球環境問題への対応、地域共生社会の実現に象徴される行政だけでは解決できないような地域課題が山積しています。また、新型コロナウイルス感染症拡大、地球温暖化に伴う気候変動とそれに伴う非日常ではなくなった異常気象や大規模自然災害への対応など、私たちが暮らす地域社会は、先行きが不透明で複雑性・不確実性が高い予測が難しい“VUCA^{※1}（ブーカ）時代”と呼ばれる様相を呈しています。
- こうした状況を乗り切るためには、今まで通りの延長線の発想から脱却した新しい発想と行政では持ち合わせていない技術やノウハウが求められます。
- 人口減少時代・超高齢社会に耐えうる社会システムを構築し、持続可能な自治体経営・地域経営を推進していくためには、第5次総合計画で掲げた基本理念「マルチパートナーシップによる 誰もが居場所のある共生社会をめざす」を具現化していく必要があります。また、4つのまちづくり戦略を必要に応じてアップデートして着実に推進していく必要があります。

※1 VUCA: Volatility (変動性), Uncertainty (不確実性), Complexity (複雑性), Ambiguity (曖昧性) の頭文字をとった造語で、予測できない状況をさす。

⑫超スマート社会の到来を意識した行政デジタル化の推進

- 昨今のデジタル技術の著しい進展に伴い、国では2021年（令和3年）9月にデジタル庁を設置し、デジタル技術を駆使した新たなビジネスモデルの確立や既存業務を変革するDX^{※2}を推進しています。
- 地方行政においても、生産性の向上や人口減少によってより深刻化が予測される労働力不足を補う対策だけでなく、より快適で幸せに暮らしていける社会を実現していくため、健康や教育などの様々な分野におけるDXの推進とともに、デジタルを利活用できる人材育成が求められています。
- Ⅶ. の（3）～（8）でみたように、スマートフォンを「ほぼ毎日利用している」という市民は、75.4%、インターネットを「利用している」という市民は77.8%を占めています。70歳以上では、それぞれ40.7%、42.8%といった利用率にとどまっていますが、60歳代では、83.3%、82.6%とかなりの割合を占めており、スマートフォンやインターネットがかなり普及している状況にあります。
- また、クレジットカードをはじめとしたキャッシュレス決済サービスの利用も一定程度普及しています。
- このように市民生活における情報化・デジタル化がかなり浸透している状況を踏まえつつ、行政サービスの向上と仕事の効率化を図るため、行政のデジタル化を推進していくことが求められます。
- また、情報化・デジタル化に取り残され情報格差やサービス格差が生じること

がないよう、高齢者等を対象としたスマートフォン等の情報通信機器の普及と I C T 活用の支援を行うなど、デジタル・ディバイド対策を進めていく必要があります。

- ※ 2 D X : Digital Transformation の略で、デジタル技術やデータの利活用及びそれに伴う組織、制度の変革が人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させること。

IX. 資料編

Ⅸ. 資料編

1. 自由回答件数（分野別）

分野（基本目標）	基本施策		件数
健康・福祉	基本施策 1	母子の健康づくり	3
	基本施策 2	成人の健康づくり	3
	基本施策 3	医療・感染症予防	10
	基本施策 4	地域福祉	2
	基本施策 5	高齢者福祉・介護保険	11
	基本施策 6	障がい者（児）福祉	3
	基本施策 7	生活困窮者支援	2
子育て・教育・文化・スポーツ	基本施策 8	子育て・子育て支援	24
	基本施策 9	学校教育	4
	基本施策 10	生涯学習	22
	基本施策 11	市民文化活動	1
	基本施策 12	文化財の保護・継承	1
	基本施策 13	スポーツ	11
都市基盤・産業	基本施策 14	移動環境	50
	基本施策 15	市街地	14
	基本施策 16	住環境形成	17
	基本施策 17	上下水道	10
	基本施策 18	農業	3
	基本施策 19	商工業	25
	基本施策 20	観光・交流	35
環境・防災防犯	基本施策 21	水辺環境の整備・活用	10
	基本施策 22	緑と公園	16
	基本施策 23	総合的な環境政策の推進	8
	基本施策 24	廃棄物・リサイクル	23
	基本施策 25	防災・浸水対策	12
	基本施策 26	消防・救急	2
	基本施策 27	防犯・交通安全	36
協働・行財政運営	基本施策 28	市民協働・地域コミュニティ	13
	基本施策 29	平和・共生	14
	基本施策 30	情報発信・情報共有	22
	基本施策 31	行政経営・財政運営	46
	基本施策 32	組織・人事マネジメント	8
その他	基本施策 33	その他市政や市民生活全般	11
	基本施策 34	アンケートについて	38
計			510

2. 自由回答一覧

分類項目	自由意見
母子の健康づくり	医療関係者は、妊産婦に対する気遣いやメンタル面のケアに心がけてほしい。
母子の健康づくり	不妊治療・体外受精の充実と補助金制度。
母子の健康づくり	外国籍の幼児の場合、言葉の壁があるので、子どもの発達に関わる検査（検診）は独自の方法で行う必要があるのではないか。
成人の健康づくり	岩倉市独自の歩数計アプリがあれば、保健推進事業の歩け歩けに役立つと思う。
成人の健康づくり	健康に良い食材や簡単なレシピを教えてほしい。
成人の健康づくり	まちのあちこちに足湯を作って、健幸のまちづくりとしてほしい。
医療・感染症予防	石仏駅または石仏駅付近での AED 設置。
医療・感染症予防	医療機関の診療科目に偏りがある。
医療・感染症予防	医療の充実を図ってほしい。
医療・感染症予防	市民病院があるとよい。
医療・感染症予防	総合病院があるとよい。
医療・感染症予防	特定診療科目の病院が少ない。
医療・感染症予防	市民病院がない。
医療・感染症予防	総合病院があればよい。
医療・感染症予防	保険やがん検診の補助が市外の病院などでも受けられるように、対象地域を拡げてほしい。
医療・感染症予防	外国人に対する医療支援・援助をもっと充実してほしい。
地域福祉	1人暮らしだが、今のままの岩倉で満足している。
地域福祉	高齢世帯であるが、健康には気を付け、周りにはなるべく迷惑をかけないように生きていきたい。
高齢者福祉・介護保険	岩倉市は高齢者が住みやすいまちだと思う。
高齢者福祉・介護保険	高齢者に配布されるタクシーチケットは、85歳からだだと遅すぎるので、70歳からにしてほしい。
高齢者福祉・介護保険	高齢者の交通機関無料パスがもらいたい。
高齢者福祉・介護保険	高齢者のためのタクシーが利用できず、困ることが多々ある。
高齢者福祉・介護保険	高齢者への手厚い配慮をお願いしたい。
高齢者福祉・介護保険	市の総合体育文化センターを利用した高齢者への支援はできないか。
高齢者福祉・介護保険	認知症の家族を抱え、老々介護をしている。
高齢者福祉・介護保険	認知症やその介護に関するセミナーを実施してほしい。
高齢者福祉・介護保険	もう少し老人に対してやさしさを。
高齢者福祉・介護保険	市による移動販売車があれば高齢者は助かる。
高齢者福祉・介護保険	年金生活者は切り詰めて生活をしている。高齢者が住みやすいまちにしてほしい。
障がい者（児）福祉	障がい者福祉を充実してほしい。
障がい者（児）福祉	放課後デイサービス、発達障害に対する支援の充実を求める。
障がい者（児）福祉	障がい者のことをもっと市民に知ってほしい。また、障がい者福祉に力を入れてほしい。

分類項目	自由意見
生活困窮者支援	生活が苦しいので、何かしらの形で支援が欲しい。
生活困窮者支援	母子家庭や住民税非課税世帯への給付金の支給には、不公平感がある。
子育て・子育て支援	50年前は、保育行政は近隣のトップにあり、共働き主婦には大変ありがたかった。
子育て・子育て支援	いつでもどこでも子どもの声が聞こえるまちづくりが重要であり、子ども中心のまちであってほしい。
子育て・子育て支援	医療費が高校生まで無料というのは助かっている。
子育て・子育て支援	雨天、子供たちが過ごせる場所を提供してほしい。
子育て・子育て支援	子育て支援等のさらなる充実を図ってもらいたい。
子育て・子育て支援	子育て支援に力を入れてほしい。
子育て・子育て支援	子育て世帯に支援がない。岩倉で子育てしたくなるようなまちづくりをしてほしい。
子育て・子育て支援	子育てに対する手当を増やしてほしい。
子育て・子育て支援	子育ての充実した環境をつくってほしい。
子育て・子育て支援	子供に優しいまちにしていこう必要があると思う。
子育て・子育て支援	出産後、安定して子育てができるような環境を整えてほしい。
子育て・子育て支援	他市の子育てサービスの方が良いので、若い世代は他市へ流出する。
子育て・子育て支援	名草線より西側に児童館がないので不便。
子育て・子育て支援	保育園が少なく、保育園に入れないため、市役所で越境するように言われた。待機児童が多く、育休退園では、若い人は益々減っていく。子育てをこれ以上、岩倉でやっていくことに限界を感じる。
子育て・子育て支援	保育園の昼寝に使用する布団を園で用意してもらいたい。
子育て・子育て支援	ボール遊びができる所が少ない。児童館ではボールで遊ぶ時間は、職員が入れ替わる度が変わる。子供たちの遊びの幅を広げられるように考えてほしい。
子育て・子育て支援	民生委員が行っている赤ちゃん訪問は廃止した方がよいと思う。
子育て・子育て支援	子どもの屋内で遊べる施設を充実させてほしい。
子育て・子育て支援	子ども食堂を今よりも増やし、内容を充実するための補助を増やすことで、子育てしやすいまちづくりができるのではないかと考える。
子育て・子育て支援	子育て環境の面で、土日祝利用できる施設、職員の質、支援センターや児童館で遊べる内容、イベントの内容など小牧市を見習ってもらいたい。
子育て・子育て支援	子育て世帯に制度を手厚くしてほしい。
子育て・子育て支援	児童館を日曜も開館してほしい。
子育て・子育て支援	放課後児童クラブで、習い事を実施してほしい。
子育て・子育て支援	放課後児童クラブで長期休暇日に給食を出してほしい。
学校教育	子どもたちの教育環境を整えるため、校舎を修繕すべき。
学校教育	小学生が男女分かれて登校することの意味が分からない。
学校教育	小学校の運動会にマーチングバンド、鼓笛隊を。
学校教育	全小・中学校の体育館のエアコンを設置してほしい。

分類項目	自由意見
生涯学習	図書館を居心地よくしてほしい。
生涯学習	図書館は、他市の図書館に比べて見劣りする。
生涯学習	高齢者にとって、今後のＩＴ化は心配であるため、講習会などがあれば受講したい。
生涯学習	市民講座の充実を望む。初心者向けのものがあれば入りたい。
生涯学習	集中して勉強に取り組むことのできる施設があるとよいと思う。
生涯学習	生涯学習センターで多世代が学べる講座があるとよい。
生涯学習	生涯学習センターの講座内容は良く、費用もリーズナブルでレベルが高いだけでなく、守備範囲も広い。
生涯学習	ダンス、ヨガ、ピラティススクールなどを充実したら、若い世代が利用すると思う。
生涯学習	デジタル化について学ぶ場所があるとよいと思う
生涯学習	図書館が古く暗いので利用しづらい。
生涯学習	図書館が古すぎる。
生涯学習	図書館がもう少し広く、蔵書も増えるとよい。
生涯学習	図書館がもっと充実してほしい。
生涯学習	図書館に魅力を感じない。
生涯学習	図書館は、椅子が汚れていたり、本が汚れているなど不衛生すぎる。
生涯学習	図書館の整備をしてほしい。
生涯学習	図書館の本の大量廃棄はおかしい。廃棄する本は５～１０年経ったものだけに限定すべき。
生涯学習	図書館は、本の種類や数も少なく、駐車場も整備が必要。
生涯学習	図書館を新しくしてほしい。
生涯学習	図書館を充実した内容にしてほしい。
生涯学習	図書館をもっと明るい雰囲気にとよい。
生涯学習	図書館のトイレを洋式で広いスペースにしてほしい。
市民文化活動	郡上踊りのサークルを作してほしい。
文化財の保護・継承	山車も後継者の確保が難しくなってきたと感じる。岩倉の桜まつりに山車は欠かせないので、山車への参加者が増えるよう、市も考えてもらいたい。
スポーツ	アデリア総合体育センターの剣道場と武道場にクーラーを設置してほしい。
スポーツ	アデリア総合体育文化センターの設備が老朽化しているので、改修工事を行ってほしい。
スポーツ	健康・スポーツ活動の推進を促すためにも、公共施設の充実が必要。
スポーツ	市内にプールがあるとよい。
スポーツ	総合体育文化センターの剣道場、柔道場、二階アリーナにエアコンをつけてほしい。
スポーツ	体育館のジムがもっと充実したら、若い世代が利用すると思う。
スポーツ	プールがない。
スポーツ	プールや体育館を作してほしい。

分類項目	自由意見
スポーツ	リレー選手を集めるのに苦労したので、市民体育祭の子どもによる町対抗リレーをなくしてほしい。
スポーツ	温水プールなどを充実させてほしい。
スポーツ	総合体育館のアリーナに冷房設備を設置してほしい。
移動環境	一宮・春日井線の整備が止まったままになっている。
移動環境	朝、夕の交通渋滞が激しいので道路整備が必要。
移動環境	一宮インター～空港線の早期完成を希望する。
移動環境	一宮に抜ける東西の道路は不要。工事を中断してほしい。
移動環境	岩倉駅東口に行くまでの歩道が全体的に狭すぎる。
移動環境	岩倉駅より一宮～小牧へ移動時の足として名鉄バスに頼るが、便数が少ない。
移動環境	岩倉総合高校・岩倉北小学校・岩倉東小学校・神野郵便局の付近にバス停がほしい。
移動環境	岩倉団地の交差点や中本町西葭原の交差点などの渋滞解消をしてほしい。
移動環境	駅西のロータリー、道路を拡張してほしい。
移動環境	駅の北側にある踏切を歩行者と自転車が安全に通行できるよう拡張してほしい。
移動環境	大山寺駅の改札口を北側にも作ってほしい。
移動環境	北島町・神野町・東町・本町の公共交通機関が不便。
移動環境	車に乗れなくなると、身動きがとれなくなるので、巡回バスがあるとよいと思う。
移動環境	車や自転車に乗れなくなった場合、買い物等に行けないのは困る。タクシー券では思うように行けないので、決まった時間で走るバスがあるとよい。
移動環境	県道 25 号の渋滞対策の検討を切に願う。
移動環境	公共交通機関が南北の犬山線と名鉄バス一宮・小牧間しかなく、それ以外の地域は交通空白地帯であり、車がないと不便。
移動環境	公共道路の建設が近隣市町よりも遅れている。
移動環境	高齢の通院の利便性を考え、市内の巡回バスを定期的に運用してほしい。
移動環境	小牧・一宮にインターチェンジがあるので、スマートインターは必要ない。
移動環境	コミュニティバスを走らせてほしい。
移動環境	市街地、道路などの草が刈られていない。
移動環境	市道の整備。
移動環境	市内、自由にどこでも行くことが出来る巡回バスが欲しい。
移動環境	市内循環バスがあるとよい。
移動環境	市内循環バスの運営や、タクシーなどの日常の足として活用可能な、手軽に利用できる交通手段を検討してほしい。
移動環境	砂利道を舗装してほしい。
移動環境	渋滞緩和のため、県道 25 号線の 2 車線化が必要。
移動環境	巡回バスがあると助かる。

分類項目	自由意見
移動環境	新柳町から中央町に通じる道路には様々なオブジェがあり歩道の邪魔になっている物もあるので、そういったものは撤去してもらいたい。
移動環境	スマートインターを作してほしい。
移動環境	狭い道路の道幅を確保してほしい。
移動環境	通学路が狭いので危険。
移動環境	道路の草刈は早めに行ってほしい。
移動環境	道路の脇の草が多い。
移動環境	病院に行くのにタクシーの予約ができない。
移動環境	病院に行くのにタクシーの予約がなかなか取れないので、クリニック、駅、スーパーを巡る市内巡回バスを走らせてほしい。
移動環境	踏切が多く渋滞が起きやすくなっている。
移動環境	歩道が狭く、舗装もよくないため危険な箇所が多い。
移動環境	歩道の街路樹を整備してほしい。
移動環境	歩道の整備をしてほしい。
移動環境	歩道のない道路が多く、非常に危険。
移動環境	自転車利用者にとってより安全で快適な歩道や自転車道のを整備が必要
移動環境	道が狭く補修されていないところがある。
移動環境	免許返納した後の移動手段を簡単かつ安価で利用できるようにしてほしい。
移動環境	桜通線の開発、整備に期待。
移動環境	西市町西市前の交差点から東の歩道を整備してほしい。
移動環境	大地新町の交差点の混雑をなんとかしてほしい。
移動環境	道が狭く、歩道がないので、整備してほしい。
移動環境	病院、駅などを回る循環マイクロバスがあったらよいと思う。
移動環境	歩道の整備。
市街地	岩倉市の活性化のために頑張してほしい。
市街地	岩倉市の立地は他にはない好立地であるが、一部地主の言いなりになっている感がある。
市街地	岩倉市は、駅を中心に市役所・図書館・消防署・スーパーなどが集中しており、名古屋までのアクセスもよいので、住みやすい市だと思う。
市街地	駅東の再開発の促進を早めてほしい。
市街地	駅前に活気を付けてほしい。
市街地	最近新しい飲食店や店も増え、活気づいており、住みやすい市になっていると思う。
市街地	市外に出なくても居心地の良いまちづくり。
市街地	徒歩で買い物に行け、駅も近く、最近飲食店も増え活気があると思う。
市街地	名古屋にも近く、交通の便が良いにもかかわらず、街に活気が感じられない。
市街地	まちづくりは、他市を参考とするだけでなく、岩倉発や岩倉カラーを引き出してもらいたい。

分類項目	自由意見
市街地	まちの景観のため、電柱の地中化してほしい。
市街地	名鉄西春駅の西側に伸びる電線地下埋設道路が完成したが、岩倉は進んでいない。
市街地	名古屋に近い利便性を活かしたまちづくり。
市街地	名古屋への利便性が高い立地を活かして、活気ある岩倉にしてほしい。
住環境形成	空き家が増加しており、防災・防火面で心配がある。
住環境形成	足が不自由なため、近くに郵便ポストがないのが困る。
住環境形成	岩倉市が市民から愛され、住みやすく、心地よい市であってほしいと願う。
住環境形成	岩倉市に住んで 50 年以上、岩倉に住んでよかったと思う。
住環境形成	岩倉市は暮らしやすい。
住環境形成	岩倉は小さい市だが住みやすい良い所だと思う。
住環境形成	駅前や桜並木以外にも整備してほしい。
住環境形成	高齢者施設が老朽化しており、バリアフリーなどを含めて整備してほしい。
住環境形成	市営住宅を改築してほしい。
住環境形成	市内の空き地、空き家の有効利用。
住環境形成	住みやすくして良い市だと思う。
住環境形成	団地の再開発をすべき。若者向けのマンションを建設してはどうか。
住環境形成	小さな市なので不便が多々ある。
住環境形成	バリアフリー化を進めてほしい。
住環境形成	古い家屋が多く、倒壊の危険があるため、行政による指導や補助金の助成など、対策をしてほしい。
住環境形成	もっと便利で住みよいまちにしてほしい。
住環境形成	空き家が増加しているので、対策を望む。
上下水道	雨量の多い時に、側溝から水が溢れて困ることがある。
上下水道	下水道工事を早く進めてほしい。
上下水道	水道水の塩素がきつい。
上下水道	側溝、用水路の清掃を行ってほしい。
上下水道	側溝の掃除を市の方でやってもらいたい。
上下水道	中央町の水路に雑木・雑草がはえてひどい状況になっている。
上下水道	早く下水道を開通してほしい。
上下水道	用水路が汚れている。
上下水道	用水路の清掃、整備を頻繁にしてほしい。
上下水道	用水路に蓋をしてほしい。
農業	田が減り、工場が増えている。
農業	地産地消の広場の開設など、小さい市ならではの特色ある施策の実施を望む。
農業	地産地消を目指す。
商工業	「シャトレーズ」を岩倉にも誘致してほしい。

分類項目	自由意見
商工業	空いてる土地に大型商業施設などを作れば、活気が出ると思う。
商工業	岩倉駅周辺に気楽に集える喫茶店がほしい。
商工業	飲食店を増やしてほしい。
商工業	駅前にファストフード店がほしい。
商工業	駅前にも、もっと遅くまで開いているスーパー、コンビニ、ドラッグストアなどがあると便利。
商工業	駅前の飲食店、スーパーなどが少なく、発展する見込みもない。
商工業	大型ショッピングモールなどの複合施設があれば、魅力ある市となると思う。
商工業	大山寺駅の近くにコンビニなどがいないのは不便。
商工業	商店街の活気がない。
商工業	将来の人口減少を見据え、企業誘致をすべき。
商工業	近くに食品スーパーが増えると助かる。
商工業	日常生活上必要な店舗の撤退、閉店が多い。
商工業	駅東にコンビニ、スーパーが少なく、買い物は隣の小牧や一宮へ行くことが多い。
商工業	岩倉駅の周りのシャッター街に活気が戻ったらよいと思う。
商工業	商業施設を誘致してほしい。
商工業	空いている農地への大型ショッピングセンターを誘致すれば人も雇用も集まり、一層住みやすいまちになるのではないか。
商工業	思い切った企業誘致で税収を増やし、子育て世代が住みたいと願う市の実現を期待する。
商工業	企業の誘致。
商工業	企業誘致が必要。
商工業	企業誘致など積極的に行ってほしい。
商工業	企業誘致を積極的に。
商工業	雇用を増やすためには、産業への支援が必要。
商工業	求人情報の充実をしてほしい。
商工業	職安がない。
観光・交流	イベントを増やしてほしい。
観光・交流	おまつり広場での鍋フェスがにぎわっていたが、市民参加の催しが定期的にあるとよいと思う。
観光・交流	近年、桜まつりは、盛り上がりには欠けていると思う。
観光・交流	五条川桜まつりの廃止。
観光・交流	五条川の桜並木に頼りすぎ。
観光・交流	五条川の桜まつりを中心としたイベントの開催を積極的に行い、基本的なまちづくりのコンセプトに据えるべき。
観光・交流	桜以外の観光資源に乏しい。
観光・交流	桜まつりがどうしてなくなってしまったのか、唯一、自慢できるせっかくの桜を大切にしてほしい。
観光・交流	桜まつりがもっとおしゃれになるとよい。昔ながらの屋台ゾーンだけでなく、ワインやバルなどを楽しめるとよい。

分類項目	自由意見
観光・交流	桜まつりで屋台を出してほしい。
観光・交流	桜まつりの再開。
観光・交流	桜まつりの再開を願っている。
観光・交流	桜まつりは、今後もやらなくてよいと思う。
観光・交流	桜まつりを今後も開催。
観光・交流	桜まつりを再開してほしい。
観光・交流	桜まつりをやってほしい。
観光・交流	市として魅力的なところが少ない。
観光・交流	市のイベントの際には、高齢者の参加を促すためにもシャトルバスを出してほしい。
観光・交流	ディズニーパレードで迷惑を被った。
観光・交流	ディズニーパレードに関しては、市民の優先権もなく何のメリットがあったか不明。
観光・交流	ディズニーパレードのような大きなイベントがあると市民がないがしろにされていると感じる。他市へのアピールよりもまず、市民のことを考えてもらいたい。
観光・交流	ディズニーパレードは、もっと工夫すべきであった。
観光・交流	ディズニーパレードは、わくわく感があり、よかった。
観光・交流	ディズニーパレードは盛り上がった。
観光・交流	夏の盆祭り、冬の鍋フェス、春の桜など楽しみにしている。
観光・交流	春は、花見客が訪れるが、花見以外、行く所がない。
観光・交流	フリーマーケットなどの催しで、まちに活気を。
観光・交流	温泉施設作ってほしい。
観光・交流	岩倉の唯一誇れるものとして、桜まつりは是非実施してほしい。
観光・交流	岩倉は桜以外何もないので、なにか名物になるようなものをつくってはどうか。
観光・交流	桜まつりで、出店を出してほしい。
観光・交流	桜まつりの際、駐車場は開放してほしい。
観光・交流	桜まつりを再開してほしい。
観光・交流	桜まつりを復活。
観光・交流	桜まつりの再開。
水辺環境の整備・活用	五条川沿いを整備してほしい。
水辺環境の整備・活用	五条川の桜が老木化しているので、植え替えなどの手入れをすべき。
水辺環境の整備・活用	五条川の桜が老木化している。
水辺環境の整備・活用	五条川の桜は、老木化で倒れる恐れがある。
水辺環境の整備・活用	五条川の桜は老木になっているので、新たに桜を植えたほうがよい。
水辺環境の整備・活用	五条川の桜を中心として景観も他の市町に誇れるものだった。
水辺環境の整備・活用	五条川の桜を守ってほしい。
水辺環境の整備・活用	桜並木の保存に力を入れてほしい。

分類項目	自由意見
水辺環境の整備・活用	夏場水遊びできる場所がない。
水辺環境の整備・活用	桜並木と川沿い道路のベンチの整備。
緑と公園	犬でも入れるような公園を作ってほしい。
緑と公園	岩倉はのんびりできる公園が少ない。
緑と公園	駅西のロータリー公園は素晴らしい。周辺の樹木の手入れも良く行き届き、外からの来訪者は賞賛する。
緑と公園	大きな公園は整備されているようだが、小さな公園は整備が行き届いていないと感じる。
緑と公園	大矢公園の調整池整備工事が遅れている。
緑と公園	公園の木製のベンチが古くなっているので、鉄製に変えてもらいたい。
緑と公園	子どもが安心して遊べる公園が少ない。
緑と公園	子どもから大人までが楽しめる公園がほしい。
緑と公園	天王公園の草が刈られていない。
緑と公園	ペット同伴で行ける施設を作ってほしい。
緑と公園	緑や花の多い公園を増やして、市民がうるおいを感じるまちづくりを考えるべき。
緑と公園	遊具のある公園が少ない。
緑と公園	夢さくら公園は芝生の良さが活かされていて最高。
緑と公園	市民の憩いの場所がない。
緑と公園	大きな公園がない。
緑と公園	夏にはバーベキューエリアやプールのある公園はなく、みんな別の市のレジャー施設に行かなければなりません。
総合的な環境政策の推進	岩倉駅西側の歩道は、路上禁煙にしてほしい。
総合的な環境政策の推進	温暖化を皆で乗り切りたいと思う。
総合的な環境政策の推進	カラスの駆除を考えてほしい。
総合的な環境政策の推進	川沿いに野良猫が多い。
総合的な環境政策の推進	環境、景観が悪くなっている。
総合的な環境政策の推進	工場の騒音がうるさいので、防音してもらいたい。
総合的な環境政策の推進	バイクや車の騒音がひどいので困っている。
総合的な環境政策の推進	夜中のバイク騒音の取り締まりをしてほしい。
廃棄物・リサイクル	可燃ごみ袋のサイズを大きくしてほしい。
廃棄物・リサイクル	可燃ごみ袋を 45L にしてもらいたい。
廃棄物・リサイクル	資源ごみ回収の日が少ない。
廃棄物・リサイクル	収集場所が遠く不便。
廃棄物・リサイクル	缶やペットボトルなどのゴミ出しの頻度を上げてほしい。
廃棄物・リサイクル	ゴミ収積場を市で設置することを希望。
廃棄物・リサイクル	ゴミ集積場の悪臭に困っている。
廃棄物・リサイクル	ゴミ処理施設の整備は、近隣市町から遅れていると感じる。
廃棄物・リサイクル	ゴミ捨て場のカラスには、従来のネットではなく、カゴタイプにするなどの対策が必要。

分類項目	自由意見
廃棄物・リサイクル	ゴミ出しの日を増やしてほしい。
廃棄物・リサイクル	ゴミ問題など改善できる身近なところから始めてもらいたい。
廃棄物・リサイクル	ゴミ収積場所が遠いので、家の前などに出せるようにしてほしい。
廃棄物・リサイクル	指定のごみ袋は、サイズが小さすぎる。可燃ごみのごみ袋は、45Lにしてほしい。
廃棄物・リサイクル	ゴミ袋は、年間、一定枚数無料配布してほしい。
廃棄物・リサイクル	道路へのポイ捨てが気になるので、市として対策できることがあれば、迅速に対応してもらいたい。
廃棄物・リサイクル	廃油の回収を消防署でもしてもらいたい。
廃棄物・リサイクル	不法投棄、ゴミのポイ捨てが多い。
廃棄物・リサイクル	プラスチックゴミ回収を週二回にしてほしい。
廃棄物・リサイクル	ペットボトルが分別収集の時にしか捨てられないのが不便。できれば週一での回収を希望。
廃棄物・リサイクル	ペットボトルの回収日を増やしてほしい。
廃棄物・リサイクル	燃えるごみ袋のサイズを 45L にしてほしい。
廃棄物・リサイクル	外国人のためにゴミ出しの指示は、それぞれの言語ですべき。
廃棄物・リサイクル	高齢者にとっては、分別収集場所が遠く感じるので、対策を講じてほしい。
防災・浸水対策	現在住んでいる住宅が耐震構造ではないため、災害に不安がある。
防災・浸水対策	災害が起こった時の避難場所、被災ゴミ置き場の土地の確保や冷暖房、プライバシー確保ができるようにしておいてほしい。
防災・浸水対策	災害等のため、市内の巡回を多くする必要がある。
防災・浸水対策	災害に関しての危機感が薄いので、市全体で情報共有を徹底しておくべき。
防災・浸水対策	最近のゲリラ豪雨で川があふれる事があるが、防災ベンチの土嚢は、あまり役に立っていない。排水について見直しが必要。
防災・浸水対策	市内放送が聞き取りづらい。
防災・浸水対策	市内放送の音が聞き取りづらい。
防災・浸水対策	浸水対策としてハザードマップで地域別の浸水の深さが示されているが、電柱などにその地域の予想水位をわかるように示してほしい。
防災・浸水対策	水害があれば、あふれそうな場所もあるので、水路の整備が必要。
防災・浸水対策	防災無線が聞き取りにくい。
防災・浸水対策	災害時の避難場所として、公共施設は多様な利用ができるようにしてほしい。
防災・浸水対策	東海豪雨が再来しても安心な治水対策を実施してほしい。
消防・救急	AED についての講習を希望。
消防・救急	高齢者の中には救急車をタクシー代わりにする人もいるのではないかな。
防犯・交通安全	安全安心のまちにしてほしい。
防犯・交通安全	石仏駅から西、東（小牧・一宮）へ続く道路は、車両通行が多く、危険を感じる。
防犯・交通安全	一方通行が多すぎる。

分類項目	自由意見
防犯・交通安全	岩倉駅に停められるところが少ない。
防犯・交通安全	大山寺駅の駐車場のマナーが悪い。
防犯・交通安全	大山寺駅東側道路の路上駐車が非常に悪質であるため、取り締まりしてほしい。
防犯・交通安全	街灯が少ないところがある。
防犯・交通安全	街灯が少ないので心配。
防犯・交通安全	街灯を増やしてほしい。
防犯・交通安全	近所に駐車場を作してほしい。
防犯・交通安全	車のマナーが悪い。
防犯・交通安全	警察署がない。
防犯・交通安全	警察署を設置してほしい。
防犯・交通安全	交通ルールの啓蒙活動をすべき。
防犯・交通安全	交番が少ない。
防犯・交通安全	五条川彦太橋西側の一方通行道路は、渋滞の抜け道となっており、歩行していて危険を感じる
防犯・交通安全	夜道を歩く時、暗い所があるので、街灯を増やしてほしい。
防犯・交通安全	災害、犯罪のない岩倉を希望。
防犯・交通安全	自転車の高校生のマナーが悪いので、しっかりとマナー教育をしてほしい。
防犯・交通安全	自転車の通行マナーが悪い。
防犯・交通安全	スピード違反や一旦停止の取締り強化。
防犯・交通安全	曽野校区の曽野町智重神社前の道は、通学路としては危険。
防犯・交通安全	道路の白線が見えづらい。
防犯・交通安全	道路標識が薄くなっている箇所がある。
防犯・交通安全	歩道のオブジェは車両にとって邪魔。
防犯・交通安全	夜間、街中が暗いので、街灯を増やしてほしい。
防犯・交通安全	夜間の外出が不安なので、監視カメラを増やしてほしい。
防犯・交通安全	葭原から八剣までの歩道に街灯があまりないので、夜、危ない。
防犯・交通安全	老人の自転車利用について、安全教育をしてほしい。
防犯・交通安全	駅の東側は一方通行が多い。
防犯・交通安全	街灯が少ない。
防犯・交通安全	街灯を増やしてほしい。
防犯・交通安全	岩倉駅西地区の街灯を増やしてほしい。
防犯・交通安全	空き家も増え、治安が悪くなっていくのが心配。
防犯・交通安全	警察署がない。
防犯・交通安全	公園の駐輪場は夜、若者がたむろするので、夕方からは閉鎖してほしい。
市民協働・地域コミュニティ	岩倉市政について考えたことはなく、特に不満はない。
市民協働・地域コミュニティ	行動域が狭いので、地元での交流・生活支援。
市民協働・地域コミュニティ	高齢化が進み側溝清掃などが出来なくなっている。

分類項目	自由意見
市民協働・地域コミュニティ	自治会は不要だと考えている。
市民協働・地域コミュニティ	市民参加条例の政策提案が市民に浸透していないので、周知啓発を進めもらいたい。
市民協働・地域コミュニティ	市民の力が活かせるようボランティア活動の充実を進めてほしい。また、その手続きや参加の仕方について、ボランティア講座などの機会を設けてほしい。
市民協働・地域コミュニティ	住民投票条例の制定が遅れているようなので、条例の制定を進めてほしい。
市民協働・地域コミュニティ	住民との協働を大切にしており、住民参加は、自治という点でも大事なことだと思う。市民としてできることは参加していきたい。
市民協働・地域コミュニティ	生活保護の人が班長をしないのはおかしい。市に助けてもらっているなら、もっとボランティアにいそしむべき。
市民協働・地域コミュニティ	他のベットタウンと比べてマナーの悪化、近所とのトラブルも増えているように思われるので、市としては、安心安全を目指してほしい。
市民協働・地域コミュニティ	地域の役員のなり手がいない。
市民協働・地域コミュニティ	ボランティア活動に対し買い物などに利用できるポイント制度を導入してはどうか。
市民協働・地域コミュニティ	地域の集会場を拡充してほしい。
平和・共生	女性が活躍できるまちづくり。
平和・共生	LGBTQ に対する理解を広めてほしい。
平和・共生	外国人との交流を積極的に進めるべき。
平和・共生	文化の違いに対する偏見はまだ多いので、日本人と外国人の子どもたちが交流できる機会(クラフトフェア、子ども向けのゲームやアクティビティ、若者と大人向けのダンスクラスなど)を増やす。
平和・共生	学校、市役所、病院での通訳による外国人へのサポートは非常にありがたいし、重要。
平和・共生	日本の労働力不足を補うために外国人が増えているが、お互いに理解できていない。いつか良くなるかもしれない。こうしたアンケートは大切。
平和・共生	外国人にとって住みやすいまちづくりのためには、アンケートや情報発信も多言語で行うことが効果的だと思う。
平和・共生	外国人を入れるより日本人の賃金を上げ、安心して家庭を持てるようにしてほしい。
平和・共生	グローバル化ということであれば、市として外国人との関わりを考えてほしい。
平和・共生	最近、外国人が多くなってきたが、マナーを守る教育が必要だと思う。
平和・共生	外国人向けのモラル向上教育を。
平和・共生	外国人を減らしてほしい。
平和・共生	外国人との共生はむり。不法滞在ではないのか。悪い温床になるような事がないように監視してほしい。
平和・共生	市議会でイスラエルの虐殺反対声明の決議やヘイト禁止条例などの制定にも目を向け、平和な社会づくりに率先して発信、実行してほしい。
情報発信・情報共有	「こういう時はここに連絡を」といった一覧のようなものがほしい。

分類項目	自由意見
情報発信・情報共有	LINE による岩倉の広報には毎日、目を通しており、一日に何度もメールがくるが、有難く思っている。
情報発信・情報共有	岩倉市が健全な経営状態かどうかは、どこで発信しているのか。
情報発信・情報共有	岩倉市がどのような市を目指してまちづくりをしているのか分かりづらい。最終的にどのように進めていくかをはっきりさせることが大切だと思う。
情報発信・情報共有	岩倉市の現状に即した具体的な情報がほしい。
情報発信・情報共有	岩倉市のまちづくりについて、市民への周知が足りないのではないか。
情報発信・情報共有	岩倉の公共施設や公共交通機関が一目で分かる地図があるとよい。
情報発信・情報共有	岩倉のシンボルとなるものを作ってはどうか。
情報発信・情報共有	岩倉は小さな市だが、色々と魅力のあるまちだと思っている。
情報発信・情報共有	広報について、重要箇所を表記してもらいたい。
情報発信・情報共有	五条川の桜の整備について、どこまで進んでいるのかが知りたい。
情報発信・情報共有	今後、紙面での情報発信では古く、若い人のために SNS などでも発信するとよいと思う。
情報発信・情報共有	市が使ったお金に関する情報などは、透明性が必要。
情報発信・情報共有	市職員の仕事などについて、小中高生に広報すべき。
情報発信・情報共有	市政に関する情報発信がもっとあってもよいと思う。
情報発信・情報共有	市長と市民が語り合う場を設定してほしい。
情報発信・情報共有	市は市民の意見を聞くといいながら、何も聞いてくれない。
情報発信・情報共有	市役所内の情報共有を密にしてほしい。
情報発信・情報共有	補助金について、案内時に締日と支払日を明確に示してほしい。
情報発信・情報共有	まちづくりの方向性が全く不明。
情報発信・情報共有	市が行っているサービスで知らないものが多いので、わかりやすく宣伝してほしい。
情報発信・情報共有	市議会議員の活動がわからない。
行政経営・財政運営	アンケートにたよる前に、市の職員が自分の目で確かめることも大切。
行政経営・財政運営	お米券はうれしかった。
行政経営・財政運営	行政職員に感謝する。
行政経営・財政運営	行政の IT 化は必要かもしれないが、高齢者にはアナログなサポートも必要。
行政経営・財政運営	去年の全世帯へのお米券配布は、助かった。
行政経営・財政運営	高額の子民税分の恩恵を受けてないので、今すぐ引っ越したい。
行政経営・財政運営	公共サービスの時間外窓口を作してほしい。
行政経営・財政運営	公共施設に駐車場が少なすぎる。
行政経営・財政運営	公共施設は、市の規模に見合ったものにすべき。
行政経営・財政運営	公共施設は、全体的に古く暗いイメージがあり、入りづらい。
行政経営・財政運営	高齢者にとって、電子化は戸惑うばかりであるが、諸手続き等

分類項目	自由意見
	で分かりやすい情報が得られればうれしい。
行政経営・財政運営	子どもが今後も岩倉市に住み続ける環境づくりを最重要課題として取り組むべき。
行政経営・財政運営	これから未来ある子どものために、よりよい岩倉市にしてほしい。
行政経営・財政運営	コロナワクチンの一斉送付は税金の無駄使い。必要な人のみでよい。お米券なども不要。本当に必要な人にはお金でなく「物」で渡すべき。
行政経営・財政運営	歳入に見合った職員数、給与を考え、市民税を少なくしてほしい。
行政経営・財政運営	桜通線について、まだ未着手と思われるところがあるが、何十年も未着手の計画は本当に必要か見直すべき。
行政経営・財政運営	市職員と市民の距離が近くなり、幅広い年代が市政に関心を持てるとよい。
行政経営・財政運営	市政運営を行うための理念は素晴らしいと思うが、現実的に考えると課題が山積みで、表面的に改善されても中身が改善されていない事も今後出てくると思う。
行政経営・財政運営	市の地域振興券をまた行ってほしい。
行政経営・財政運営	市は、市民が豊かに生活できるように工夫・努力してほしい。
行政経営・財政運営	市民税が高い。
行政経営・財政運営	市民のための事業は、クラウドファンディングの活用も考えてはどうか。
行政経営・財政運営	住民税が高い。
行政経営・財政運営	住民税の減税。
行政経営・財政運営	税金の削減
行政経営・財政運営	住民税の納付を各種クレジットカード決済にしてほしい
行政経営・財政運営	税金が高い。
行政経営・財政運営	住民税も他の市に比べて高い
行政経営・財政運営	一般的な家族の税金を削減を。
行政経営・財政運営	税金を払い支えている現役世代をおろそかにしないでほしい。
行政経営・財政運営	税負担の割に恩恵が少ないと普段から感じているので、負担と恩恵のバランスのとれたサービスを期待する。
行政経営・財政運営	多様性の時代に沿った市政になるとよいと思う。
行政経営・財政運営	手続きが一か所の窓口で完了できるようにしてほしい。
行政経営・財政運営	なんでもインターネットで行うのではなく、アナログも併用してほしい。
行政経営・財政運営	パスポート申請ができるようにしてほしい。
行政経営・財政運営	ハローワークなし、税務署なし、年金事務所なしで住民税が高い。
行政経営・財政運営	物価が高騰しているので、クーポンを発行してほしい。
行政経営・財政運営	他の市が行っている、QRコード決済のポイント還元を行ってほしい。
行政経営・財政運営	役所の対応は遅い。
行政経営・財政運営	近隣市町と合併してもっと大きく住みやすい市にすべき。
行政経営・財政運営	散在している公共施設をまとめられないものかと思う。

分類項目	自由意見
行政経営・財政運営	多くの人口を呼び込むためには、病院、学校、保育所、工場を建設し、増やす必要がある
行政経営・財政運営	市民の相談に乗ってくれる窓口、市民に寄り添ってくれる市政を望む。
行政経営・財政運営	税金のムダ使い。
行政経営・財政運営	補助金ではなく賃金を上げ、減税という形でなくては安心できない。税金のばら撒きはやめてもらいたい。
行政経営・財政運営	名草線沿いの西の方には行政が行き届いていない。
組織・人事マネジメント	コミュニケーション能力のある職員を増やしてほしい。
組織・人事マネジメント	市役所職員の資質向上を願う。
組織・人事マネジメント	市役所の職員は親切。
組織・人事マネジメント	市役所の職員は、上から目線の人が多い。
組織・人事マネジメント	市役所の職員の対応は丁寧な反面、事務的なところがある。
組織・人事マネジメント	市役所の不要な窓口、職員などをリストラしてはどうか。
組織・人事マネジメント	まちづくりより前に、職員の資質を上げるべき。適材適所に配置されていない。
組織・人事マネジメント	公務員の働き方改革。
その他市政や市民生活全般	今まで通りでよいと思う。
その他市政や市民生活全般	議員には、本気で市民のために動いてくれるよう希望する。
その他市政や市民生活全般	議員の質を問う。
その他市政や市民生活全般	議会ですいつも居眠りしている議員をなんとかしてほしい。
その他市政や市民生活全般	岩倉市が好き。
その他市政や市民生活全般	充実した生活をしている。
その他市政や市民生活全般	ステキなまちだと思う。
その他市政や市民生活全般	岩倉市の立地と交通の便が良くて、毎日の生活が楽なのが気に入っている。
その他市政や市民生活全般	のんびりしている。
その他市政や市民生活全般	満足度が高い生活を送っている。
その他市政や市民生活全般	市民の生活にゆとりがもてるようにしてほしい。
アンケートについて	3～6 ページは回答しにくい。
アンケートについて	アンケート催促のハガキはムダ。
アンケートについて	アンケートでは、横文字や理解できない言葉が多いので、高齢者にも分かるようにしてほしい。
アンケートについて	アンケートに回答すると図書券などがもらえるようにしてほしい。
アンケートについて	アンケートに記入しているが、よくなったと感じることは特にない。
アンケートについて	アンケートの結果を岩倉のために役に立ててもらいたい。
アンケートについて	アンケートの項目が多く分かりづらい。
アンケートについて	アンケートの項目が多すぎる。
アンケートについて	アンケートの質問内容が自分に当てはまらない。
アンケートについて	アンケートの返信がめんどろ。

分類項目	自由意見
アンケートについて	アンケートの量が多い。
アンケートについて	アンケートは、Web アンケートだと助かる。
アンケートについて	アンケートは、余りに質問が多いので、いやになった。
アンケートについて	アンケートは、項目が多すぎて時間がかかるので、半分くらいの項目にしてほしい。
アンケートについて	アンケートは、市役所のホームページにアクセスして行えば費用を減らせるのではないかな。
アンケートについて	アンケートは、途中からめんどうになり中断してしまった。
アンケートについて	アンケートを役立ててほしい。
アンケートについて	インターネットで回答したいと思ったが、調査票にたどり着けず、やむなく文書回答となった。
アンケートについて	回答しても効力や効果がない。
アンケートについて	子育てや農業に関する質問は知識がなく、答えることができなかった。
アンケートについて	答えづらい質問が多かった。
アンケートについて	このアンケートで岩倉について考える事が出来た。
アンケートについて	このアンケートは質問が多すぎる。
アンケートについて	このようなアンケートを行うことは、よい事だと思う。
アンケートについて	今回のアンケートで、岩倉市の魅力についての結果を公表してほしい。
アンケートについて	施設に入所しているため記入が遅くなった。
アンケートについて	質問が多すぎる。
アンケートについて	質問が多すぎる。何でも詰め込めばいいという問題でない。
アンケートについて	質問項目、回答項目が多すぎる。
アンケートについて	質問の内容に対して回答しづらいものが多い。
アンケートについて	質問の中で近所づきあいの程度について、定義がわからない。
アンケートについて	住んで間もないため、分からないことが多くあった。
アンケートについて	多文化共生について、そもそも国籍を直接確認することはないので、質問として正しいのか疑問に思った。
アンケートについて	問 25 の民間活力の導入については、逆効果になりかねない面もある。
アンケートについて	脳梗塞を患っているため、アンケートは遠慮してもらいたい。
アンケートについて	わからないことが多く、空白ばかりとなった。
アンケートについて	暇がないのでアンケートを送ってこないでほしい。
アンケートについて	行政用語など質問が難しく、回答できないところがあった。

3. 調査票

岩倉市市民意向調査 アンケート調査票

1 あなたやご家族について

問1 あなたの性別・年齢を教えてください。【あてはまるものを1つ選んで○印をつけてください。】

●性別【○は1つだけ】

●年齢【○は1つだけ】

(※令和5年11月1日現在の年齢でお答えください。)

1. 男性
2. 女性
3. その他

1. 20歳代以下	3. 40歳代	5. 60歳代
2. 30歳代	4. 50歳代	6. 70歳以上

問2 あなたのお住まいは、どの小学校区にありますか。【○は1つだけ】

1. 岩倉北小学校区	3. 岩倉東小学校区	5. 曾野小学校区
2. 岩倉南小学校区	4. 五条川小学校区	

●校区（※校区が分からない方は、下表で番号を確かめてください。）

あ行	旭町		→ 2
	石仏町	岩塚・島海道・五山寺・たりの一部（14～52番地）	→ 1
		上記以外	→ 4
	泉町		→ 1
	稲荷町	大摩、細畑、樋先、高畑、半田の一部（新堀用排水路より西側）	→ 2
		上記以外	→ 5
か行	井上町		→ 4
	神野町		→ 4
	川井町		→ 2
	北島町		→ 2
	五条町		→ 5
	西市町		→ 1
さ行	栄町		→ 1
	下本町	西沼	→ 2
		燈明庵	→ 3
		上記以外	→ 5
	昭和町	1・2丁目（行政区 下本町）	→ 2
		3丁目（行政区 稲荷町）	→ 5
	新柳町		→ 1
	鈴井町		→ 1
	曾野町		→ 5

た行	大山寺町		→ 5
	大山寺本町		→ 5
	大山寺元町		→ 5
	大市場町		→ 5
	大地新町		→ 2
	大地町		→ 2
な行	中央町		→ 2
	中野町		→ 1
	中本町	南葭原、東葭原、南加路桶、葭原の一部（5番地以上）	→ 3
		上記以外	→ 1
	野寄町		→ 2
	東新町		→ 3
は行	東町	仙奈・掛目	→ 3
		上記以外	→ 1
	本町	一丁田	→ 5
		上記以外	→ 1
	ま行		
	南新町		→ 2
や行	宮前町		→ 1
	八剣町	脇之本	→ 3
		上記以外	→ 4

問3 あなたの職業を教えてください。【○は1つだけ】

- | | |
|--------------|------------|
| 1. 会社員 | 6. 家事専業 |
| 2. 公務員 | 7. 学生 |
| 3. 自営業 | 8. 無職 |
| 4. 農業 | 9. その他 () |
| 5. パート・アルバイト | |

問4 あなたの世帯のタイプは次のどれに属しますか。【○は1つだけ】

- | |
|---------------------------------------|
| 1. 単身世帯 |
| 2. 夫婦のみの世帯 |
| 3. 1世代世帯（夫婦のみの世帯を除く。例：兄弟のみ・姉妹のみの世帯など） |
| 4. 2世代同居世帯（親と子どもの世帯） |
| 5. 3世代同居世帯 |
| 6. 4世代以上同居世帯 |
| 7. その他 () |

問5 岩倉市にお住まいになって何年になりますか。【○は1つだけ】

- | | |
|--------------|---------------|
| 1. 3年未満 | 4. 10年以上20年未満 |
| 2. 3年以上5年未満 | 5. 20年以上30年未満 |
| 3. 5年以上10年未満 | 6. 30年以上 |

問6 あなたの家では、どのような方が同居されていますか。あなた自身を含めてお答えください。【あてはまるものすべてに○】

- | | | |
|--------|--------------|-------------------|
| 1. 乳幼児 | 4. 高校生 | 7. 1.～6.以外の同居人がいる |
| 2. 小学生 | 5. 大学生・専門学校生 | 8. 同居人はいない |
| 3. 中学生 | 6. 70歳以上の人 | |

2 岩倉市の住みやすさについて

問7 お住まいの周辺の生活環境について、満足度をおたずねします。

【①～②⑥について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

区 分	項 目	満足度		
		満 足	どちらか いえない	不 満
健康・福祉	① 医院・診療所までの近さ	1	2	3
環境・ 防災防犯	② 身近な子どもの遊び場の多さ	1	2	3
	③ 身近な公園・緑地の多さ	1	2	3
	④ 子どもの遊び場の安全性	1	2	3
	⑤ 付近の緑の豊富さ	1	2	3
	⑥ ごみの収集場所の近さ	1	2	3
	⑦ 騒音・振動などの自動車公害の少なさ	1	2	3
	⑧ 大気汚染・水質汚濁などの工場公害の少なさ	1	2	3
	⑨ 路上や公共の場所での喫煙マナー	1	2	3
	⑩ 空き地などの雑草の手入れの状態	1	2	3
	⑪ 浸水や地震などの地域防災体制	1	2	3
	⑫ 近隣の側溝などの水はけの良さ	1	2	3
	⑬ 犯罪・暴力からの安全性	1	2	3
生涯学習・ 教育	⑭ 通学路の安全性	1	2	3
	⑮ 小・中学校までの近さ	1	2	3
都市基盤	⑯ 電車の駅・バスの停留所までの近さ	1	2	3
	⑰ 電車・バスの運行本数の多さ	1	2	3
	⑱ 電車・バスの車内の混み具合	1	2	3
	⑲ 道路の歩行者の通行の安全性	1	2	3
	⑳ 道路の自転車の通行の安全性	1	2	3
	㉑ 道路の広さ	1	2	3
	㉒ 道路の舗装状況	1	2	3
	㉓ 日常の買い物の便利さ	1	2	3
	㉔ お住まいの日当たりや風通しの良さ	1	2	3
	㉕ 建物の立て込み具合(災害時などの安全性)	1	2	3
協働	㉖ 地元・地域における人間関係の良さ	1	2	3

問 8 岩倉市のまちの魅力について、おたずねします。

【魅力がある点と魅力がない点それぞれについて、あてはまる番号をすべて選んで○をつけてください。】

区 分	魅力がある点		魅力がない点	
健康 福祉	1	医療施設が充実している	1	医療施設が充実していない
	2	高齢者の福祉サービスが充実している	2	高齢者の福祉サービスが充実していない
	3	子育て支援サービスが充実している	3	子育て支援サービスが充実していない
	4	障がい者の福祉サービスが充実している	4	障がい者の福祉サービスが充実していない
環境 防災防犯	5	緑などの自然環境に恵まれている	5	緑が少なく、自然環境が乏しい
	6	防災対策がいきとどいている	6	防災対策がいきとどいていない
	7	防犯面において安心できる	7	防犯面における不安が多い
生涯学習 教育	8	文化・教育施設が充実している	8	文化・教育施設が充実していない
	9	市民の文化・芸術活動が盛んである	9	市民の文化・芸術活動が盛んではない
	10	文化財など歴史的遺産に恵まれている	10	文化財など歴史的遺産に恵まれていない
	11	スポーツ・レクリエーション活動が盛んである	11	スポーツ・レクリエーション活動が盛んではない
	12	スポーツ施設が充実している	12	スポーツ施設が充実していない
都市基盤	13	交通の便が良く、通勤・通学に便利である	13	交通の便が悪く、通勤・通学に不便である
	14	道路の整備状況が良い	14	道路の整備状況が悪い
	15	農地が多く住宅地など開発の余地がある	15	市域が狭く開発の余地が少ない
	16	まちに活気がある	16	まちに活気がない
	17	市の面積・人口が適当な規模でまとまりがある	17	市の面積が狭い割に人口が多く雑然としている
	18	日常の買物が便利である	18	日常の買物が不便である
	19	農地と住宅がうまく調和し、田園環境に恵まれている	19	農地と住宅地と工場が混在し、まとまりがない
産業	20	優良農地が多い	20	優良農地が少ない
	21	働く場所がある	21	働く場所がない
	22	桜まつりやふれ愛まつりなど、市内のイベントが活発に行われている	22	市内のイベントが活発に行われていない
協働	23	市民活動が盛んである	23	市民活動が盛んではない
	24	人々が親切で人間味がある	24	人々が不親切で人間味がない
	25	人間関係が良い	25	人間関係が良くない
その他	26	その他()	26	その他()

問9 岩倉市が行っている施策について、満足度と重要度をおたずねします。

【①～③③について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

区分	項 目	満足度					重要度				
		満 足	や や 満 足	ど ち ら と も い え な い	や や 不 満	不 満	非 常 に 重 要	重 要	普 通	あ ま り 重 要 で な い	重 要 で な い
健康・福祉	① 健康づくりへの支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	② 医療機関との連携や医療情報の提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③ 高齢者の福祉サービスの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④ 乳幼児健診などの母子保健サービス	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑤ 子育て支援サービスの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑥ 障がい者の福祉サービスの充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑦ 地域福祉活動の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑧ 子ども・障がい者などの医療費の助成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
環境・防災防犯	⑨ 五条川や桜並木などの自然環境の保全	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑩ 公園や子どもの遊び場などの整備・維持管理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑪ 公害(騒音・振動・水質汚濁など)の防止	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑫ 二酸化炭素削減やリサイクルなどの環境対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑬ ごみ収集・処理体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑭ 地震や浸水などの防災対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑮ 消防・救急体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑯ 地域の防犯活動への支援や防犯対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
生涯学習・教育	⑰ 歩行者や自転車が安全に移動できる交通安全対策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑱ 生涯学習の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑲ 遺跡・文化財の保護継承	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	⑳ 文化・芸術の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉑ 図書館の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉒ 青少年の健全育成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉓ スポーツの普及と振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉔ 小・中学校の教育活動の充実	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
都市基盤	㉕ 電車・バスなどの公共交通の利便性	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉖ 自動車の移動が便利な道路網	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉗ 計画的な市街地整備や再開発などによる質の高い市街地の形成	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉘ まち並みや沿道などの景観整備	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉙ 安全な水道水の安定した供給の確保	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	㉚ 下水道整備などの生活排水処理	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

区分	項目	満足度					重要度				
		満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満	非常に重要	重要	普通	あまり重要でない	重要でない
産業	③① 農地の保全活用などの農業振興策	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③② 地産地消などの食の安心・安全	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③③ 産業振興 (既存企業への支援や新たな企業の誘致)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③④ 小売商業の振興 (日常生活に必要な事業者への支援など)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③⑤ 消費生活相談体制	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③⑥ 観光・交流の振興	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
協働	③⑦ NPO・市民活動団体への支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③⑧ 地域コミュニティ活動への支援	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	③⑨ 市政への市民参画(市民意見の反映)	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④⑩ 男女共同参画の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④⑪ 国際交流や多文化共生	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④⑫ 平和活動の推進	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5
	④⑬ 市政情報の提供	1	2	3	4	5	1	2	3	4	5

問10 次の観点から岩倉市を見た場合、どのように感じますか。

【①～⑥について、それぞれ1つずつ選んで○をつけてください。】

項目	評価		
① 子育てするまち	1 良い	2 普通	3 悪い
② 児童、生徒、学生が生活するまち	1 良い	2 普通	3 悪い
③ 家庭を預かる主婦(主夫)が生活するまち	1 良い	2 普通	3 悪い
④ 家族で休日や余暇を過ごすまち	1 良い	2 普通	3 悪い
⑤ 高齢者が生活するまち	1 良い	2 普通	3 悪い
⑥ 健康で幸せに暮らすまち	1 良い	2 普通	3 悪い

問11 総合的にみて岩倉市は住みよいまちだと思いますか。【○は1つだけ】

- | | | |
|-----------------|--------------|------------------|
| 1. 住みよい | 3. どちらともいえない | 4. どちらかといえば住みにくい |
| 2. どちらかといえば住みよい | 5. 住みにくい | |

問12 これからも岩倉市に住み続けたいと思いますか。【○は1つだけ】

1. 永住したい 2. 当分住み続けたい	3. できれば移転したい 4. 移転する予定である	5. わからない
永住したい、当分住み続けたい理由は何ですか。 【○は3つまで】		できれば移転したい、移転する予定である理由は何ですか。【○は3つまで】
1. 愛着がある 2. 自分の家や土地がある 3. 近くに親戚や親しい人がいる 4. 自然環境が良い 5. 通勤・通学に便利 6. 日常の買い物に便利 7. 交通の便が良い 8. 地域の人間関係が良い 9. 家族の都合 10. 居住環境が良い 11. 子育て環境が良い 12. 災害が少ない 13. 犯罪が少ない 14. その他 ()		1. 愛着がない 2. 自分の家や土地がない 3. 近くに親戚や親しい人がいない 4. 自然環境が悪い 5. 通勤・通学に不便 6. 日常の買い物に不便 7. 交通の便が悪い 8. 地域の人間関係が悪い 9. 家族の都合 10. 居住環境が悪い 11. 子育て環境が悪い 12. 災害が多い 13. 犯罪が多い 14. その他 ()

3 多文化共生*について

★多文化共生：国籍や民族などの異なる人たちが、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生活すること。令和5年4月1日現在、岩倉市には、市民全体の6.2%にあたる2,952人の外国籍の市民が住んでいます。

問13 最近1年間で、家族や親族以外の外国人*と会話したり、一緒に活動したりするなど、コミュニケーションをとる機会がありましたか。【○は1つだけ】

※外国人の方は、「家族や親族以外の外国人と会話したり・・・」を「家族や親族以外の日本人と会話したり・・・」に置き換えてご回答ください。

1. コミュニケーションをとった

2. コミュニケーションをとっていない

▶問13-1 外国人とどんなコミュニケーションをとりましたか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 外国人と会ってあいさつをした

5. 外国人もいる活動に参加した

2. 外国人と簡単な会話をした

6. 外国人と仕事をした

3. 外国人と親密に話をした

7. その他 ()

4. 外国人とお茶を飲んだり食事をした

問14 「多文化共生」という言葉を聞いたことはありますか。【○は1つだけ】

1. 聞いたことがあり、内容もよく理解している

2. 聞いたことはあり、内容はなんとなく理解している

3. 聞いたことはあるが、内容はあまりわからない

4. 聞いたことがない、内容もまったくわからない

問15 外国人住民にとって暮らしやすくするために、あなたが実践している、または実践したいと思うことは何ですか。【あてまるものすべてに○】

1. あいさつや日常会話をする

2. 様々な国の生活習慣や文化等への理解を深める

3. 日本の生活習慣や地域のルール等を教える

4. 様々な国の人が交流する機会をつくる

5. 地域の活動や行事等に外国人住民の参加を促す

6. 様々な言語を少しでも理解するように努める

7. 外国人住民の生活を支援する活動をする

8. その他 ()

9. 特にない

4 岩倉駅東地区のまちづくりについて

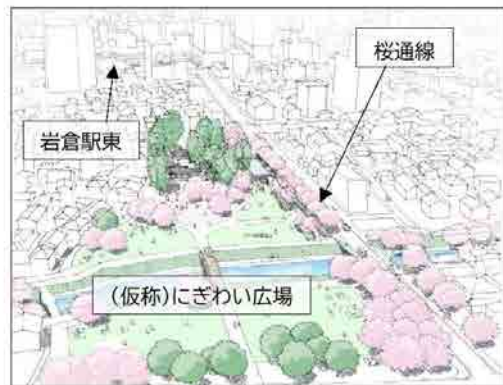
問16 下に示したように、岩倉市では、岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区で都市計画道路桜通線の整備を進めています。あなたは、岩倉駅東地区がこれからどのようなになると良いと思いますか。【〇は3つまで】

1. 新しい飲食店や商店が増えて、食事や買い物が便利になる
2. 道路が整備され、交通の流れがスムーズになる
3. 防災や防犯の面で安全性が高まる
4. まちなか居住者が増え、人口が増加する
5. 駅のまわりが賑やかになり、まちに活気生まれる
6. 広場などでイベントが開かれるようになり、人が集まるようになる
7. 歩道が整備され、ゆったりと歩き回ることができるようになる
8. 街並みが整備されて景観が美しくなる
9. 緑豊かでうるおいのある空間ができ、快適性が高まる
10. その他 ()
11. 特にない

<岩倉駅東地区の整備について>

岩倉市の玄関口である岩倉駅東地区では、2009年の北街区市街地再開発事業の完了により、新たな道路や駅前広場、再開発ビルが完成しました。

また、2020年度には岩倉市都市計画マスタープランを策定し、岩倉駅からお祭り広場にかけての一带を「にぎわい拠点」と位置づけ、生活、仕事、交流、文化交流を支える拠点づくりとして、都市計画道路桜通線の延伸整備に合わせてお祭り広場を拡張する「(仮称)にぎわい広場整備基本構想」を2022年度に策定し、商業機能をはじめとした多様な都市機能の整備・誘導を図り、都市計画道路の整備による交通の円滑化を図りつつ、観光交流を推進することで中心市街地の再生とにぎわいの創出を図っていきます。



問17 あなたは、岩倉駅東地区のまちにどのように関わりたいと思いますか。【〇は3つまで】

1. 岩倉駅東地区にある店で買物や食事をする
2. 岩倉駅東地区に店を出したり、事業を始めたりする
3. 岩倉駅東地区で開かれるイベントに参加して楽しむ
4. 岩倉駅東地区でのイベントの企画や運営に携わる
5. 岩倉駅東地区で清掃や緑化などの美化活動に参加する
6. 岩倉駅東地区にまちなか居住をする
7. その他 ()
8. 特に関わりたことはない
9. 岩倉駅東地区に行くことがないため、関わることはできない

5 少子化対策について

問18 わが国では、出生率が低下しており少子化が進んでいます。これは岩倉市でも例外ではありません。あなたは、出生率の低下に伴う子ども数の減少について危機感を覚えていますか。【〇は1つだけ】

- | | |
|----------------|------------------|
| 1. 大変危機感を覚えている | 4. あまり危機感を覚えていない |
| 2. 多少危機感を覚えている | 5. 全く危機感を覚えていない |
| 3. どちらともいえない | 6. わからない |

問19 あなたは、少子化対策としてどのような取り組みを充実して進めることが有効だと思いますか。【〇は5つまで】

- | |
|--|
| 1. 出会いの機会の創出 |
| 2. 若者の自立した生活と就労の促進 |
| 3. 結婚の経済的負担の軽減 |
| 4. 妊娠・出産の支援体制の確保 |
| 5. 不妊治療への経済的支援 |
| 6. 時短などの働き方改革や男性の子育てへの関わりの促進 |
| 7. 育児休業制度や仕事と家庭の両立支援の普及 |
| 8. 子育て中女性の再就職支援 |
| 9. 幼児教育や保育の質の向上 |
| 10. 待機児童の解消（保育園や放課後児童クラブ） |
| 11. 教育費負担の軽減 |
| 12. ひとり親家庭への支援促進 |
| 13. 障がいのある子どもへの支援促進 |
| 14. その他（_____） |
| 15. 特になし（少子化対策を特に充実して進める必要はない・これまで通りでよい） |

問20 問19で回答したような少子化対策を充実していく上での考え方のうち、あなたのお考えに最も近いものはどれですか。【〇は1つだけ】

- | |
|--|
| 1. 少子化対策を充実していくためには、市が大幅に予算を増額していくべき |
| 2. 少子化対策を充実していくためには、市が多少は予算を増額していくべき |
| 3. 少子化対策を充実していく必要はあるが、市の予算は現在と同額程度に抑えて、国や県の予算投入を増額していくべき |
| 4. その他（_____） |
| 5. 少子化対策を特に充実して進める必要はない・これまで通りでよい |

6 市政への参加や地域での近所づきあいについて

問21 市民の意見を十分に反映した市政を行っていくために、何が重要だと思いますか。

【○は2つまで】

1. 政策づくりの過程からの情報発信や意見募集
2. 政策づくりに関わる各種委員の公募拡大
3. アンケートなど市民の意見を聴く機会の充実
4. 実施した政策の評価を市民参画で行うための機会の充実
5. 市政情報の公開
6. 市民が政策の提案を行える機会の充実
7. その他 ()

問22 あなたは、今後、どのような方法で市政に参加したいと思いますか。

【あてはまるものすべてに○】

1. 審議会や懇話会などの委員になる
2. 意見交換会などに出席して意見を述べる
3. ワークショップに参加して議論する
4. アンケートなどに回答する
5. パブリックコメントで意見を提出する
6. その他 ()
7. 市政に参加したいと思わない

問23 あなたは、地域での近所づきあいをどの程度していますか。【○は1つだけ】

- | | | |
|----------------|--------------|----------------|
| 1. 付き合いがある | 3. どちらともいえない | 4. あまり付き合いがない |
| 2. ある程度付き合いがある | | 5. まったく付き合いがない |

問24 あなたは、地域での近所づきあいに満足していますか。【○は1つだけ】

- | | | |
|---------|--------------|---------|
| 1. 満足 | 3. どちらともいえない | 4. やや不満 |
| 2. やや満足 | | 5. 不満 |

7 行政経営や情報化について

問25 岩倉市に対してどのような行政経営を求めますか。【〇は3つまで】

1. 職員の意識改革・資質向上
2. 市民参画・協働のまちづくりの推進
3. 行政事務の効率化
4. 公共事業や行政サービス★の見直し
5. 民間活力の導入（民営化・民間委託等）
6. 行政サービスの適正な受益者負担★
7. 補助金の削減・見直し
8. 広域行政の推進
9. その他（ ）

★行政サービス：国や地方公共団体が、集めた税金等を用いて地域住民に対して行う奉仕活動や役務のこと。

★受益者負担：行政サービスを行う際、特にその利益を受けるもの（受益者）がその利益に応じてその経費を負担すること。

問26 行政サービスと市民負担のバランスをどのように考えますか。【〇は1つだけ】

1. 行政サービスの充実のために、市民全体の負担が増えるのは仕方がない
2. 市民全体の負担が増えるのであれば、行政サービスの充実をある程度見合わせることは仕方がない
3. 受益者負担を増やすべきで、市民全体の負担を増やすべきではない
4. 行政サービスの充実のためには、徹底した行政改革により、財源を生みだすべき
5. その他（ ）

問27 ①～④の情報通信機器等の利用状況についてお答えください。【①～④のそれぞれの情報通信機器等について、それぞれ1つずつ選んで〇をつけてください。】

情報通信機器等	選択肢				
	利用している			利用していない	
	ほぼ毎日	週に4～5回程度	週に2～3回程度未満	今後は、利用したい	今後もしも利用するつもりはない
① パソコン	1	2	3	4	5
② スマートフォン	1	2	3	4	5
③ タブレット端末★	1	2	3	4	5
④ 携帯電話（スマートフォンを除く）	1	2	3	4	5

★タブレット端末：スマートフォンよりも画面が大きく、画面をタッチして操作することができ、軽量で持ち運びができる多機能な通信を行う機器のことです。

問28 あなたは、インターネットを利用していますか。【○は1つだけ】

1. 利用している →問 28-1へ
2. 利用していないが、今後利用したい →問 29へ
3. 利用していないし、今後利用する予定もない →問 29へ

問 28-1 インターネットの利用目的についてお答えください。

【あてはまるものすべてに○】

1. ウェブサイトの閲覧
2. ホームページやブログの開設・更新
3. 電子メールの送受信
4. 情報検索（天気・ニュース・地図、路線、ルート検索等）
5. 交通機関や宿泊施設、医療機関等の予約
6. テレワーク・ウェブ会議・ビジネスチャット
7. eラーニング（オンライン授業など）
8. 電子申請、電子申告、電子届出
9. オンライン診療
10. SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）
11. 動画投稿/共有サイト（ユーチューブなど）
12. オンラインゲーム
13. 金融取引（ネットバンキング等）
14. オンラインショッピング
15. インターネットオークション・フリーマーケットアプリ
16. その他（ ）

問 28-2 <問 28-1で「10. SNS」または「11. 動画投稿/共有サイト（ユーチューブなど）」を選んだ方がお答えください。>

あなたが利用しているSNS等をお答えください。【あてはまるものすべてに○】

- | | |
|--------------|------------------------------------|
| 1. フェイスブック | 5. ユーチューブ |
| 2. LINE | 6. TikTok |
| 3. X（旧ツイッター） | 7. ライブ配信アプリ（17LIVE、Pococha、ミクチャ 等） |
| 4. インスタグラム | 8. その他（ ） |

問29 あなたはキャッシュレス決済*をどの程度利用していますか。【○は1つだけ】

★キャッシュレス決済：物理的な現金（紙幣・硬貨）を使用せずに商品・サービスの料金の支払等を行うことを指します（ただし、ここでは銀行等の口座振替、振込等による決済を除くこととします）。

- | | |
|---------------|---------------|
| 1. よく利用している | 3. あまり利用していない |
| 2. ときどき利用している | 4. 全く利用していない |

問 29－1 《問 29 で「4. 全く利用していない」以外を選んだ方がお答えください。》

あなたが比較的に利用する頻度の高いキャッシュレス決済手段は何ですか。【あてはまるものすべてに○】

1. クレジットカード
2. バーコード、QR コード決済 (PayPay、LINE Pay 等)
3. 交通系以外の電子マネー (WAON、nanaco、楽天 Edy 等)
4. 交通系電子マネー (manaca、Suica、ICOCA 等)
5. その他スマホ決済 (Apple Pay、Google Pay 等)
6. デビットカード
7. その他 ()

問30 次のうち、今後市税や手数料などの公共料金の支払いで利用できるようにして欲しい決済サービスはどれですか。【あてはまるものすべてに○】

1. クレジットカード払い
2. インターネットバンキング、モバイルバンキングによる振込
3. ペイジー★による支払い
4. コンビニエンスストアでの支払い
5. 電子マネーによる支払い (楽天Edy、manaca、Suicaなど)
6. スマホ決済・QRコード決済 (PayPay、LINE Pay、PayBなど)
7. 特にない
8. その他 ()

★ペイジー：税金や公共料金、各種料金などを、請求書に書いてある番号を入力することで、パソコンやスマートフォン・ATM エーティーエムから支払うことができるサービスです。

問31 あなたは、今後、岩倉市が情報化を進めていく上で、どのような市民サービスをさらに向上させていく必要があると思いますか。【あてはまるものすべてに○】

1. 行政機関への申込み・手続きのオンライン化（電子化）に関すること
2. 行政データの公開（オープンデータ）に関すること
3. マイナンバーカードの普及・活用に関すること
4. スマートフォンなどによる公共料金等の決済に関すること
5. 市内における無料公衆無線LANの整備に関すること
6. IOT★に関する地域における学習環境づくりの推進に関すること
7. 市役所業務のデジタル化、ペーパーレス化など行政業務の効率化に関すること
8. その他 ()

★IOT：Internet of Things の略。様々な「モノ（物）」がインターネットに接続され、情報交換することにより相互に制御する仕組み。

問32 岩倉市に対して、今後どのような情報提供を充実してほしいと思いますか。

【〇は3つまで】

1. 行政が行っている施策や計画に関する情報
2. 市役所の業務内容や行政の様々な手続きに関する情報
3. 公共施設の利用方法や利用時間などに関する情報
4. 市や各種団体が主催するイベントや催し物の情報
5. 各種講座や教室に関する情報
6. 市内で活動している文化・スポーツ・福祉のサークルや団体に関する情報
7. いろいろな災害に備えるために必要な情報
8. 救急医療などの医療機関に関する情報
9. 育児講座など子育てに関する情報
10. 学校行事などの子どもに関する情報
11. 健康づくりに関する情報
12. 健康診断・健康相談などの日程、内容に関する情報
13. 福祉サービスに関する情報
14. ごみの収集日や地域の行事などの身近な暮らしの情報
15. その他 (_____)
16. 特にない

◆岩倉市のまちづくりについて、ご意見等がございましたら、ご自由にご記入ください。



岩倉市PR大使い〜わくん

ご協力ありがとうございました。
「返信用封筒」に入れて、
12月12日(火)までに投函してね。